程久保（第1・2次発掘調査）・恩膳西（第3次発掘調査）遺跡

平成4・5年度県営圃場整備事業恩前地区に先立つ緊急発掘調査報告書

1995.3

長野県原村教育委員会

程久保（第1・2次発掘調査）・恩膳西（第3次発掘調査）遺跡

平成4・5年度県営圃場整備事業恩前地区に先立つ緊急発掘調査報告書

1995. 3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の１　○印が程久保・恩勝西遺跡

序

八ヶ岳西麓に位置する原村では、農業の合理化と生産性向上を目的とした県営圃場整備事業が大規模に進められております。

一方、八ヶ岳西南麓は遺跡の宝庫として全国的に著名で古くから注目を集めてきました。

このたび報告書を刊行することになりました程久保遺跡第１・２次発掘調査と恩膳西遺跡第３次発掘調査は、たまたま平成４・５年度県営圃場整備事業恩前地区の予定地にかかり、諏訪地方事務所の委託と国・県から補助金交付を受けた原村教育委員会が緊急発掘調査を実施したものであります。

発掘調査では、程久保遺跡から縄文時代中期の竪穴住居址４軒、平安時代の竪穴住居址24軒、建物址１棟、鍛冶址１、墓壙１基、小竪穴67基が、恩膳西遺跡から旧石器時代の石器集中箇所、縄文時代前期の竪穴住居址１軒、平安時代の竪穴住居址８軒、鍛冶址１、墓壙１基、小竪穴43基を検出しましたが、両遺跡は同一遺跡と考えるのが妥当であり、旧石器時代、縄文時代、平安時代の複合遺跡であることが明らかになりました。また、出土した遺物も多く中でも鍛冶址に係る資料は充実しております。

それらの資料は、厳しい自然環境とたたかいながら文化を創造した先人の姿を伝えるものであります。感動を覚えるとともに後世に伝えていく責任を強く感じるものであります。

このたびの発掘調査にあたり、諏訪地方事務所土地改良課各位、柏木区および実行委員会各位、地元地権者の方々のご理解・ご協力、長野県教育委員会のご指導をはじめ発掘にかかわる多くの皆様のご協力に深甚なる謝意を表する次第であります。

発掘現場では、炎天下でご苦労された作業員の皆様により、失われていく貴重な文化財を記録に残すことができました。また、発掘調査報告書刊行にいたる過程において、お世話いただいた関係各位にたいし厚くお礼申しあげます。

平成７年３月

原村教育委員会

教育長　平林　太尾

例　　言

1　本報告は「平成４・５年度県営圃場整備事業恩前地区」に先立って実施した、長野県諏訪郡原村柏木に所在する程久保遺跡（平成４・５年度）と恩膳西遺跡（平成５年度）の緊急発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、諏訪地方事務所の委託と、国庫および県費から発掘調査費補助金交付をうけた原村教育委員会が、程久保遺跡は平成４年８月６日から12月28日と平成５年４月28日から７月31日にかけて実施した。恩膳西遺跡は平成５年８月１日から11月17日にかけて実施した。整理作業は、平成５年１月４日から７年２月28日まで行った。

3　遺構・遺物の実測とトレース、写真撮影は平出一治・平林とし美が行い、縄文土器の実測の中には中央航業（東京都新宿区）に委託して行った、写真実測も含まれている。

4　執筆は、平出が行なった。

5　本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。
　なお、本調査関係の資料には、程久保遺跡は15・恩膳西遺跡は23の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、丸山敏一郎・市沢英利・小平和夫・武藤雄六・小林公明・樋口誠司の諸氏に御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

目　　次

例　言
目　次
Ⅰ　発掘調査の経過……1
　1　発掘調査に至る経過……1
　2　調査組織……2
　3　発掘調査の経過……4
Ⅱ　調査方法……11
　1　調査区の設定と調査方法……11
　2　土層……12
　3　調査の概要……13
Ⅲ　程久保遺跡……15
　1　位置と環境……15
　2　歴史的環境……18
　3　遺構と遺物……21
　（1）　縄文時代の遺構と遺物……23
　　①　竪穴住居址……24
　　②　小竪穴……34
　　③　遺構に伴わない遺物……58
　（2）　平安時代の遺構と遺物……62
　　①　竪穴住居址、建物址……62
　　②　鍛冶址……105
　　③　墓壙……106
　　④　遺構に伴わない遺物……107
　4　まとめ……107
Ⅳ　恩膳西遺跡……108
　1　位置と環境……108
　2　歴史的環境……111
　3　遺構と遺物……111
　（1）　旧石器の遺物……113
　（2）　縄文時代の遺構と遺物……118

① 住居址…… 118
② 小竪穴…… 123
③ 遺構に伴わない遺物…… 137
（3） 平安時代の遺構と遺物…… 137
① 竪穴住居址…… 137
② 墓壙…… 153
③ 鍛冶址…… 153
④ 遺構に伴わない遺物…… 153
（4） 近・現代の遺構と遺物…… 154
4 まとめ…… 154
V 結語…… 155

図 版 目 次

第１図　原村域の地形断面模式図（赤岳―程久保・恩膳西―宮川ライン）……1
第２図　程久保・恩膳西遺跡発掘調査区域図・地形図……12
第３図　程久保・恩膳西遺跡の位置と付近の遺跡……16
第４図　程久保遺跡遺構配置図……19
第５図　程久保遺跡第７号竪穴住居址実測図……21
第６図　程久保遺跡第６・７号竪穴住居址出土土器拓影・実測図……22
第７図　程久保遺跡第７号竪穴住居址出土石器実測図……23
第８図　程久保遺跡第14号竪穴住居址実測図……24
第９図　程久保遺跡第14号竪穴住居址出土土器拓影・実測図……25
第10図　程久保遺跡第14・21号竪穴住居址出土石器実測図……26
第11図　程久保遺跡第21号竪穴住居址実測図……27
第12図　程久保遺跡第21号竪穴住居址出土土器拓影・実測図……28
第13図　程久保遺跡第６・23号竪穴住居址実測図……31
第14図　程久保遺跡第23号竪穴住居址出土土器拓影・実測図……32
第15図　程久保遺跡第23号竪穴住居址、小竪穴37・39出土石器実測図……33
第16図　程久保遺跡小竪穴１～７・９実測図……35
第17図　程久保遺跡小竪穴８・10～16・25実測図……38
第18図　程久保遺跡小竪穴17～21・23・24・26・27実測図……41
第19図　程久保遺跡小竪穴28～34・37～40・42実測図……44
第20図　程久保遺跡小竪穴41・45・46実測図……48
第21図　程久保遺跡小竪穴43・47～50・52・55～57実測図……50
第22図　程久保遺跡小竪穴51・53・54・58～67実測図……53
第23図　程久保遺跡小竪穴17・23・34・39・42出土土器拓影……54
第24図　程久保遺跡小竪穴42・43・47・49・54・56・63出土土器拓影……55
第25図　程久保遺跡遺構外出土土器拓影……59
第26図　程久保遺跡遺構外出土石器実測図その１……60
第27図　程久保遺跡遺構外出土石器実測図その２……61
第28図　程久保遺跡第１号竪穴住居址実測図……62
第29図　程久保遺跡第１～３号竪穴住居址出土土器実測図……63
第30図　程久保遺跡第２号竪穴住居址、小竪穴36実測図……64

第31図　程久保遺跡第３・４号竪穴住居址実測図……66
第32図　程久保遺跡第４号竪穴住居址出土土器実測図その１……68
第33図　程久保遺跡第４号竪穴住居址出土土器実測図その２……69
第34図　程久保遺跡第５号竪穴住居址、小竪穴35実測図……70
第35図　程久保遺跡第５～８号竪穴住居址出土土器実測図……71
第36図　程久保遺跡第８号竪穴住居址、小竪穴22実測図……73
第37図　程久保遺跡第９号竪穴住居址実測図……74
第38図　程久保遺跡第９号竪穴住居址出土土器実測図……75
第39図　程久保遺跡第10・22・24号竪穴住居址実測図……76
第40図　程久保遺跡第10～13号竪穴住居址出土土器実測図……77
第41図　程久保遺跡第11号竪穴住居址実測図……80
第42図　程久保遺跡第12号竪穴住居址実測図……81
第43図　程久保遺跡第13号竪穴住居址、小竪穴44実測図……82
第44図　第４・13・15・27号住居址出土石製品、第20・28号竪穴住居址出土鉄製品、
　　第５号竪穴住居址、鍛冶址出土土製品……83
第45図　程久保遺跡第15・26号竪穴住居址、第１号建物址実測図……85
第46図　程久保遺跡第15・26号竪穴住居址出土土器実測図……88
第47図　程久保遺跡第16・17号竪穴住居址号、墓壙１実測図……91
第48図　程久保遺跡第16・17号竪穴住居址出土土器実測図……93
第49図　程久保遺跡第17号竪穴住居址出土土器実測図……94
第50図　程久保遺跡第18・28号竪穴住居址実測図……96
第51図　程久保遺跡第18・28号竪穴住居址出土土器実測図……97
第52図　程久保遺跡第19号竪穴住居址実測図……100
第53図　程久保遺跡第20・27号竪穴住居址実測図……102
第54図　程久保遺跡第20・25号竪穴住居址、墓壙１、遺構外出土土器実測図……103
第55図　程久保遺跡第25号竪穴住居址実測図……104
第56図　程久保遺跡鍛冶址ピット１～４実測図……106
第57図　恩膳西遺跡遺構配置図……109
第58図　恩膳西遺跡石器分布図……112
第59図　恩膳西遺跡石器接合関係図……113
第60図　恩膳西遺跡石器実測図その１……114
第61図　恩膳西遺跡石器実測図その２……115
第62図　恩膳西遺跡石器実測図その３……116

第63図　恩膳西遺跡石器実測図その４…… 117
第64図　恩膳西遺跡石器実測図その５…… 118
第65図　恩膳西遺跡第１・７号竪穴住居址実測図…… 119
第66図　恩膳西遺跡第７号竪穴住居址、遺構外出土土器拓影・実測図…… 120
第67図　恩膳西遺跡第７号竪穴住居址出土石器実測図…… 121
第68図　恩膳西遺跡小竪穴１～６・９・10実測図…… 122
第69図　恩膳西遺跡小竪穴７・８・11～16実測図…… 125
第70図　恩膳西遺跡小竪穴17～28実測図…… 128
第71図　恩膳西遺跡小竪穴29～37・39～41実測図…… 131
第72図　恩膳西遺跡小竪穴42～44、墓壙１、鍛冶址実測図…… 133
第73図　恩膳西遺跡小竪穴９、遺構外出土石器実測図…… 134
第74図　恩膳西遺跡遺構外、第９号竪穴住居址出土石器・石製品実測図…… 135
第75図　恩膳西遺跡第１・２号竪穴住居址出土土器実測図…… 138
第76図　恩膳西遺跡第２号竪穴住居址実測図…… 139
第77図　恩膳西遺跡第３・４号竪穴住居址実測図…… 141
第78図　恩膳西遺跡第３・４号竪穴住居址出土土器実測図…… 142
第79図　恩膳西遺跡第５号竪穴住居址実測図…… 144
第80図　恩膳西遺跡第５・６号竪穴住居址出土土器実測図…… 145
第81図　恩膳西遺跡第６号竪穴住居址実測図…… 146
第82図　恩膳西遺跡第８号竪穴住居址実測図…… 147
第83図　恩膳西遺跡第８・９号竪穴住居址出土土器実測図…… 148
第84図　恩膳西遺跡第９号竪穴住居址実測図…… 149
第85図　恩膳西遺跡第10号竪穴住居址実測図…… 151
第86図　恩膳西遺跡第10号竪穴住居址、小竪穴11、墓壙１、遺構外出土土器実測図… 152

表　目　次

表１　程久保・恩膳西遺跡調査遺構一覧表……14
表２　程久保遺跡平成４・５年度調査遺構一覧表……14
表３　程久保・恩膳西遺跡と付近の遺跡一覧表……17
表４　程久保・恩膳西遺跡鍛冶址関連資料一覧表…… 156
表５　程久保・恩膳西遺跡遺構一覧表…… 159
表６　程久保遺跡第23号竪穴住居址出土黒曜石一覧表…… 167

表7　程久保・恩膳西遺跡出土土製品・石製品・鉄製品一覧表…… 169
表8　程久保・恩膳西遺跡出土鉄滓・金肌一覧表…… 171
報告書抄録

Ⅰ　発掘調査の経過

1　発掘調査に至る経過

農村地域はどこでも同じであろうが、後継者がいないことで高齢化は進むばかりである。だからと云って労力が少なくなることはなく、機械化を望む声は強くなるばかりである。その機械力を増すためには、まず農地と農道の整備が必要である。それが原村における圃場整備事業であり、平成３年度に着工された「県営圃場整備事業恩前地区」内には、裏長峰遺跡（原村遺跡番号14）・程久保遺跡（原村遺跡番号15）・恩膳西遺跡（原村遺跡番号23）が所在していたことから、その保護について平成２年８月８日に長野県教育委員会文化課、原村役場農林課、原村教育委員会の３者で協議を行った。

しかし、３遺跡ともその規模および性格などは不明瞭なものばかりで、適切な結論を導き出すことはできなかった。その後も諏訪地方事務所土地改良課・原村役場農林課・地元関係者と協議を重ねる中で、村教育委員会は平成３年11月７・８・19日に県営圃場整備事業予定地内の踏査を実施した。当時は県営圃場整備事業茅野市丸山地区に先立つ長峰遺跡（原村遺跡番号13）の緊急発掘調査を実施していたこともあり、時間的な余裕もなく、調査体制を整えることができないことから表面採集という限られた調査を試みた。

満足のいく結果を得ることができないまま、その資料を基に平成３年12月16日に、原村役場および現地で行なわれた長野県教育委員会の「平成４年度農業基盤整備事業等に係る埋蔵文化財保護協議」で協議された。出席者は長野県教育委員会文化課、諏訪地方事務所土地改良課、原村役場農林課、原村教育委員会の４者であった。

協議では、遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいが、前記したように農業者の強い要望があり「記録保存やむなき」との考えに落ちつき。発掘調査の時期については一日も早い機械化を望む声が強く、平成４年度調査を要望されたが、調査員および作業員

第１図　原村域の地形断面模式図（赤岳―程久保・恩膳西―宮川ライン）

が少ないなど調査体制が整わないこともあり、平成４・５年度の２年間にわたり緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。具体的には平成４年度に裏長峰遺跡と程久保遺跡、平成５年度に恩膳西遺跡の発掘調査を実施する計画であった。

平成４年５月１日に裏長峰遺跡の発掘調査に着手した。その調査中に協議が行われてこなかった上居沢尾根遺跡の一部が圃場整備事業予定地にかかることがわかり、県教育委員会文化課の指導をうける中で、諏訪地方事務所土地改良課、原村役場農林課と保護協議を行う。工事はその工程から上居沢尾根遺跡の発掘調査を平成５年に伸ばすことができない状況であり、先に上居沢尾根遺跡の発掘調査を実施すると、程久保遺跡の発掘調査を平成４年度内に終了させることは困難な状況となる。そんなことから精一杯の努力を行うなかで最悪の場合は、平成５年にその調査を継続させることで同意をみることができた。

原村教育委員会は、国庫及び県費から発掘調査の補助金交付を受け、また、諏訪地方事務所から緊急発掘調査の委託を受けて行ったが、程久保遺跡の発掘調査は２年間におよんだが、便宜的に１年目の平成４年７月６日から12月28日までを第１次発掘調査、継続事業になった２年目の平成５年４月28日から７月31日までを第２次発掘調査と呼んでいきたい。恩膳西遺跡の発掘調査は平成５年８月１日から11月17日にわたって実施した。

2　調査組織

程久保遺跡・恩膳西遺跡発掘調査団名簿

程久保遺跡（第１次）平成４年度発掘調査

団　　長	平林　太尾（原村教育委員会教育長）				
調査担当者	平出　一治				
調　査　員	伊藤　　証	平林とし美			
調査参加者	発掘作業	平林　途雄	清水　豊一	清水　太助	松沢喜代次
		小池　修次	日達　康之	菊池　利光	菊池　行雄
		徳谷　眞樹	守屋喜利治	守屋　菊一	小林　主税
		守屋　量之	篠原　文子	小林　ミサ	林　はなゑ
		清水としみ	中村きみゑ	宮坂とし子	藤原智恵子
		五味富貴枝	小平　章子	清水　米美	清水つるゑ
		藤森　米子	守屋　　好	白鳥すみ江	

程久保遺跡（第２次）平成５年度発掘調査

団　　長	平林　太尾（原村教育委員会教育長）
調査担当者	平出　一治

調　査　員　平林とし美　井上智恵子

調査参加者　発掘作業　平林　途雄　清水　豊一　清水　太助　小林　正一
清水　正進　行田　力　小池　芳久　小池　英幸
祝　信夫　小林　ミサ　清水としみ　中村きみゑ
長林ときわ　宮坂とし子　藤原智恵子　小林　静子
行田すみこ　小松とも子　五味としゑ　鎌倉きふみ
北原ゆく子　清水千満喜　永井よしみ　小池　静子
清水　けさ　清水つるゑ　白井　安子　西藤みちる
整理作業（平成６年度）　津金喜美子　鎌倉あき子　坂本ちづる
（順不同）

恩膳西遺跡（第３次）平成５年度発掘調査

団　　長　平林　太尾（原村教育委員会教育長）

調査担当者　平出　一治

調　査　員　平林とし美　井上智恵子

調査参加者　発掘作業　平林　途雄　清水　豊一　清水　太助　小林　正一
清水　正進　小池　芳久　小池　英幸　小林　ミサ
清水としみ　中村きみゑ　長林ときわ　宮坂とし子
藤原智恵子　小林　静子　小林　弘子　行田すみこ
小松とも子　鎌倉きふみ　小池　静子　清水　けさ
清水つるゑ　白井　安子
整理作業（平成５年度）　津金喜美子　鎌倉あき子
（平成６年度）　津金喜美子　鎌倉あき子　坂本ちづる
（順不同）

事　務　局　原村教育委員会事務局
（平成４年度）　小池平八郎（教育次長　～平成５年１月）
大口美代子（庶務係長）　宮坂　道彦　伊藤　佳江
伊藤　証　平出　一治
（平成５年度）　平林今朝二（教育次長）　大口美代子（庶務係長）
宮坂　道彦　伊藤　佳江　五味　一郎（主任）
平出　一治　平林とし美
（平成６年度）　平林今朝二（教育次長）　大口美代子（庶務係長）
宮坂　道彦（主任）　伊藤　佳江
五味　一郎（文化財係長）　平出　一治　平林とし美

3　発掘調査の経過

程久保遺跡

第１次発掘調査

平成４年７月６日　グリッド設定を行い、遺物の散布状況の把握と、遺構の埋没状況確認を目的としたグリッド発掘をはじめる。

９日　遺跡南の畑地に東西方向に重機でトレンチ掘りを行い土層の観察をする。グリッド発掘で住居址の埋没を確認し遺跡の中心部がほぼあきらかになり、重機で表土はぎをはじめる。

17日　住居址と小竪穴の検出作業をはじめるが、裏長峰遺跡の発掘調査に主体を置いていることから、作業の進みは遅い上に遺構の精査に手がまわらない状況で、検出した住居址はシートで保護し、遺跡の規模把握に努める。

９月15日　小竪穴１・２の検出写真撮影を行う。低地の畑で検出した暗渠排水の調査をはじめる。

16日　小竪穴の精査をはじめる。

17日　１号・２号竪穴住居址の検出写真の撮影を行い引き続き精査をに着手する。

21日　小竪穴１・２の埋土の観察を行う。

22日　10号竪穴住居址の検出写真の撮影を行う。

26日　５号竪穴住居址、小竪穴３・４、近世の墓壙（検出時点では小竪穴）の検出写真の撮影を行う。

28日　２号竪穴住居址・小竪穴６の埋土の観察、小竪穴５の検出写真の撮影、小竪穴１・２・５の完掘写真の撮影を行う。今日から遺構の実測をはじめる。

10月１日　小竪穴８の検出写真の撮影、１号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

２日　小竪穴３・４・５の埋土の観察を行う。小竪穴と考え精査を進め近世の墓壙であることを確認する。

３日　11号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

12日　今日から御射山遺跡の発掘調査のため、作業を一時中断する。

16日　近世の墓壙に遺存した人骨の取り上げをはじめる。

11月６日　作業を再開する。小竪穴６・７の検出写真の撮影を行う。

7日　小竪穴8の検出写真の撮影を行う。

10日　8号・9号竪穴住居址の検出写真の撮影、小竪穴9の埋土の観察を行う。

11日　7号竪穴住居址の検出写真の撮影、小竪穴5の完掘写真の撮影、12号竪穴住居址・小竪穴6・7・8の埋土の観察を行う。

13日　小竪穴15の検出写真の撮影、小竪穴3・4・6・8の完掘写真の撮影、3号・4号・5号竪穴住居址の埋土の観察を行う。

14日　7号竪穴住居址・小竪穴9～14・17・18の検出写真の撮影を行う。

16日　小竪穴20の検出写真の撮影、小竪穴15の埋土の観察を行う。

17日　小竪穴10・19・20の埋土の観察を行う。

18日　小竪穴9・10・14・19・20の完掘写真の撮影、小竪穴18の埋土の観察を行う。

19日　9号竪穴住居址・小竪穴17の埋土の観察を行う。

21日　小竪穴21の検出写真の撮影と埋土の観察を行う。

12月2日　6号竪穴住居址の検出写真の撮影、10号竪穴住居址の完掘写真の撮影、8号竪穴住居址・小竪穴7の埋土の観察を行う。

4日　9号・10号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

5日　小竪穴22・23の完掘写真の撮影を行う。

9日　11号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

10日　小竪穴7・25号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。重複する3号と4号竪穴住居址・5号竪穴住居址の遺物出土状態を観察し取り上げをはじめる。

11日　1・10号竪穴住居址の竈の精査をはじめる。

12日　2号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行い、竈の精査をはじめる。7号竪穴住址の埋甕炉のカッティング調査をはじめる。

14日　4号・9号竪穴住居址の竈の精査、遺物取上げをはじめる。小竪穴23の埋土の観察を行う。

15日　重複する3号と4号竪穴住居址の完掘写真の撮影、小竪穴11・12・26～31の埋土の観察、8号竪穴住居址の礫の取上げを行う。

16日　小竪穴11～13・28～31の完掘写真の撮影を行う。竈の精査をはじめる。平成5年度調査地区の埋戻しをはじめる。

17日　小竪穴33の埋土の観察、8号竪穴住居址・小竪穴22・23の完掘写真の撮影を行う。

19日　23号竪穴住居址の検出写真の撮影、小竪穴33・35・36・37の完掘写真の撮影、小竪穴34の埋土の観察を行う。

21日　21号・23号竪穴住居址・小竪穴34の完掘写真の撮影を行う。片付けをはじめる。

24日　23号竪穴住居址の床面下に埋められていた黒曜石のデポ調査を行い、テント・機材の撤去を行う。

28日　実測、平成５年度調査基準杭の設定と確認を行い、今日で調査は終了とする。

程久保遺跡

第２次発掘調査

平成５年４月28日　発掘調査の準備をはじめる。昨年埋めもどした土の取り除き作業を重機と手作業ではじめる。

５月６日　発掘調査開始にあたり教育長の挨拶のあと、機材の搬入、テントの設営を行う。

10日　今日から重機による表土剥ぎをはじめる。グリッド設定をはじめる。

11日　住居址と小竪穴の検出作業、グリッド発掘をはじめる。20号・21号竪穴住居址の検出写真の撮影を行う。

12日　25号竪穴住居址と小竪穴37の検出写真の撮影を行う。

13日　19号竪穴住居址の検出写真の撮影を行う。

17日　検出した住居址と小竪穴の精査をはじめる。20号竪穴住居址から鉄鏃が出土する。重複する18号と28号竪穴住居址・小竪穴38・39・40の検出写真の撮影、25号竪穴住居址の埋土の観察を行う。

19日　19号竪穴住居址の検出写真の撮影、小竪穴39・40の埋土の観察を行う。

20日　小竪穴38・39・40の完掘写真の撮影、小竪穴41の埋土の観察を行う。

21日　重複する15号と26号竪穴住居址の検出写真の撮影、25号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

25日　重複する16号と17号竪穴住居址・小竪穴44・45の検出写真の撮影、21号竪穴住居址・小竪穴43の埋土の観察を行う。

26日　19号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

28日　18号竪穴住居址の埋土の観察を行う。

31日　小竪穴41の完掘写真の撮影、小竪穴46の埋土の観察を行う。

６月１日　重複する15号・26号竪穴住居址、21号竪穴住居址、小竪穴43の遺物の

出土状態の観察を行う。

7日　19号竪穴住居址の完掘写真の撮影、16号竪穴住居址の埋土の観察を行う。

8日　21号竪穴住居址の全景写真の撮影行う。

10日　小竪穴47の検出写真の撮影、20号竪穴住居址の埋土の観察、26号竪穴住居址で検出した焼土のカッティング調査を行う。

11日　14号竪穴住居址（検出時点は小竪穴）の検出写真の撮影、28号竪穴住居址の遺物（炭化材）の出土状態の観察、小竪穴44の埋土の観察を行う。

16日　21号竪穴住居址の完掘写真の撮影、引き続き28号竪穴住居址の遺物の出土状態の観察、13号・16号竪穴住居址の埋土の観察を行う。

17日　小竪穴49・50の検出写真の撮影、重複する20号・27号竪穴住居址の遺物出土状態の観察、21号竪穴住居址の埋甕炉のカッティング調査を行う。また、EPラインに設定調査を進めたトレンチの土層観察を行うが、下層に遺構の埋没は考えられない状態であった。

18日　14号竪穴住居址・小竪穴47・49・50の埋土の観察、小竪穴47・49・50の完掘写真の撮影、重複する15号・26号竪穴住居址の遺物の出土状態の観察を行う。

21日　20号竪穴住居址の完掘写真の撮影、小竪穴51・52の検出写真の撮影、重複する15号・26号竪穴住居址の埋土の観察、重複する18号・28号竪穴住居址の炭化材の観察と埋土中の焼土のカッティング調査をはじめる。

22日　小竪穴51の埋土の観察、小竪穴51の完掘写真の撮影、小竪穴53～56の検出写真の撮影を行う。

24日　小竪穴52の埋土の観察、13号竪穴住居址の遺物出土状態の観察を行い取り上げる。

25日　建物址1の柱穴の精査と埋土の観察をはじめる。小竪穴53～56の埋土の観察、13号竪穴住居址・小竪穴53～56の完掘写真の撮影、18号竪穴住居址の竈の精査をはじめる。13号竪穴住居址から鉄製鎌が出土する。

28日　重複する16号・17号竪穴住居址、小竪穴48の埋土の観察、小竪穴48の完掘写真の撮影を行う。

7月6日　13号竪穴住居址、重複する16号・17号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

9日　小竪穴58・59の検出写真の撮影を行う。

15日　小竪穴58～67の埋土の観察、小竪穴57・58の完掘写真の撮影を行う。

16日　14号竪穴住居址の遺物出土状態の観察、重複する18号・28号竪穴住居址の完掘写真の撮影、28号竪穴住居址の竈の精査をはじめる。

21日　14号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

22日　14号竪穴住居址の埋甕炉のカッティング調査を行う。

24日　遺跡全景写真の撮影を行う。

26日　重複する20号・27号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。竈の精査、鍛冶跡の精査をはじめる。

27日　竈火床の焼土のカッティング調査をはじめる。

28日　重複する15号・26号竪穴住居址、21号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

8月2日　鍛冶跡の完掘写真の撮影、墓壙1の精査を行う。

19日　小竪穴60～67の精査を行う。なお、これらの遺構を検出した位置は大きな地形変化がなく程久保遺跡であるのか、恩膳西遺跡であるのか決めることができない。便宜的に程久保遺跡で精査を進める。

20日　墓壙1の完掘写真の撮影を行う。

恩膳西遺跡

第3次発掘調査

平成5年6月17日　重機による表土剥ぎをはじめる。

7月15日　遺構の検出作業をはじめる。

21日　2号竪穴住居址の検出写真の撮影を行う。

26日　5号竪穴住居址の検出写真の撮影を行う。

28日　重複する3号と4号竪穴住居址、やはり重複する8号と9号竪穴住居址の検出写真の撮影を行う。

29日　6号竪穴住居址、小竪穴1・2、墓壙1の検出写真の撮影を行う。

8月1日　未だ程久保遺跡の東への広がりが明確にならないため、便宜的に今日から恩膳西遺跡の調査とする。

なお、調査の結果、遺物の散布状況から程久保遺跡と恩膳西遺跡を明確に分けることはできない。平安時代の住居址の検出状況をみると、その配置から西・中・東の3つに大別でき、便宜的に西と中を程久保遺跡。東を恩膳西遺跡と呼んでいる。

12日　1号・7号竪穴住居址、小竪穴3・4の検出写真の撮影を行い、精査をはじめる。

19日　小竪穴3・4の埋土の観察を行う。

20日　小竪穴3・4の完掘写真の撮影を行う。

24日　墓壙1の埋土の観察、小竪穴5の検出写真の撮影を行う。

25日　2号竪穴住居址・小竪穴5の埋土の観察、重複する8号と9号竪穴住居址の遺物出土状態の観察を行う。

26日　小竪穴6～8の検出写真の撮影、1号・7号竪穴住居址の埋土の観察、小竪穴5の完掘写真の撮影、墓壙1の遺物出土状態の観察を行い、取上げをする。

27日　墓壙1の完掘写真の撮影を行う。

30日　小竪穴9の検出写真の撮影、小竪穴6の埋土の観察を行う。

31日　1号・2号竪穴住居址の遺物出土状態の観察、小竪穴6の完掘写真の撮影、小竪穴7の埋土の観察を行う。

9月1日　小竪穴10の検出写真の撮影、重複する3号と4号竪穴住居址の遺物出土状態の観察と取り上げ、小竪穴8の埋土の観察、小竪穴7の完掘写真の撮影を行う。

2日　小竪穴7・8の完掘写真の撮影を行う。

6日　2号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

10日　1号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

16日　5号竪穴住居址の埋土の観察を行う。

20日　6号竪穴住居址の遺物出土状態の観察、7号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

21日　重複する8号と9号竪穴住居址の埋土の観察、1号竪穴住居址の竈火床焼土のカッティング調査を行う。

24日　5号竪穴住居址の遺物出土状態の観察、6号竪穴住居址の礫出土状態の観察を行う。

28日　9号竪穴住居址の遺物出土状態の観察を行う。

29日　小竪穴9・11の検出写真の撮影、6号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。

10月1日　小竪穴9・10の埋土の観察を行う。

5日　小竪穴1・2の埋土の観察、5号竪穴住居址、小竪穴9・10の完掘写真の撮影を行う。

6日　重複する3号と4号竪穴住居址の完掘写真の撮影を行う。完掘した竪穴住居址の竈精査と火床焼土のカッティングを順次行う。

12日　10号竪穴住居址、小竪穴11・12・13の検出写真の撮影、遺跡全景写真の撮影を行う

13日　小竪穴1・2の完掘写真の撮影を行う。

14日　小竪穴11の遺物出土状態の観察、10号竪穴住居址、小竪穴12の埋土の観察、小竪穴13の完掘写真の撮影を行う。

15日　小竪穴14の検出写真の撮影、小竪穴12の完掘写真の撮影を行う。9号竪穴住居址の竈内から刀子が出土する。

18日　小竪穴12・15の完掘写真の撮影を行う。

19日　小竪穴16～26の検出写真の撮影、小竪穴14・18・19・20・22の埋土の観察、9号・10号竪穴住居址、小竪穴11の完掘写真の撮影を行う。

20日　小竪穴27～33の検出写真の撮影、小竪穴24・27の埋土の観察を行う。旧石器時代の調査をはじめる。

21日　小竪穴39～42の検出写真の撮影、小竪穴16・17・23・25・28の埋土の観察、小竪穴27・28の完掘写真の撮影を行う。

22日　小竪穴21・29～31・33・40・41の埋土の観察、小竪穴14・17～20・23～25・29～31の完掘写真の撮影を行う。

25日　小竪穴34～37の検出写真の撮影を行う。

26日　小竪穴26・34～37・39・42の埋土の観察、小竪穴16・21・22・26・32・33・36～42の完掘写真の撮影を行う。

27日　小竪穴34・35の完掘写真の撮影を行う。

28日　旧石器時代の石器の僅かであるが出土するようになる。

11月10日　旧石器時代の調査地区全景写真の撮影、重機で土層観察の深掘りを行う。

15日　機材の片付け、テントの撤去を行なう。

17日　重機で掘削した土層観察の深堀グリッドの精査と観察を行い調査は終了する。

Ⅱ　調査方法

1　調査区の設定と調査方法

平成４年度に程久保遺跡（原村遺跡番号15）の発掘調査に着手し、引き続き隣接する恩膳西遺跡（原村遺跡番号23）の発掘調査を予定していたが、当初考えていたよりも遺構の検出された範囲が広いうえに、「発掘調査に至る経過」で述べたように、上居沢尾根遺跡の発掘調査が加わったこともあり、調査終了には至らず平成５年度に引き続き発掘調査を実施している。

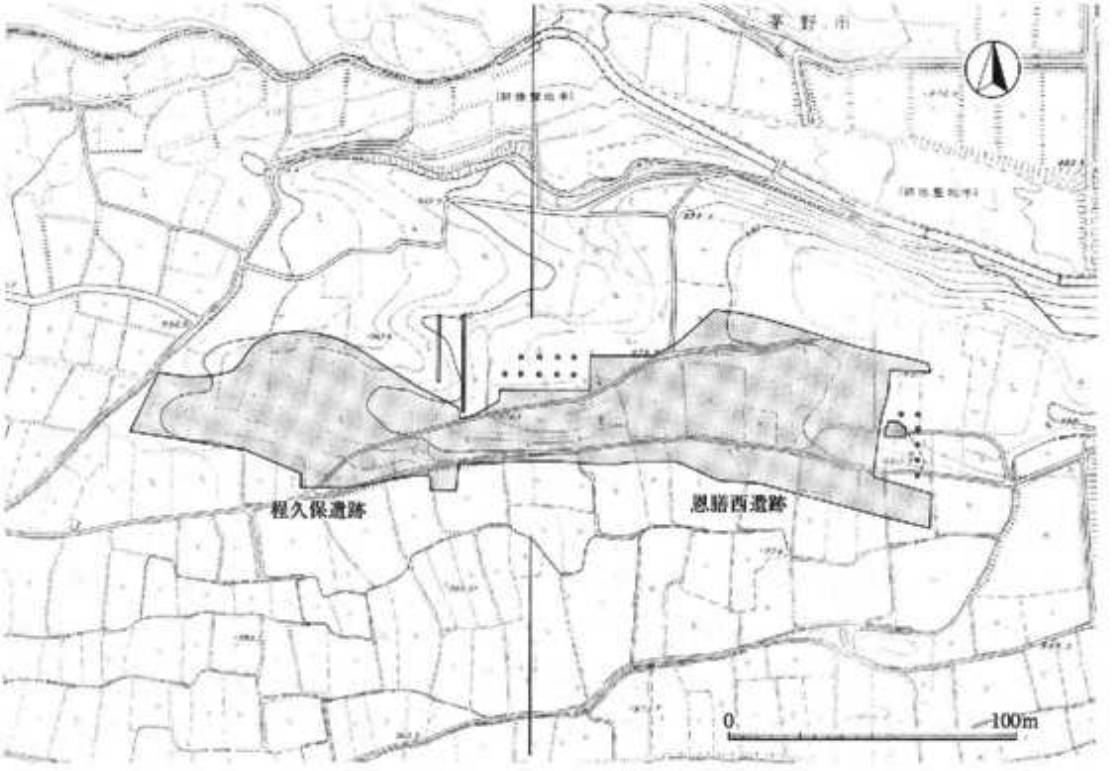
２年にわたる発掘調査であったが、遺物はそれほど多くないが程久保遺跡から恩膳西遺跡まで途切れることはなく、遺跡を分けることができない状況であった。また、両遺跡から検出した竪穴住居址をみても、縄文時代中期中葉と平安時代という同時期のものであり、積極的に遺跡を分ける必要はない。そんな点でグリッドの設定は一環したものとした。

グリッドは東西南北（磁北）に軸を合わせて設定した。東西方向に50mの大地区を設け、程久保遺跡の西端からＡ区・Ｂ区・Ｃ区・Ｄ区というようにアルファベットを用いて地区割りをしているが、最終地区となる恩膳西遺跡の東端はＬ地区となり、直線距離で600ｍを計り極めて広い遺跡である。大地区の中をさらに２×２ｍの小地区（グリッド）に分割し、東西方向は西からＡ～Ｙのごとく区分した。南北方向には算用数字をふっているが、遺跡の中心と思われるラインを50とし、そのラインを基準に南方向は49・48・47というように南にいくにしたがい小さくなるように、北方向は51・52・53と大きくなるように振分けている。

個々のグリッドの呼びかたは、東西方向の大地区、小地区のアルファベット、南北方向の算用数字の順である。

発掘調査の対象は、第２図に示したように、程久保遺跡は、平成４年度・平成５年度県営圃場整備事業恩前地区にかかる全域におよび、恩膳西遺跡もやはり平成５年度県営圃場整備事業恩前地区にかかる全域におよんでいる。

発掘調査は、工事行程の関係で西側から東側方向に進めた。地形的には尾根先端に位置する低い所から高い方向に進めたことになる。準備期間中に数回におよび踏査を行い調査方法を検討したが、遺跡の範囲を明確にではなかったこと、表土の厚さもわからない状態で手掘りのグリッド発掘からはじめた。西端方向の遺物散布範囲が明らかになり、黒色土の厚さなどを確認した時点で表土剥ぎは重機で行い、遺構の検出は人力で進めた。



第２図　程久保・恩膳西遺跡発掘調査区域図・地形図

発掘調査は、原則としてローム層の上面まで層位別に行った。

遺物は、基本的にグリッド別・層位別にとり上げ、遺構に伴うものは遺構別に取り上げた。

測量は、予め設定した２ｍ四方のグリッドを基準とするやり方方式による。

2　土層

本遺跡における層序は、尾根上とその斜面では違いがみられた。また、遺物と遺構の出土状態から程久保遺跡と恩膳西遺跡を１遺跡と考え調査を進めたことで、対象範囲が広くなり色調に若干の違いはみられたが基本的な層序は同様であった。

地山のローム層までが浅く、ロームを耕作土としている箇所も広範囲でみられたが、基本的には、上層から黒褐色土（表土）・黒色土・黒褐色土・褐色土・ソフトロームである。おおまかな観察結果を記しておきたい。

尾根上

第Ｉ層　黒褐色土層　　表土層・畑の耕作土で15～25cmの厚さである。

第Ⅱ層　黒色土層　　第Ⅰ層よりしまっている。5～15cmを計り、ローム層までが深い箇所はこの層が厚く堆積していた。平安時代と縄文時代の遺物が出土している。

第Ⅲ層　黒色土層　　しまり堅さは第Ⅱ層と同じであるが、色調はやや黒味は増すが斜面の真黒色土ほどではないため、第Ⅱ層同様に黒色土層と呼んだ。ソフトローム層までが深い箇所にみられたが、浅い個所ではこの層は認められない。平安時代と縄文時代の遺物が出土している。

第Ⅳ層　褐色土層　　いわゆるローム漸移層である。

第Ⅴ層　ソフトローム層

斜面の下方は、地表面にも礫の散乱はみられたが、地山の礫層・礫包含のローム層までは深くなる。

斜面

第Ⅰ層　黒褐色土層　　表土層・畑の耕作土で15～20cmの厚さである。尾根上より黒色は強い。

第Ⅱ層　黒色土層　　第Ⅰ層よりしまっている。尾根上とは色調に違いがみられ、黒褐色土としてもよいのかもしれない。平安時代と縄文時代の遺物が出土している。

第Ⅲ層　真黒色土層　　斜面の下方でみられたが、尾根上では認められない。礫を包含するローム層までが深い箇所はこの層は厚く、下部には礫が包含されている。礫の大きさは握り拳大から頭大よりやや大きなものまでまちまちである。上部から縄文時代の遺物が僅かに発見されている。

第Ⅳ層　含礫黒色土層　　礫の大きさは第Ⅲ層と同じであるが、黒味はやや弱くなり礫は多くなり礫層と呼んでもよい状態であった。

第Ⅴ層　含礫褐色土層　　礫の大きさは第Ⅲ・Ⅳ層と同じである。色調が褐色となる以外は第Ⅳ層と変わるところはない。

第Ⅵ層　含礫ローム層

3　調査の概要

調査した程久保遺跡（原村遺跡番号15）と恩膳西遺跡（同23）の範囲は不明瞭であり、

平成３年度に実施した踏査結果と地形を考慮するなかで範囲を決めた。程久保遺跡の西端から調査をはじめたが、両遺跡の間に遺構の空白地帯は認められなかったため、遺跡を分けることはできなった。現時点では同一遺跡と考えているが、諸記録をはじめ遺物の取り上げは概ね当初考えていた範囲で「程久保遺跡」と「恩膳西遺跡」に分けている。

表１　程久保・恩膳西遺跡調査遺構一覧表

時代	遺構名	程久保遺跡	恩膳西遺跡	計
旧石器時代	石器集中箇所		1	1
縄文時代	前期　竪穴住居址		1軒	1軒
	中期　竪穴住居址	4軒		4軒
平安時代	後期　竪穴住居址	24軒	9軒	33軒
	建物址	1棟		1棟
	墓壙	1基	1基	2基
	鍛冶址	1	1	2
縄文時代 平安時代 時代不詳	小竪穴	67基	44基	110基

程久保遺跡の発掘調査は、県営圃場整備事業恩前地区に先立つもので、平成４・５年度に実施したが、便宜的に平成４年度を「第１次発掘調査」、平成５年度を「第２次発掘調査」と呼ぶことにした。第１次発掘調査は平成４年８月６日から12月28日、第２次発掘調査は平成５年４月28日から７月31日にわたり、第４図グリッド配置図に示したように18,145㎡の平面発掘調査を実施した。

調査で検出した遺構は、縄文時代中期の竪穴住居址４軒、平安時代後期の竪穴住居址24軒、建物址１棟、鍛冶址１、墓壙１基、縄文時代・平安時代および時代不詳の小竪穴67基である。その分布状況は第４図に示した通りである。なお、近世の墓壙１基、現代のタメ址と暗渠排水を検出したが対象外とした。

参考までに平成４年度と５年度に調査した遺構を示しておきたい。

表２　程久保遺跡平成４・５年度調査遺構一覧表

調査年度	調査遺構名	時代と遺構番号
平成４年度	竪穴住居址	縄文時代　７号・23号竪穴住居址 平安時代　１号～12号・22号・24号竪穴住居址
	小竪穴	縄文時代・平安時代　小竪穴１～37（時代不詳を含む）

平成５年度	竪穴住居址	縄文時代　14号・21号竪穴住居址 平安時代　13号・15号～20号・25号～28号竪穴住居址
	建　物　址	平安時代　建物址１
	鍛　冶　址	平安時代　鍛冶址１
	墓　　壙	平安時代　墓壙１
	小　竪　穴	縄文時代・平安時代　小竪穴38～67（時代不詳を含む）

恩膳西遺跡の発掘調査は、平成５年度県営圃場整備事業恩前地区に先立つもので、平成５年８月１日から11月17日にわたり、第４図の遺構配置図に示したように25,442㎡の平面発掘を実施した。

調査で検出した遺構は、旧石器時代の石器集中箇所１、縄文時代竪穴前期の竪穴住居址１軒と平安時代後期の竪穴住居址９軒、平安時代の鍛冶址１、墓壙１基、縄文時代・平安時代および時代不詳の小竪穴44基を調査した。その分布状況は第４図に示した通りである。

程久保・恩膳西の両遺跡とも縄文時代中期と平安時代後期の複合集落址であるが、竪穴住居址の多くは南斜面からの検出であり、尾根上の平坦部からの検出は恩膳西遺跡の３軒だけである。

Ⅲ　程久保遺跡

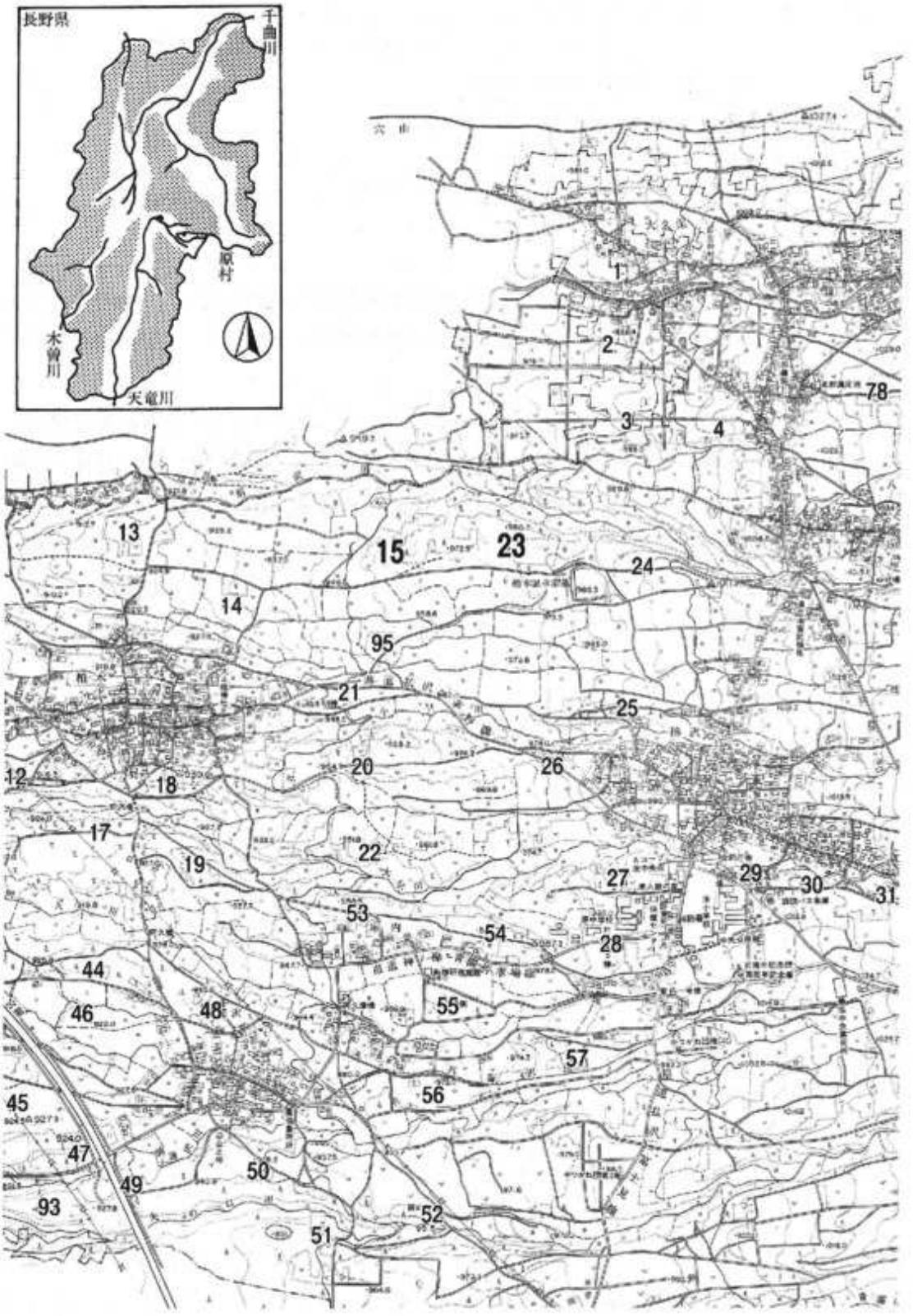
１　位置と環境

程久保遺跡（原村遺跡番号15）は、長野県諏訪郡原村柏木の北東に位置する。

ここで取上げる程久保遺跡は、昭和54年度に長野県教育委員会が実施した「八ケ岳西南麓遺跡群分布調査」の報告書で、程久保遺跡（同報告書214）と恩膳南遺跡（同報告書215）とに呼称している２遺跡である。

開発に先立ち平成４年度に原村教育委員会は、県営圃場整備事業恩前地区内の踏査を行った。たまたま両遺跡の間に唐松林と桑林（手入れがされていない桑畑）があり調査できなかったが、程久保遺跡と恩膳南遺跡は同じ尾根の南斜面に立地し、地形的にみると同一遺跡であり東西300m、南北120mくらいの範囲を遺跡と考えた。

しかし、発掘調査の結果、住居址など遺構の検出状況は後章の「Ⅳ　恩膳西遺跡」で記述する恩膳西遺跡と分けることができない状況であり、本遺跡と恩膳西遺跡は同一遺跡であると考えることが妥当である。



第3図　程久保・恩膳西遺跡の位置と付近の遺跡

表3　程久保・恩勝西遺跡と付近の遺跡一覧表

○は遺物発見　◎は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文						弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中	後	晩							
1	家裏	○				◎	○					◎			昭和59年度発掘調査
2	大久保前											○			昭和54年消滅
3	向尾根	○	○			○									昭和54年度発掘調査　消滅
4	横道下					○						○	○		昭和54年度発掘調査　消滅
12	前沢			○	○	◎						○			昭和55・61年度発掘調査
13	長峰			○		◎	○		○			◎		○	平成3年度発掘調査　消滅
14	裏長峰	○		○		○						◎			平成4年度発掘調査　消滅
15	程久保			○		◎	○					◎		○	平成4・5年度発掘調査　消滅
17	臼ヶ原			○		○						○			昭和53年度発掘調査
18	前尾根西					○									
19	南平					○									
20	前尾根					◎	◎								昭和44・52～54・59年度発掘調査
21	上居沢尾根					◎	○						○	○	平成4年度発掘調査
22	清水					○									
23	恩勝西	○		○	◎	○	○					◎		○	昭和62・平成5・6年度発掘調査
24	恩勝			○		◎	◎					○			昭和62年度詳細分布調査
25	裏尾根					○									
26	家下					○						○		○	昭和59年度発掘調査
27	鬼盧沢					○						○			昭和62年度発掘調査
28	宮平											○	○		
29	向尾根				○	○	○					○		○	昭和50・54年度発掘調査
30	南尾根					○						○			
31	中尾根					○						○			
44	原山					◎						○			
45	広原日向	○				○	○					○			昭和58年度発掘調査
46	宿尻	○		○		◎	○					◎			平成5・6年度発掘調査　消滅
47	ヲシキ			○	○	○						◎			昭和51年度発掘調査
48	稔の木					◎						○			
49	大石	○		○	◎	◎	○					◎		○	昭和50・平成4・5年度発掘調査
50	山の神					◎	◎					○			昭和54年度発掘調査
51	姥ヶ原					○	◎								昭和63・平成元年度発掘調査
52	水掛平					○						○			
53	雁頭沢					◎						○		○	昭和54・57・63・平成4・5年度発掘調査
54	宮ノ下			○		○						○	○	○	昭和57・58年度発掘調査
55	中尾根					○						○			
56	家前尾根					○									
57	久保地尾根					◎						○			平成6年度発掘調査
78	弓振日向	○				◎	○					○			昭和60・61年度発掘調査
93	大石西				○	○						○			平成3年度発掘調査
95	土井平											◎			平成4年度発掘調査　消滅

このあたりは八ケ岳西麓のほぼ中央に位置し、当地方に特有な東西に細長くのびる大小さまざまな尾根がみられる。これらの尾根筋は西方約3km先で、フォッサマグナの西縁である糸魚川—静岡構造線の断層崖に沿って北へ流れる宮川によって断ち切られている。

八ケ岳西麓一帯の尾根上から南斜面には、第3図および表3に示したように縄文時代を中心とする大小様々の遺跡が分布し、その密度は極めて高い地域である。

その一つである本遺跡は、裾野の2kmほど上から開析のはじまる前沢川左岸に発達した尾根上からやや傾斜が強い南斜面に立地する。縄文時代と平安時代の複合遺跡であるが、標高は960m前後を測り、地目は山林・普通畑・桑畑および水田で地味を良い。山林・普通畑および桑畑は大きな破壊はなく保存状態は比較的良かった。水田造成等による破壊はそれほどひどいものではなかったが、工事でその一部を欠損する遺構を検出している。

縄文時代中期は、尾根幅が広く一見したところ立地条件に恵まれているようであったが、居住区域はややきつい南斜面であり、従来考えてきた遺跡立地とは異なる点が多くみられた。平安時代は、縄文時代と居住区域は同様であり尾根の南斜面である。該期の他遺跡に比べると傾斜は強い。程久保遺跡だけでは住居址は斜面に直線的に並ぶ状態であるが、恩膳西遺跡の南斜面を含めると日だまり地形に立地していて、当地方における典型的な集落形態を示すものである。

2　歴史的環境

ここで取上げる程久保遺跡は『原村誌　上巻』に記載されている程久保遺跡と恩膳南遺跡であるが、両遺跡について原村誌では次のように述べている。その全文を引用しておきたい。

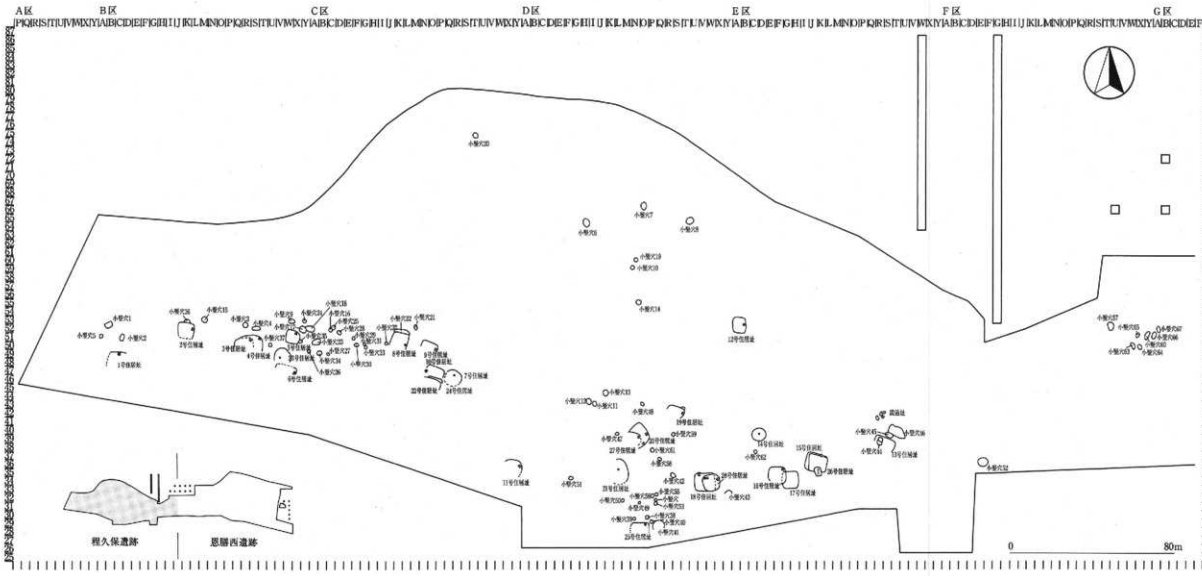
(15) 程久保遺跡（柏木）

柏木区の北方茅野市との境界付近に位置する遺跡で、昭和48～50年分布調査で確認された。その報告をみると縄文時代中期の土器破片3点、平安時代の土師器の破片25点と須恵器の破片2点が採集されている。昭和54年度分布調査でも、平安時代の土師器と灰釉陶器の破片が採集されている。狭い範囲で遺物が比較的多く採集できることから平安時代の住居址の存在が推察できる。

(16) 恩膳南遺跡（柏木）

柏木区の北方に位置する遺跡である。昭和54年度分布調査で平安時代の土師器と須恵器の破片を採集しているが、散布地は狭い。

以上のように、程久保遺跡の発見はそれほど古いことではないが、多くの遺物が採集さ



第4図　程久保遺跡遺構配置図

れていることから平安時代の住居址の埋没を推測している。昭和54年度の分布調査で、隣接地で平安時代の遺物を採集しているが別遺跡と考え恩膳南遺跡と呼称している。

その後、開発に先立ち平成４年度に県営圃場整備事業恩前地区内の踏査を行っているが、調査では程久保遺跡と恩膳南遺跡を同一遺跡と考え、遺跡名は程久保遺跡としている。したがって、原村遺跡番号16の恩膳南遺跡は程久保遺跡の一部であり、遺跡番号16は欠番になっている。

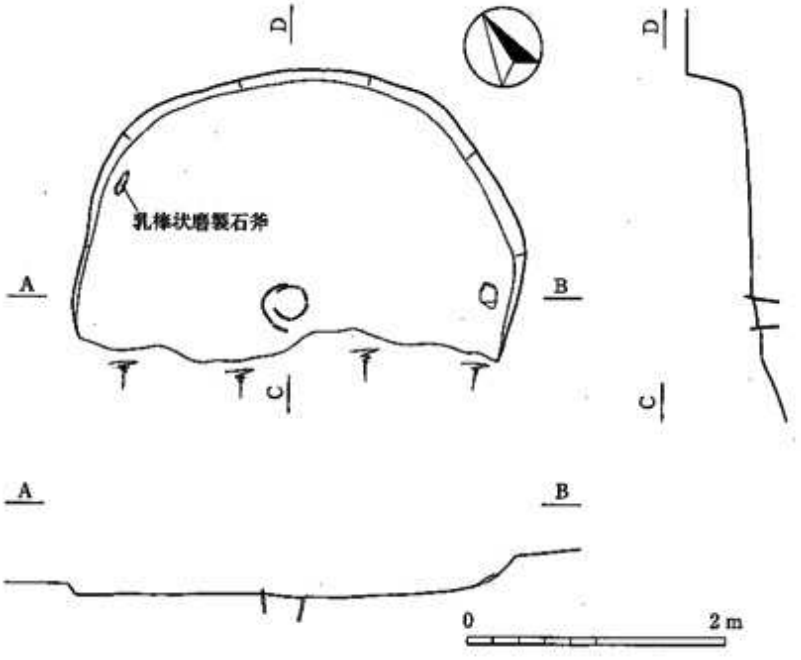
3　遺構と遺物

発掘調査は、平成４年度（第１次発掘調査）と同５年度（第２次発掘調査）に実施した。検出した遺構は縄文時代の竪穴住居址４軒、平安時代は竪穴住居址24軒、建物址１棟、墓壙１基、鍛冶址１である、小竪穴は67基あるが遺物が伴出したことで帰属時期が明らかなものは少ないが縄文時代・平安時代と時代不詳のものである。また、対象外であるが近世の墓壙１基と現代のタメ址である。

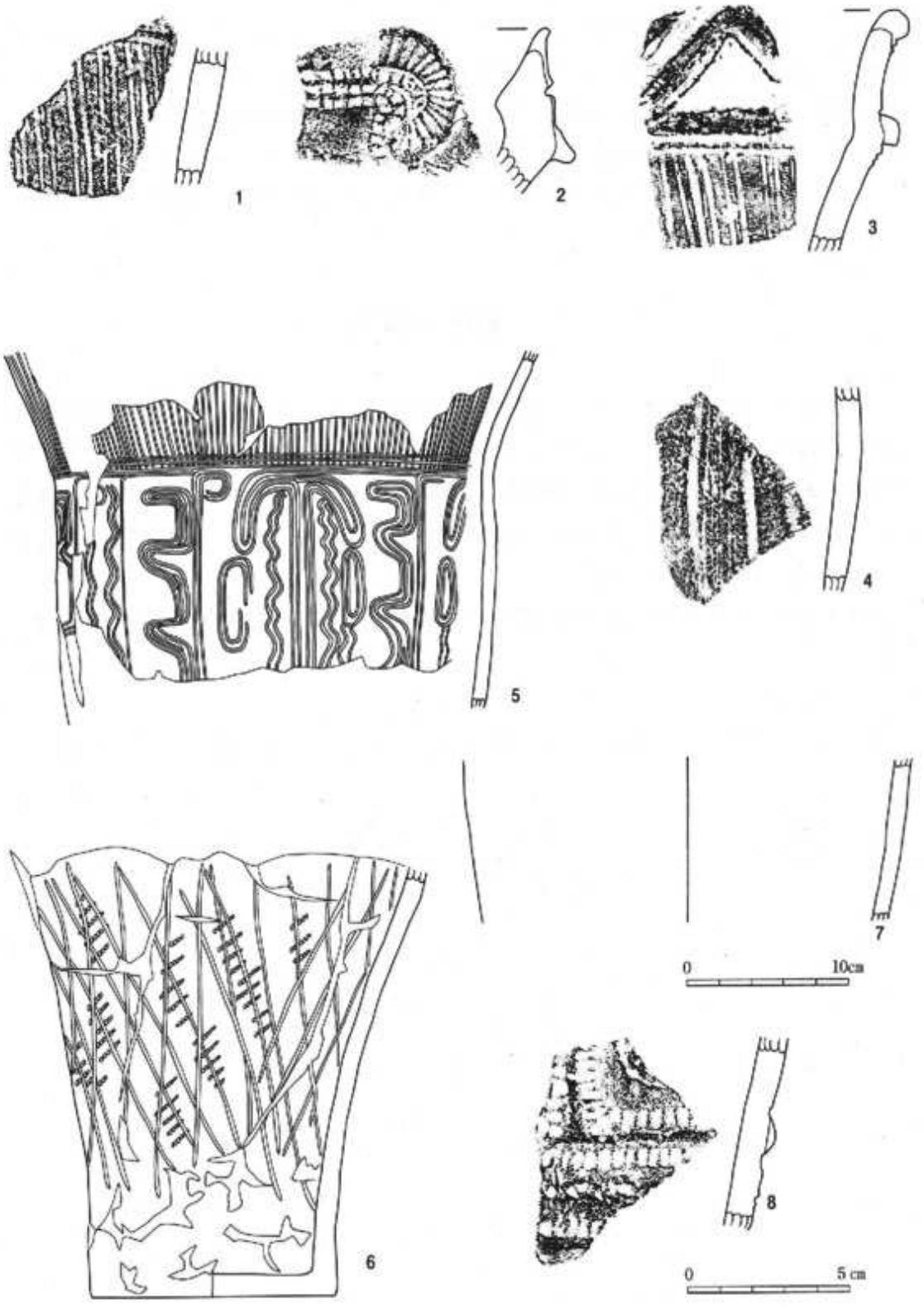
参考までに、平成４年度と５年度における遺構の検出および調査の進行状況は次の通りである。

平成４年度

第１～24号竪穴住居址を検出した。第１～12号・第22～24号竪穴住居址の調査は終了し



第５図　程久保遺跡第７号竪穴住居址実測図（１：60）



第6図　程久保遺跡第6・7号竪穴住居址出土土器拓影・実測図
（1～4・8　1：2、5～7　1：4）

たが、第13～21号竪穴住居址は埋戻し冬をこした。小竪穴１～37を検出し全ての調査を終了した。

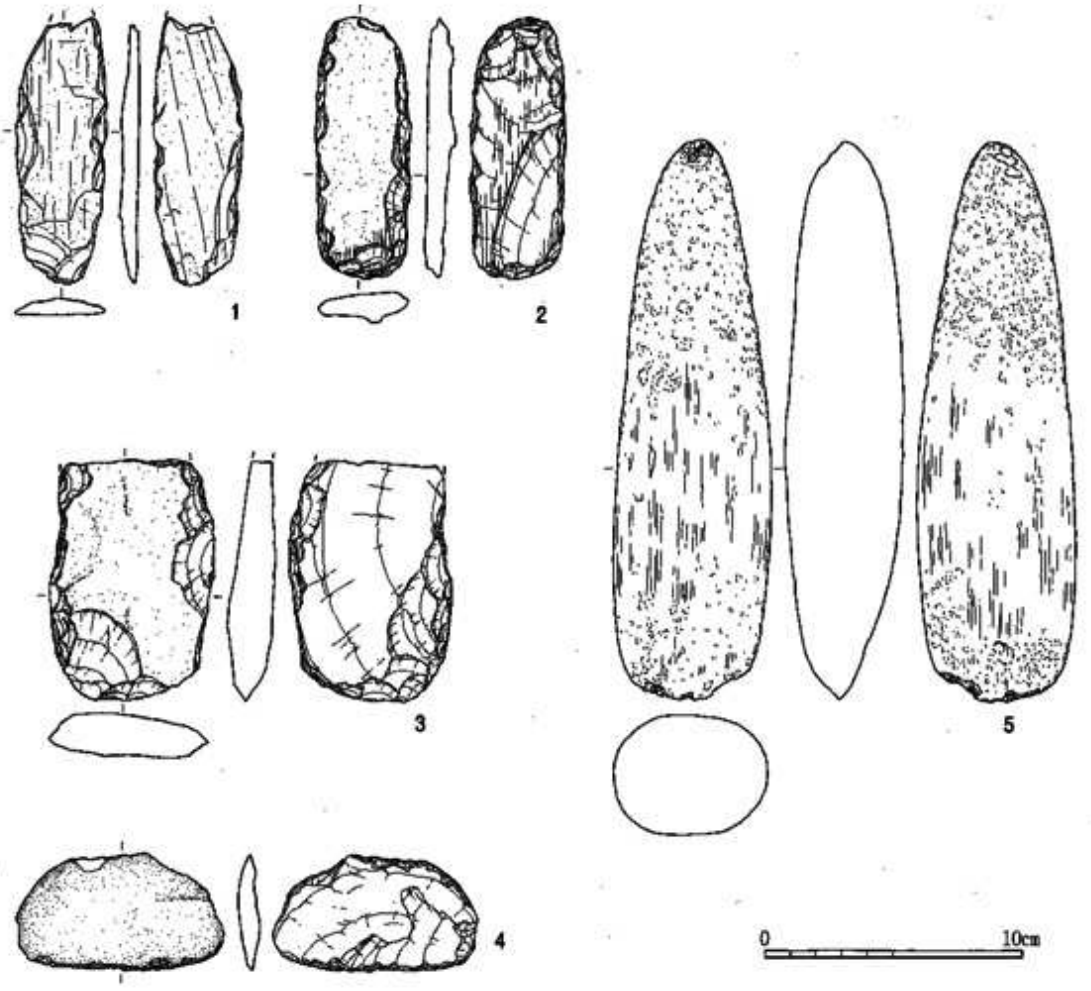
平成５年度

埋戻した第13～21号竪穴住居址と、新たに検出した第25～28号竪穴住居址、平安時代に帰属する鍛冶址ピット１～４、小竪穴38～43の調査を行った。なお、近世の墓壙１基を検出した。

報告書作成にあたり整理期間の関係で遺構・遺物の分析に未だ手を付けることができないでいる。遺物の出土数については接合できなかった破片数を記述したが、復原作業が終了していないため整理途上のものである。次項の恩膳西遺跡も同様である。

（1） 縄文時代の遺構と遺物

検出した縄文時代の遺構は、竪穴住居址４軒と小竪穴である。



第７図　程久保遺跡第７号竪穴住居址出土石器実測図（１：３）

小竪穴は、遺物が伴出したことで帰属時期が明らかになったものは少ないが、未だ分析に手を付けることができないでいるため、67基全ての小竪穴を便宜的にここで記述しておきたい。

① 竪穴住居址

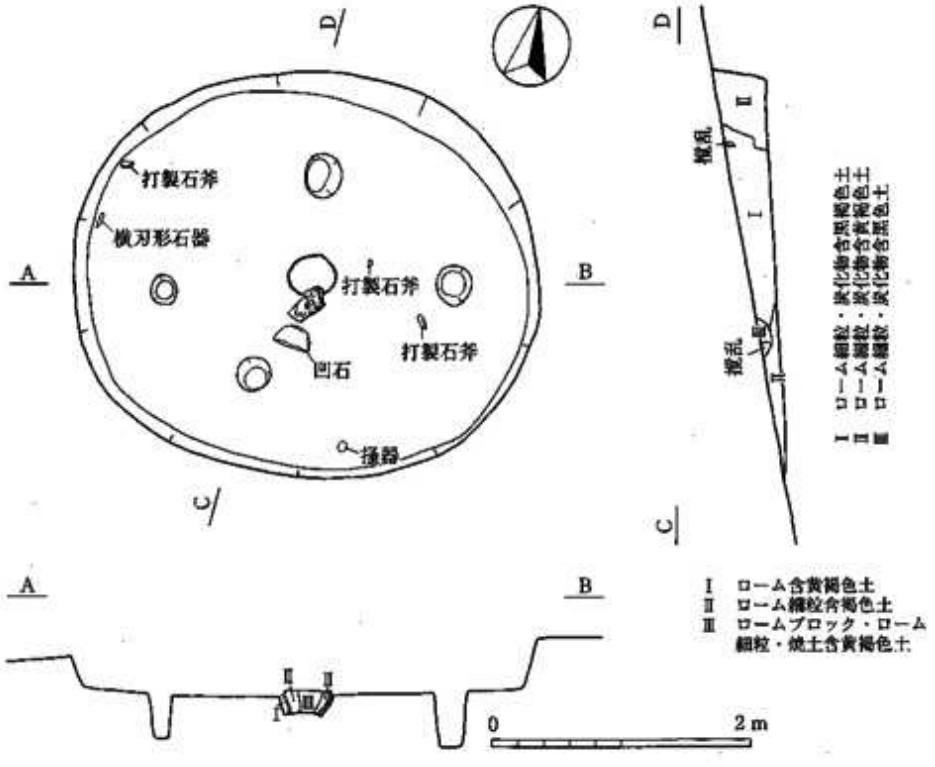
第７号竪穴住居址（第４～７図、写真４～６）

尾根の南斜面で遺跡のほぼ中央に位置するCP－46、CQ－45～47、CR－45～47の７グリッドに跨る円形を呈する竪穴住居址であるが、傾斜が強くすでに南側は流失しており明確なことはわからない。

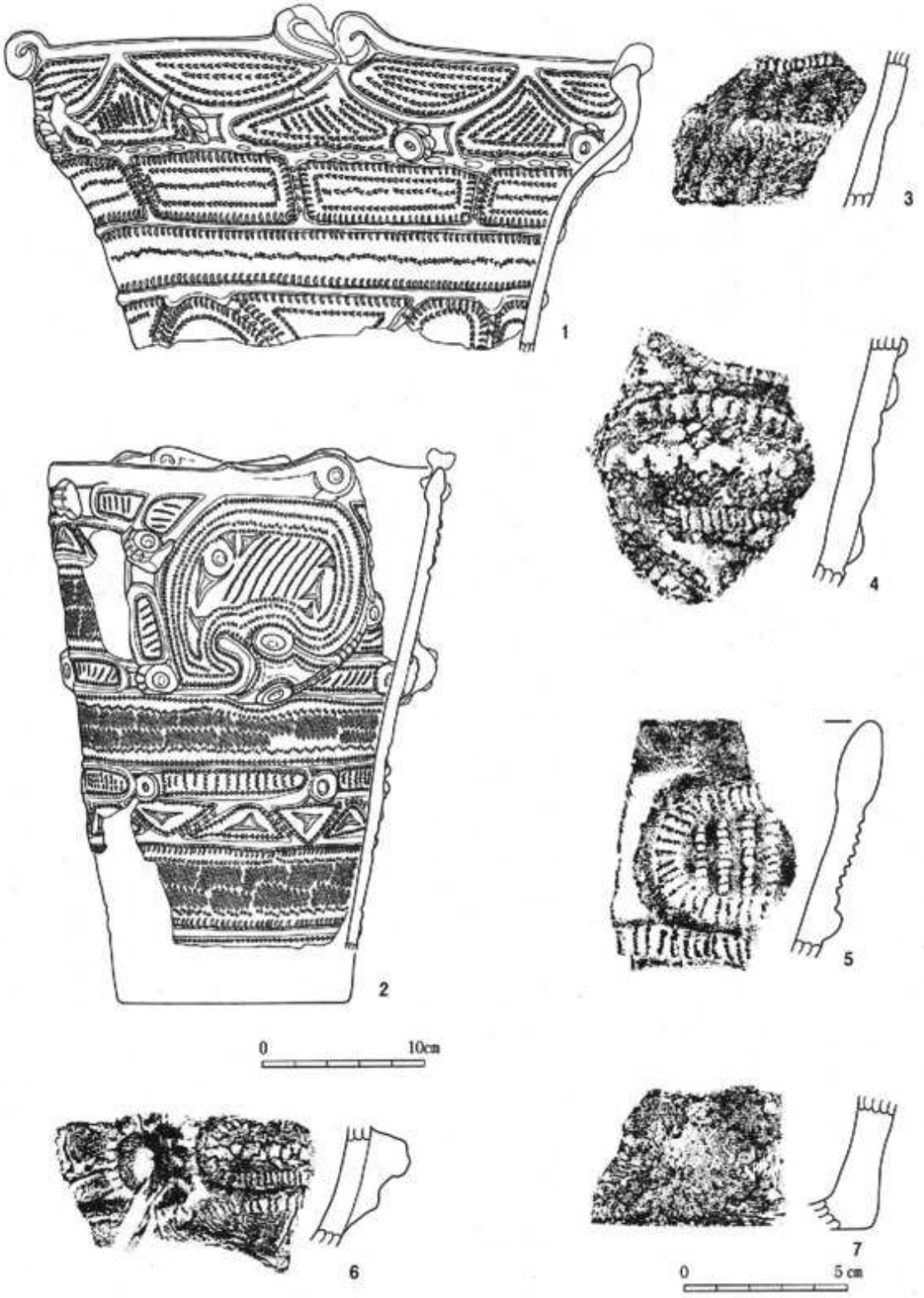
埋土の観察は自然傾斜の南北方向で行ったが、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址は黒色土からローム層中に構築されていたもので、大きさは径340cmほどである。壁は緩やかに立ち上がりあまり良くない。壁高は東が22cm、西は９cm、北は39cmである。床面はほぼ平で部分的にはタタキ床もみられたが総体的にはあまり良くない。柱穴をはじめピットの発見はない。

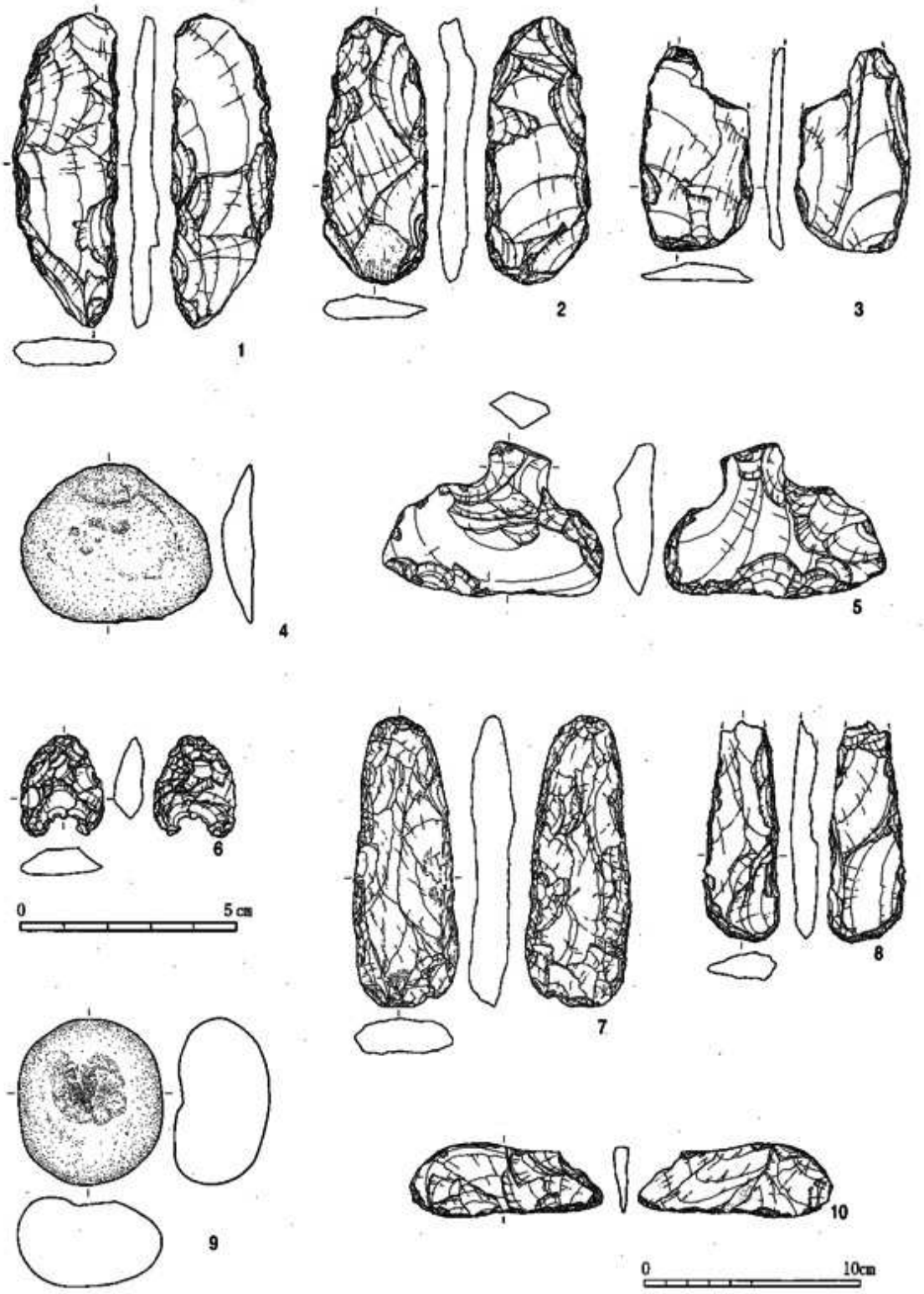
炉址は住居址ほぼ中央に埋甕炉がある。埋甕炉内には深鉢が正位で遺存していた。



第８図　程久保遺跡第14号竪穴住居址実測図（１：60）



第９図　程久保遺跡第14号竪穴住居址出土土器拓影・実測図
（1・2　1：4、3～7　1：2）



第10図　程久保遺跡第14・21号竪穴住居址出土石器実測図
（1～5・7～10　1：3、6　2：3）

出土した遺物はそれほど多くないが土器と石器がある。石器の多くは壁際床面直上からの出土である。

土器は、中期中葉新道期の深鉢３点（第６図５～７）と破片１点（８）を図示した。７は無文で下胴部であろう。５は炉体土器で口縁部と下胴部を欠損する平出第Ⅲ類Ａである。６は埋甕炉内に入っていたものである。

石器は、打製石斧３点（第７図１～３）、横刃形石器１点（４）、乳棒状石斧１点（５）、黒曜石剥片４点、剥片１点である。

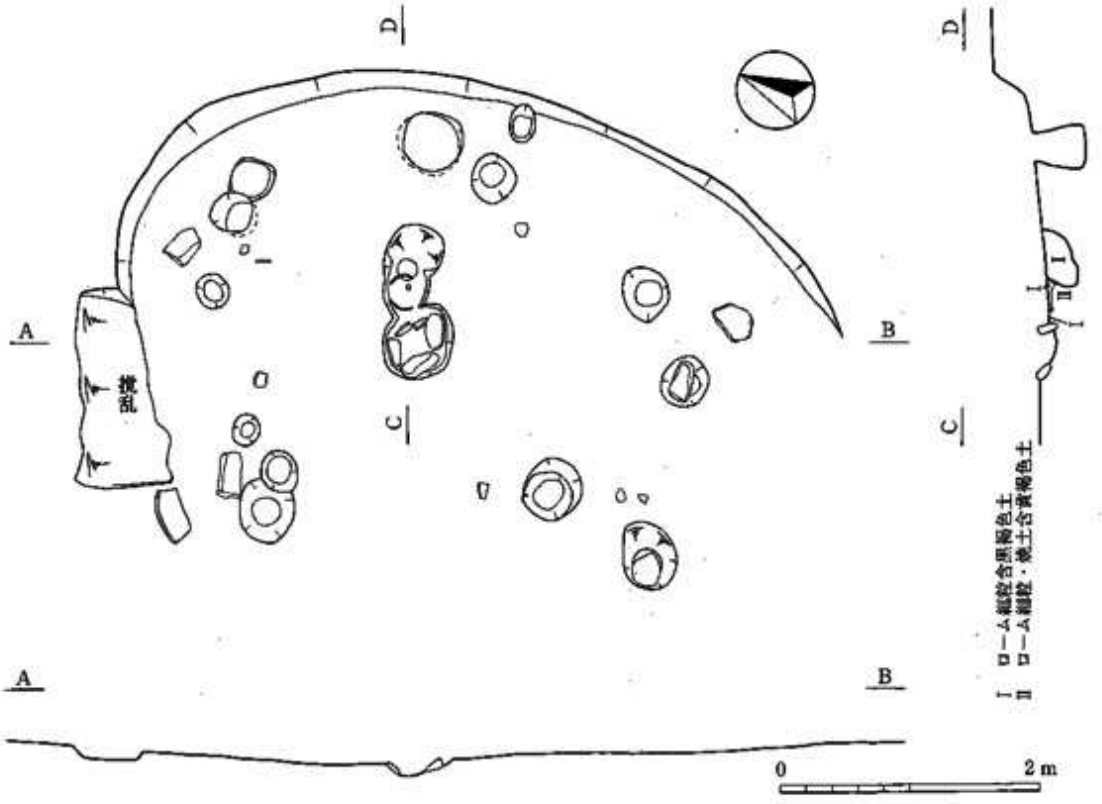
灰釉陶器の碗１点（第35図７）が出土したが混入遺物である。

第14号竪穴住居址（第４・８～10図、写真７・８）

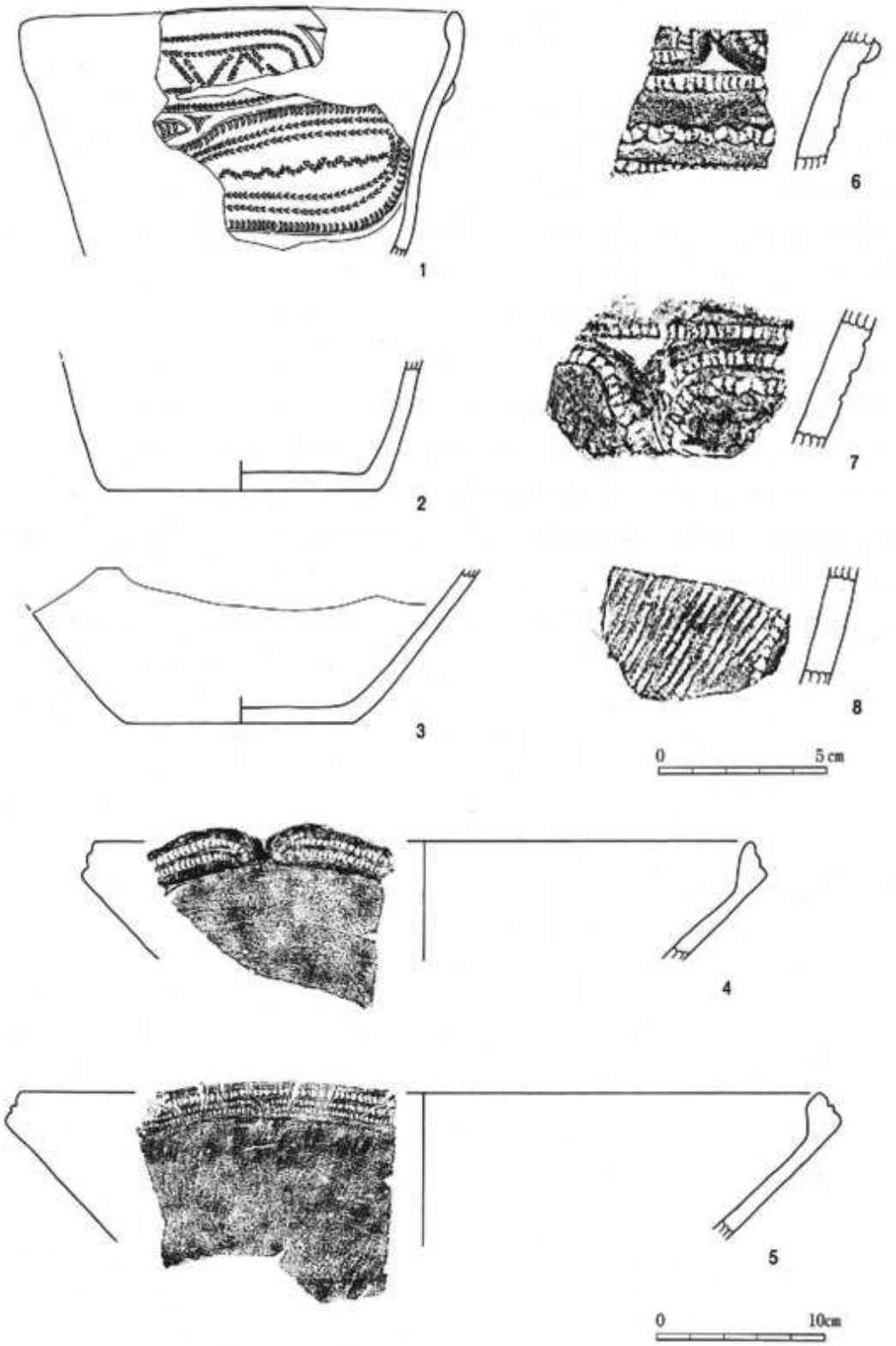
尾根の南斜面で第７号竪穴住居址の東で中期中葉期の中では東端に位置するEC－39・40、EF－39・40の４グリッドに跨る楕円形を呈する竪穴住居址である。

埋土の観察は自然傾斜の南北方向で行いⅠ～Ⅲに大別したように、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址はローム層中に構築されていたもので、大きさは長軸367cm、短軸314cmであ



第11図　程久保遺跡第21号竪穴住居址実測図（１：60）



第12図　程久保遺跡第21号竪穴住居址出土土器拓影・実測図
（1～5　1：4、6～8　1：2）

る。壁はほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は傾斜が強いため東が41cm、西は27cm、南は12cm、北は63cmである。床面はほぼ平のタタキ床で良好である。ピットは柱穴４本を検出したが小さいものばかりで配置は不規則である。

炉址は住居址ほぼ中央に埋甕炉がある。炉内をⅡ・Ⅲ層に分けたが焼土化はみられず、Ⅲ層に焼土が混入していただけである。

出土した遺物はそれほど多くないが土器と石器がある。土器は埋甕炉の上に横倒していたもの以外は破片ばかりである。石器は壁際からの出土である。炉址南の床面には安山岩扁平円礫の半割が据え置かれていた。素材は石皿同様で明らかにⅢ部を作りだすような作為はみられないが、敲打で僅かに凹んでいる。作業台として使用された「台石」のようである。

土器は、中期中葉新道期の深鉢２点（第９図１・２）と破片５点（３～７）を図示した。２は埋甕炉の上に横倒していた深鉢、１は炉体土器で頸部から下を欠損する。図示できなかった破片が61点ある。

石器は、打製石斧３点（第10図１～３）、横刃形石器１点（４）、石匙１点（５）、図示しなかったが前記の台石１点、黒曜石剥片５点、剥片１点である。

第21号竪穴住居址（第４・10～12図、写真９・10）

尾根の南斜面で第７号竪穴住居址と第14号竪穴住居址の真中やや南寄りに位置するDK－34～36、DL－34～37、DM－34～36の10グリッドに跨る楕円形を呈する竪穴住居址であるが、この辺りは傾斜が強くすでに南側は流失していたうえに、北西壁付近は農道で攪乱され明確なことはわからない。

埋土の観察は、自然傾斜の東西方向で行い、東壁方向からの流れ込みがみられた自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、傾斜がきついため黒色土中の南西側は壁と床が流失している。遺存した壁から大きさを推測すると長軸（600）cm、短軸（430）cmくらいであろう。壁はほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は東が15cm、北は24cmである。床面はほぼ平で部分的にはタタキ床も認められたが総体的にはあまり良くない。ピットは13基検出したが、主柱穴は５本でそれぞれ２基が並び、貼床が認められるものもあり同心円上の建て直しが容易に考えられる。ピットの脇に安山岩の礫が伴うような状態で出土したものもある。袋状ピットは貯蔵穴と考えられるが貼床されていた。

炉址は、埋甕炉と方形石囲炉が並んでいるが、埋甕炉の埋設土器は全周しない。方形石囲炉は石を立て構築したものである。構築時期には時間差があると思われるが新旧関係を

明らかにすることはできなかった。埋甕炉と方形石囲炉は同時に使用されていた可能性も高い。両炉址とも焼土化は進んでいない。

出土した遺物はそれほど多くないが土器と石器がある。石器は壁際からの検出である。

土器は、中期中葉新道期の深鉢２点（第12図１・２）、浅鉢３点（３～５）、破片３点（６～８）を図示した。１は炉体土器で頸部から下を欠損する。２は深鉢の底部、３は浅鉢の底部、４・５は浅鉢口縁部である。図示できなかった破片が54点ある。

石器は、石鏃１点（第10図６）、打製石斧２点（７・８）、横刃形石器１点（10）、凹石１点（９）、黒曜石剥片16点、剥片５点、原石１点である。

第23号竪穴住居址（第４・６・13～15図、表６、写真11・12）

尾根の南斜面で第７号竪穴住居址の西方に位置し、縄文時代の住居址の中では西端になるBU－48・49、BV－48～50、BW－48～50の８グリッドに跨る楕円形を呈する竪穴住居址であるが、この辺りは傾斜が強くすでに炉址から南側は流失していたし、第６号竪穴住居址との重複により切り取られている。また、炉址を挟んだ東と西には床面に達する径80cmほどの攪乱穴があり明確なことはわからない。重複による新旧関係は本址が旧く、第６号竪穴住居址（平安時代）が新しい。

埋土の観察は、住居址の認定が遅れ適切な土層観察ベルトを設定することはできなかったが、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

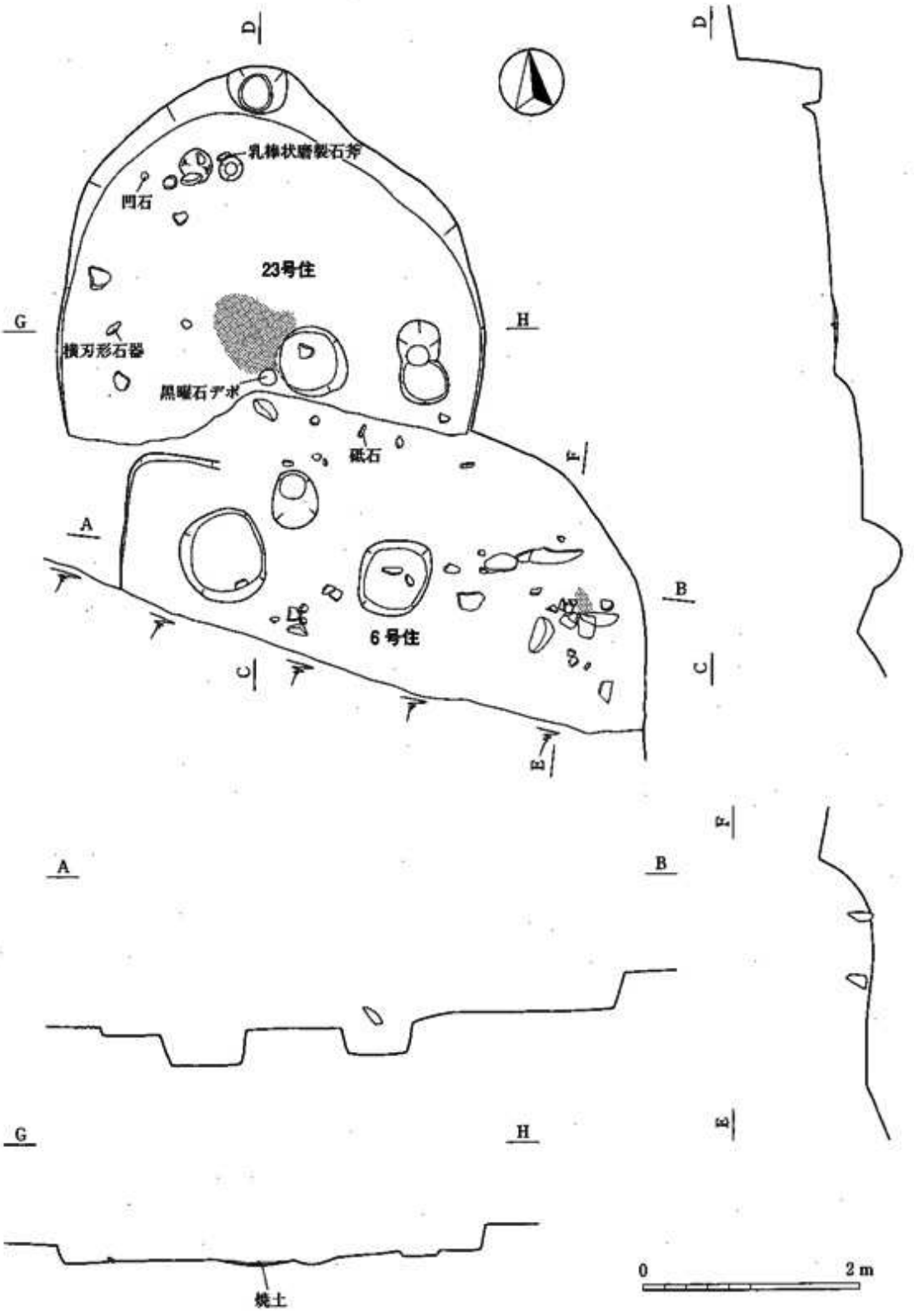
竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、大きさは径（390）cmほどである。壁はやや緩やかに立ち上がりあまり良くない。壁高は東が22cm、西は20cm、北は68cmと高くなる。床面はほぼ平らのタタキ床で普通である。ピットは規格性のみられるものはなく不明瞭であるのが、規模からみて柱穴と思われる。炉址南のピットは西側の一部が袋状となり貯蔵穴と思われるが炉址にあまりにも近い。北壁下には３基の浅い小ピットが並び、それに伴うような状態で乳棒状石斧１点、凹石１点、礫２点が出土した。

炉址は、住居のほぼ中央に埋甕炉がある。埋甕炉を中心に広い範囲に焼土化がみられ、地床炉と埋甕炉が併用されていたようである。埋設土器は火熱により破損は著しいうえにもろいもので全周していない。

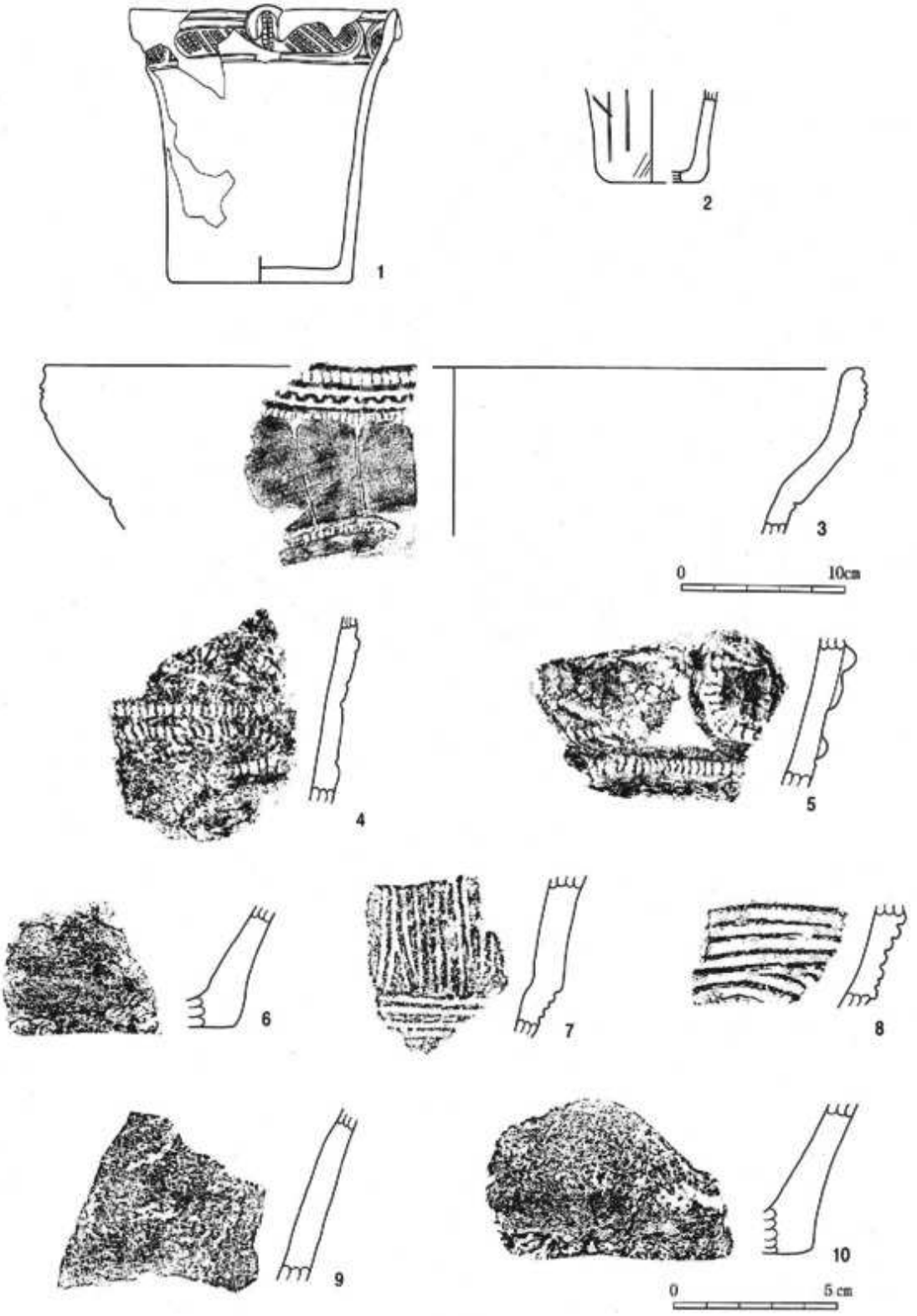
出土した遺物は土器と石器がある。

土器は、中期中葉新道期の深鉢３点（第14図１～３）と破片７点（４～10）を図示した。３は炉体土器である。図示できなかった破片が76点ある。なお、第６号竪穴住居址出土の４点（第６図１～４）は本址のものと思われる。

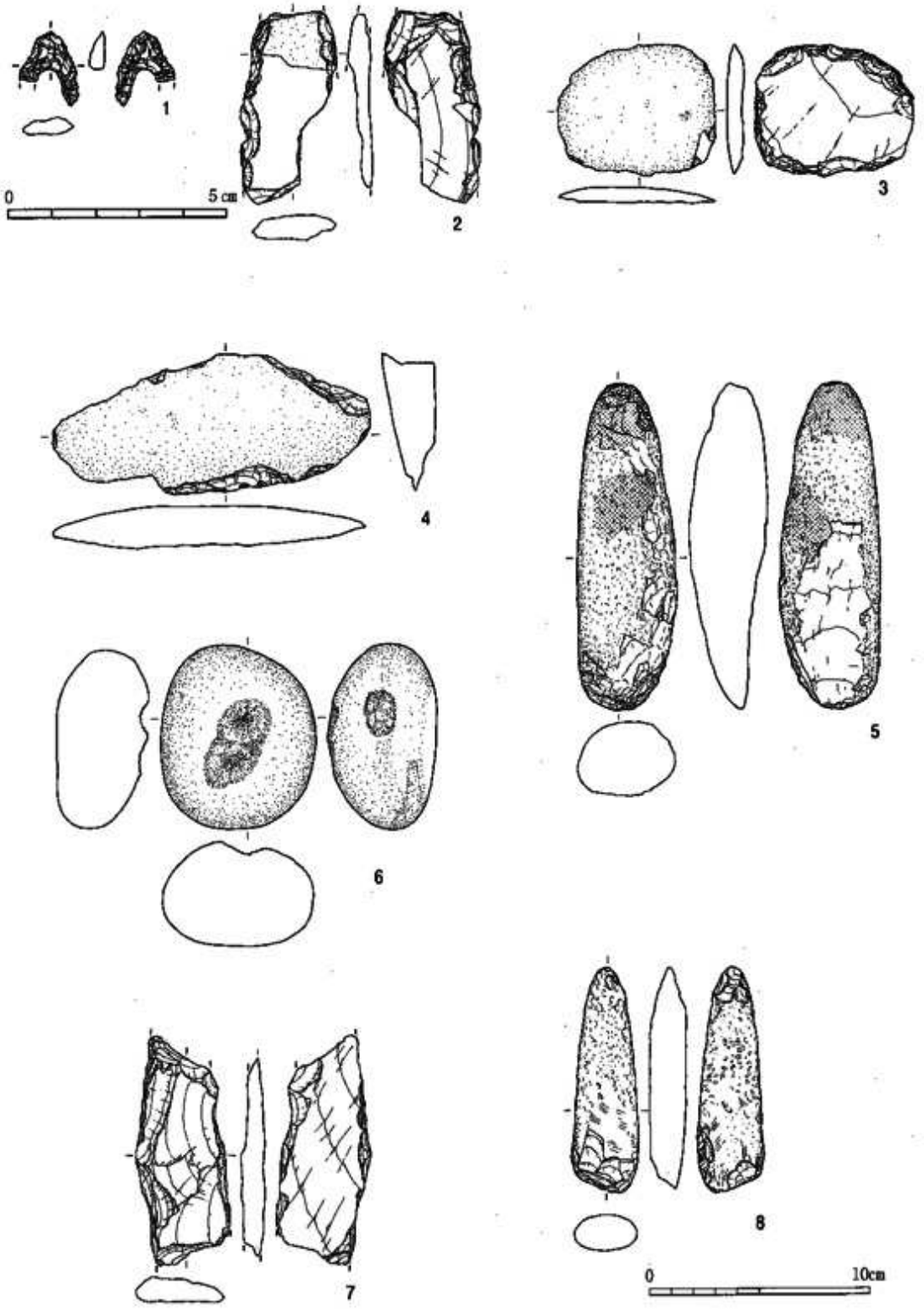
石器は、石鏃１点（第15図１）、打製石斧１点（２）、横刃形石器２点（３・４）、乳棒状石斧１点（５）、凹石・磨石１点（６）、黒曜石原石・剥片等、原石１点である。



第13図　程久保遺跡第6・23号竪穴住居址実測図（1：60）



第14図　程久保遺跡第23号竪穴住居址出土土器拓影・実測図
（1～3　1：4、4～10　1：2）



第15図　程久保遺跡第23号竪穴住居址、小竪穴37・39出土石器実測図
（1　2：3、2～8　1：3）

黒曜石の原石・剥片等は、炉の南に接して掘り窪められた浅い小ピット内から出土したが、上層（デポ１）に原石・剥片・砕片が23点、間層をはさみ下層（デポ２）に13点が埋められていた（写真12)。原石の重さは4.2～40.7ｇとそれほど大きなものではない。調査の不手際で出土状態は図化できなかった。また、デポ状のまとまりは認められなかったが、原石・砕片36点が埋土中から出土した。本址出土の黒曜石を（表６）にまとめた。

② 小竪穴

小竪穴１（第４・16図）

尾根の南斜面で遺跡の西外れに位置するBA－52・53、BB－52・53グリッドで検出した。平面形は182×121cmの長方形で深さは21cmである。壁はロームで立ち上がりは良好で底は平でしっかりしている。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴２（第４・16図）

尾根の南斜面で小竪穴１の南東に位置するBC－51、BD－51グリッドで検出した。平面形は155×108cmの長方形で深さは10cmと浅いものである。壁はロームで立ち上がりは良好で底は平であるが自然傾斜方向に傾いている。小竪穴１と類似し検出した位置は近く同様の性格であろう。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴３（第４・16図）

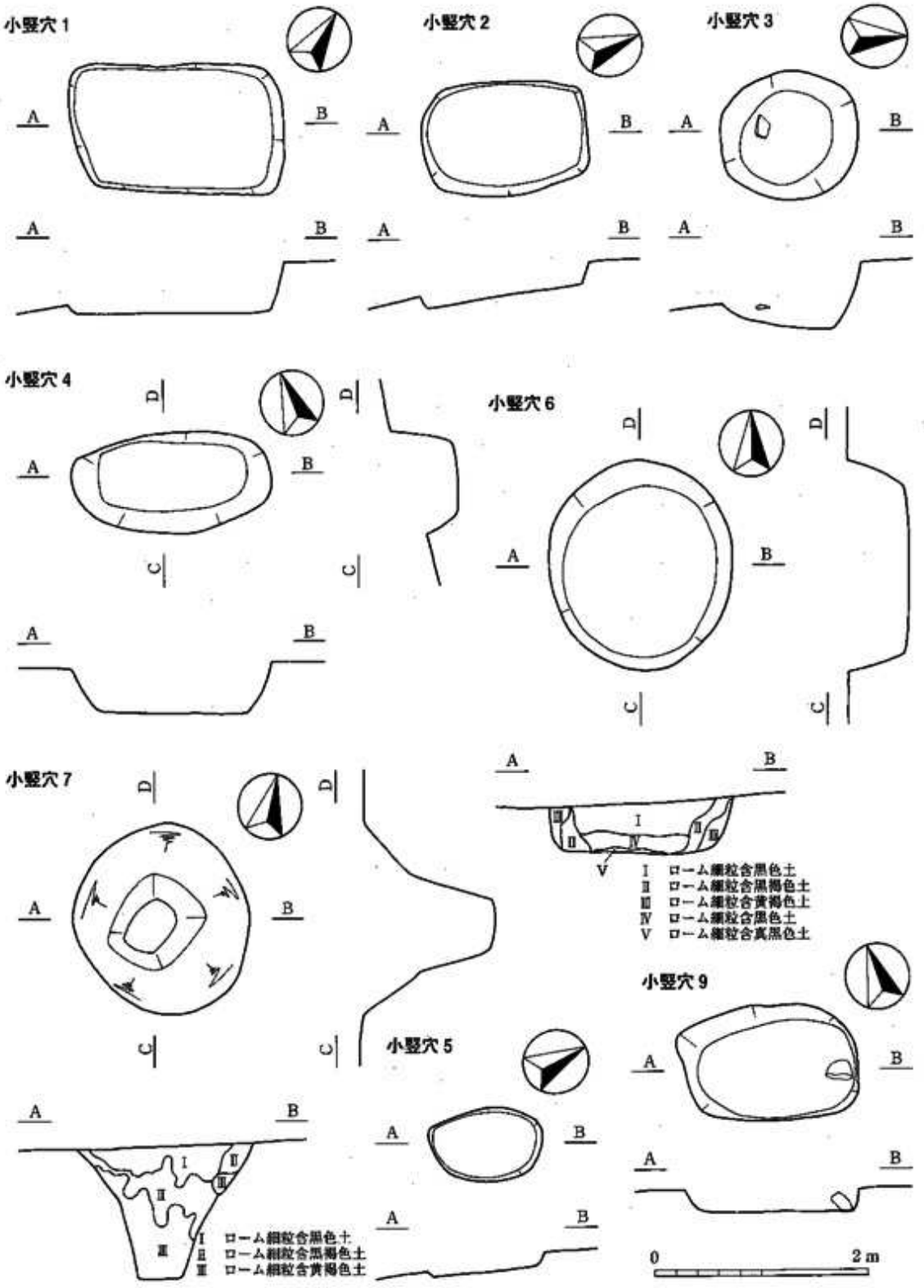
尾根の南斜面で重複する第３・４号竪穴住居址の北に位置するBR－52・53グリッドで検出した。平面形は130×124cmの円形で深さは31cmである。壁はロームで立ち上がりは良くない。底はほぼ平であるが北に傾いている。南壁の近くから安山岩の礫１点が出土したが底面よりも浮いている。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴４（第４・16図）

尾根の南斜面で小竪穴３の東に位置するBS－52、BT－52グリッドで検出した。平面形は135×97cmの楕円形で深さは57cmと深い。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

逆茂木を立てた小穴を検出することができなかったうえにやや浅いが、陥し穴と考えたいものである。



第16図　程久保遺跡小竪穴1～7・9実測図（1：60）

出土した遺物は、破片ばかりで平安時代の土師器がある。図示できるものはないが坏類が1点と甕類が2点である。

小竪穴5（第4・16図）

尾根の南斜面で小竪穴2の西に位置するBA－51グリッドで検出した。平面形は110×70cmの楕円形で深さは13cmである。壁はロームで立ち上がりは良くない。底はほぼ平であるが木の根の撹乱が達し良くない。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴6（第4・16図）

尾根上の平坦部でDH－64・65、DI－64・65グリッドで検出した。平面形は198×172cmの円形で深さは47cmである。埋土はⅠからⅤ層に大別したように自然埋没である。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

逆茂木を立てた小穴を検出することができなかったうえにやや浅いが、陥し穴と考えたいものである。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴7（第4・16図）

尾根上の平坦部で小竪穴6の東に位置するDO－66・67グリッドで検出した。平面形は180×166cmの円形で深さは128cmと深いものである。埋土はⅠ～Ⅲに大別したように自然埋没である。壁はロームで立ち上がりは2段になるが、上方の2/3くらいは壁土の崩落により段差がついたようである。底は平で長方形である。

逆茂木を立てた小穴を検出することができなかったうえにやや浅いが、形態、規模、埋土の状態から陥し穴と考えたいものである。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴8（第4・17図、写真13）

尾根上の平坦部で小竪穴7の東に位置するDT－64・65、DU－64・65グリッドで検出した。平面形は178×157cmの楕円形で深さは92cmと深い。埋土はⅠ・Ⅱに大別したように自然埋没である。壁はロームで立ち上がりは2段になるが、上方の2/3くらいは壁土の崩落により段差がついたようである。底はやや丸みをもつが長方形である。

逆茂木を立てた小穴を検出することはできなかったが、形態、規模、埋土の状態から陥し穴と考えたいものである。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴9（第4・16図）

尾根の南斜面で第5号竪穴住居址の北に位置するBW－53、BX－53グリッドで検出した。平面形は163×108cmの隅丸長方形で深さは39cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。東壁際からは底面に密着した安山岩の礫1点が出土した。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴10（第4・17図）

尾根上の平坦部で小竪穴7の南方に位置するDM－59、DN－59グリッドで検出した。平面形は133×110cmの楕円形で深さは31cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。ほぼ中央から安山岩の板状の礫1点が出土したが底面よりは浮いている。

逆茂木を立てた小穴を検出することができないうえにやや浅いが、陥し穴と考えたいものである。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴11（第4・17図）

尾根の南斜面で重複する第20・27号竪穴住居址の北西に位置するDI－43グリッドで検出した。平面形は113×110cmの円形で深さは32cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。隣接する小竪穴12・13に酷似している。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴12（第4・17図）

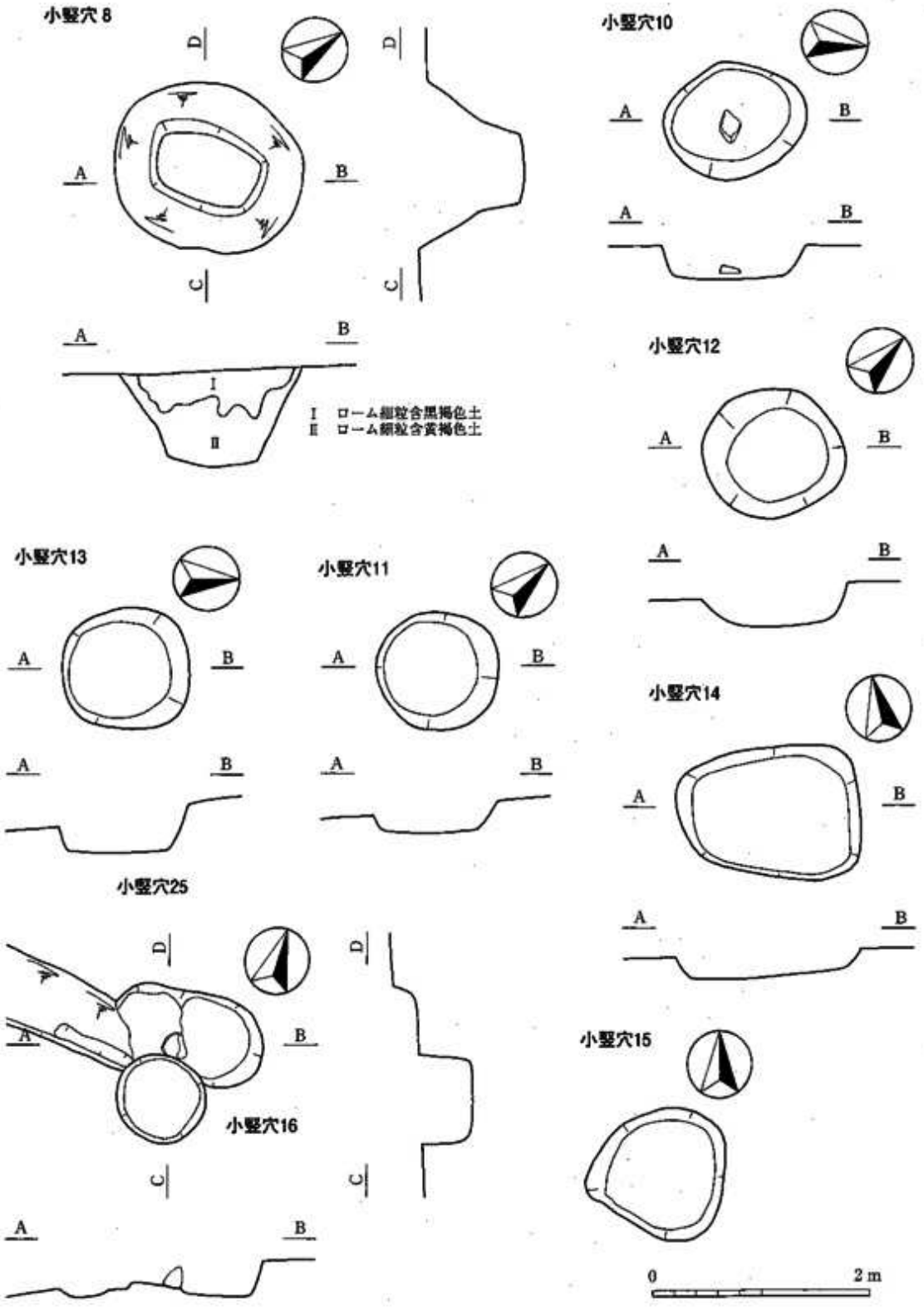
尾根の南斜面で小竪穴11の北西に隣接するDH－43・44、DI－43・44グリッドで検出した。平面形は123×123cmの円形で深さは23cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。隣接する小竪穴11・13に酷似している。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴13（第4・17図）

尾根の南斜面で小竪穴11の北東に位置するDJ－44、DK－44グリッドで検出した。平面形は117×112cmの円形で深さは43cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。隣接する小竪穴12・13に酷似している。

出土した遺物は皆無である。



第17図　程久保遺跡小竪穴８・10～16・25実測図（１：60）

小竪穴14（第４・17図）

尾根上の緩やかな南斜面で小竪穴10の南方に位置するDN－55、DO－55グリッドで検出した。平面形は167×125cmの不整長方形で深さは20cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平であるが自然傾斜方向にやや傾いている。埋土中にはロームブロックが多く、人為的に埋められたものと思われる。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴15（第４・17図）

尾根の南斜面で第２号竪穴住居址の北東に位置するBM－53グリッドで検出した。平面形は130×125cmの不整円形である。壁はロームで立ち上がりは良くないが底はほぼ平である。深さは調査の不手際で記録がないため不明である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴16・25

小竪穴16（第４・17図）

尾根の南斜面で第８号竪穴住居址の西に位置する。CC－52グリッドで検出した。小竪穴25と重複するが新旧関係は不明である。耕作で撹乱され詳しいことはわからないが、平面形は83×80cmの円形で深さは57cmである。壁はロームで立ち上がりはほぼ垂直で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴25（第４・17図）

尾根の南斜面で第８号竪穴住居址の西に位置するCC－52グリッドで検出したが小竪穴16と重複する。重複による新旧関係は不明である。耕作で撹乱され詳しいことは不明である。

検出した時点では１基の小竪穴と考え調査を進めたが、楕円形の小竪穴２基が重複していた。新旧関係を明らかにすることはできなかった。小竪穴番号を付けてないため便宜的に小竪穴25東、小竪穴25西で記述したい。なお、両小竪穴は規模に若干のちがいはみられたが似かよっている。

小竪穴25東の平面形は（82）×80cmの楕円形で深さは36cmである。壁はロームで立ち上がりはほぼ垂直で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴25西の平面形は（75）×（68）cmの楕円形で深さは18cmである。壁はロームで立

ち上がりはほぼ垂直で底は平である。底面には安山岩の礫１点が置かれていた。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴17・18・24

小竪穴17（第４・18・23図）

尾根の南斜面で第５号竪穴住居址の北東に位置するBX－52、BY－52グリッドで検出した。住居址に認定するには小規模なうえに不明瞭な点が多く、小竪穴としたが住居址に認定してもおかしくない状態である。平面形は210×（190）cmの不整六角形で深さは32cmである。壁はロームであるが壁土が崩落しており立ち上がりは緩やかになるが、底は平で硬く住居址の床面同様である。西南側の２ケ所の角には比較的大きな安山岩の礫が据え置かれている。北西隅の礫は壁際に落ち込んだ状態で出土した。南西の壁際で検出したピットは本址より新しいものかもしれない。北壁上の浅いピット、それに接する柱穴状の小ピットは本址に係るものか、別遺構であるのか不明である。浅いピットは径が68cmで深さは14cmである。柱穴状の小ピットは径が31cmで深さは20cmである。

平面形は六角形であり住居址と考えるにはやや小規模であるが、壁および底面の状態をみる限りは住居址そのものである。しかし、住居址に欠かせない火床である炉址（縄文時代）も竈址（平安時代）が検出できないため小竪穴とした。上居沢尾根遺跡で竪穴と呼称した住居址に近い遺構のようである。

出土した遺物は、縄文時代の土器と平安時代の土師器・灰釉陶器の破片がある。縄文時代は中期中葉土器破片１点（第23図１）、平安時代は図示できるものはないが土師器の坏類が75点と甕類が２点、灰釉陶器が５点である。

小竪穴18（第４・18図）

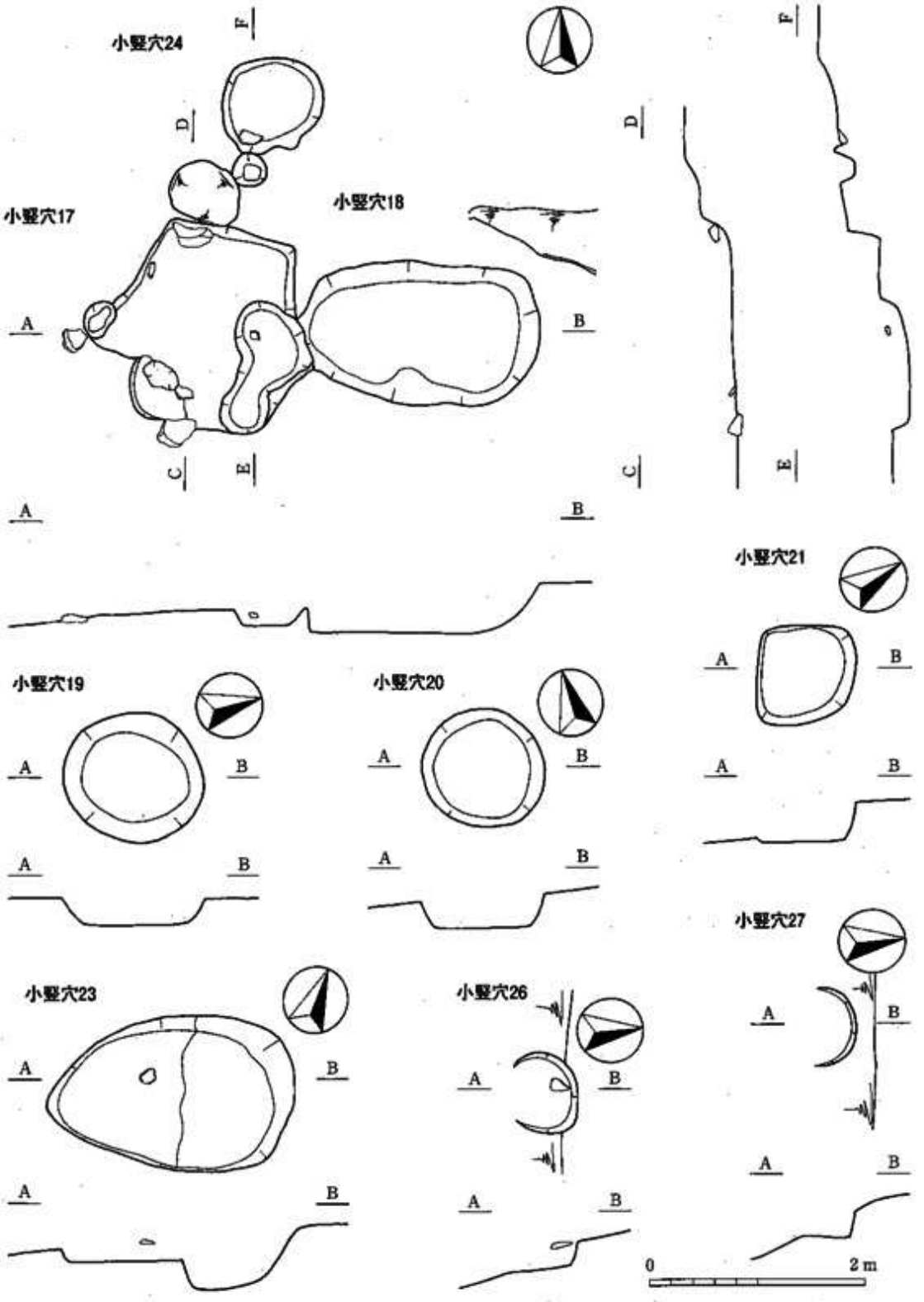
尾根の南斜面で小竪穴17の東に隣接するBY－52、CA－52グリッドで検出した。平面形は223×130cmの楕円形で深さは59cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴24（第４・18図）

尾根上の平坦部で小竪穴17の北に位置するBY－53グリッドで検出した。平面形は95×90cmの楕円形で深さは10cmと浅い。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平で自然傾斜方向に傾いている。南壁際からは安山岩の礫１点が底に埋められたような状態で出土した。

出土した遺物は皆無である。



第18図　程久保遺跡小竪穴17～21・23・24・26・27実測図（1：60）

小竪穴19（第４・18図）

尾根上の平坦部で小竪穴10の北に位置するDN－50グリッドで検出した。平面形は130×122cmの円形で深さは24cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平であるが木の根で撹乱されている。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴20（第４・18図）

尾根上の平坦部で小竪穴６の北西に位置するCT－75グリッドで検出した。平面形は113×113cmの円形で深さは29cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平であるが木の根で撹乱されている。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴21（第４・18図）

尾根の南斜面で第８号竪穴住居址の北東に位置するCM－52グリッドで検出した。平面形は92×92cmの不整円形で深さは36cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴22（第４・36図、写真14）

尾根の南斜面でCJ－52、CK－51・52、CL－51・52グリッドで検出したが第８号竪穴住居址と重複する。埋土はⅠ～Ⅸに大別したように自然埋没である。重複範囲は僅かであったが新旧関係は、第８号竪穴住居址の埋土であるⅠ・Ⅱを本址が掘り込んでいたことから、本址が新しく第８号竪穴住居址（平安時代）が旧いことになる。平面形は360×（95）cmの長楕円形で深さは180cmと深い。壁はロームで２段に立ち上がるが、底から上２/３くらいはほぼ垂直でその上は壁土が崩落したことにより緩やかになる。底面は細長いが平らで逆茂木を立てた小穴が５個穿たれている。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴23（第４・18・23図）

尾根の南斜面で第５号竪穴住居址の東に位置するCA－50・51、CB－50・51グリッドで検出した。平面形は230×145cmの長楕円形である。底は２段になり深さは浅い所で34cm、深い所では55cmを計る。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は両底とも平である。検出面で安山岩の礫１点が出土した。なお、１基の小竪穴と考え調査を進めたが重複した小竪

穴の可能性が考えられるものである。

出土した遺物は、縄文時代の土器と石器、平安時代の土師器がある。縄文時代は中期中葉土器破片42点（第23図２・３）、石器は図示しなかったが黒曜石の剥片１点である。平安時代は図示しなかった土師器の坏類の破片６点である。

小竪穴26（第４・18図）

尾根の南斜面で第23号竪穴住居址の東に位置するBY－49・50グリッドで検出した。傾斜が強くすでに南壁は流失していたが、平面形は75×（60）cmの円形で深さは25cmである。壁はロームで立ち上がりは良く底はほぼ平である。北壁際の検出面には安山岩の礫１点がある。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴27（第４・18図）

尾根の南斜面で小竪穴16・25の南に位置するCB－49、CC－49グリッドで検出した。傾斜が強くすでに南壁は流失していたが、平面形は73×（47）cmの円形で深さは22cmである。壁はロームで立ち上がりは良く底はほぼ平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴28（第４・19図）

尾根の南斜面で小竪穴16・25の東に位置するCD－51・52グリッドで検出した。平面形は100×72cmの不整楕円形で深さは23cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底はほぼ平であるが木の根で攪乱されている。

出土した遺物は皆無である。

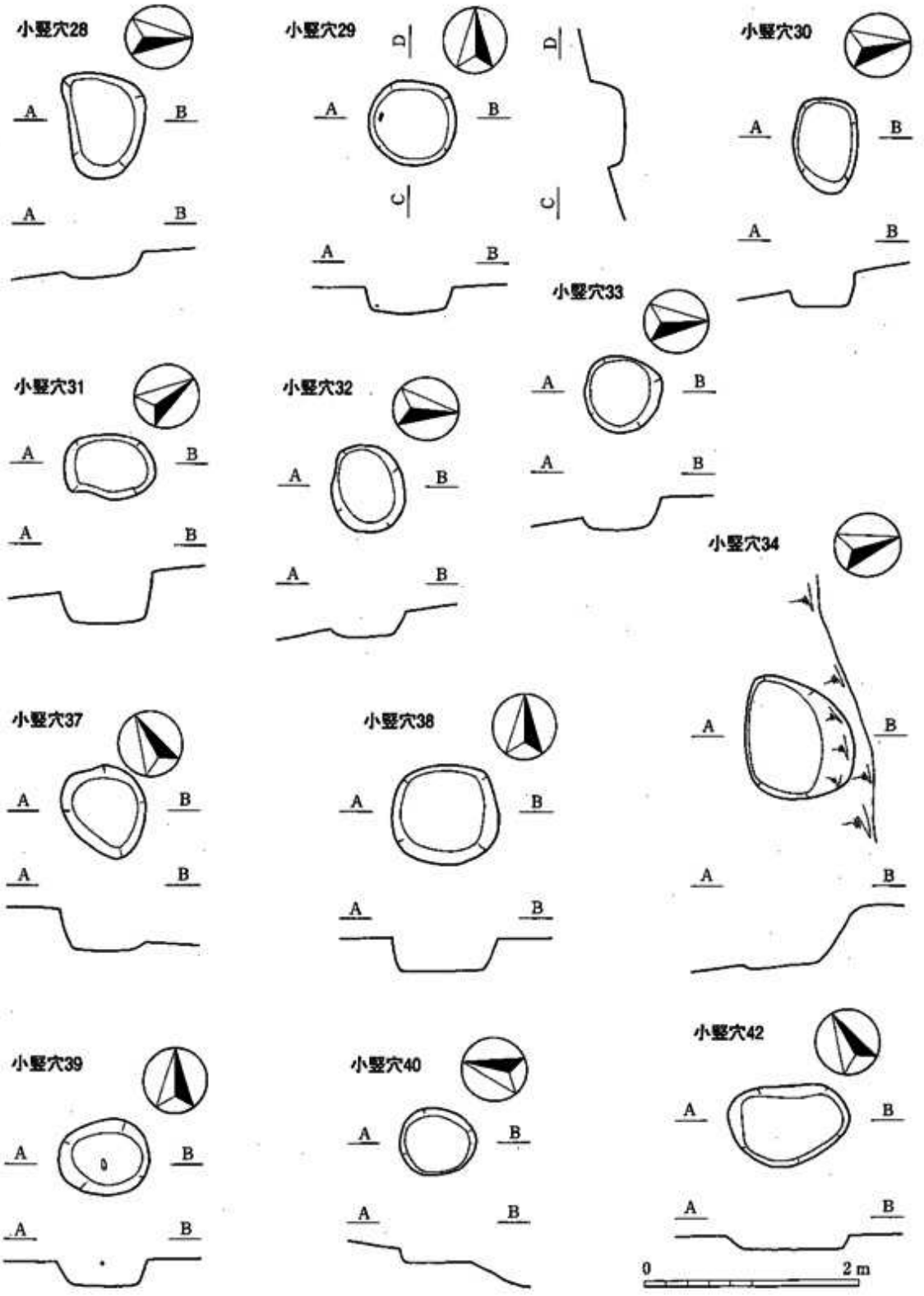
小竪穴29（第４・19図）

尾根の南斜面で小竪穴28の東に位置するCE－51、CF－51グリッドで検出した。平面形は83×81cmの円形で深さは32cmである。壁はロームで立ち上がりは良く底は平である。東壁際から炭化材が出土したが、底面より５cmほど浮き性格は不明である。

出土した遺物は炭化物だけである。

小竪穴30（第４・19図）

尾根の南斜面で小竪穴29の南東に位置するCF－50グリッドで検出した。平面形は90×58cmの不整楕円形で深さは33cmである。壁はロームで立ち上がりは良く底は平である。



第19図　程久保遺跡小竪穴28～34・37～40・42実測図（1：60）

出土した遺物は皆無である。

小竪穴31（第４・19図）

尾根の南斜面で小竪穴30の東に位置するCG－50グリッドで検出した。平面形は85×61cmの楕円形で深さは49cmである。壁はロームで立ち上がりは良く底は平である。

出土した遺物は、破片ばかりで平安時代の土師器と灰釉陶器がある。図示できるものはないが土師器の坏類が２点、灰釉陶器が１点ある。

小竪穴32（第４・19図）

尾根の南斜面で小竪穴31の東で第８号竪穴住居址の西に位置するCI－50、CJ－50グリッドで検出した。平面形は83×70cmの楕円形で深さは26cmである。壁はロームで立ち上がりは良く底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴33（第４・19図）

尾根の南斜面で小竪穴31の南に接するCG－50グリッドで検出した。平面形は73×70cmの円形で深さは31cmである。壁はロームで立ち上がりは良く底は平である。

出土した遺物は、破片で図示できるものはないが平安時代の土師器坏類が１点ある。

小竪穴34（第４・19・23図）

尾根の南斜面で小竪穴23の南に位置するCA－49、CB－49グリッドで検出した。平面形は115×100cmの不整楕円形で深さは49cmである。壁はロームで立ち上がりはだらだらとしており良くない。底はほぼ平であるが木の根で撹乱されている。

出土した遺物は、縄文時代の土器と石器がある。土器は中期中葉の破片２点（第23図４）、石器は図示しなかったが黒曜石の剥片１点である。

小竪穴35（第４・34図）

尾根の南斜面で第５号竪穴住居址の東壁で重複しているBX－50・51グリッドで検出した。平面形は（90）×87cmの楕円形で深さは25cmである。重複する第５号竪穴住居址との新旧関係は明らかにすることはできなかった。壁はロームであるが立ち上がりは良くないし底は木の根で撹乱されている。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴36（第４・30図）

尾根の南斜面でBK－53グリッドで検出したが第２号竪穴住居址と重複する。重複による新旧関係は本址が旧く第２号竪穴住居址が新しい。平面形は148×（71）cmの円形で深さは29cmである。壁はロームであるが立ち上がりは良くないし底は木の根で撹乱されている。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴37（第４・15・19図）

尾根の南斜面で縄文時代の第23号竪穴住居址の北西に位置するBU－50グリッドで検出した。平面形は88×75cmの不整楕円形で深さは35cmである。壁はロームで立ち上がりは良好で底は平である。

出土した遺物は、縄文時代の打製石斧１点（第15図７）と黒曜石の剥片２点である。

小竪穴38（第４・19図）

本址から第２次緊急発掘調査で検出したものである。

尾根の南斜面で第25号竪穴住居址の北に位置するDO－29・30、DP－29・30グリッドで検出した。平面形は99×95cmの円形で深さは34cmである。壁はロームで立ち上がりは良好で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴39（第４・15・19・23図）

尾根の南斜面で小竪穴38の西に位置するDN－29・30で検出した。平面形は82×72cmの楕円形で深さは35cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は、縄文時代の土器と石器、平安時代の灰釉陶器がある。縄文時代は中期中葉の土器破片６点（第23図５）、検出面で出土した乳棒状石斧１点（第15図８）、平安時代は灰釉陶器の破片１点である。

小竪穴40（第４・19図）

尾根の南斜面で小竪穴38の南東に位置するDP－29グリッドで検出した。平面形は70×64cmの不整円形で深さは13cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平であるが木の根で撹乱されている。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴41（第４・20図）

尾根の南斜面で小竪穴40の南東に位置するDP－29・30、DQ－29・30グリッドで検出した。検出した時点では１基の小竪穴と考え調査を進めたが、小竪穴２基が重複していた。新旧関係は不明である。なお、重複する小竪穴には番号は付けていない。

埋土はⅠ～Ⅴに大別したように自然埋没である。なお、Ⅴにはロームブロックが多量に包含されていたが壁土が崩れたものであろう。

平面形は283×（168）cmの不整円形で深さは98cmと深い。南側の１/３くらいはすでに開田で破壊されていた。壁はロームであきらかに壁土が崩落した状態がみてとれるが、東壁は部分的に袋状である。底は２段になるがそれぞれ平で良好である。

出土した遺物は、縄文時代の石器と平安時代の灰釉陶器がある。図示しなかったが縄文時代の黒曜石の剥片２点、平安時代は灰釉陶器の破片１点である。

番号を付けなかった東側の小竪穴は、82×（43）cmの楕円形と思われるもので深さは47cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴42（第４・19・23・24図）

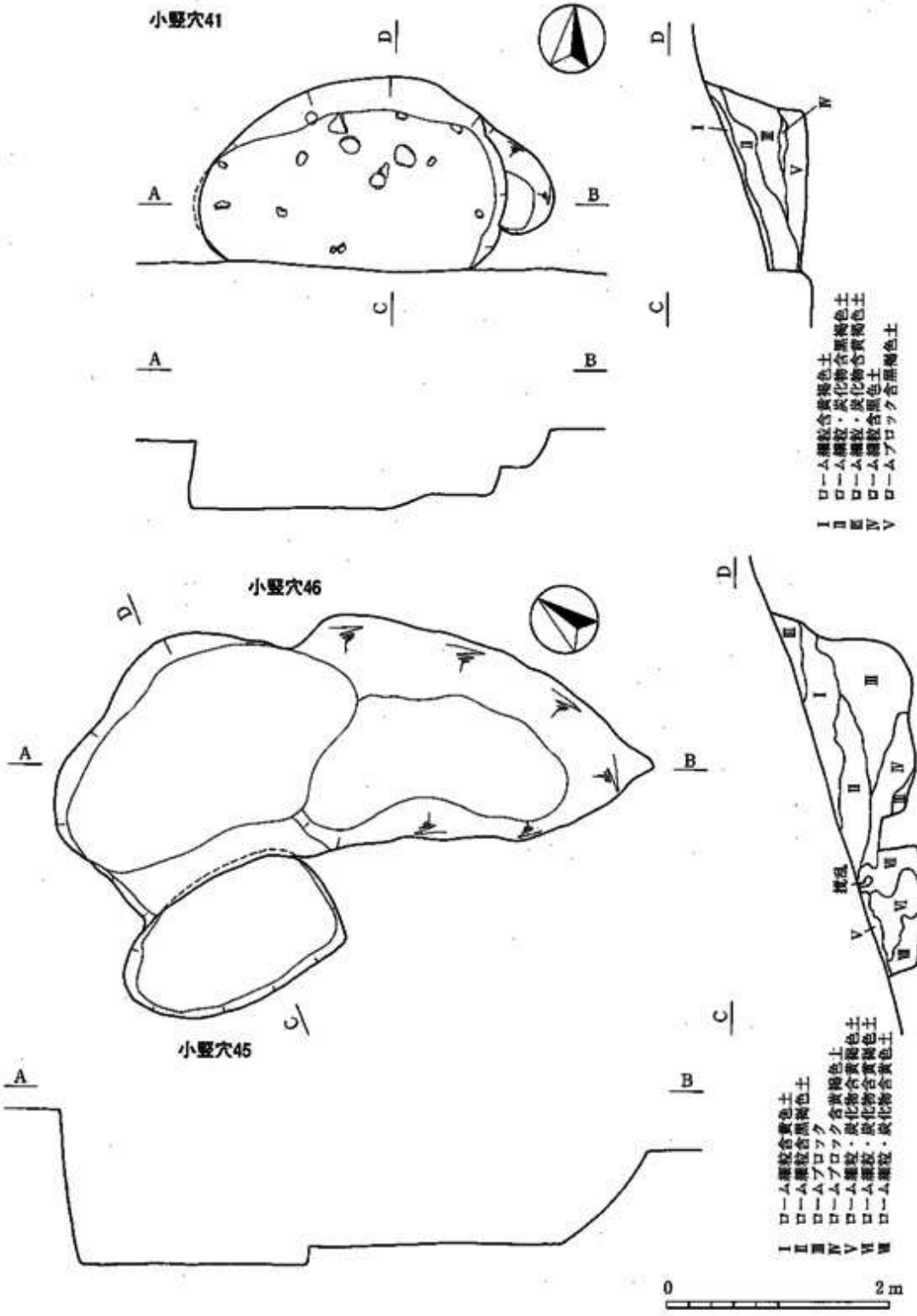
尾根の南斜面で縄文時代の第21号竪穴住居址の東に位置するDR－34・35、DS－34・35グリッドで検出した。平面形は113×75cmの不整楕円形で深さは14cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底はほぼ平である。

出土した遺物は、縄文時代の土器と平安時代の土師器がある。縄文時代は中期中葉の土器破片７点（第23図６～９、第24図10）、平安時代は土師器の坏類破片１点である。

小竪穴43（第４・21・24図、表４・８）

尾根の南斜面で重複する第18・28号竪穴住居址の南東に位置するDY－32・33グリッドで検出した。南側の半分くらいは水田造成で欠損しているうえに黒褐色土中に構築されたもので不明瞭な点が多い。平面形は（157）×（77）cmの楕円形で深さは33cmである。壁は黒褐色土で立ち上がりは緩やかで底はほぼ平である。

出土した遺物は、縄文時代の土器と石器、平安時代の土師器・須恵器・鉄滓がある。縄文時代は中期中葉の土器破片２点（第24図11）、石器は図示しなかったが黒曜石の剥片２点、平安時代は破片ばかりで土師器の坏類が９点、甕類が３点、須恵器が１点である。鉄滓は１点で重さ40.8ｇ（表４・８）である。



第20図　程久保遺跡小竪穴41・45・46実測図（1：60）

小竪穴44（第４・46図、写真27）

尾根南斜面のER－38・39グリッドで検出したが第13号竪穴住居址と重複する。重複による新旧関係は第13号竪穴住居址が旧く本址が新しい。平面形は124×（106）cmの円形で深いところで37cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は２段になるがそれぞれ平である。深い底面には安山岩の礫１点が置かれていた。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴45・46

小竪穴45（第４・20図、表４・８）

尾根の南斜面で第13号竪穴住居址の北に接するES－39・40、ET－39グリッドで検出したが小竪穴46と重複する。小竪穴45・46の埋土はⅠ～Ⅶに大別したように自然埋没である。なお、本址の埋土が崩れ小竪穴46を埋めていることが観察できることで本址が旧く小竪穴46が新しい。壁はロームで上方はあきらかに崩落している状態がみてとれるが北壁は袋状である。平面形は200×（121）cmの楕円形で深さは73cmである。底はほぼ平であるが北に傾いている。

出土した遺物は平安時代の鉄滓１点があり、重さは27.3ｇである（表４・８）。

小竪穴46（第４・20図）

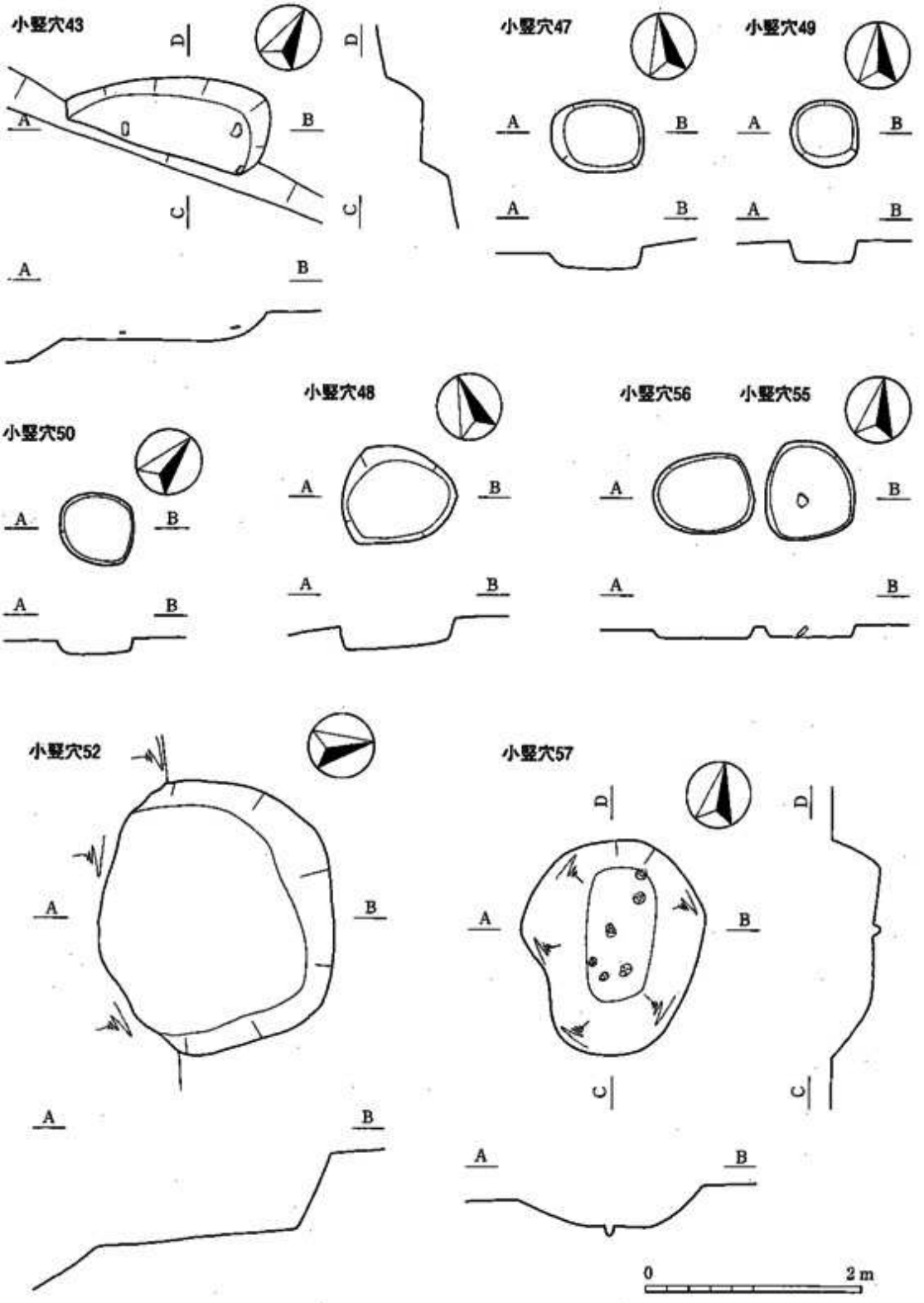
尾根の南斜面で第13号竪穴住居址の北に接するES－40・41、ET－39・40・41、EU－39・40グリッドで検出したが小竪穴45と重複する。小竪穴45・46の埋土はⅠ～Ⅶに大別したように自然埋没である。なお、小竪穴45との新旧関係は上記したように本址が新しく小竪穴45が古い。また、本址は検出時点では１基の小竪穴と考え調査を進めたが、不整楕円形の小竪穴２基が重複していた。重複する小竪穴には番号を付けていないため、便宜的に小竪穴46南、小竪穴46北で記述しておきたい。小竪穴46南と小竪穴46北の新旧関係については不明である。

両小竪穴は規模に若干の違いはあるが似かよった構造である。壁はロームで上方はあきらかに崩落した状態がみてとれるもので、埋土中にロームブロックが多量に包含されていた。小竪穴41・45同様の袋状ピットである。

小竪穴46北は、（275）×（182）cmの楕円形で深さは155cmと深い。底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴46南は、（305）×（207）cmの楕円形で深さは104cmである。袋状の壁は遺存していなかったが、立ち上がりは緩やかで壁土の崩れは容易に考えられる状態で、本址は袋状のピットであり上方の壁土が崩れたものと考えたい。底は平である。



第21図　程久保遺跡小竪穴43・47～50・52・55～57実測図（1：60）

出土した遺物は皆無である。

小竪穴47（第４・21・24図）

尾根の南斜面で縄文時代の第21号竪穴住居址の北に位置するDL－39・40グリッドで検出した。平面形は87×67cmの楕円形で深さは19cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底はほぼ平である。

出土した遺物は少ないが縄文時代の土器がある。中期中葉の土器破片４点（第24図12・13）で、13は浅鉢で小竪穴49出土の14と胎土・焼成・施文が酷似し同個体の可能性が高いものである。

小竪穴48（第４・21図）

尾根の南斜面で重複する第20・27号竪穴住居址の北に位置するDO－43グリッドで検出した。平面形は108×95cmの不整楕円形で深さは14cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底はやや丸みをもち傾斜方向に傾いている。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴49（第４・21・24図）

尾根の南斜面で小竪穴39の北に位置するDN－31、DO－31で検出した。平面形は62×61cmの円形で深さは22cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は少ないが、縄文時代中期中葉の土器破片２点（第24図14・15）である。小竪穴47で触れたが、14は浅鉢で小竪穴47出土の13と胎土・焼成・施文は酷似し同個体の可能性が高いものである。

小竪穴50（第４・21図）

尾根の南斜面で縄文時代の第21号竪穴住居址の南に位置するDL－31・32、DM－31・32グリッドで検出した。平面形は76×66cmの楕円形で深さは13cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平であるが木の根で撹乱されている。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴51（第４・22図）

尾根の南斜面で第11号竪穴住居址の東に位置するDF－34、DG－34グリッドで検出したが農道により撹乱されている。平面形は92×73cmの不整楕円形で深さは25cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴52（第４・21図）

尾根の南斜面で第13号竪穴住居址の東に位置するFE－36・37、FF－36・37グリッドで検出したが南側の１/３ほどは農道で切り取られている。平面形は256×（252）cmの隅丸方形と思われるもので深さは70cmである。壁はロームで立ち上がりは良好で底は平で硬くやはり良好である。

やや小規模であるが壁および底面をみる限りでは住居址そのものである。しかし、住居址には欠かせない炉址（縄文時代）、竈址（平安時代）が検出できないため小竪穴とした。小竪穴17同様のものである。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴53・54

小竪穴53（第４・22図）

尾根の南斜面で縄文時代の第21号竪穴住居址の南東に位置するDP－31、DQ－31グリッドで検出した。小竪穴54と重複するが新旧関係は不明である。平面形は100×94cmの不整円形で深さは８cmと浅い。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴54（第４・22・24図）

尾根の南斜面で縄文時代の第21号竪穴住居址の南東に位置するDP－32、DQ－32グリッドで検出した。小竪穴53と重複するが新旧関係は不明である。平面形は83×72cmの楕円形で深さは６cmと浅い。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

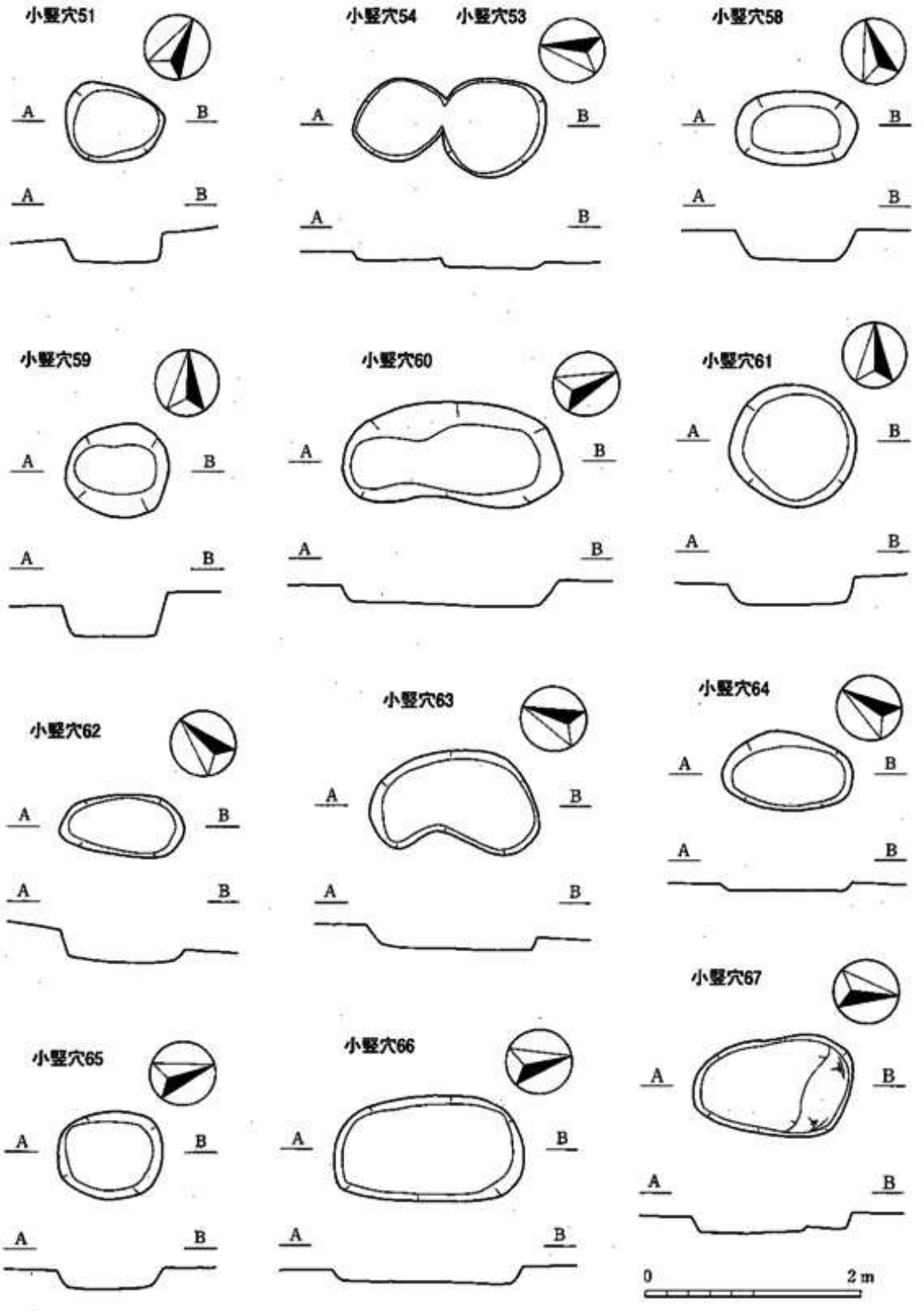
出土した遺物は、縄文時代中期中葉の土器破片９点（第24図16・17）である。

小竪穴55・56

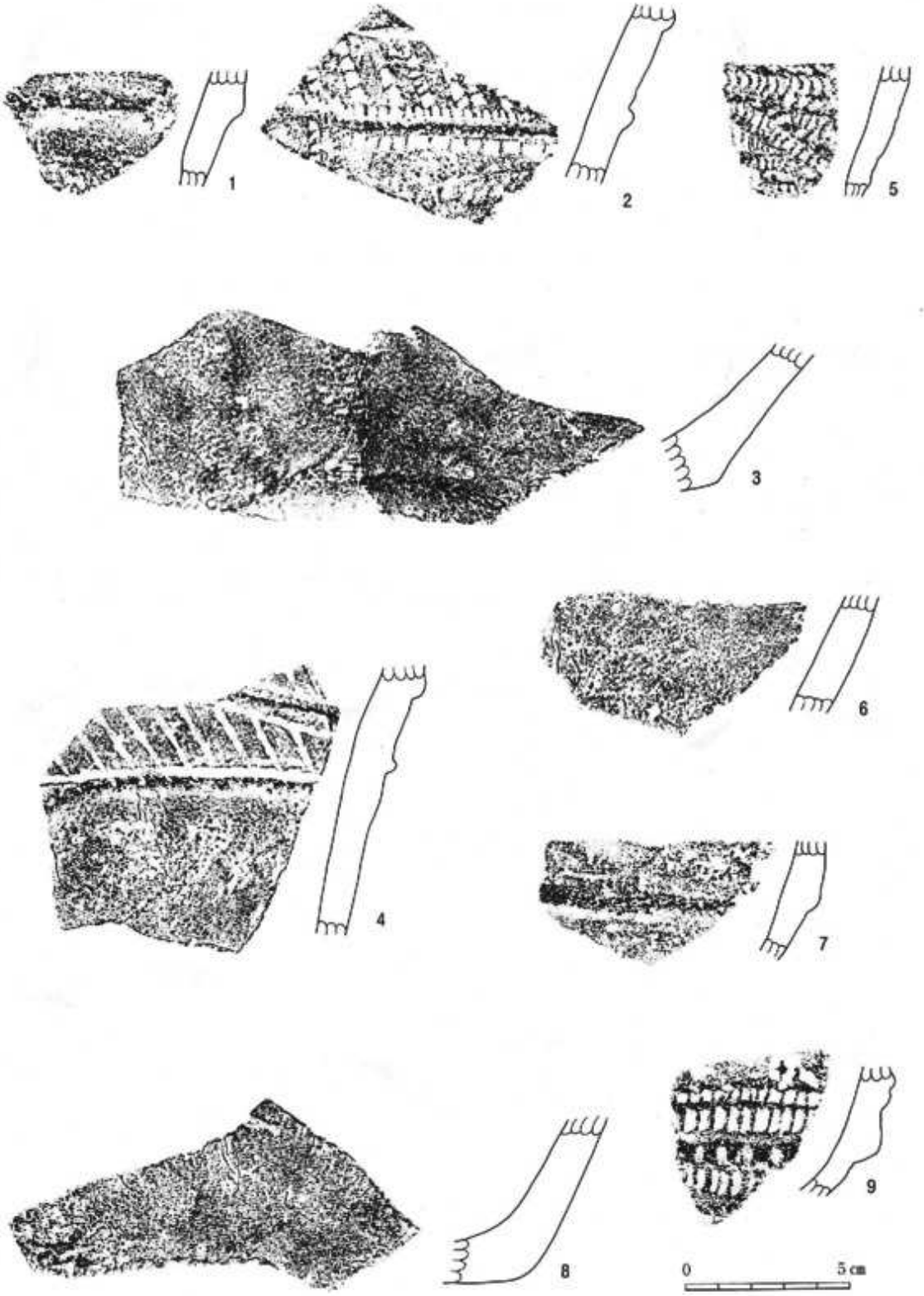
小竪穴55（第４・21図）

尾根の南斜面で重複する小竪穴53・54の北に位置するDP－32、DQ－32グリッドで検出した。平面形は91×84cmの不整円形で深さは12cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

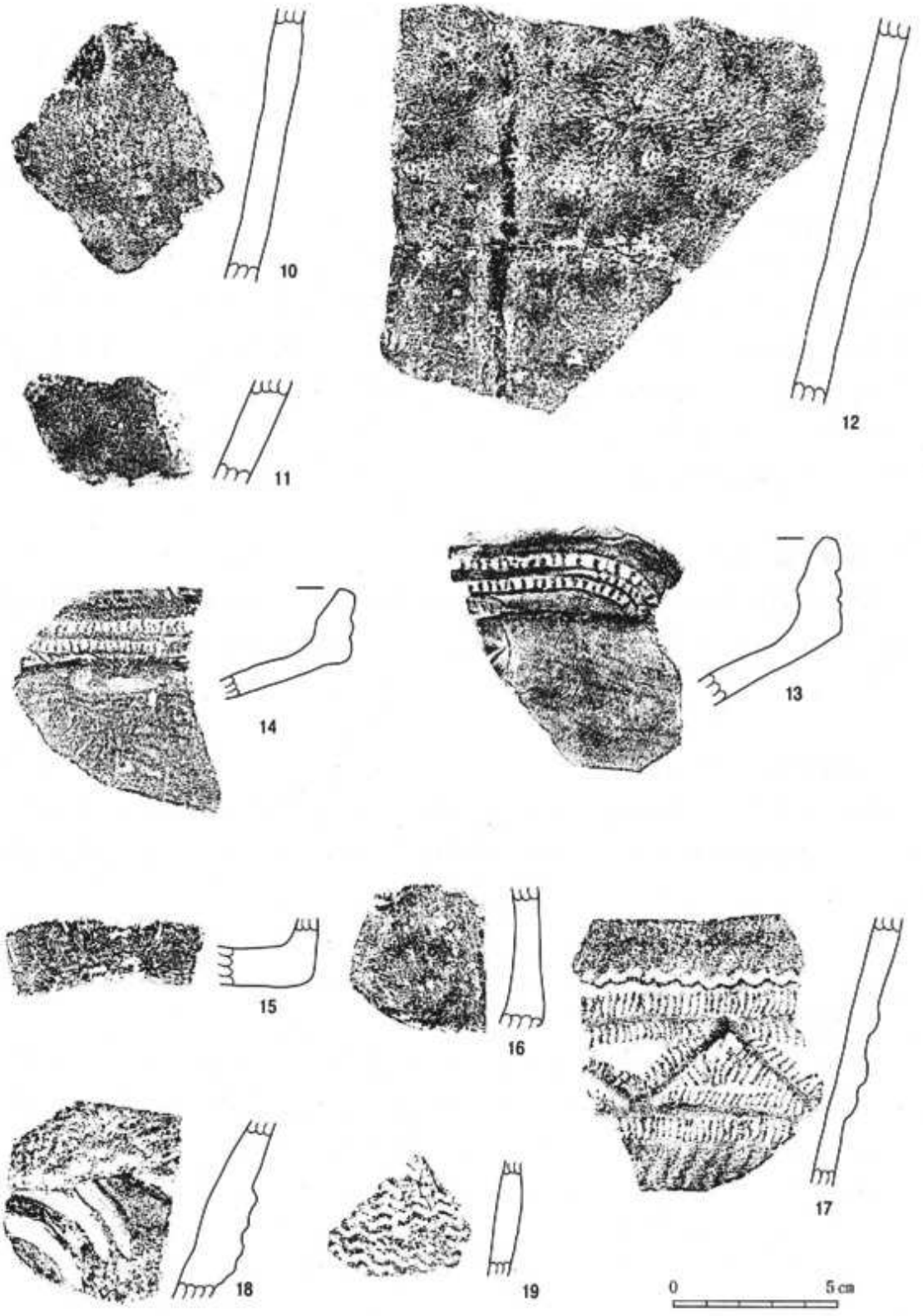
出土した遺物は少ないが縄文時代の土器がある。中期の破片４点である。



第22図　程久保遺跡小竪穴51・53・54・58～67実測図（1：60）



第23図　程久保遺跡小竪穴17・23・34・39・42出土土器拓影（1：2）



第24図　程久保遺跡小竪穴42・43・47・49・54・56・63出土土器拓影（1：2）

小竪穴56（第４・21・24図）

尾根の南斜面で小竪穴の55の西に隣接するDP－32グリッドで検出した。平面形は92×72cmの不整楕円形で深さは９cmと浅い。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は、縄文時代中期中葉の土器破片２点（第24図18）である。

小竪穴57（第４・21図）

尾根の南斜面肩部で遺跡の東端付近に位置するFT－52・53、FU－52・53グリッドで検出した。平面形は203×166cmの不整楕円形で深さは37cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底はやや丸くなる。底面に径７～10cmの小ピットが６基穿たれ、深さは９～26cmとまちまちで規格性に欠けるが逆茂木を立てた穴であろう。やや浅いようであるが陥し穴と考えておきたい。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴58（第４・22図）

尾根の南斜面で小竪穴55の北に位置するDQ－36・37グリッドで検出した。平面形は111×69cmの楕円形で深さは31cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴59（第４・22図）

尾根の南斜面で小竪穴58の北東に位置するDR－39・40・DS－39・40グリッドで検出した。平面形は98×89cmの円形で深さは39cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴60（第４・22図）

尾根の南斜面肩部で小竪穴57の東にあたり遺跡の東端付近に位置するFY－51・52グリッドで検出した。平面形は200×92cmの長楕円形で深さは23cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。似かよった小竪穴が群集するがいずれも逆茂木を立てた小穴が検出できないうえに浅いものばかりであるが、陥し穴と考えたいものである。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴61（第４・22図）

尾根の南斜面で小竪穴58の北西に位置するDP－37・38グリッドで検出した。平面形は

120×115cmの円形で深さは27cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は、平安時代の土師器と灰釉陶器がある。小さな破片ばかりで図示できるものはないが、土師器は坏類が1点、甕類が1点、灰釉陶器が1点である。

小竪穴62（第4・22図）

尾根の南斜面で縄文時代の第14号竪穴住居址の南に位置するEC－37・38グリッドで検出した。平面形は115×59cmの長楕円形で深さは24cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴63（第4・22・23図）

尾根の南斜面肩部に群集する小竪穴で小竪穴60の西南に位置するFW－50グリッドで検出した。平面形は160×83cmの不整の長楕円形で深さは16cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は、縄文時代の早期押型文土器破片2点（第24図19）である。

小竪穴64（第4・22図）

尾根の南斜面肩部に群集する小竪穴で小竪穴63の東に位置するFX－50グリッドで検出した。平面形は121×72cmの楕円形で深さは10cmと浅い。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴65（第4・22図）

尾根の南斜面肩部に群集する小竪穴で小竪穴64の北に位置する。FX－51グリッドで検出した。平面形は98×82cmの楕円形で深さは17cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴66（第4・22図）

尾根の南斜面肩部に群集する小竪穴で小竪穴60の東に位置するFY－51、GA－51グリッドで検出した。平面形は178×100cmの長楕円形で深さは19cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴67（第４・22図）

尾根の南斜面肩部に群集する小竪穴で小竪穴66の北東に位置するGA－52グリッドで検出した。平面形は145×93cmの長楕円形で、底面は２段になるが深さは浅いところで14cm、深いところで18cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底はそれぞれ平である。

出土した遺物は皆無である。

③　遺構に伴わない遺物

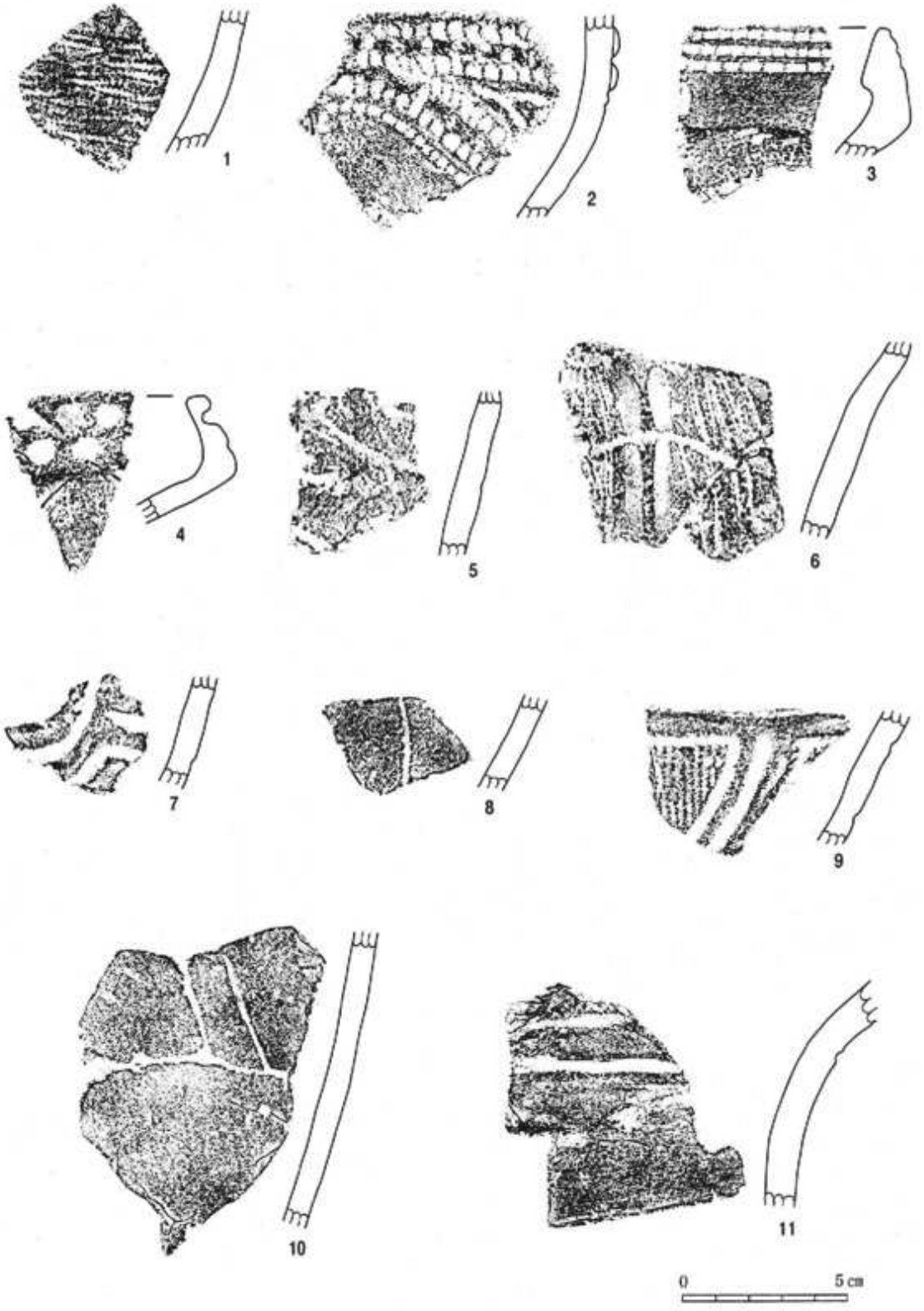
遺構に伴わない遺物は、土器と石器がある。当地方の縄文時代中期の集落址出土としては少ないようである。

土器（第25図）

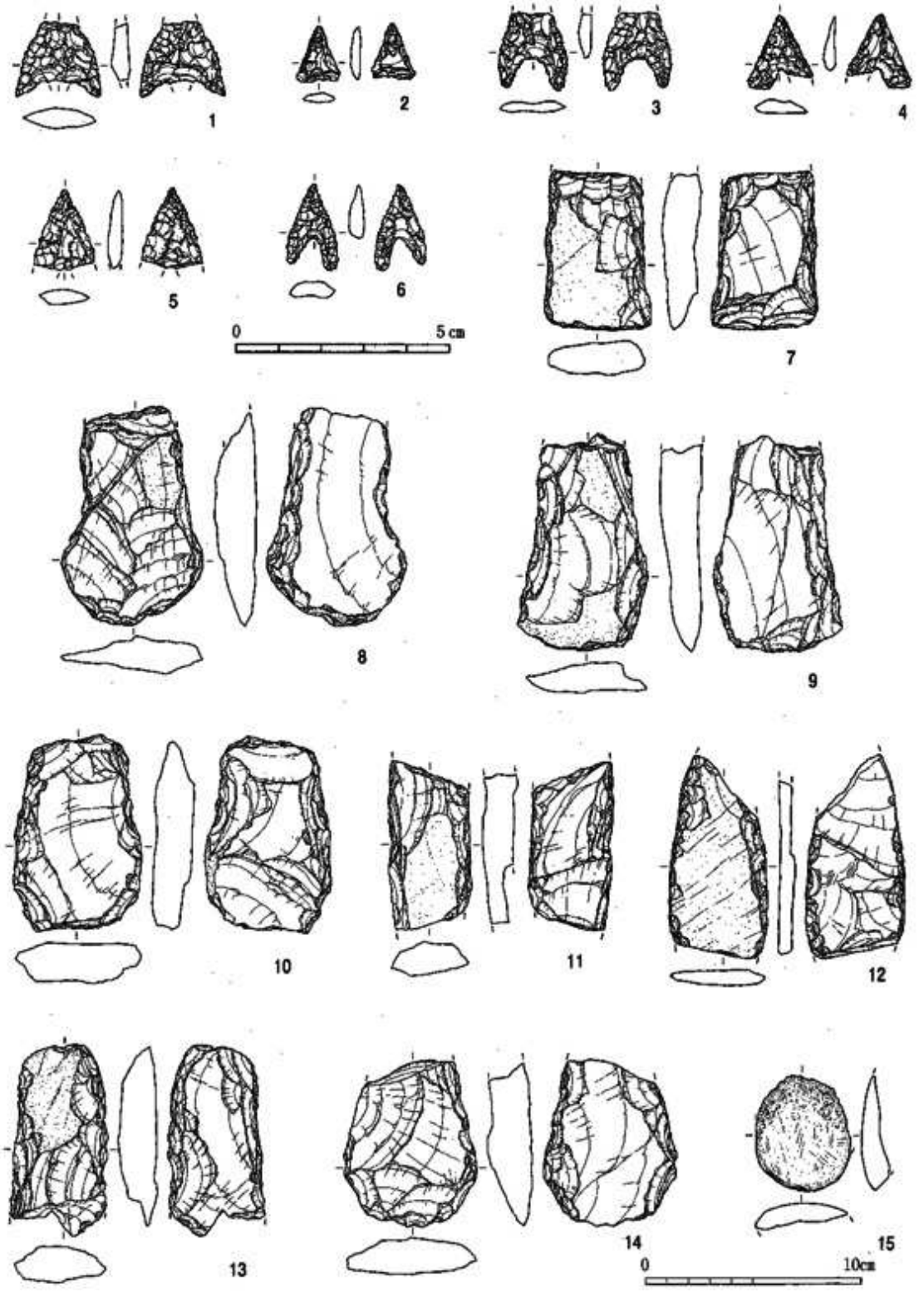
土器は、縄文時代中期中葉から後期初頭の破片ばかり115点（第25図１～11）である。

石器（第26・27図）

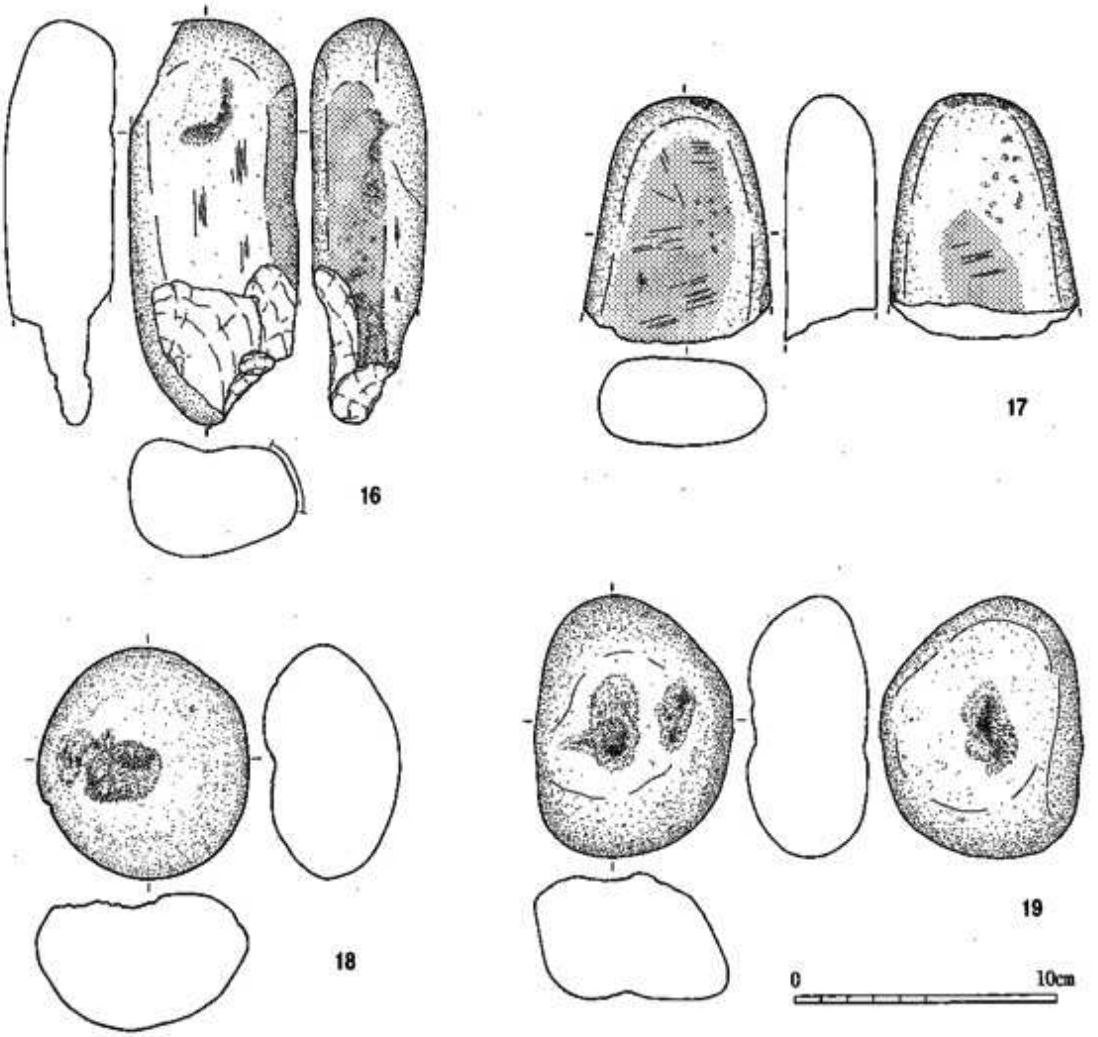
石器は、石鏃６点（第26図１～６）、打製石斧８点（７～14）、乳棒状石斧１点（15）、凹石・磨石類４点（第27図16～19）、原石９点、黒曜石剥石22点、剥石20点である。



第25図　程久保遺跡遺構外出土土器拓影（1：2）



第26図　程久保遺跡遺構外出土石器実測図その1　1～6（2：3）、7～15（1：3）



第27図　程久保遺跡遺構外出土石器実測図その２（１：３）

（2） 平安時代の遺構と遺物

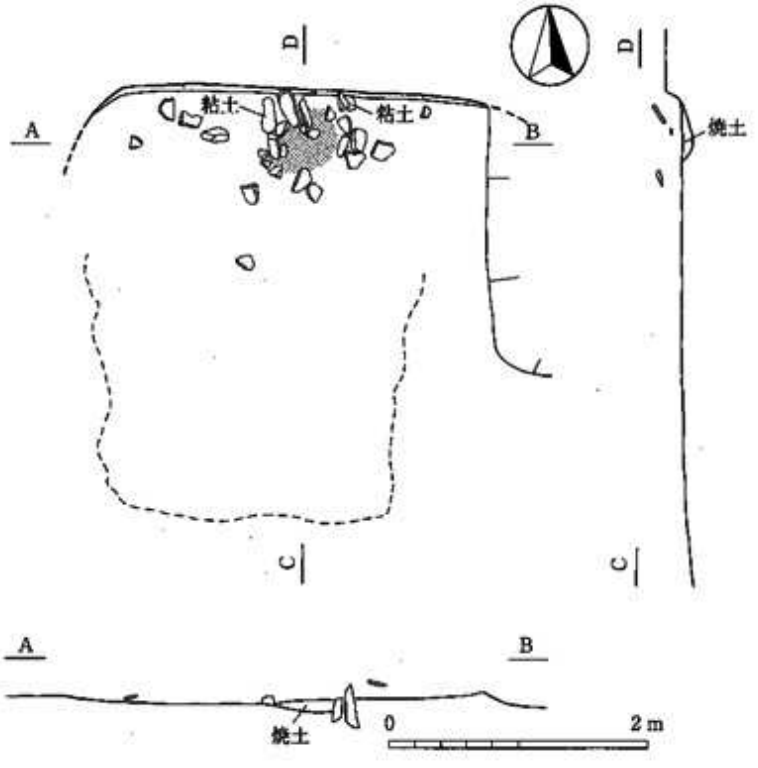
検出調査した平安時代の遺構は住居址24軒、建物址１棟、鍛冶址１、墓壙１基、小竪穴である。第10号・22号・24号竪穴住居址の重複、第15号・26号竪穴住居址と建物址１と重複、第３号と４号竪穴住居址、第15号と16号竪穴住居址、第18号と28号竪穴住居址、第20号と27号竪穴住居址の重複がみられ、少なくとも３時期におよぶ集落が考えられる。

第１次調査でも鉄滓は出土したがそれほど注意することはなく埋土の水洗いはしなかった。第２次調査では鍛冶址ピット１～ピット４、鍛冶址に係る第15・26号竪穴住居址と建物址１からは膨大な鉄滓と金肌が出土したことで、埋土の水洗いをしたことで良好な成果を得ることができた。鍛冶址に係る資料は表４の鉄滓など「鍛冶址関連資料一覧表」と表８の「鉄滓・金肌一覧表」にまとめてある。なお、埋土の水洗いは鉄滓が出土した全ての住居址で行ってはいない。

① 竪穴住居址、建物址

第１号竪穴住居址（第４・28・29図、写真15）

尾根の南斜面で遺跡の西端に位置するBA－47・48、BB－47～49、BC－47～49、BD－47～49、BF－48・49の13グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。掘り込み



第28図　程久保遺跡第１号竪穴住居址実測図（１：60）

が浅い住居址であるうえに傾斜が強くすでに南側は流失している。また、北東隅付近は遺跡範囲確認調査のグリッド掘りで壁の一部を破壊しており明確なことはわからない。

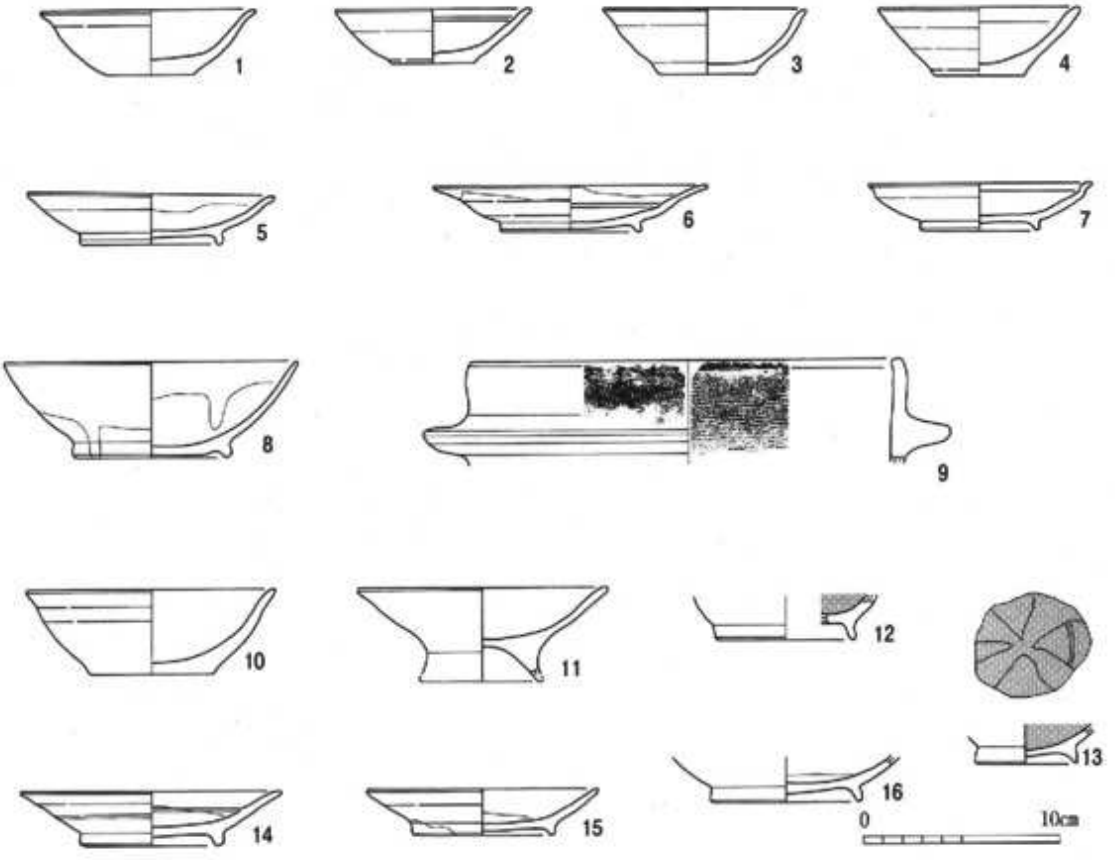
埋土の観察は、住居址の認定が遅れたこともあり適切な土層観察ベルトを設定することはできなかったが、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土中に構築されていたもので、大きさを推測すると東西（380）cm、南北（380）cmくらいであろう。壁は北壁が遺存していただけであるが、ほぼ垂直に立ち上がり壁高は11cmと低い。床面はほぼ平のタタキ床であるが、壁際ではタタキ床は認められなかった。ピットは検出するまでに至らなかった。

竈は、北壁に石組粘土竈が構築されていた。両袖石と粘土が遺存しており保存状態は比較的良い。付近に散乱する石は床よりも浮いており埋没途上で竈石が崩れたものであろうが、天井石はなく持ち去られているようである。竈内の焼土化は著しい。

出土した遺物は少ないが土師器と灰釉陶器がある。

供膳形態は土師器の坏１点（第29図１）、図示できなかった破片は土師器の坏類が61点と甕類が３点、灰釉陶器が５点である。



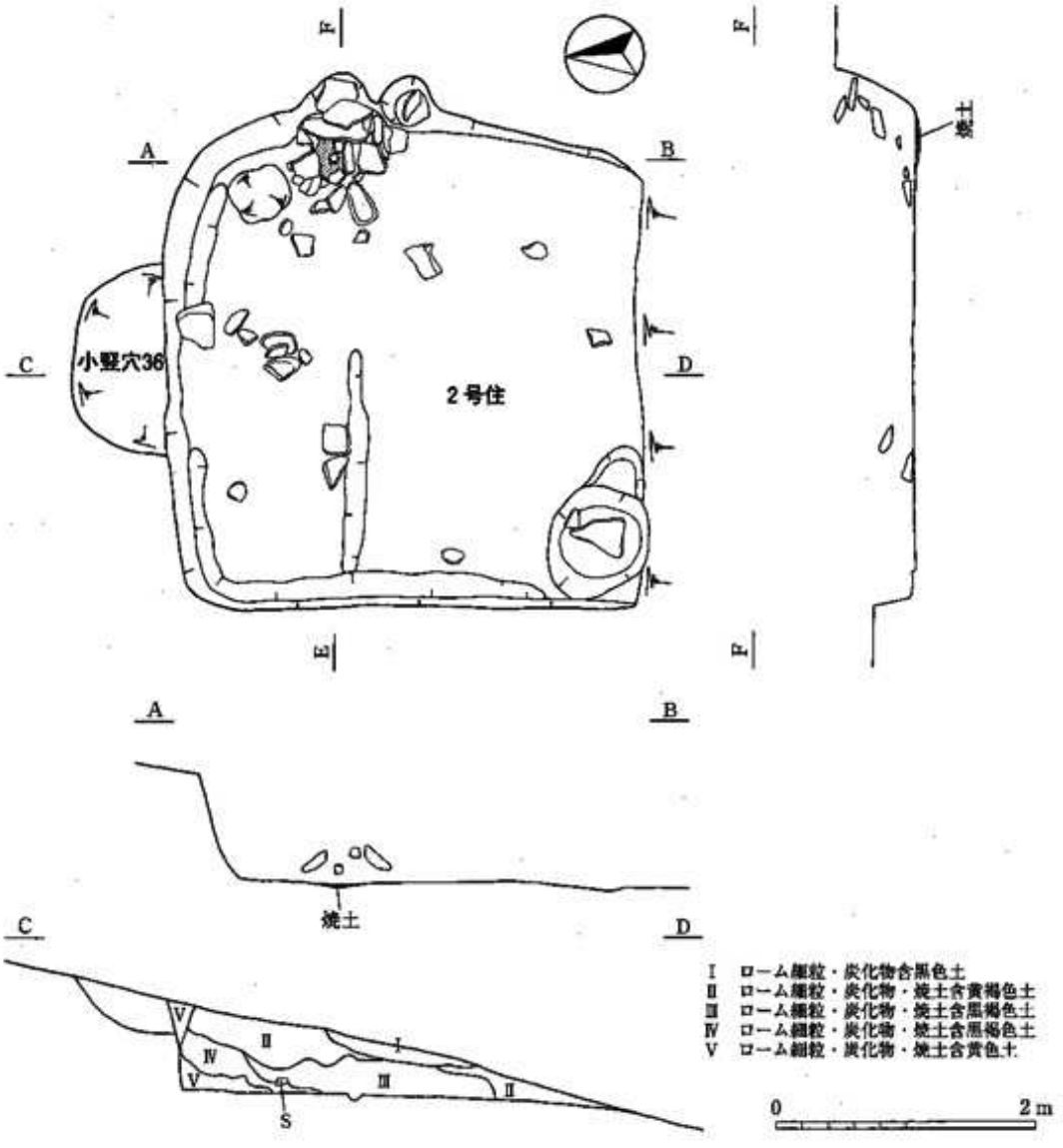
第29図　程久保遺跡第１～３号竪穴住居址出土土器実測図（１：４）

第２号竪穴住居址（第４・29・30図、写真が16～19）

尾根の南斜面で第１号竪穴住居址の東に位置するBJ－51～53、BK－51～53、BL－51～53の９グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。傾斜が強くすでに南壁と壁際の床面が流失している。北壁で小竪穴36と重複していたが、重複による新旧関係は本址が新しく、小竪穴36が旧い。

埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行いⅠ～Ⅴに大別したように、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址は、ローム層中に構築されていたもので、大きさは東西380cm、南北（370）



第30図　程久保遺跡第２号竪穴住居址、小竪穴36実測図（１：60）

cmくらいである。壁はほぼ垂直に立ち上がり良好であるが、竈が構築されていた東壁は全体にやや緩やかになる。床面はほぼ平のタタキ床で良好である。壁高は東が26cm、西は33cm、北は71cmである。周溝は北壁と西壁の直下と、東壁から竈方向に向かい深さ２～５cmの浅いものがある。東壁から竈方向に向かう周溝は、北壁にほぼ並行するものであり、周溝の中ほどには大きな礫が据え置かれているが間仕切りに係るものと考えたい。ピットは柱穴に特定できるものはない。南西隅で検出したピットは、深さ45cmで貯蔵穴と思われ礫２点が出土した。小さな礫は落ち込むような状態で、大きな板状の礫は底面から８cmほど浮いていた。類似するピットが第５号竪穴住居址の南西隅でみられた。

竈は、東壁に石組粘土竈が構築されていた。袖石・天井石および粘土が遺存していて保存状態は良い。竈の天井石は崩れ前面に散乱していたが、煙道部は積み上げられた状態で遺存していたが、煙道部には袖石は埋められていない。竈内はそれほど焼けていないが中央に支脚石が埋められていた。

出土した遺物はそれほど多くないが土師器・須恵器・灰釉陶器がある。

供膳形態は土師器の坏３点（第29図２～４）、灰釉陶器の皿２点（５・７）、段皿１点（６）、碗１点（８）で、煮沸形態は土師器の羽釜１点（９）がある。２・３・９は竈内出土である。図示できなかった破片は土師器の坏類が58点と甕類が30点、須恵器が５点、灰釉陶器が13点である。

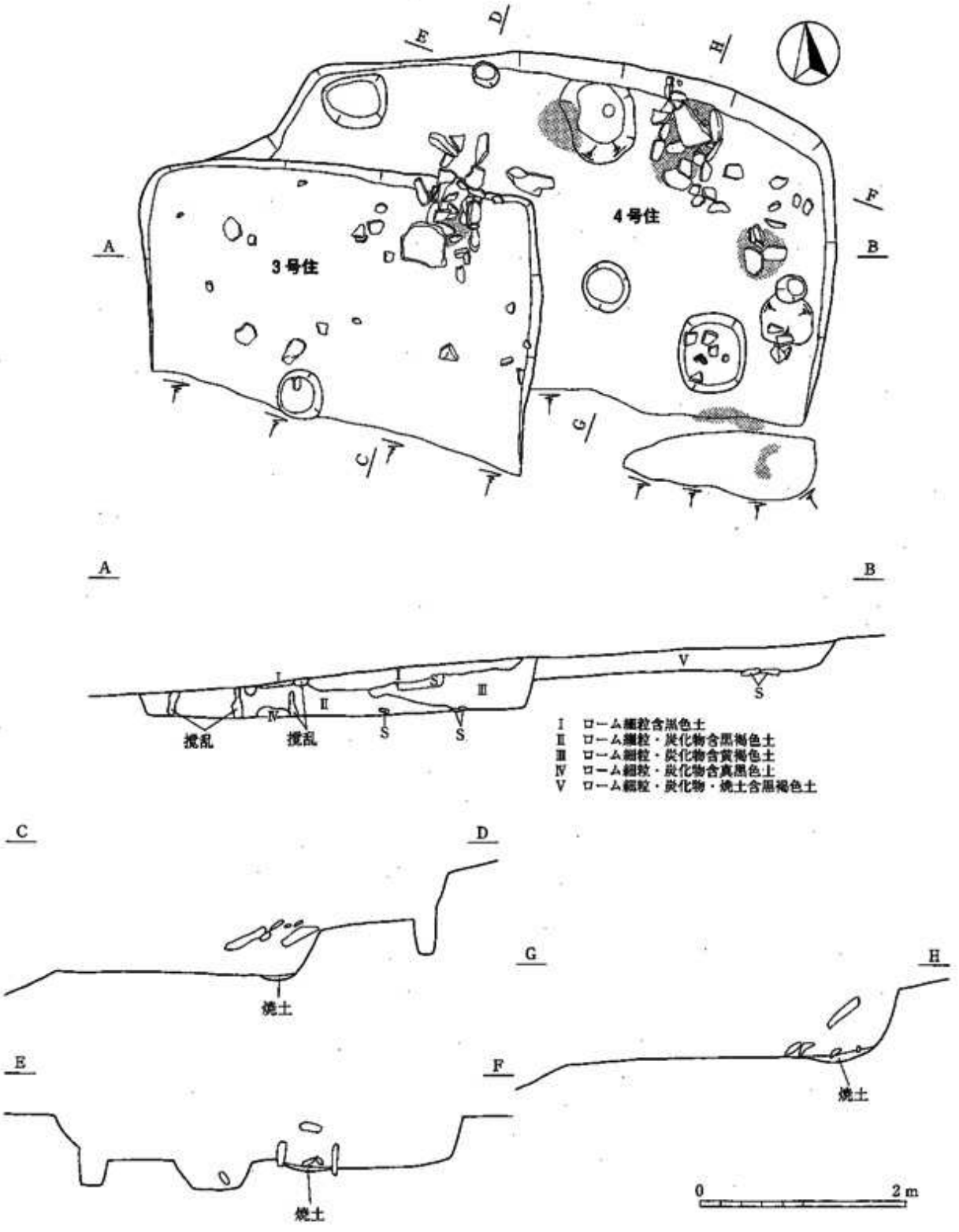
第３・４号竪穴住居址

第３号竪穴住居址（第４・29・31図、表４・８、写真20～22）

尾根の南斜面で第２号竪穴住居址の東に位置するBQ－49～51、BR－49～51、BS－49～51の９グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。傾斜が強くすでに南側の半分くらいは流失し明確なことはわからない。東側では第４号竪穴住居址と重複するが、新旧関係は本址が新しく第４号竪穴住居址が旧い。

埋土の観察は、東西方向で行いⅠからⅤ層に大別したように、逆三角堆土と三角堆土の発達も認められたが、北壁方向からの流れ込みが多い自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、傾斜がきついため黒色土中の南側半分くらいは壁と床は流失している。大きさを推測すると東西390cm、南北(390) cmくらいである。壁は東壁と西壁の一部と北壁が遺存しただけであるが、ほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は第４号竪穴住居址との重複で切り取られているが東が30cm、西は26cm、北は重複する部分で36cm、重複からはずれた所は61cmと高くなる。床面はほぼ平のタタキ床で良好である。ピットは住居址のほぼ中央にあるが、１基だけで柱穴に特定することはできないようである。重複する第４号竪穴住居址のピットと考えることも



第31図　程久保遺跡第３・４号竪穴住居址実測図（１：60）

できるが、貼床が確認できなかったことから本址のものと考えた。

竈は、北壁中央右寄りに石組粘土竈が構築されていた。袖石と粘土が遺存し保存状態は良いが、天井石は若干移動しているようである。竈北側の第４号竪穴住居址に並ぶ袖石は本址の煙道部であり、埋土中の大きな平板石は煙道部の天井石が崩れたものと思われる。竈手前から入り口付近は焼土化していたが、竈内からその奥はそれほど焼けていない。

出土した遺物はそれほど多くないが土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄滓がある。土師器の坏は竈右側の床面、灰釉陶器の皿と段皿は竈横からの出土である。

供膳形態は土師器の坏１点（第29図10）、碗３点（11～13）、灰釉陶器の段皿１点（14）、皿２点（15・16）である。13は暗文が施されている。図示できなかった破片は土師器の坏類が133点と甕類が12点、須恵器が３点、灰釉陶器が19点ある。肉眼観察では漆が付着した灰釉陶器の碗破片がある。

鉄滓は１点で7.0ｇ（表４・８）である。

第４号竪穴住居址（第４・31～33・44図、表４・８、写真～20・21・24）

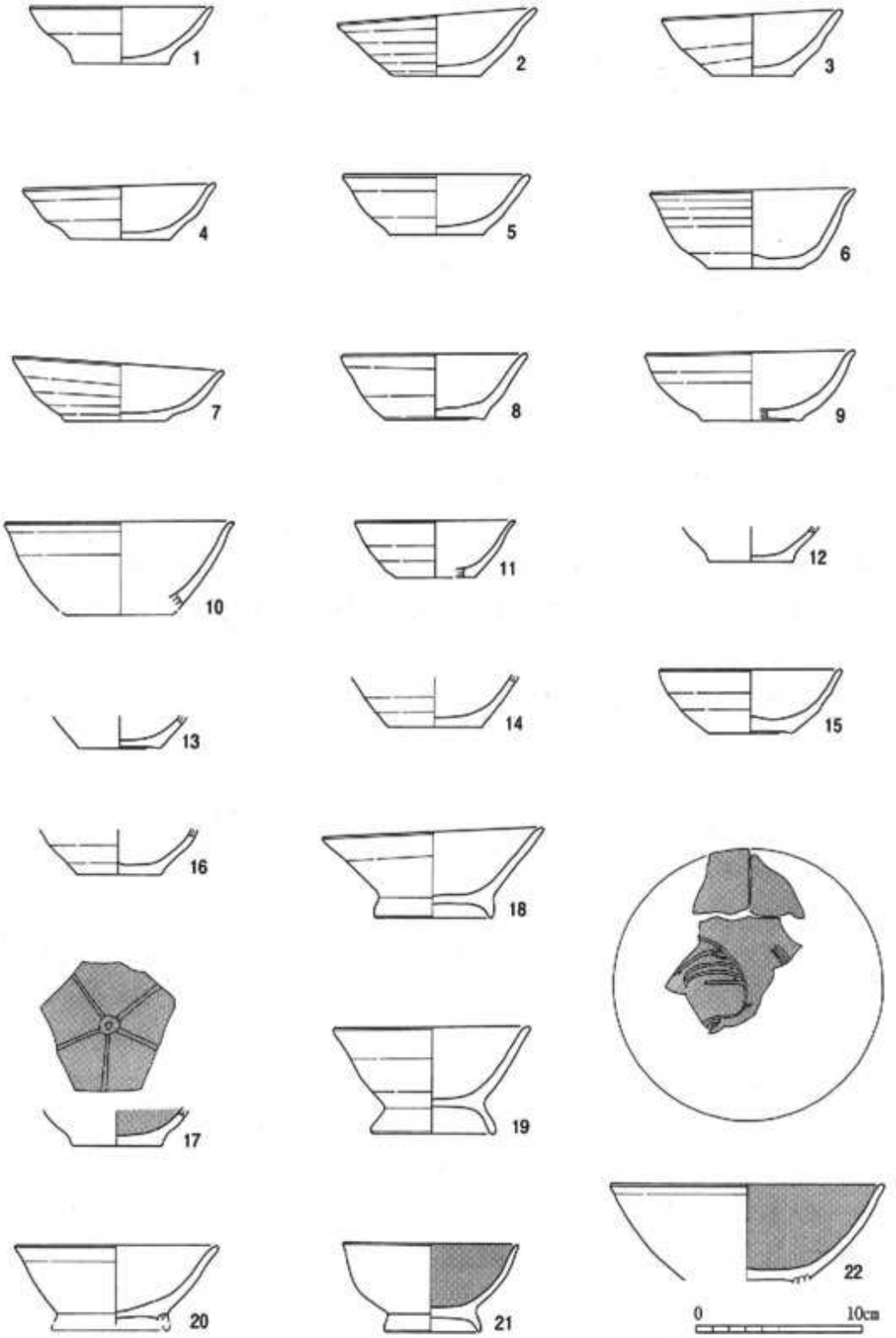
尾根の南斜面で第３号竪穴住居址と重複しているBQ－49～51、BR－49～51、BS－49～51、BT－49～51の12グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。傾斜が強くすでに南側の半分くらいは流失しており、南西側は第３号竪穴住居址との重複で切り取られ明確なことはわからない。重複による新旧関係は本址が旧く第３号竪穴住居址が新しい。

埋土の観察は、東西方向で行いⅠからⅤ層に大別したが、色調の変化に乏しく北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

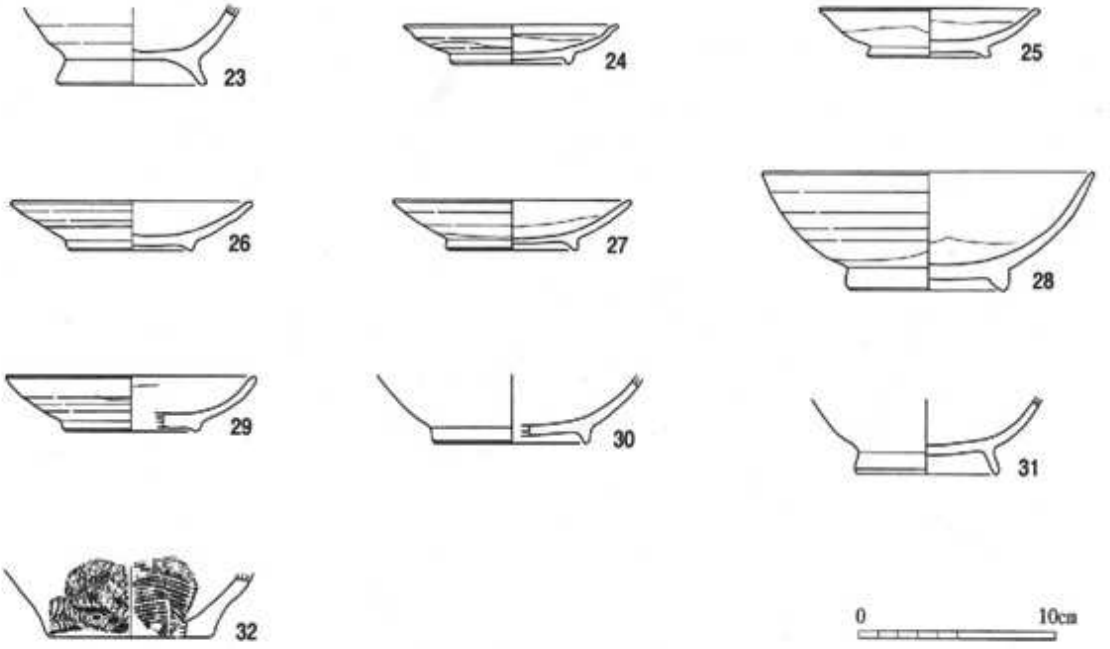
竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、傾斜がきついため黒色土中の南側半分くらいは壁と床が流失しているうえに、南西側は第３号竪穴住居址との重複で切り取られている。大きさを推測すると東西（570）cm、南北（570）cmくらいである。壁は東壁と西壁の一部と北壁が遺存しただけであるが、ほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は東が31cm、西は25cm、北は36cmである。床面はほぼ平のタタキ床で良好である。ピットは柱穴状のものもあるが、規格性に乏しく柱穴に特定できるものはない。竈隣のピットは灰だめの穴であろう。

竈は、北壁中央右寄りに石組粘土竈が構築されていた。袖石と粘土が遺存し保存状態は良いが、天井石は若干移動しているようである。壁面にも袖石同様に石を埋め立て煙道が構築されていた。竈内の焼土化は著しく壁面から煙道も焼けている。

火床とみられる焼土は１～３を検出したが、焼土化が著しいもので鍛冶炉の可能性が高いものである。北東隅よりの焼土１には礫が伴い、焼土の厚さは６cmほどである。南側で床面が流失する部分の焼土２は焼土も失われているが厚さは16cmである。竈西の焼土３は



第32図　程久保遺跡第４号竪穴住居址出土土器実測図その１（１：４）



第33図　程久保遺跡第４号竪穴住居址出土土器実測図その２（１：４）

厚さ12cmである。

出土した遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・石製品・鉄滓がある。土師器の坏と灰釉陶器の碗は竈右隣の床面に集中していた。

供膳形態は土師器の坏17点（第32図１～17）、碗６点（18～22、第33図23）、灰釉陶器の皿５点（24～27・29）、碗３点（28・30・31）で、煮沸形態は土師器の甕１点（32）である。17・22には暗文が施されている。20は竈内、３・８～10・13・15・19・23・31は竈右袖、６・12は東壁の焼土付近からの出土である。図示できなかった破片は土師器の坏類が328点と甕類が38点、須恵器が９点、灰釉陶器19点である。

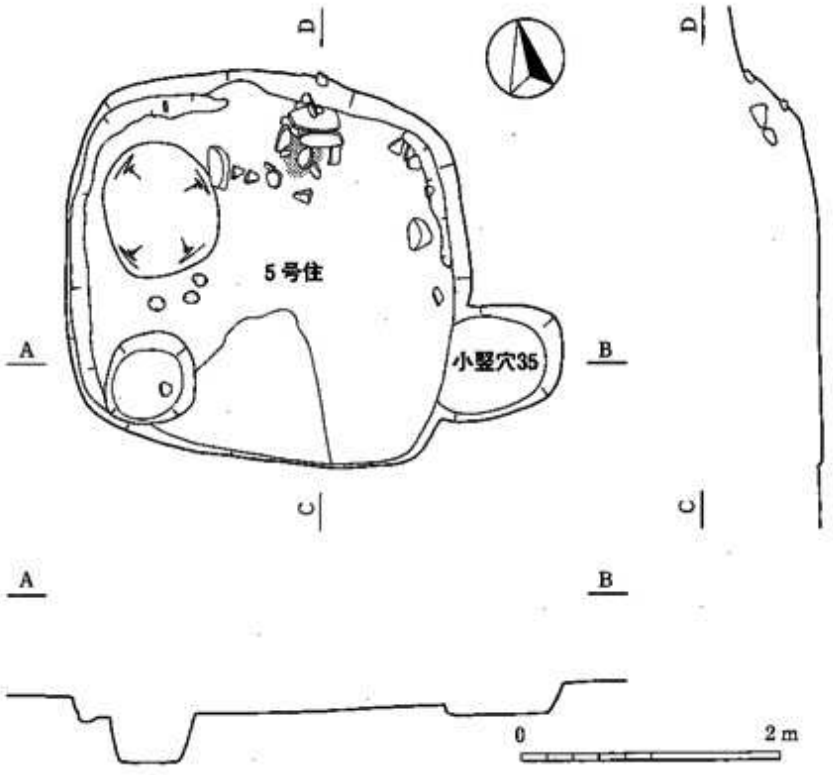
石製品は砥石１点（第44図１）である。

鉄滓は２点と小片で343.7ｇ（表４・８）である。

第５号竪穴住居址（第４・34・35・44図、写真25）

尾根の南斜面で重複していた第３・４号竪穴住居址の東に位置するBW－50～52、BX－50～52の６グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。東壁では小竪穴35と重複しているが新旧関係を明らかにすることはできなかった。

埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行い、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。



第34図　程久保遺跡第５号竪穴住居址、小竪穴35実測図（１：60）

竪穴住居址は、ローム層中に構築されていたもので、大きさは東西311cm、南北300cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は東が28cm、西は14cm、南は４cm、北は30cmである。床面はほぼ平のタタキ床で良好である。周溝は東壁直下の一部、北壁直下の一部と西壁直下にみられた。ピットは２基検出したが柱穴に特定できるものはない。南西隅のピットは深さ42cmで、検出位置、規模ともに類似するものが第２号竪穴住居址にみられる。

竈は、北壁中央右寄りに石組粘土竈が構築されていた。袖石・天井石と粘土が遺存していたが保存状態はあまり良くない。前面に散乱する石は竈石が崩れたものであろうが、その数は少なく持ち去られたものがあるようである。竈内はそれほど焼けていない。

出土した遺物は土師器・灰釉陶器・土製品・炭化物がある。

供膳形態は土師器の坏３点（第35図１～３）、貯蔵形態は破片で詳しいことはわからないが灰釉陶器の壺１点（４）である。図示できなかった破片は土師器の坏類が132点と甕類が６点、須恵器が２点、灰釉陶器が４点である。

土製品はふいごの羽口の破損品１点（第44図10）である。

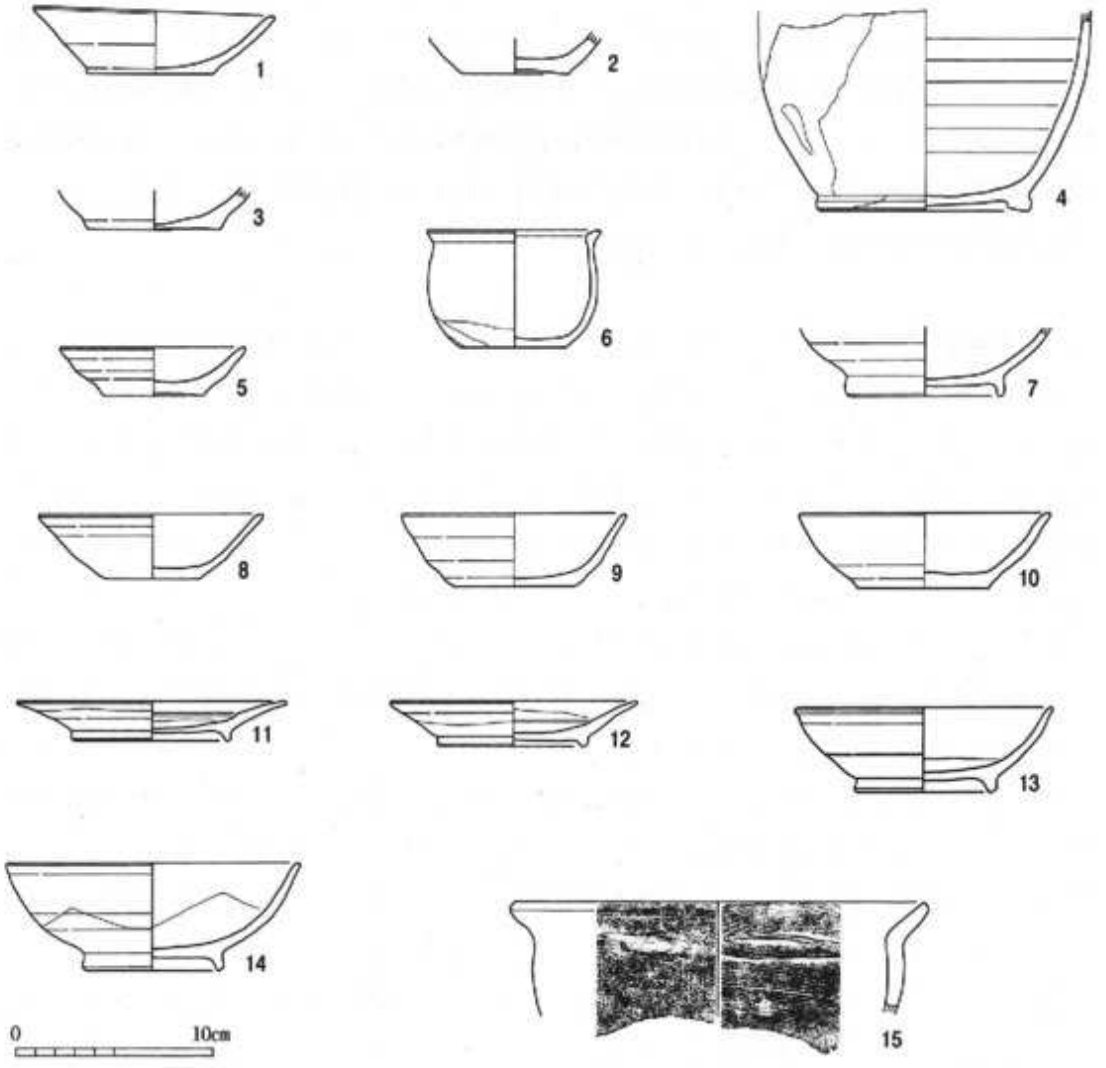
炭化種子は図示しなかったが２点ある。肉眼観察によると１点はモモの種、１点はやや

小さいが同様の種である。

第6号竪穴住居址（第4・13・35図、表4・8）

尾根の南斜面で第5号竪穴住居址の南に位置するBU－46～48、BV－46～48、BW－46～48、BX－46・47の11グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。傾斜が強くすでに南側の半分以上は流失していて明確なことはわからない。北では第23号竪穴住居址と重複するが、本址が新しく第23号竪穴住居址（縄文時代）が旧い。

埋土の観察は、土層観察ベルトを設定することはできなかったが、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。



第35図　程久保遺跡第5～8号竪穴住居址出土土器実測図（1：4）

竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、傾斜がきついため黒色土中の南側半分以上は壁と床は流失している。大きさを推測すると東西（480）cm、南北（480）cmほどであろう。北壁にはくい違いがみられ、いまひとつプランははっきりしない。住居址の重複が考えられる状態であるが、床面にレベル差はなく１軒の住居址と考えた。壁はほぼ垂直に立ち上がるが部分的に緩やかなところがある。壁高は西が４cm、北は16cmである。床面の多くは黒色土のタタキ床であるが平で良好である。ピットは３基検出したが柱穴に特定できるものはない。

竈は、北東隅に石組粘土竈が構築されている。袖石の一部と粘土が遺存するだけで、竈石は持ち去られたようである。竈内はそれほど焼けていない。

出土した遺物は少ないが土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄滓がある。

供膳形態は土師器の坏１点（第35図５）で、貯蔵形態は土師器の小形甕１点（６）である。この２点は重複する縄文時代の第23号竪穴住居址から出土したが、現場の混入であり本址に帰属するものである。５は内・外面に炭化物が付着している。図示できなかった破片は土師器の坏類が103点と甕類が14点、須恵器が１点、灰釉陶器が16点である。

鉄滓は３点で146.1ｇ（表４・８）である。

第８号竪穴住居址（第４・35・36図、表４・７・８、写真26・27）

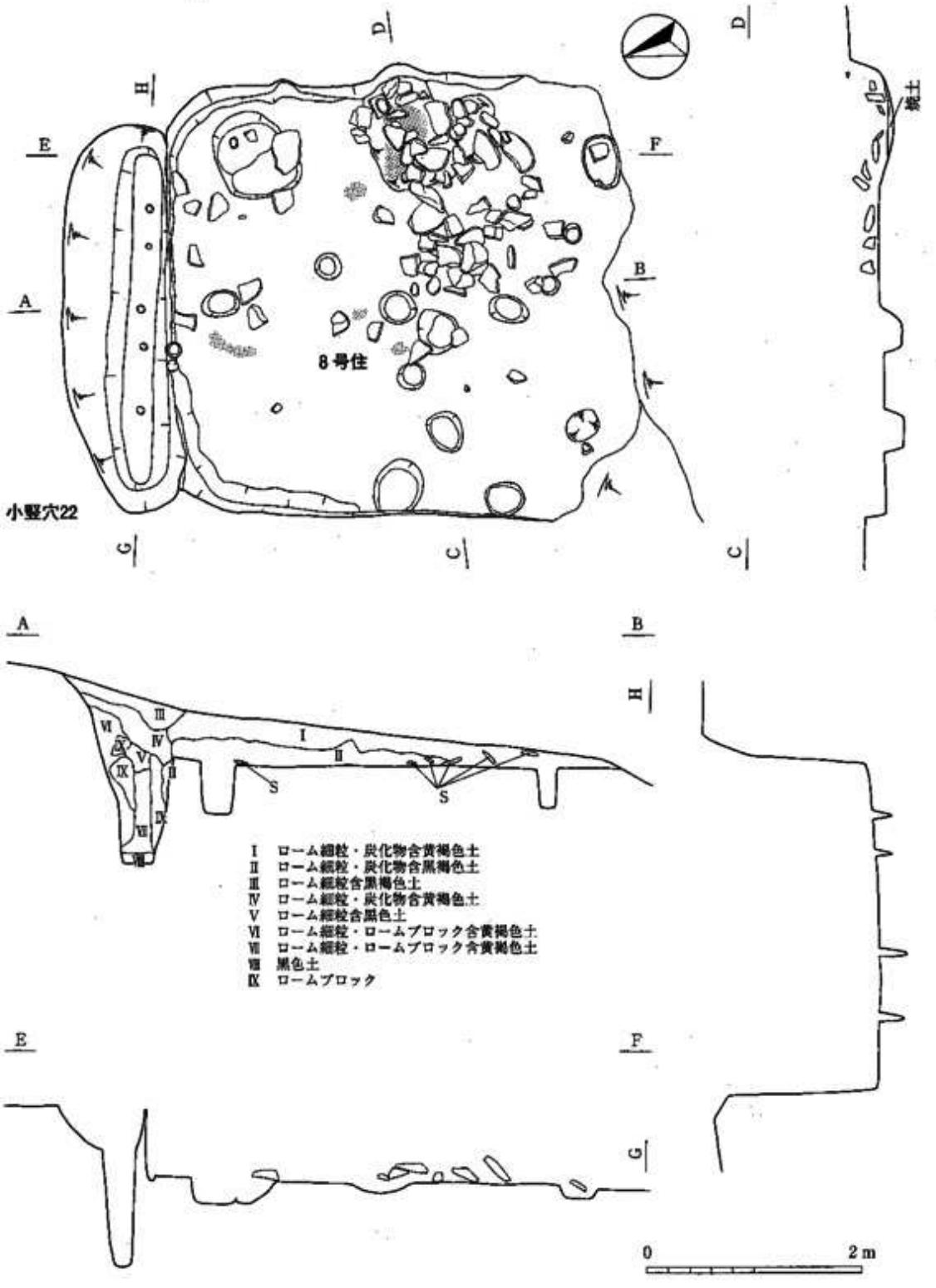
尾根の南斜面で第５号竪穴住居址の東に位置するCJ－50～52、CK－50～52、CL－50・51の８グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。傾斜が強く南壁付近は流失していて明確なことはわからない。北壁では小竪穴22（陥し穴）と重複しているが新旧関係は、本址の埋土Ⅰ・Ⅱを小竪穴22が掘り込んでおり、Ⅰの上には小竪穴22の埋土Ⅲがのっていることか本址が旧く小竪穴22が新しいことになる。

埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行い、Ⅰ・Ⅱに大別したように北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。なお、埋土中には数多い礫が包含されているが、竈石と考えるにはその量が多く性格は不明である。

竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、南壁際の僅かな範囲が流失している。大きさは東西408cm、南北（460）cmほどである。壁はほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は東が26cm、西は29cmである。床面はほぼ平のタタキ床で良好である。ピットは10基検出したが性格不明なものばかりで、柱穴に特定できるものはない。

竈は、東壁のほぼ中央に石組粘土竈が構築されていた。袖石の一部と粘土が遺存しているが状態は良くない。付近に散乱する石は埋没途上で竈石が崩れた状態ではなく、人為的なものであり竈は壊されているようである。竈内の焼土化は著しい。

出土した遺物は土師器・灰釉陶器・土製品・鉄製品・鉄滓がある。



第36図　程久保遺跡第8号竪穴住居址、小竪穴22実測図（1：60）

供膳形態は土師器の坏3点（第35図8～10）、灰釉陶器の段皿2点（11・12）、碗2点（13・14）、煮沸形態は土師器の甕1点（15）である。9・10は東壁の周溝内出土、9は炭化物の付着がみられる。図示できなかった破片は土師器の坏類が53点と甕類が41点、灰釉陶器が5点である。

土製品は図示できなかったが、焼成された粘土の小さな破損品で、ふいごの羽口と思われる。

鉄製品は破損が著しく図示できなかったが、機種不明な小さな板状のもの1点（表7）である。

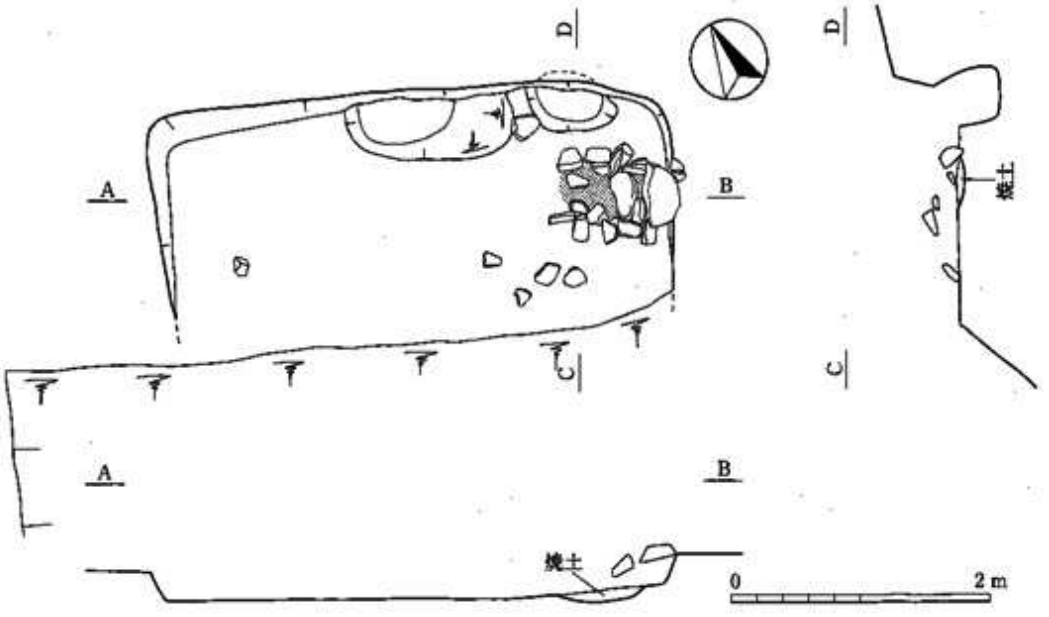
鉄滓は2点で53.8gはピット（表4・8）からの出土である。

第9号竪穴住居址（第4・37・38図、写真28～31）

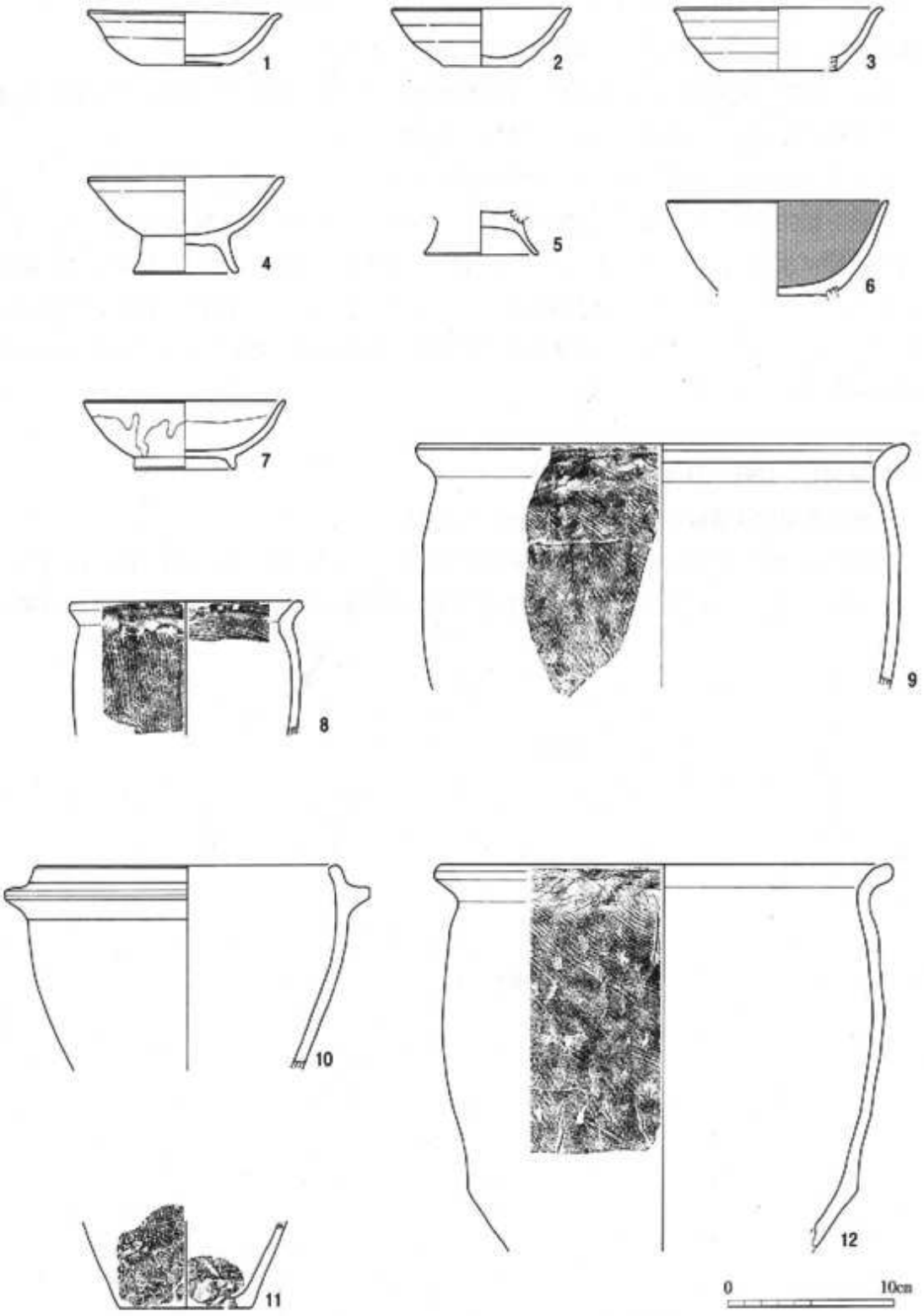
尾根の南斜面で第8号竪穴住居址の東に位置するCM－49・50、CN－49～51、CO－49・50、CP－50の8グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。傾斜が強くすでに南側の半分くらいは流失していて明確なことはわからない。

埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行い、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、傾斜がきついため黒色土中の南側半分くらいは壁と床が流失している。大きさは東西400cm、南北（350）cmくらいである。壁はほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は東が22cm、西は23cm、北は48cm



第37図　程久保遺跡第9号竪穴住居址実測図（1：60）



第38図　程久保遺跡第９号竪穴住居址出土土器実測図（１：４）

である。床面はほぼ平のタタキ床で良好である。ピットは柱穴に特定できるものはない。竈に隣接するピットは住居外へ袋状になり貯蔵穴であろう。

竈は、東壁で北東隅近くに石組粘土竈が構築されている。袖石・天井石および粘土が遺存し保存状態は良い。竈内はそれほど焼けていない。

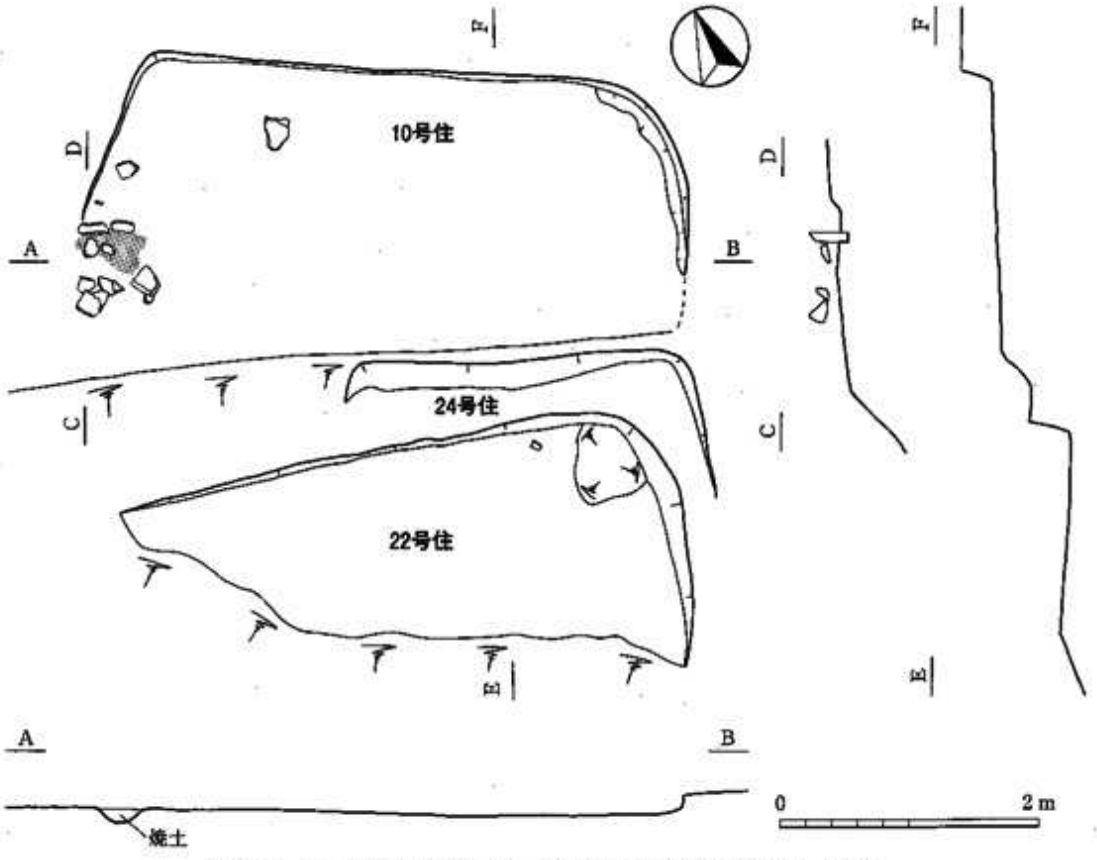
出土した遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器がある。

供膳形態は土師器の坏3点（第38図1～3）、碗3点（4～6）、灰釉陶器の碗1点（7）、煮沸形態は土師器の甕4点（8・9・11・12）、羽釜1点（10）である。6は暗文が施されている。3・8・9・11・12は竈内出土、1・4・7・10には竈内から出土した破片が接合している。図示できなかった破片は土師器の坏類が15点と甕類が13点、須恵器が1点、灰釉陶器が1点である。

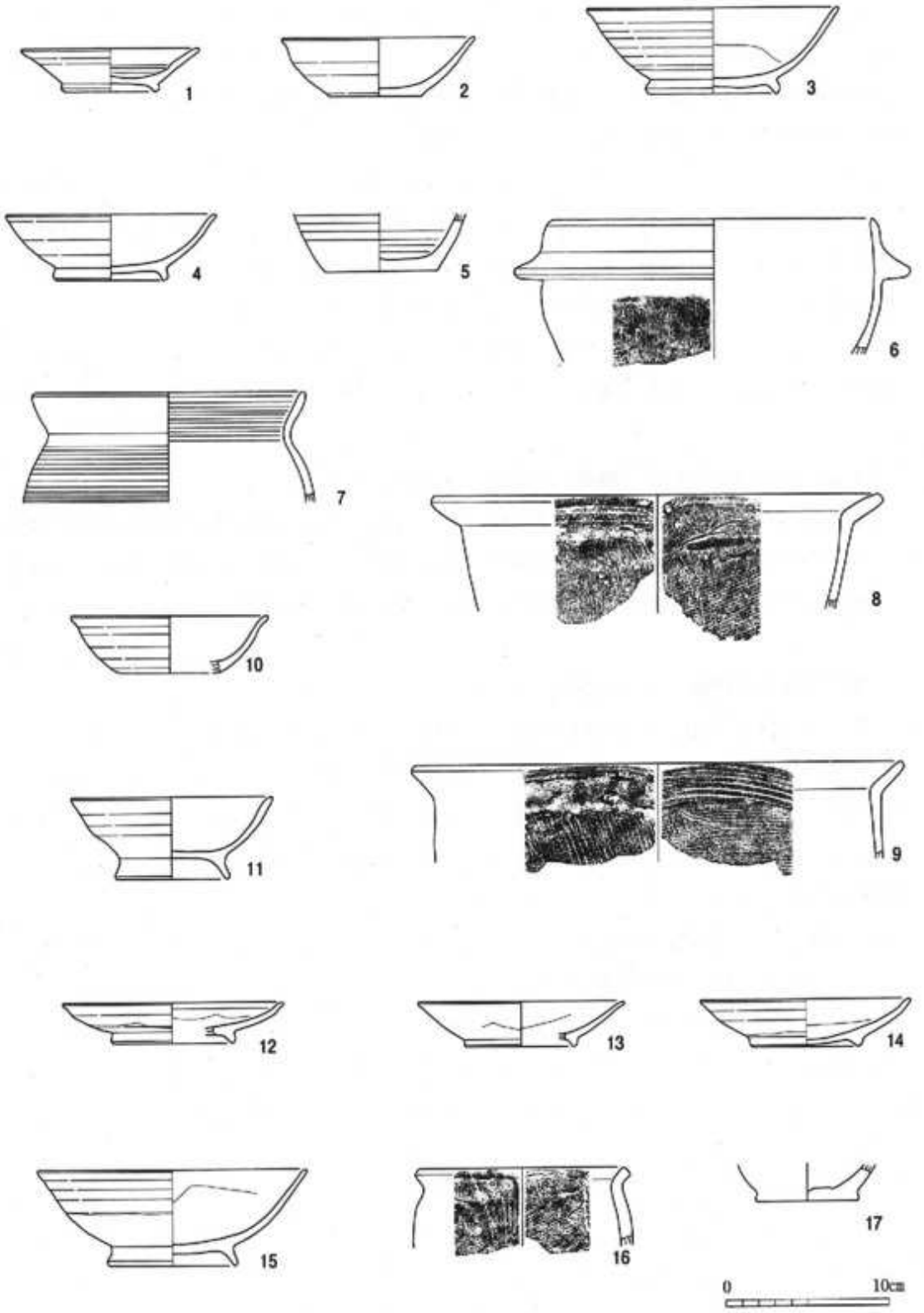
第10号・22号・24号竪穴住居址

第10号竪穴住居址（第4・39・40図、写真32）

尾根の南斜面で第9号竪穴住居址の南に位置するCN－46～48、CO－46～48、CP－46・47の8グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。傾斜が強くすでに南側の



第39図　程久保遺跡第10・22・24号竪穴住居址実測図（1：60）



第40図　程久保遺跡第10～13号竪穴住居址出土土器実測図（1：4）

半分以上が流失しているうえに、第22・24号竪穴住居址と重複し明確なことはわからない。重複による新旧関係は不明である。

埋土の観察は、住居址の認定が遅れ適切な土層観察ベルトを設定することはできなかったが、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土からソフトローム層中に構築されていたもので、大きさは東西460cm、南北（460）cmくらいである。壁はほぼ垂直に立ち上がり普通である。壁高は東が5cm、西は6cm、北は16cmである。床面は黒色土であるがほぼ平のタタキ床で普通である。周溝は東壁の直下に部分的にみられた。ピットは検出するまでに至らなかった。

竈は、西壁ほぼ中央に石組粘土竈が構築されていた。破損が著しく右袖石の一部と粘土が遺存していただけであり、竈石は持ち去られたようである。竈内はそれほど焼けていない。

出土した遺物は少ないが土師器・須恵器・灰釉陶器がある。

供膳形態は灰釉陶器の段皿1点（第40図1）である。第35図7は縄文時代の第7号竪穴住居址から出土したが、現場における混入であり本址のものと考えられる。図示できなかった破片は土師器の坏類が20点と甕類が3点、須恵器が16点である。

第22号竪穴住居址（第4・39図、写真52）

尾根の南斜面で第10号・24号竪穴住居址と重複しているCM－45、CN－44～46、CO－44～46、CP－45・46の9グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。隣接する縄文時代の第7号竪穴住居址の調査を進める過程で確認したが、傾斜が強くすでに南側は半分以上は流失しており明確なことはわからない。重複する第10・24号竪穴住居址との新旧関係は不明である。

埋土の観察は、適切な土層観察ベルトを設定することはできなかったが、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたものであるが、遺存した範囲は少なく規模を推定することができない。壁はややなだらかに立ち上がり良くない。壁高は東が19cm、北は20cmである。床面はほぼ平のタタキ床であるが普通である。ピットは検出するまでに至らなかった。

竈は、すでに欠損する箇所に構築されていたものと思われ検出できなかった。

出土した遺物は土師器と灰釉陶器の破片があるが少ない。図示できなかった破片は土師器の坏類が7点、灰釉陶器が2点である。

第24号竪穴住居址（第４・39図）

尾根の南斜面で第10・22号竪穴住居址と重複しているCN－45・46、CO－45・46、CP－45・46の６グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。第22号竪穴住居址同様に隣接する縄文時代の第７号竪穴住居址の調査を進める過程で確認したが、第22号竪穴住居址との重複により遺存した範囲は少なく明確なことは一切わからない。重複する第10・22号竪穴住居址との新旧関係は不明である。

埋土の観察は、適切な土層観察ベルトを設定することはできなかったが、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたものであるが、遺存した範囲は少なく規模を推定することができない。壁はやや緩やかに立ち上がり良くない。壁高は東が18cm、北は18cmである。床面はほぼ平のタタキ床で普通である。ピットは検出するまでに至らなかった。

竈は、すでに欠損する箇所に構築されていたものと思われ検出できなかった。

出土した遺物は皆無である。

第11号竪穴住居址（第４・40・41図、写真33）

尾根の南斜面で第10・22・24号竪穴住居址の南東に位置するCW－35・36、CX－34～36、CY－34～36の８グリッドに跨る不整の隅丸方形を呈する竪穴住居址である。傾斜が強くすでに南西側の半分以上は流失していて明確なことはわからない。

埋土の観察は、東西方向で行い堆積は薄かったが北東壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、傾斜がきついため黒色土中の南西側半分以上は壁と床が流失している。大きさを推測すると東西（450）cm、南北（480）cmくらいになろう。壁はほぼ垂直に立ち上がり普通である。壁高は東が12cm、北は16cmである。床面はほぼ平で部分的にタタキ床も認められはしたが総体的には軟弱であまり良くない。３基のピットが竈の東脇で重複していたが新旧関係は不明であるが、灰だめの穴であろう。壁際のピットは住居の外へ袋状になる。

竈は、北東隅に石組粘土竈が構築されている。袖石・天井石および粘土が遺存し状態は良い。竈内の焼土化は著しい。

北壁の中央右寄りには壁に接した焼土があり、旧い竈の火床と思われるもので竈は作り変えられているようである。焼土化は著しい。

出土した遺物は土師器・須恵器。灰釉陶器がある。

供膳形態は土師器の坏１点（第40図２）、灰釉陶器の碗２点（３・４）で、煮沸形態は

土師器の小形甕１点（５）、羽釜１点（６）がある。４はピット、２は竈内出土、３・５には竈内出土破片が接合し、６には旧竈出土破片が接合している。図示できなかった破片は土師器の坏類が20点と甕類が72点、須恵器が３点、灰釉陶器が７点である。

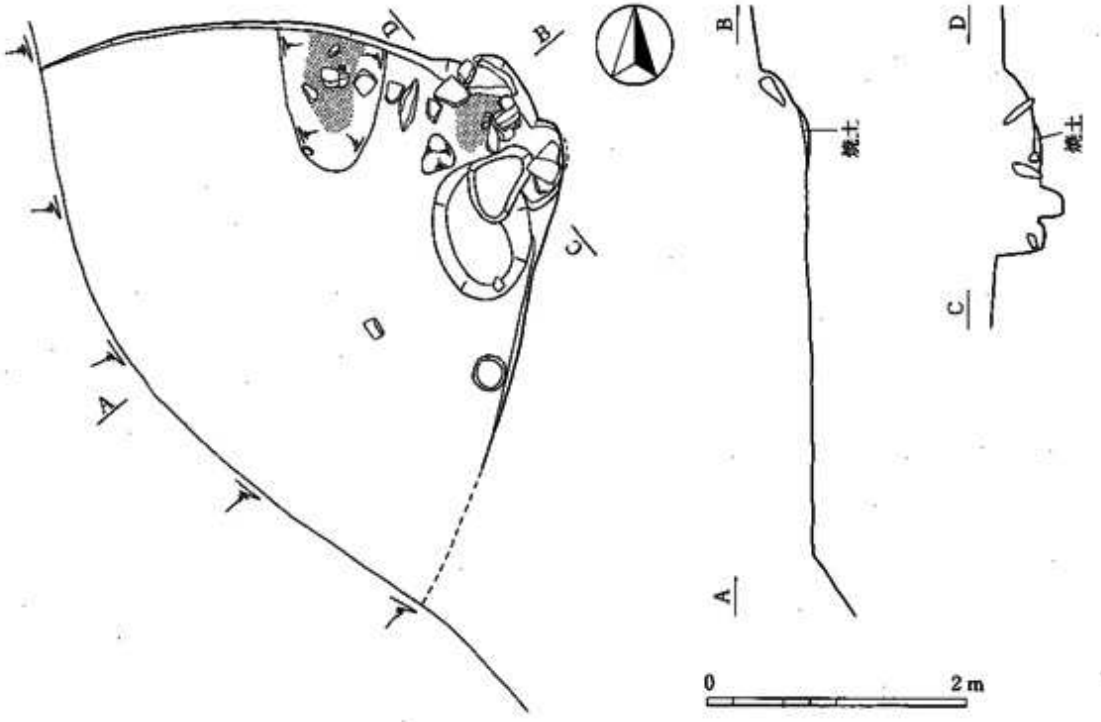
第12号竪穴住居址（第４・40・42図、写真32）

尾根上の平坦部で第９号竪穴住居址の東に位置するEA－51～53、EB－51～53の６グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。尾根上の平坦部には本址１軒だけである。

埋土の観察は、南北方向で行い色調の変化は乏しかったが、逆三角堆土と三角堆土の発達が認められる自然埋没である。

竪穴住居址は、ローム層中に構築されていたもので、大きさは東西330cm、南北373cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は東が23cm、西は８cm、南は６cm、北は21cmである。床面は平のタタキ床で良好である。ピットは規格性に乏しく柱穴に特定できるものはない。性格は不明であるが竈右隣の浅いピットは位置関係からみて灰だめの穴であろう。

竈は、東壁中央右寄りに石組粘土竈が構築されている。破損は著しく僅かな石と粘土が残されていただけである。袖石の掘り方を確認したが、付近には袖石と思われる石はなく



第41図　程久保遺跡第11号竪穴住居址実測図（１：60）

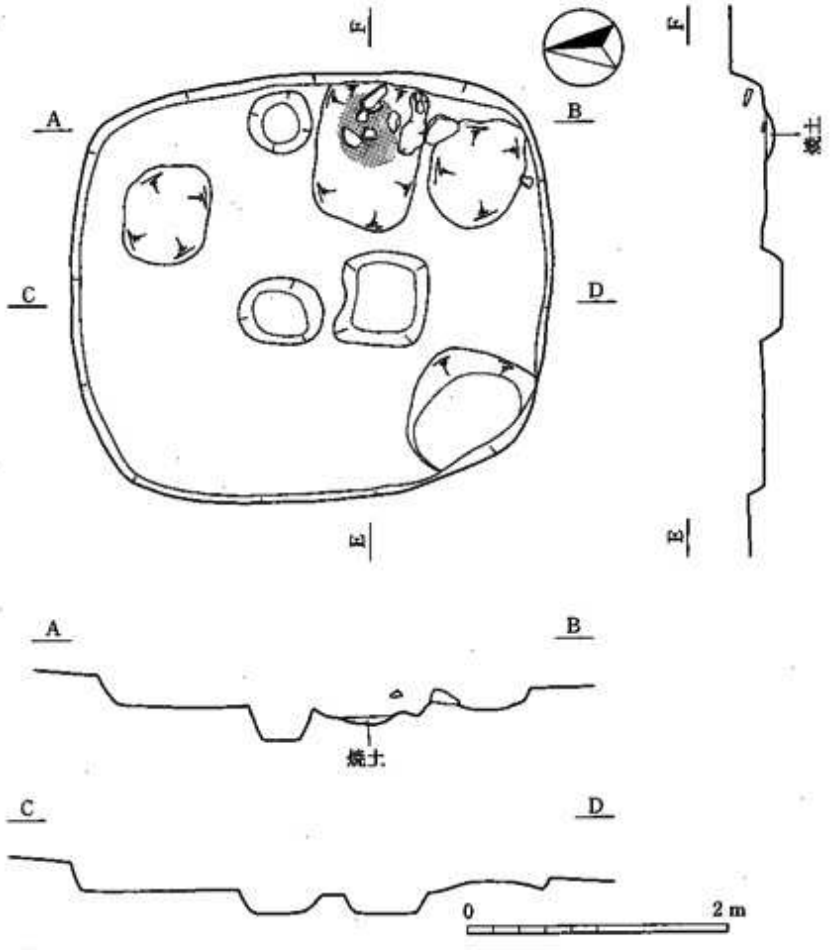
竈石の多くは持ち去られている。なお、火床のほぼ中央には支脚と思われる石が埋められていた。竈内の焼土化は著しい。

出土した遺物は少ないが土師器と須恵器がある。

煮沸形態は土師器の小形甕１点（第40図７）、甕２点（８・９）で、３点とも竈内出土である。図示できなかった破片は土師器の坏類が11点と甕類が62点、須恵器が１点である。

第13号竪穴住居址（第４・40・43・44図、表４・７・８、写真35）

尾根の南斜面で第12号竪穴住居址の東南に位置し遺跡の東端にあたるEQ－37～39、ER－37～39、ES－37～39、ET－37～39の12グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。傾斜が強くすでに南側の半分以上は流失していて明確なことはわからない。住居西寄りでは小竪穴44と重複するが、新旧関係は本址が旧く小竪穴44が新しい。なお、遺跡東端の住居址と記述したが次章の「Ⅳ　恩勝西遺跡」を同一遺跡と考えると東端ではな

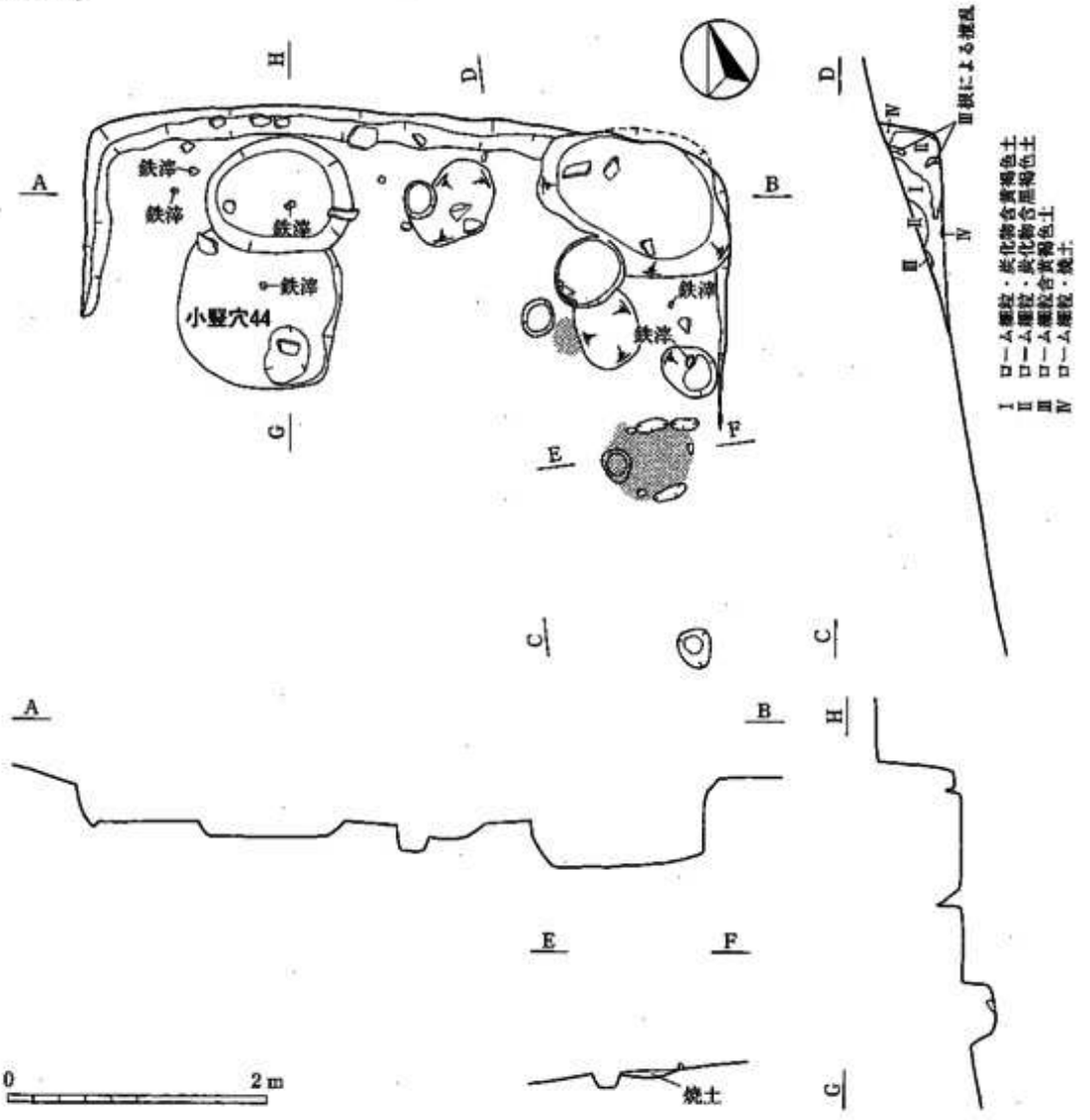


第42図　程久保遺跡第12号竪穴住居址実測図（１：60）

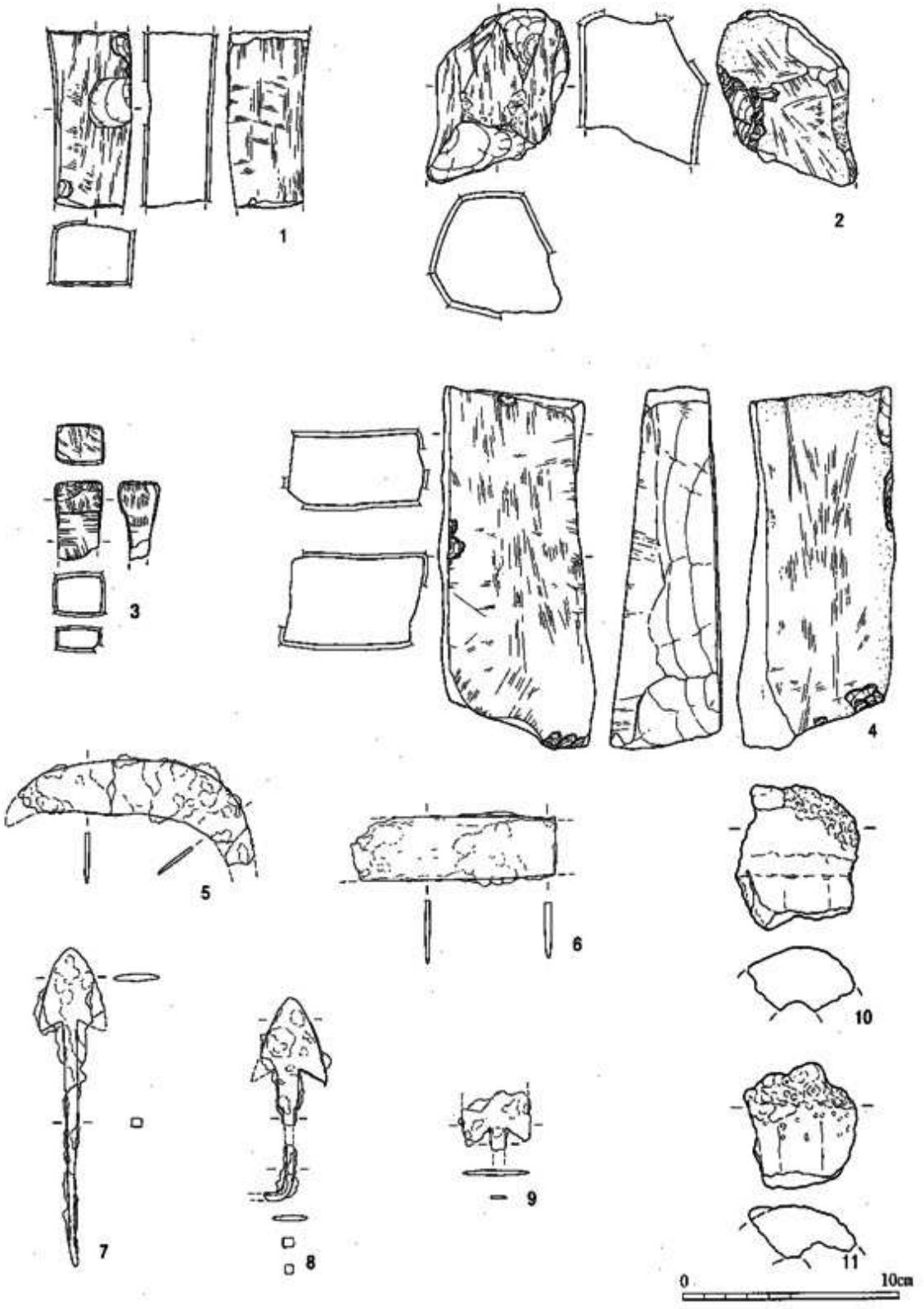
くなる。

埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行い、北壁上方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、傾斜がきついため黒色土中の南側半分以上は壁と床が流失している。大きさは東西500cm、南北（500）cmくらいである。壁はほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は東が29cm、西は27cm、北は59cmである。床面は平のタタキ床で良好である。周溝は西壁と北壁の直下にみられた。ピットは柱穴状のものもみられたが規格性に乏しく柱穴に特定できるものはない。北東隅のピットは住居外へ袋状になり貯蔵穴と思われる。住居外へ袋状のピットは第９号竪穴住居址でみられた。



第43図　程久保遺跡第13号竪穴住居址、小竪穴44実測図（１：60）



第44図　第４・13・15・27号住居址出土石製品、第20・28号竪穴住居址出土鉄製品、
第５号竪穴住居址、鍛冶址出土土製品（１：３）

竈は、東壁に構築されていたが袖石の掘り方と火床を検出しただけである。この辺りは壁も床も流失していたことから流失による破損か、人為的によるものかはわからないが竈石の散乱はみられなかった。竈内の焼土化は著しい。

出土した遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・石製品・鉄製品・鉄滓がある。

供膳形態は土師器の坏1点（第40図10）、碗1点（11）、灰釉陶器の皿3点（12～14）、碗1点（15）、煮沸形態は土師器の甕2点（16・17）である。10・12～14・17はピット出土、16にはピット出土破片が接合した。14は底外面に墨の付着がみられ硯として使用されたようである。11の内・外面、17の内面に炭化物の付着がみられる。図示できなかった破片は土師器の坏類が134点と甕類が37点、須恵器が3点、灰釉陶器が25点である。

石製品は砥石（第44図2）である。

鉄製品は図示できなかったが、C字状に加工した機種不明なもの1点（表7）は、ピット出土である。

鉄滓は14点と小片で1,038.1g（表4・8）である。

第15・26号竪穴住居址、建物址1

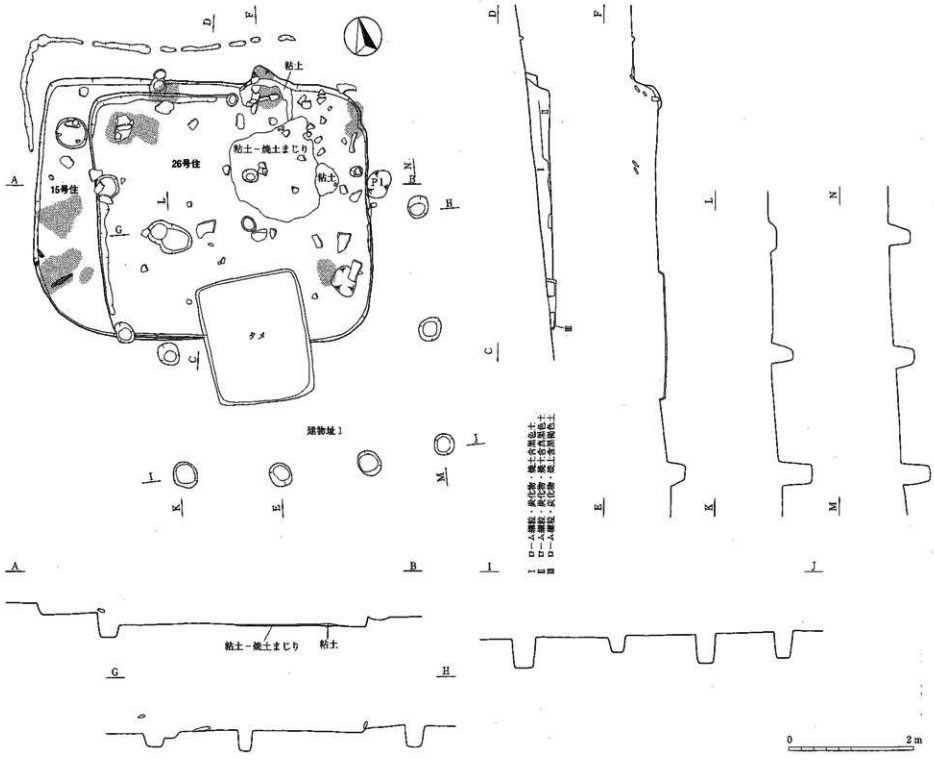
第15号竪穴住居址（第4・45・46図、表4・7・8、写真36～38）

尾根の南斜面で第13号竪穴住居址の西に位置するEI－35～37、EJ－35～37、EK－35～37、EL－35～37の12グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。南東方向で第26号竪穴住居址と重複するが切り取られた範囲の方が多い。やはり南東方向では鍛冶址と考えられる建物址1と重複している。南壁では現代のタメ址とも重複している。以上のように黒色土中で複雑な重複関係にあり明確なことは一切わからない。また、住居址の北側ではL字状の溝を検出した。住居址の周溝と考えたいものであるが、溝だけの検出で住居址に認定できなかった。しかし、いまも住居址の可能性を捨てきることができないでいる。

検出した時点では1軒の住居址と考え調査を進めたが、本址より新しい第26号竪穴住居址、新旧関係は不明であるが鍛冶址と思われる建物址1との重複を確認したが、すでに遺物の取り上げは第15号竪穴住居址で進めた後で、遺物の混入が生じたことはたしかであり両住居址を切り離して考えることはできない。建物址1も認定が遅れ鍛冶址に係る遺物も第15号竪穴住居址と第26号竪穴住居址で取り上げたためやはり切り離すことができない。

埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行い、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。色調の変化は乏しかったが第26号竪穴住居址との重複関係は、本址が旧く第26号竪穴住居址が新しい。

竪穴住居址は、黒色土からソフトローム層中に構築されていたもので、大きさは東西（400）cm、南北415cmくらいである。壁はほぼ垂直に立ち上がり普通である。壁高は西が



第45図　程久保遺跡第15・26号竪穴住居址、第1号建物址実測図（1：60）

16cm、南が5cm、北が20cmである。床面はほぼ平のタタキ床である。ピットは柱穴状であるが性格は不明である。

竈は検出できなかった。

床面よりも浮いていた火床で生じた焼土、火床とは考えられない焼土と黒褐色土が混じり合ったブロックが遺存していた。鉄滓の出土は多く建物址1の鍛冶址に係るものと思われるが、わからないことの方が多い。

出土した遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・石製品・鉄製品・鉄滓がある。前記したように本址と第26号竪穴住居址の遺物は混入しているが、現場での取り上げ住居址のままである。

供膳形態は土師器の坏5点（第46図1～5）、灰釉陶器の皿1点（6）、碗1点（7）で、煮沸形態は土師器の小形甕2点（8・9）、甕1点（10）がある。1の内・外面に墨書がみられるが内面は解読不明であり、外面には2文字が書かれているが、上は「大」で下は解読できない。1・4の外面にはヘラ削りが施され、2の内・外面には炭化物の付着がみられる。4・8は第26号竪穴住居址出土破片と接合するが前記したように遺物の混入によるものであろう。図示できなかった破片は土師器の坏類が209点と甕類が243点、須恵器が4点、灰釉陶器が13点である。

鉄製品は破損が著しく図示できなかった機種不明なもの3点（表7）で、2点は同機種のようにみえる。

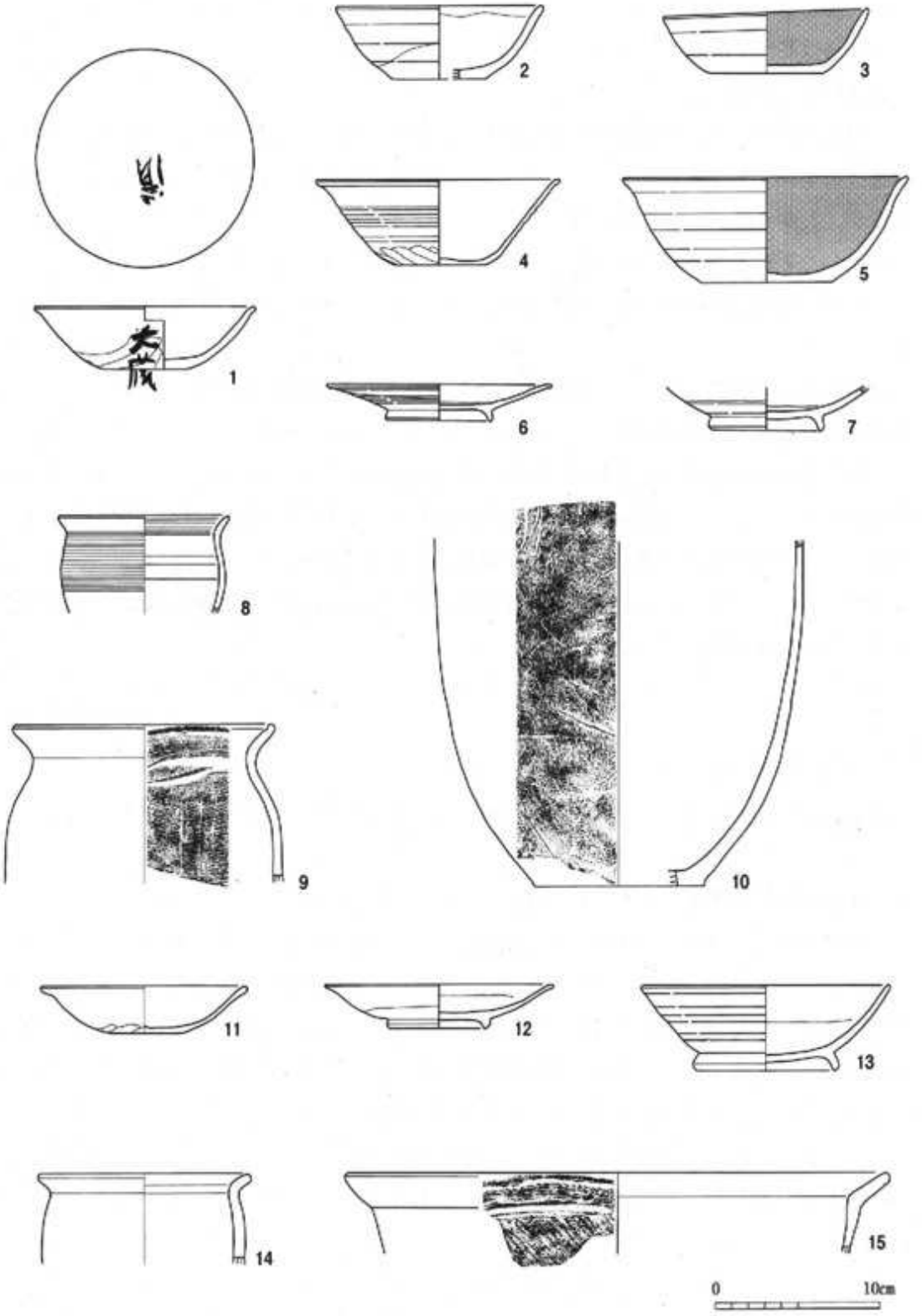
石製品は砥石（第44図3）である。

鉄滓は建物址1で記述し、表4・8では第15・26号竪穴住居址と建物址1を一括した。

第26号竪穴住居址（第4・45・46図、表7、写真36～38）

尾根の南斜面で第15号竪穴住居址、建物址、タメ址と重複している。EJ－35～37、EK－35～37、EL－35～37の9グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。第15号竪穴住居址で記述したように1軒の住居址と考え調査を進めた過程で第15号竪穴住居址と建物址1との重複を確認したが、新旧関係は本址が新しく第15号竪穴住居址が旧い。建物址1との新旧関係は不明である。また、南壁では現代のタメ址と重複している。遺物の取り上げは第15号竪穴住居址で進めていたため、遺物の混入が生じたことはたしかであり両住居址を切り離して考えることはできない。建物址1も認定が遅れ鍛冶址に係る遺物も第15号竪穴住居址と第26号竪穴住居址で取り上げている。やはり切り離すことはできない。

埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行い、北壁上方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。色調の変化に乏しかったが第15号竪穴住居址との重複関係は、本址が新しく第15号竪穴住居址が旧い。



第46図　程久保遺跡第15・26号竪穴住居址出土土器実測図（1：4）

竪穴住居址は、黒色土中に構築されていたもので、大きさは東西が430cm、南北が393cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は東が11cm、西は第15号竪穴住居址と重複しているが14cm、南は8cm、北は26cmである。床面は平のタタキ床で良好である。ピットは柱穴状のものもあるが規格性に乏しく柱穴を特定できるものではない。

竈は、北壁に石組粘土竈が構築されていた。左袖石の一部と粘土が遺存していただけで良くない。付近に竈石は散乱していたがその数は少なく持ち去られているようである。竈内の焼土化は著しい。

東壁下の広範囲には焼土が点在していたが、火床と思われるようなところは確認できなかった。第15号竪穴住居址同様に焼土と黒褐色土が混じり合ったブロックもあり、鉄滓の出土は極めて多く、竈内の著しい焼土化、竈前の焼土混じりの粘土で作られた硬い床などからは小鍛冶が伴った住居址のようにも思えるが、鍛冶址である建物址と重複しておりわからないことの方が多い。

出土した遺物は土師器・灰釉陶器・鉄製品がある。不明鉄製品は床面からの出土である。

供膳形態は土師器の坏1点（第46図11）、灰釉陶器の皿1点（12）、碗1点（13）で、煮沸形態は土師器の小形甕1点（14）、甕1点（15）がある。11の外面にはヘラ削りが施されている。13にはピット出土破片が接合した。図示できなかった破片は土師器の坏類が221点と甕類が146点、須恵器が1点、灰釉陶器が20点である。

鉄製品は破損が著しく図示できなかった機種不明な板状のもの1点（表7）である。

鉄滓は建物址1で記述し、表4・9では第15・26号竪穴住居址と建物址1を一括した。

建物址1（第4・45図、表4・8、写真38・39）

尾根の南斜面で第15・26号竪穴住居址、タメ址と重複している。EJ－34～36、EK－34～36、EL－34～36の9グリッドに跨る方形を呈する建物址である。第15・26号竪穴住居址で記述したように調査を進める過程で重複する本址を確認したが、認定が遅くなり重複による新旧関係を明らかにすることができなかった。遺物はすでに第15・26号竪穴住居址で取り上げた後であり、本址に伴う遺物は不明である。

平面は東西3間（420cm）、南北2間（380cm）の側柱で方形を呈している。柱穴の径は32～40cmで深さは27～49cmとまちまちである。検出した柱穴9基の底面レベルは第26号竪穴住居址の床面よりも全て深い。東西方向の北側柱は3基確認しただけであり間口間は規格性に欠けるが、間口間が広くなる外にはP1がある。このP1は48×35cmの楕円形で深さ6cmと浅い丸底のもので、鍛造剥片である金肌が詰め込まれていた。水洗いで採集できた金肌は4,267.2gである。第26号竪穴住居址の東壁に埋め込まれ平板石2点は、住居址に伴うものと考えていたが、建物址1を認定しP1を確認したことで鉄床石の可能性が高く

なったが、現場で事実関係の確認はしていない。

鍛冶炉は第15号竪穴住居址の埋土中で検出した焼土が火床のようであるが、本址の認定が遅れたためすでに焼土を取り除いた後であり、やはり現場で事実関係は確認していない。これ以外にも焼土化した火床を確認したが、本址検出面よりもレベルは高く、やはり認定前に取り除いてしまい本址との関係を現場で確認していない。返す返すも大きな調査ミスが残念である。

鍛冶に係るふいごの羽口の出土はないが、鍛造剥片である金肌が多量に出土したことで本址は鍛冶址と考えた。

出土した遺物は第15・26号竪穴住居址で取り上げており不明であるが、鉄滓と金肌は次の通りである。

鉄滓は第15・26号竪穴住居址・建物址１をまとめると83点と小片で4,716.6ｇ、水洗いで鍛造剥片である金肌を採集したが、鉄滓の小片と金肌の選別が未だできないものが1,481.5ｇ、選別した金肌は4,267.2ｇ（表４・８）と多い。

第16・17号竪穴住居址

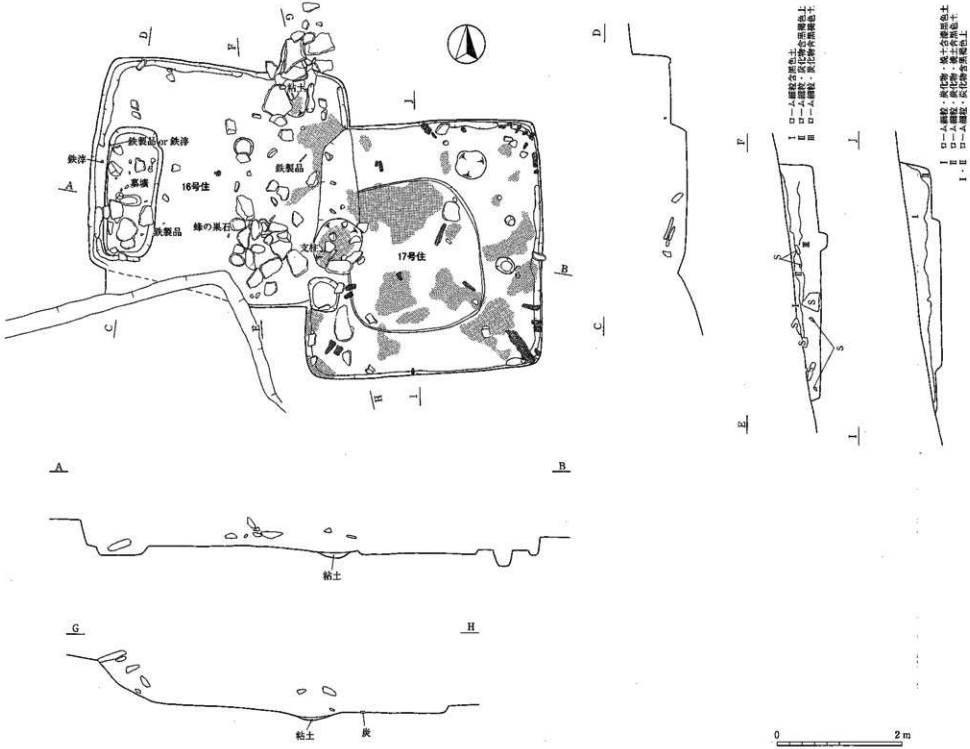
第16号竪穴住居址（第４・47・48図、表４・７・８、写真41・42）

尾根の南斜面で第15号・26号竪穴住居址、建物址１の西に位置するEE－34～36、EF－34～36、EG－34～36の９グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。東壁で第17号竪穴住居址と重複しているが、新旧関係を明らかにすることはできなかった。西壁近くで墓壙１と重複するが、本址が旧く墓壙１が新しい。

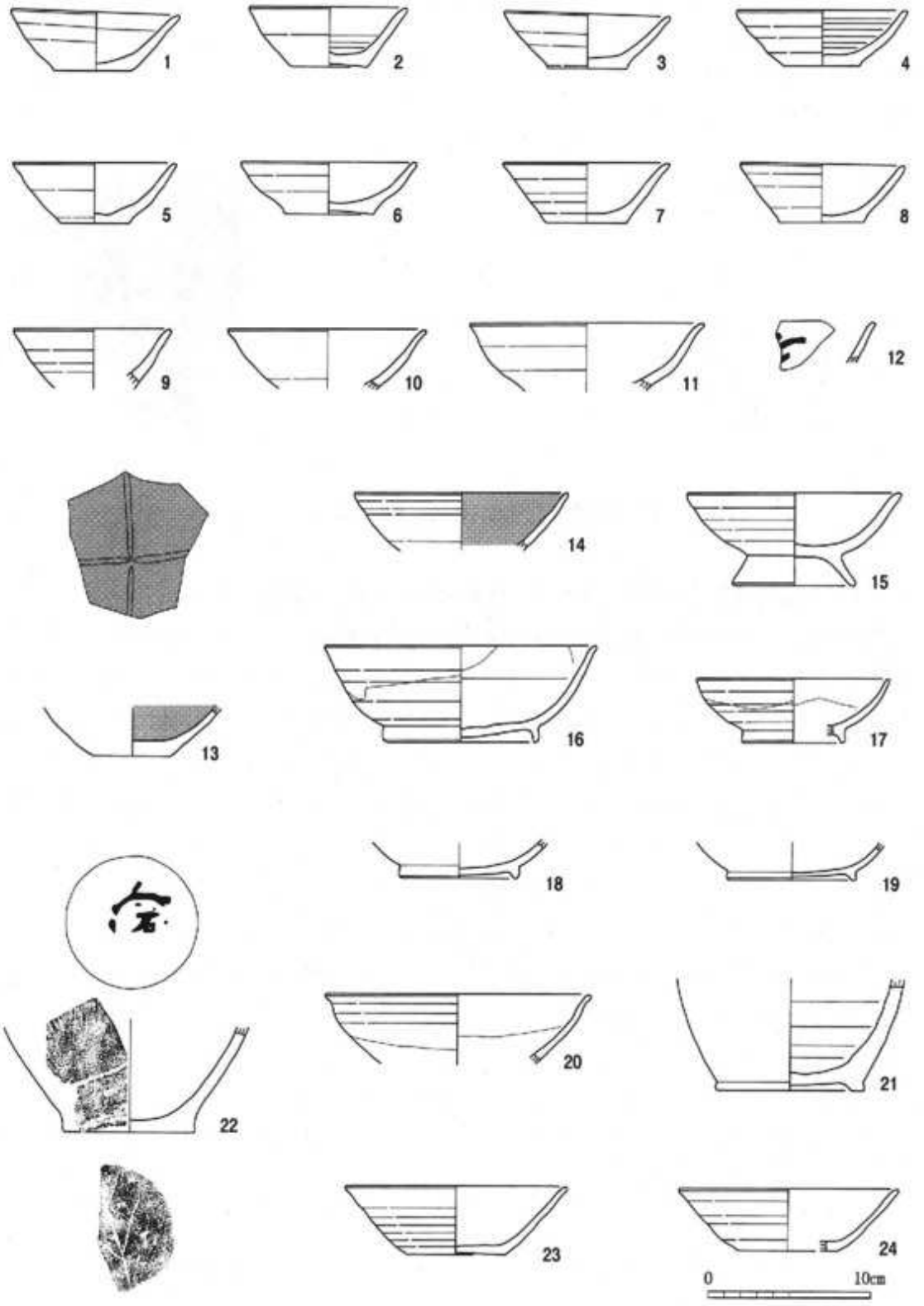
埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行い、Ⅰ～Ⅲに大別したように北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土からソフトローム層中に構築されていたもので、南壁際は流失により不明瞭であるうえに水田造成で切り取られている。東壁は重複で欠損しているが大きさを推測すると東西（400）cm、南北（360）cmくらいであろう。残存する壁はほぼ垂直に立ち上がり良好で、壁高は東が43cm、西は49cm、北は52cmと高い。壁直下には周溝がみられる。床面はほぼ平のタタキ床で良好である。ピットは１基あるが11cmと浅く柱穴に特定できるものはない。西壁近くの長方形の掘り込みは墓壙１である。南東隅付近には床より10cmほど浮き比較的大きな礫が集中していた。円礫が多く竈石とは異なり性格は不明である。

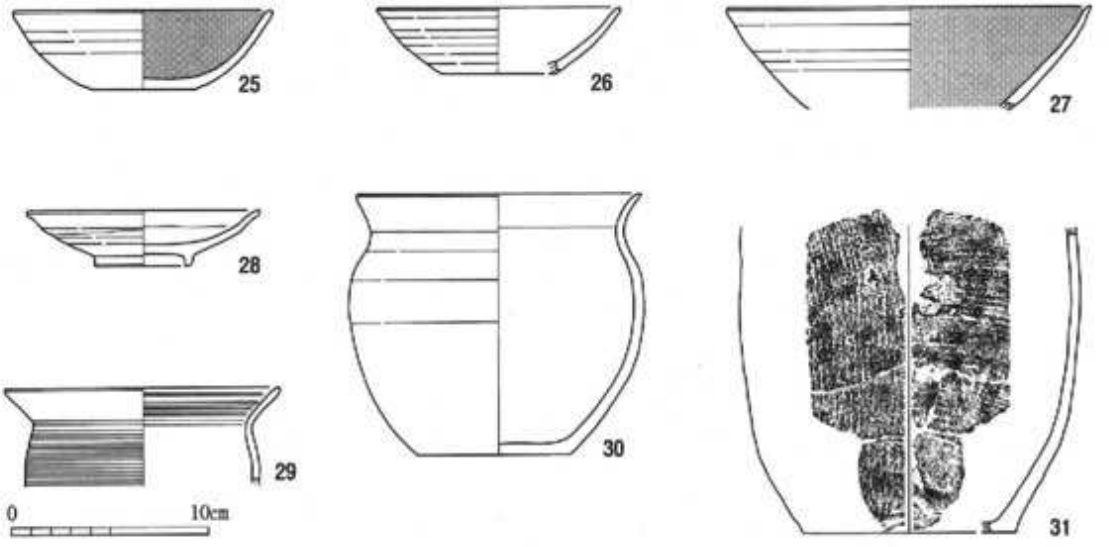
竈は、北壁に石組粘土竈が構築されていた。僅かに粘土は残っていただけで、竈石は抜き取られ近くに積まれたような状態で置かれていた。竈北の壁上にも積まれたような石があるが煙道がわかるようなものではない。竈内はそれほど焼けていない。



第47図　程久保遺跡第16・17号竪穴住居址号、墓壙1実測図（1：60）



第48図　程久保遺跡第16・17号竪穴住居址出土土器実測図（1：4）



第49図　程久保遺跡第17号竪穴住居址出土土器実測図（1：4）

出土した遺物は多く土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品・鉄滓がある。

供膳形態は土師器の坏と碗15点（第48図1～15）、灰釉陶器の碗5点（16～20）、貯蔵形態は破片でくわしことはわからないが須恵器の壺1点（21）、煮沸形態は土師器の甕1点（22）である。13には暗文が施されている。12の坏外面と22の甕の底部内面に墨書がみられるが両者とも解読不明である。煮沸具である甕への墨書例は聞いていないが、底部付近が残存しているだけであり、破損後に坏同様に供膳具として使用していたことが容易に考えられる。したがって、本資料は「甕底部」ではなく「坏」と考えた方がよいのかもしれない。なお、木葉底である。6・8・15はピット、3・4・13・16・22は竈内、1・5・11は竈下層からの出土である。7には竈内出土破片が接合している。2～4・7～9・15・16には炭化物の付着がみられる。図示できなかった破片は土師器の坏類が236点と甕類が52点、須恵器が4点、灰釉陶器が13点である。なお、土師器のなかには耳皿の小破片がある。

鉄製品は破損が著しく図示できなかった刀子1点、機種不明なもの4点（表7）で、内3点は断面が方形ないしは長方形の棒状のもので刀子・鉄鏃の中子のようである。

鉄滓は7点と小片で191.8g（表4・8）である。

第17号竪穴住居址（第4・47～49図、表4・7・8、写真・40～43）

尾根の南斜面で第16号竪穴住居址と重複している。EF－33～35、EG－33～35、EH－33～35の9グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。西壁で第16号竪穴住居址

と重複しているが、新旧関係を明らかにすることはできなかった。

埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行い、Ⅰ・Ⅱに大別したように北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。なお、壁際の床面直上には焼土ブロックが散乱し炭化材は多く火災により焼失したようである。

竪穴住居址は、黒色土からソフトローム層中に構築されていたもので、大きさは東西370cm、南北402cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は東が43cm、西は17cm、南は6cm、北は51cmである。周溝は東側半分くらいの壁直下にみられる。床面は2段に落ち込むが双方ともほぼ平である。このような形態の床は本址だけである。ピットは3基検出したが柱穴に特定できるものはない。竈左隣はその位置関係から灰だめの穴であろう。

西壁に接する火床を検出したが、竈石はなく僅かな粘土が遺存しただけで詳しいことは一切不明であるが、焼土の平面形は円形で鍛冶炉に近いもので、焼土の外縁には埋め据付けられた石があり鉄床石の可能性が高いものである。焼土化は極めて著しい。通常の竈でみられる焼土とは平面形状が異なり、鍛冶炉と考えると本址には竈がないことになる。

出土した遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品・鉄滓がある。

供膳形態は土師器の坏と碗5点（第48図23・24・第49図25～27）、灰釉陶器の皿1点（28）で、煮沸形態は小形甕2点（29・30）、甕1点（31）である。27・31は竈（焼土）内出土、30の口縁部内面には僅かであるが黒漆（肉眼観察）の付着がみられる。また、竈（焼土）内出土破片が接合した。23の内・外面には解読不明の墨書か、煤の付着か判断できない黒色の付着がみられる。図示できなかった破片は土師器の坏類が44点と甕類が119点、須恵器が2点、灰釉陶器が10点である。

鉄製品は破損が著しく図示できなかった機種不明な小さなもの1点（表7）である。

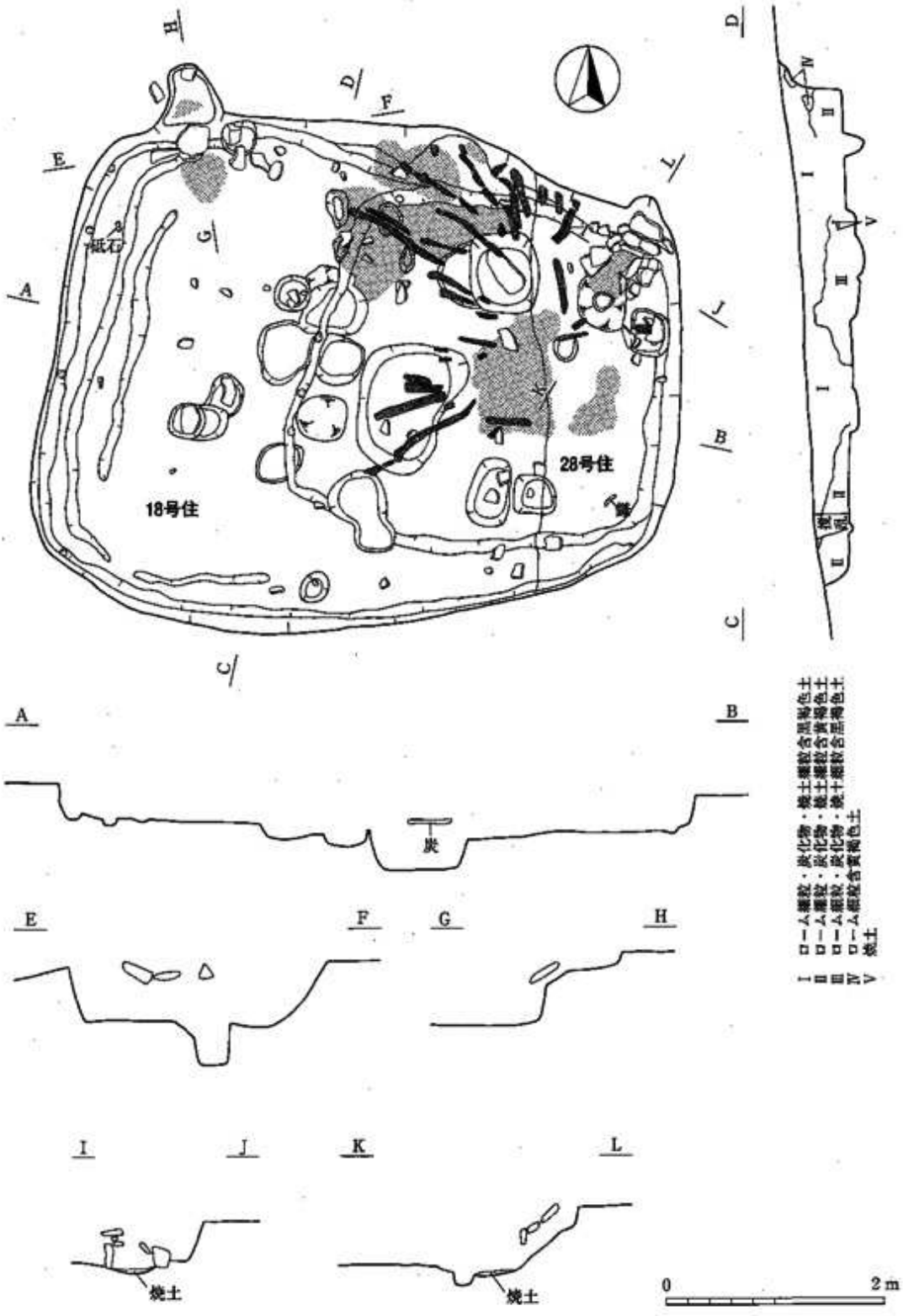
鉄滓は1点と小片で8.2g（表4・8）である。

第18・28号竪穴住居址

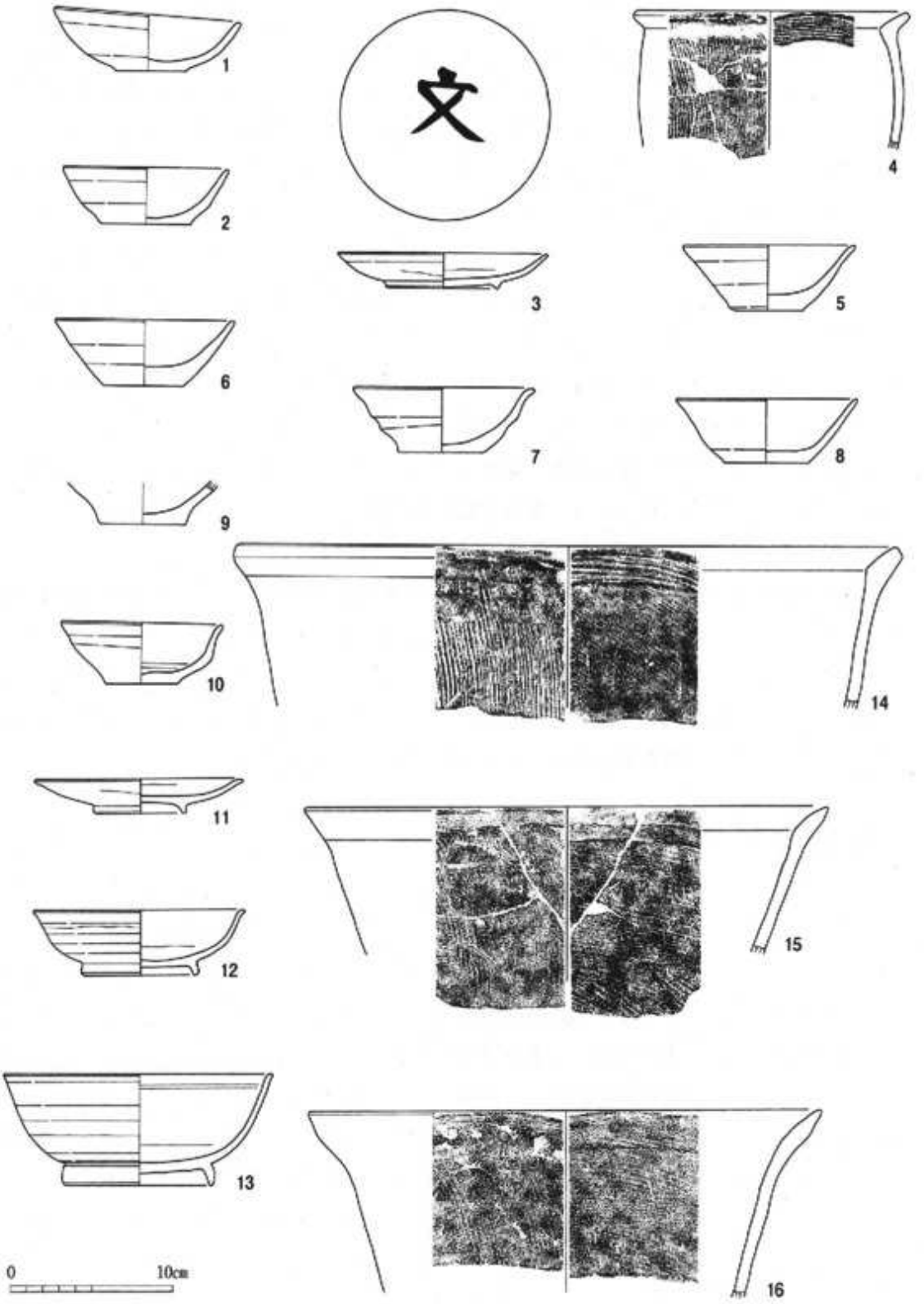
第18号竪穴住居址（第4・50・51図、写真44・45・47）

尾根の南斜面で重複していた第16号・17号竪穴住居址の西に位置するDU－33～35、DV－33～35、DW－33～35の9グリッドに跨る台形的な隅丸方形を呈する竪穴住居址である。西側では第28号竪穴住居址と重複していたが、第28号竪穴住居址は小さなもので本址の内にすっぽりと入っていた。検出した時点では1軒の住居址と考え調査を進めたが、第28号竪穴住居址は火災による廃絶で埋土中には多量の炭化材と炭化物が混じり確実に異なっていたことにより、本址より新しい第28号竪穴住居址の埋没を認定した。

埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行い、Ⅰ～Ⅴに大別したように逆三角堆土と三角



第50図　程久保遺跡第18・28号竪穴住居址実測図（1：60）



第51図　程久保遺跡第18・28号竪穴住居址出土土器実測図（1：4）

堆土の発達が認められる自然埋没であるが、北壁方向からの流れ込みが多いようである。

竪穴住居址は、ローム層中に構築されていたもので、大きさは東西560cm、南北470cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は東が34cm、西は34cm、南は23cm、北は60cmである。床面はほぼ平のタタキ床で良好である。なお、第28号竪穴住居址との床にはレベル差はない。周溝は壁直下にめぐり西壁の下では3本みられる。本址の平面形が台形的になっていることを考え合わせると、若干のずれをもつなかで2回ないし3回の建て直しが行われていることも考えられるが詳しいことはわからない。ピットは深さ55cm、31cm、29cm、20cm、19cmとまちまちであるが、ピット間を結ぶ線は壁とほぼ平行であり柱穴の可能性は高いようである。なお、礫がすっぽりと落ち込んだものもみられた。中央に並ぶピットは13～16cmと浅いものばかりで第28号竪穴住居址の周溝に切られている。貼床のみられたピットがあり土師器甕破片、礫、焼土が詰められた状態で出土した。

竈は、北壁の西隅際に石組粘土竈が構築されていたが、僅かな粘土が遺存していただけであり、竈石は持ち去られている。竈内の焼土化は著しい。

出土した遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器がある。

供膳形態は土師器の坏2点（第51図1・2）、灰釉陶器の皿1点（3）、煮沸形態は土師器の甕1点（4）がある。4はピット、2は竈内出土である。3の内面には「文」の墨書がみられる。第28号竪穴住居址から出土した破片と接合しているが遺物の取り上げが不十分で混入した可能性が高い。図示できなかった破片は土師器の坏類が165点と甕類が168点、須恵器が9点、灰釉陶器が28点ある。なお、土師器の耳皿小破片がある。

第28号竪穴住居址（第4・44・50・51図、表7、写真44～46）

尾根の南斜面で第18号竪穴住居址と重複している。DV－33～35、DW－33～35、DX－33～35の9グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。第18号竪穴住居址を1軒と考え調査を進める過程で、第18号竪穴住居址の埋土とは異なる炭化材と炭化物を多量に包含する埋土を認め、第18号竪穴住居址内にすっぽりと入っていた小さい本址を確認した。重複による新旧関係は本址が新しく第18号竪穴住居址が旧い。

埋土の観察は、住居址の認定が遅くなり適切な土層観察ベルトを設定することはできなかったが、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。なお、多量の炭化材と炭化物を包含しており火災による廃絶と思われる。壁際の炭化材の近くは焼土化していた。

竪穴住居址は、ローム層中に構築されていたもので、大きさは東西（350）cm、南北（360）cmくらいであろう。壁はほぼ垂直に立ち上がり良好である。壁高は東が34cm、北は60cmである。周溝が全周しており周溝により前記した規模を推測した。床面はほぼ平のタタキ床で良好である。ピットは数基検出したが、第18号竪穴住居址でも記述したように本

址に伴うものか第18号竪穴住居址に伴うものかわからない。

竈は、北東隅に石組粘土竈が構築されていた。袖石と粘土が遺存し保存状態は極めて良く原形を留めていた。煙道も天井石が残っていた。竈内の焼土化は著しい。

北西隅で旧い竈の火床を検出したが、焼土化した2ケ所に火床が並んでいた。ここでも竈は作り変えられている。2ケ所の火床とも焼土化は著しい。本址の廃絶時における竈は北東隅のものであり、竈の構築は3回におよんでいたことになる。

出土した遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品がある。

供膳形態は土師器の坏6点（第51図5～10)、灰釉陶器の皿1点（11)、碗2点（12・13)、煮沸形態は土師器の甕3点（14～16）がある。8はピット、7・13～16は竈内、5・10は竈右袖、6は竈左袖出土である。図示できなかった破片は土師器の坏類が40点と甕類が54点、須恵器が2点、灰釉陶器が2点である。

鉄製品は鎌1点（第44図5、表7）である。

第19号竪穴住居址（第4・52図、写真～49)

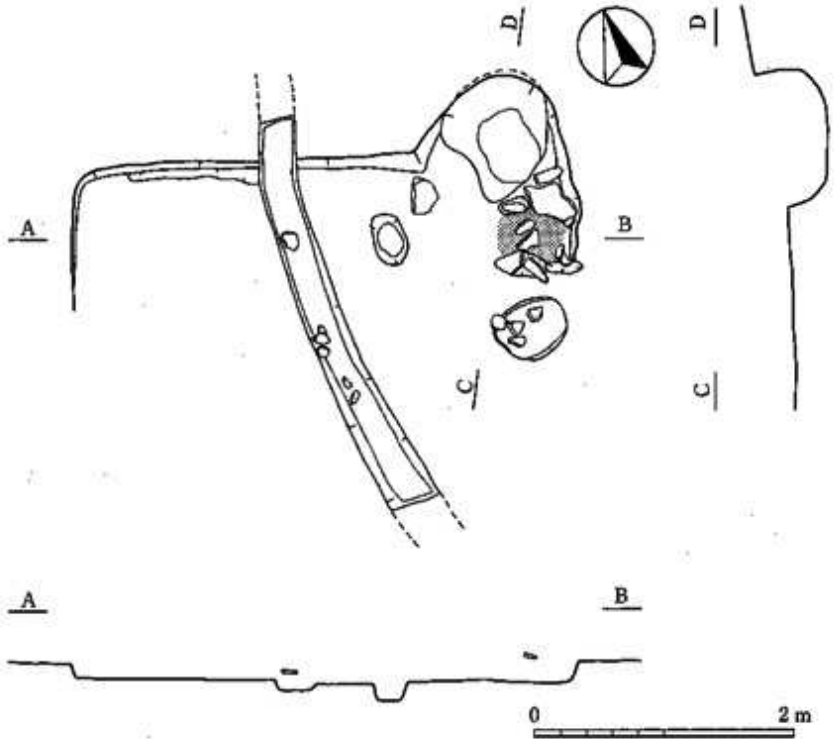
尾根の南斜面で第18号・28号竪穴住居址の北に位置するDQ－41・42、DR－41～43、DS－41～43、DT－42の9グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。傾斜が強くすでに南側の半分以上は流失していたうえに、農道の輪道が床面を掘り下げて撹乱は著しく明確なことはわからない。

埋土の観察は、農道の撹乱が広範におよんでおり適切な土層観察ベルトを設定することはできなかったが、北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址は、ローム層中に構築されていたものであるが、残存した範囲が少なく規模を推定することはできない。壁も残存した範囲は少ないがほぼ垂直に立ち上がる。壁高は西が9cm、北は12cmである。周溝は北壁の直下で部分的にみられる。床面はほぼ平のタタキ床と思われるが撹乱されている。ピットは3基検出したが柱穴に特定できるものはない。竈右隣はその位置関係から灰だめの穴であろう。竈左隣は住居址の北に張り出しており重複のようにみえるが本址に伴うもので、第9・13号竪穴住居址でみられた竈近くの袋状ピットと同様の貯蔵穴であろう。

竈は、東壁の北隅際に石組粘土竈が構築されていた。袖石の一部と僅かな粘土が遺存しただけであり、竈石は持ち去られている。竈内の焼土化は著しい。

出土した遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器があるが図示できるものはない。破片は土師器の坏類が16点と甕類が46点、須恵器が3点、灰釉陶器が3点である。



第52図　程久保遺跡第19号竪穴住居址実測図（1：60）

第20・27号竪穴住居址

第20号竪穴住居址（第4・44・53・54図、表4・7・8、写真50・51）

尾根の南斜面で第19号竪穴住居址の西南に位置し第27号竪穴住居址と重複している。DM－38～40、DN－38～41、DO－38～41、DP－39の12グリッドに跨る楕円形を呈する竪穴住居址である。農道の下からの検出であり輪道による撹乱が著しく手探りの調査であり、詳しいことは一切わからない。

撹乱のため平面プランは不明瞭であったが検出した時点では1軒の住居址と考え調査を進めたが、土層の観察で第27号竪穴住居址が南西方向で重複していることが判明した。この重複は本址の中に小さな第27号竪穴住居址がすっぽりと入るもので、第18号竪穴住居址と第28号竪穴住居址の重複に似ている。重複による新旧関係は本址が旧く第27号竪穴住居址が新しい。

埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行い、Ⅰ～Ⅵ層に大別したように逆三角堆土と三角堆土の発達がみられる自然埋没であるが、北壁方向からの流れ込みが多いようである。

竪穴住居址は、ローム層中に構築されていたもので、大きさは東西460cm、南北590cmであるが、平面形が楕円形になり竈の火床は2か所にある。2軒の住居址が南北方向で若干ずれる状態で重複していることを考えた方がよいのかもしれないが、今になってはその状

況を明らかにすることはできない。現場では同プラン内における新・旧２時期と考え調査したため、ここでは新旧２時期の住居址として記述しておきたい。壁はほぼ垂直に立ち上がるが新旧それぞれの壁を明らかにすることはできなかったが、壁高は東が15cm、西は11cm、南は２cm、北は41cmである。床面はほぼ平のタタキ床でやや南に傾いていたが、際立った段差がないことから新旧住居址とも同レベルのものである。南側は第27号竪穴住居址に切り取られている。周溝は東壁下と西壁下、第27号竪穴住居址の竈北でみられた。ピットは柱穴状のものもみられたが同プラン内における新旧住居址に伴うものと考えたが、新旧住居址のプランおよび規模が明らかにできないことで、新旧住居址に伴うピットは特定できなかった。大小様々のピットの性格は不明であるが、鍛冶址と考えられる茅野市判ノ木山西遺跡第12号竪穴住居址で数多いピットが検出されている。

竈は、２箇所で検出したが新旧については不明である。便宜的に竈１と竈２と呼びたい。

竈１は東壁に構築されていたが袖石が遺存しただけで、竈石は持ち去られている。竈内火床はそれほど焼けていないが奥壁の焼土化が著しい。

竈２も東壁に構築されているが火床と袖石の掘り方を確認しただけである。焼土化は著しい。

出土した遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品・鉄滓がある。

供膳形態は土師器の坏１点（第54図１）、灰釉陶器の皿１点（２）、輪花皿１点（３）、貯蔵形態は破片で詳しいことはわからないが灰釉陶器の壺１点（７）、煮沸形態は土師器の甕３点（４～６）である。１は竈１右袖出土で内・外面に炭化物の付着がみられる。２は竈１内出土。５・６は木葉底でピット出土破片が接合した。図示できなかった破片は土師器の坏類が127点と甕類が233点、須恵器が45点、灰釉陶器が56点である。

鉄製品は鉄鏃が２点（第44図７・８）、破損が著しく図示できなかった機種不明なものが２点（表７）あるが、１点は断面が長方形の棒状のもので刀子・鉄鏃の中子のようであり、１点は断面長方形の棒状のものをＳ字状に加工したものである。

鉄滓は１点で40.8ｇ（表４・８）である。

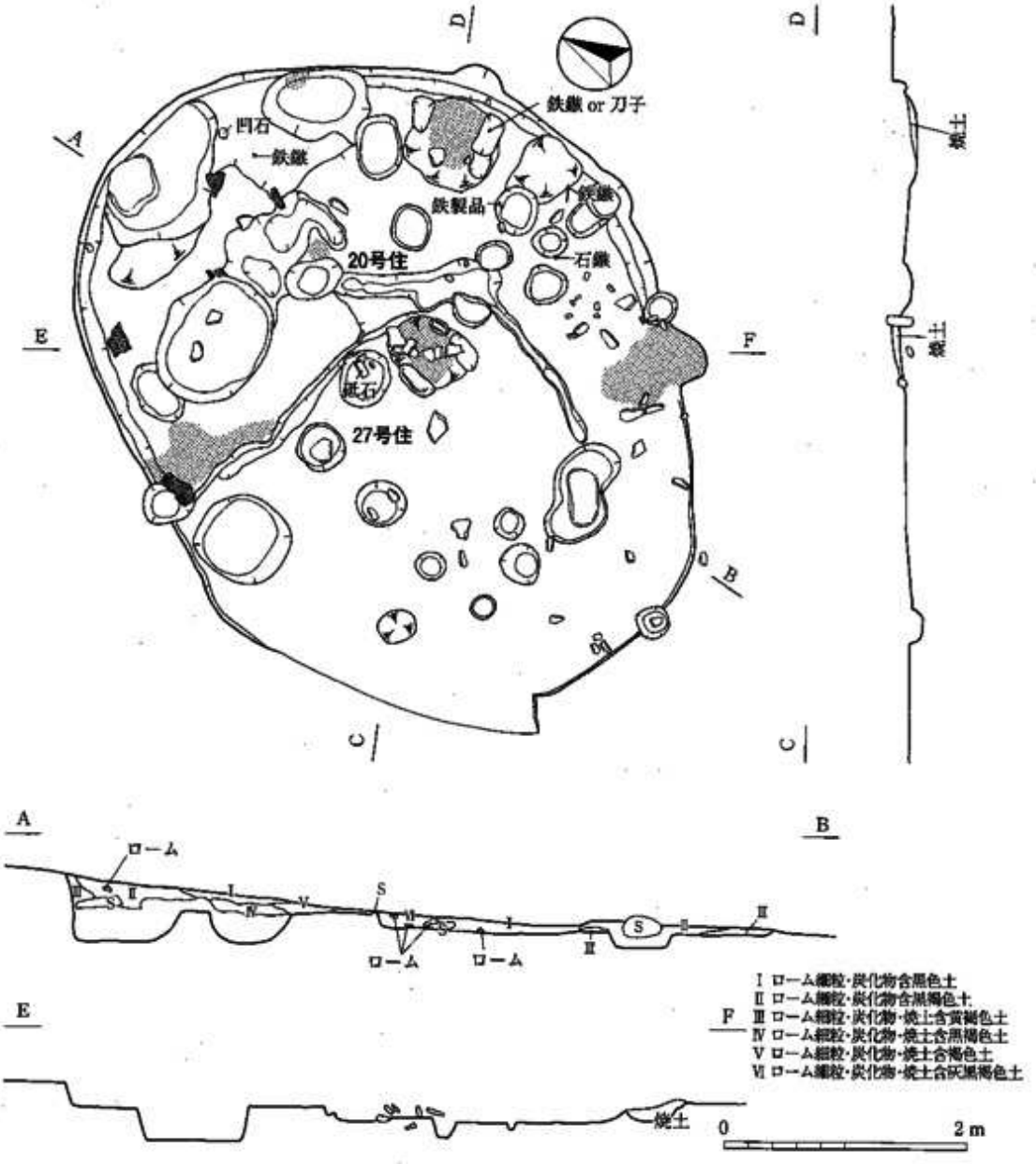
第27号竪穴住居址（第４・53図、写真50・51）

尾根の南斜面で第20号竪穴住居址と重複している。DL－38・39、DM－38～40、DN－38・39の７グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。北壁の一部を確認しただけであり、明確なことはわからない。第20号竪穴住居址内にすっぽりと入っていた小さい住居址で、重複による新旧関係は本址が新しく第20号竪穴住居址が旧い。第18号竪穴住居址と第28号竪穴住居址の重複に似ている。

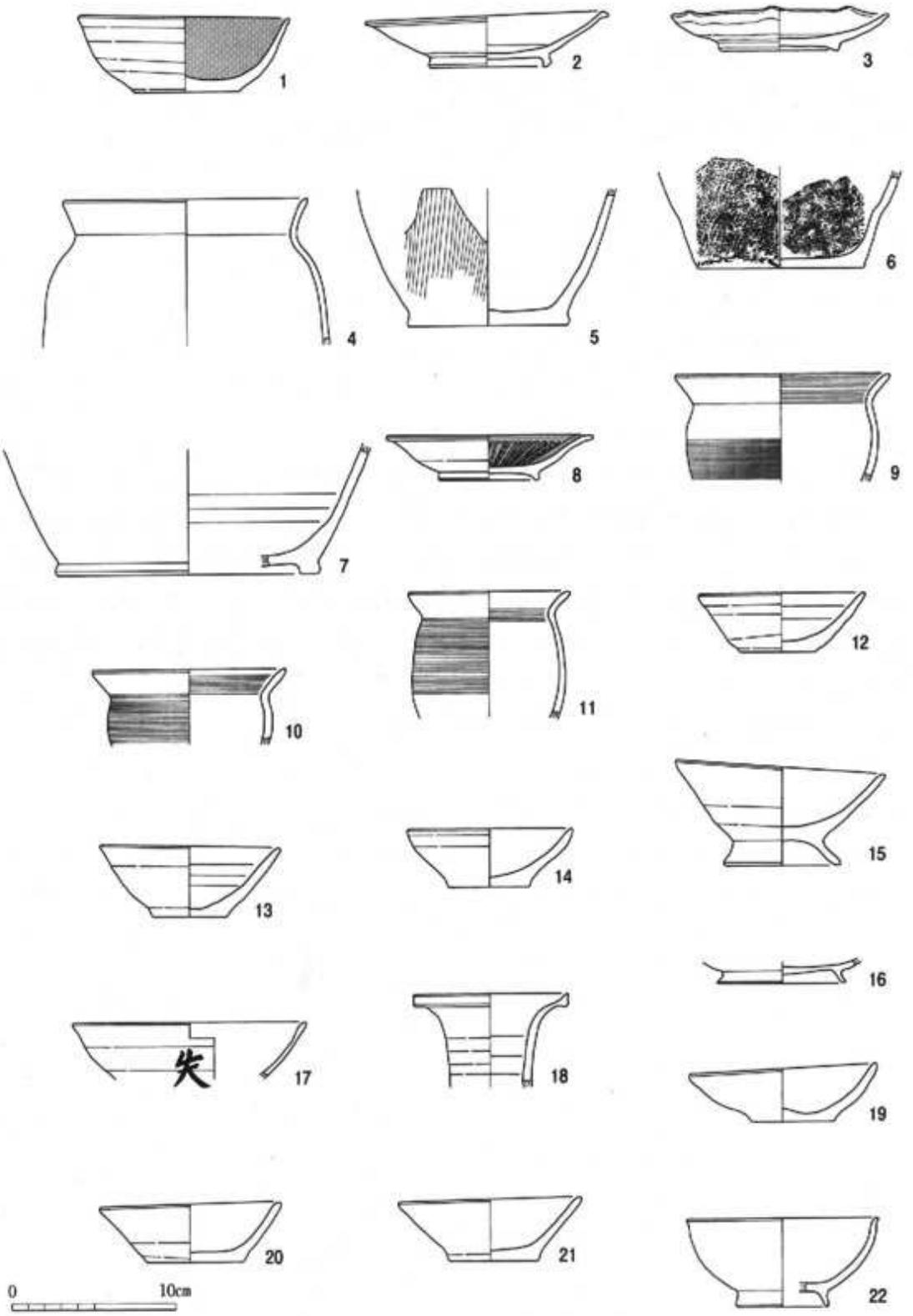
埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行い、Ⅰ～Ⅵに大別したように逆三角堆土と三角

堆土の発達がみられる自然埋没であるが、北壁方向からの流れ込みが多いようである。

竪穴住居址は、ローム層中に構築されていたもので、大きさは東西（340）cm、南北（300）cmくらいであろう。壁は北で確認しただけであるがそれも4cmと低い。周溝は北壁直下と東側で検出した。この周溝により東側の範囲を想定した。床面はほぼ平のタタキ床である。ピットは柱穴に特定できるものはないが、竈左隣のピットからは砥石が出土した。貼床がみられたピットは第20号竪穴住居址の可能性が高いが、帰属住居址がわからないピットばかりである。



第53図　程久保遺跡第20・27号竪穴住居址実測図（1：60）



第54図　程久保遺跡第20・25号竪穴住居址、墓壙1、遺構外出土土器実測図（1：4）

竈は、北壁の東隅際に石組粘土竈が構築されていた。左袖石１点と僅かな粘土が遺存していただけで、竈石は持ち去られている。竈内の焼土化は著しい。

出土した遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器があるが図示できるものはない。破片は土師器の坏類が15点と甕類が10点、須恵器が５点、灰釉陶器が１点である。

第25号竪穴住居址（第４・54・55図、写真53）

尾根の南斜面で重複していた第20・27号竪穴住居址の南に位置するDM－27～29、DN－27～29、DO－27～29、DP－27～29の12グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。住居址南側の多くは開田の折にすでに切り取られていて詳しいことはわからない。

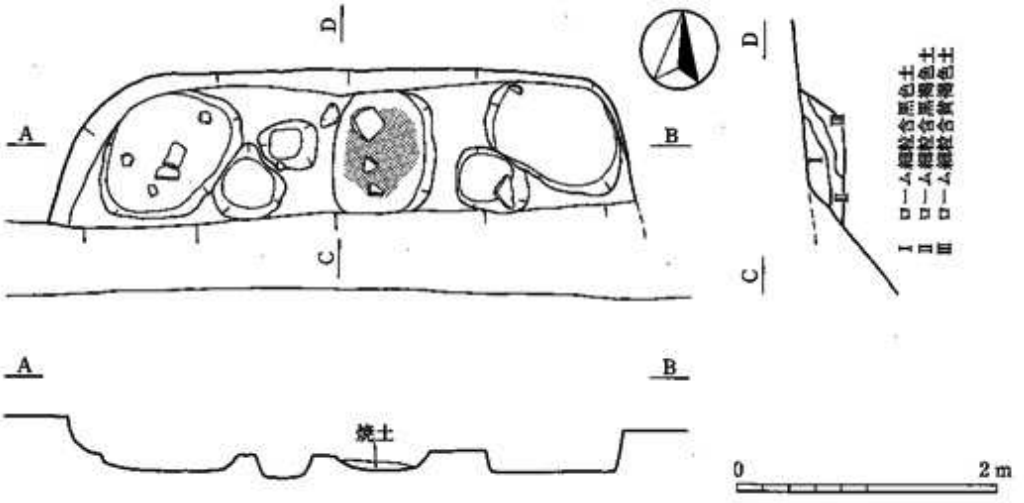
埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行い、Ⅰ～Ⅲに大別したように北壁方向からの流れ込みがみられる自然埋没である。

竪穴住居址は、ローム層中に構築されていたもので、南側の多くは開田工事で切り取られ、北壁際の120cmほどが遺存していただけである。大きさを推測すると東西440cm、南北（440）cmくらいである。東壁はほぼ垂直に立ち上がるが北壁と西壁は緩やかである。壁高は東が８cm、西は26cm、北は29cmである。床面はほぼ平のタタキ床である。ピットは調査できた範囲は狭く柱穴状のものもみられたが特定できない。北東隅と南東隅のピットは規模・深さともほぼ同様であるが性格は不明である。

竈は、北壁のほぼ中央で火床を検出しただけである。竈石の散乱はなく持ち去られている。竈内の焼土化は著しい。

出土した遺物は少ないが土師器・須恵器・灰釉陶器がある。

供膳形態は土師器の皿１点（第54図８）で、煮沸形態は土師器の小形甕３点（９～11）である。８には暗文が施されている。図示できなかった破片は土師器の坏類が25点と甕類



第55図　程久保遺跡第25号竪穴住居址実測図（１：60）

が116点、須恵器が５点、灰釉陶器が５点である。

② 鍛冶址

鍛冶址（第４・44・56図、表４・８、写真55・56）

南斜面の肩部で下方はきつい傾斜になる。第13号竪穴住居址の北に位置しER－41・42、ES－42の３グリッドに跨る。数多い鉄滓が出土したことで鍛冶址と考え調査を進め４基のピットを検出した。ピットには１～４の番号を付した。

遺物はピットを検出するまでは鍛冶址、検出後は鍛冶址ピット１～４で取り上げた。したがって、鍛冶址で取り上げた資料は、鍛冶址ピット１～４のいずれかに係るものであろうが、調査の不手際もあり分けることができない。

鍛冶址の帰属時期を決める手掛りになる遺物の出土は少ないうえに図示できるものはないが、土師器と須恵器の破片がある。破片数を記すと鍛冶址から土師器の坏類が３点、須恵器が５点、鍛冶址ピット１から土師器の坏類が２点、鍛冶址ピット３から土師器の坏類が３点、鍛冶址ピット４から土師器の坏類が１点ある。

鍛冶址が屋外とは考えられないことから、柱穴の検出につとめたが確認するまでに至らず大きな問題をかかえている。調査では傾斜はきつく不安定なうえに下から吹き上げる風に悩まされたが、その吹き上げる風力の活用を考えて場を選定しているように思われた。

ピット検出以前に取り上げた遺物はふいごの羽口の破片１点（第44図11）、鉄滓は91点と小片で2,125.7ｇ、鉄滓の小片と金肌の選別が未だできないでいるものが55.2ｇ、選別した金肌が110.5ｇ（表４・８）である。

鍛冶に直接係る鉄床石などを検出することはできなかった。鍛冶址ピット１・２・４からも金肌が出土していることで、鍛造が行われた遺構であると考えている。

鍛冶址ピット１

壁の一部が鍛冶址ピット３と重複するが、平面形は72×69cmの不整円形で深さは22cmである。

出土した遺物は鉄滓と金肌がある。

鉄滓は87点と小片で3,565.0ｇ、水洗いで金肌を採集したが鉄滓の小片と未だ選別できないでいるものが1,525.0ｇ、選別した金肌は1,245.0ｇ（表４・８）である。

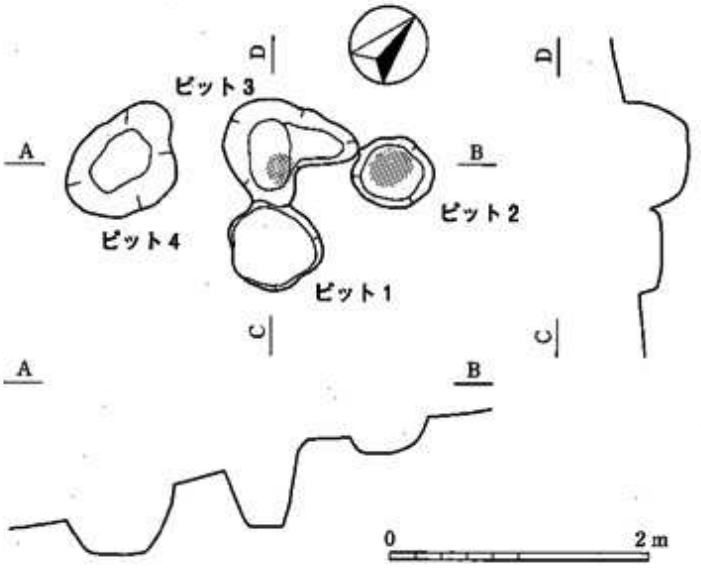
鍛冶址ピット２

平面形は65×56cmの円形で深さは10cmで、底面は焼土化している。

出土した遺物は土製品、鉄滓と金肌がある。

土製品は焼成された粘土が小さく破損したものでふいごの羽口の残片と思われる。

鉄滓は43点と小片で2,566.0ｇ、水洗いで金肌を採集したが鉄滓の小片と未だ選別できないでいるものが312.8ｇ、選別した金肌は152.2ｇ（表４・８）である。



第56図　程久保遺跡鍛冶址ピット1～4実測図（1：60）

鍛冶址ピット3

壁の一部が鍛冶址ピット1と重複し、本址はピット2基が重複しているものと思われるもので、平面形は70×（53）cmの楕円形で深さは40cmと、（50）×45cmの楕円形で深さは14cmである。深いピットの壁と底面は焼土化している。

出土した遺物は鉄滓がある。

鉄滓は3点で48.4gである。

鍛冶址ピット4

平面形は101×75cmの不整楕円形で深さは62cmである。

出土した遺物は鉄滓と金肌がある。

鉄滓は小片が7.8g、金肌は137.0g（表4・8）である。

③　墓壙

墓壙1（第4・47・54図、写真54）

尾根の南斜面で第16号竪穴住居址と重複している。EE－34・35グリッドで検出した。第16号竪穴住居址の床面を掘り込んでいることから本址が新しく第16号竪穴住居址が旧い。大きさは長軸207cm、短軸100cmの隅丸長方形である。深さは第16号竪穴住居址床面からは（26）cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。遺物は北側からの出土であるが底面より数cm浮いている。埋中には比較的大きな礫が入っていたが南側に多い。

出土した遺物は全て土師器で、坏3点（第54図12～14）、碗1点（15）がある。4点全ての内・外面に炭化物の付着がみられる。図示できなかった破片は坏類が5点ある。

④　遺構に伴わない遺物

遺構に伴わない遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・鉄製品がある。

土師器の坏と碗で５点（第54図17、19～20）、緑釉陶器は碗の低部破片１点（16）、灰釉陶器は壺１点（18）である。17の外面には「失」の墨書がある。図示できなかった破片は土師器の坏類が145点と甕類が17点、須恵器が18点、灰釉陶器が64点である。

小破片１点だけで図示できなかったが、胎土・整形・焼成からみて内耳土器と思われるものがある。

鉄製品の鎌１点（第44図６）、鉄鏃１点（９）、刀子？ ２点（表８）は整理作業の不手際で、帰属する住居址がわからない状態になりここで記載しておきたい。破損が著しく図示できなかった機種不明の板状のもの１点（表７）があるが、帰属時期を明確にできない。

4　まとめ

縄文時代と平安時代の複合遺跡であることが明らかになった。

縄文時代は中期中葉新道期の竪穴住居址４軒を検出したが重複のない単純集落址である。第23号竪穴住居址で検出した黒曜石の原石と砕石のデポは好資料である。

平安時代は竪穴住居址24軒、建物址１棟、鍛冶址１、墓壙１基と多い。住居址は黒色土～ローム層中に構築されていたうえに重複するものがあり、また、傾斜が強いことから南側がすでに流失しており不明瞭な点は多いが、鍛冶址に関連する資料の出土には目を引くものがある。鍛冶遺構についてはＶ章の結語でふれてみたいと思う。

ここでは、縄文時代の集落址について現場をはじめ整理作業の折々に感じたことを述べまとめとしたい。

検出した新道期の集落址は傾斜のきつい南斜面を居住域に選定した分村的な小集落址である。西から第23・７・21・14号竪穴住居址の４軒であるが、全ての住居址を露呈できたと思っている。第21号竪穴住居址の柱穴は２基並んでおり同心円状建て直しは考えられるが、住居址の重複はみられなかった。出土した遺物は該期としては少なく、短期間の集落址のように思われる。

村内には該期の母村的な大石遺跡があり馬蹄形集落址が形成されていたが、本集落址は仮に長期間継続しても馬蹄形になるような住居址の配置になく、すでに集落形成当初にその違いが見受けられる。この違いが何に起源しているのか不明であるが、最大の要因は尾根上の平坦部の利用方法にあるように思われる。いずれにしろ大きな課題が提示されたものと思っている。

Ⅳ　恩膳西遺跡

1　位置と環境

恩膳西遺跡（原村遺跡番号23）は、長野県諏訪郡原村柏木の北東に位置する。

当地方における遺跡は、縄文時代は尾根上の平坦部に平安時代は緩やかな南斜面の日溜まりに立地することが多い。本遺跡はその両時代の条件にぴったりあてはまり遺構の埋没が考えられるが、「Ⅰ　発掘調査の経過」で述べたように遺跡の範囲が不明瞭であったため、村教育委員会は平成３年11月７・８・19日に踏査を実施した。桑林・荒れ地・山林が含まれており遺物を採集することができないところもあったが、今までに行われてきた踏査、発掘調査の成果と地形を参考に東西100m、南北110mくらいの範囲を考えた。

このあたりは八ケ岳西麓のほぼ中央に位置し、当地方に特有な東西に細長くのびる大小さまざまな尾根がみられるが、それらの尾根筋は西方３kmほど先でフォッサマグナの西縁である糸魚川―静岡構造線の断層崖に沿って北へ流れる宮川により断ち切られている。

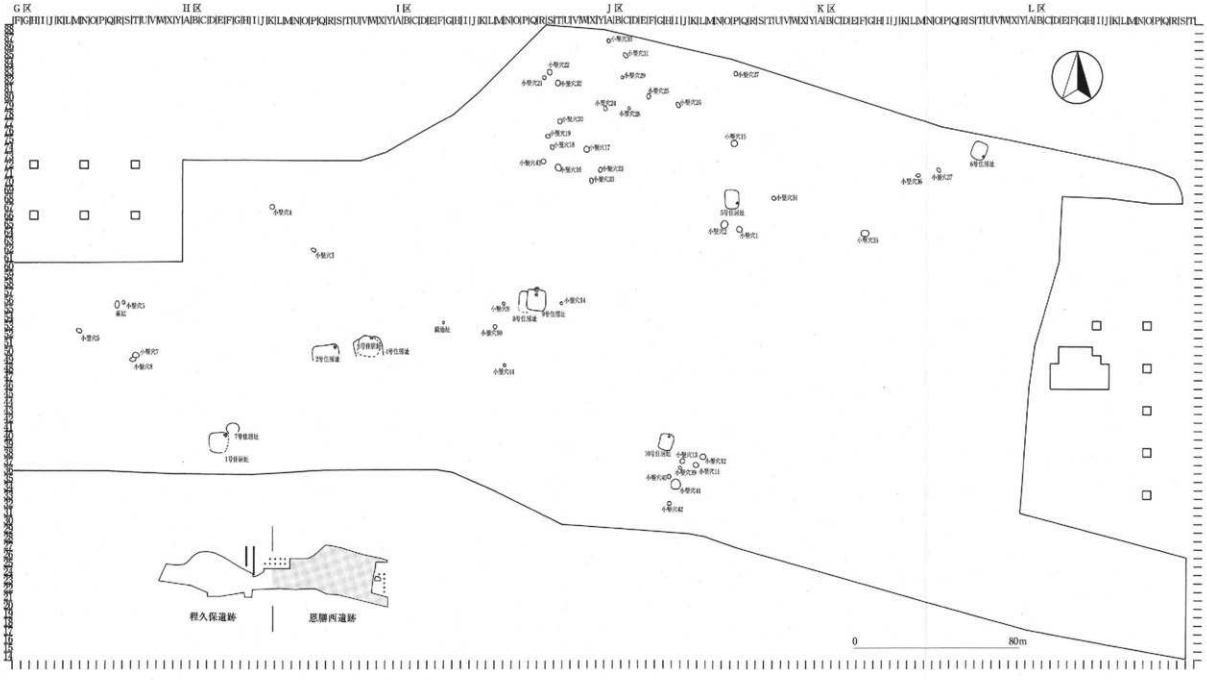
八ケ岳西南麓一帯の尾根上から南斜面には、第３図および表３に示したように縄文時代を中心とする大小様々の遺跡が分布し、その密度は極めて高い地域である。

その一つである本遺跡は、裾野の２kmほど上から開析のはじまる前沢川左岸に発達した尾根上から南斜面に立地する。旧石器時代・縄文時代と平安時代が複合する遺跡であるが、標高は980m前後を測り、地目は山林・普通畑・桑畑および水田で地味はよい。山林・普通畑および桑畑は大きな破壊はなく保存状態は比較的良かった。水田造成は昭和30年頃と聞いているが、重機が使用されたようであり破壊は著しかった。

旧石器時代は、尾根上に位置しその立地は平成８年度に緊急発掘調査を実施した弓振日向遺跡（原村遺跡番号78）に酷似する。前沢川をはさんだ対岸には昭和54年度に緊急発掘調査を実施した向尾根遺跡（原村遺跡番号３）がある。

縄文時代は、尾根幅は100mと広く立地条件に恵まれているようにみえたが、尾根上は緩やかであるが北西方向に傾斜し住居址を検出することはできなかった。南斜面で前期前葉の住居址１軒を検出しただけである。

平安時代は、南斜面の傾斜は強いが、南斜面と尾根上に集落が展開し前章の程久保遺跡とは同一であり、当地方における典型的な集落形態を示すものである。



第57図　恩勝西遺跡遺構配置図

2　歴史的環境

本遺跡が発見されたのはそう古いことではなく、昭和54年度に長野県教育委員会が実施した八ケ岳西南麓遺跡群分布調査で発見された。

恩膳西遺跡については『原村誌　上巻』に次のような記載がある。全文を紹介しておきたい。

恩膳西遺跡（柏木）

八ッ手区の西方に位置する遺跡で、昭和54年度分布調査で確認したものである。縄文時代中期の土器破片と石鏃を僅かに採集してはいるが、遺物の散布範囲を明確にすることができない状態にあり八ケ岳山麓の縄文時代中期の遺跡としては小規模なものと思われる。その立地条件からみて著名な恩膳遺跡の範囲内ないしは強い関係を持つ遺跡と考えておきたい。

その後、昭和62年度にライスセンターの建設（原村農業共同組合、現在は諏訪みどり農業共同組合）が持ち上がり、事前に実施した遺跡の確認調査（第１次発掘調査）では縄文時代の土器破片が出土し、引き続き行ったライスセンター建設に先立つ緊急発掘調査（第２次発掘調査）では、縄文時代早期と中期の土器破片と石器の出土はあったが遺構を検出するまでに至らなかった。平成５年度に本調査である県営圃場整備事業恩前地区に先立つ緊急発掘調査（第３次発掘調査）を実施している。

本調査終了後の平成６年度に堆肥センター建設（諏訪みどり農業共同組合）に先立つ緊急発掘調査（第４次発掘調査）を実施したが、遺構を検出することはできなかった。

なお、本遺跡名は「恩膳西」であり、県営圃場整備事業は「恩前」で違う漢字を当てている。恩膳西遺跡は、東に隣接する恩膳遺跡とは別遺跡であるために使用した名称であるが、この恩膳遺跡は大正13年に刊行された『諏訪史　第一巻』に、「原村八ッ手字恩膳遺跡」の記述があることから「恩膳」の漢字を当て遺跡名としたものである。

3　遺構と遺物

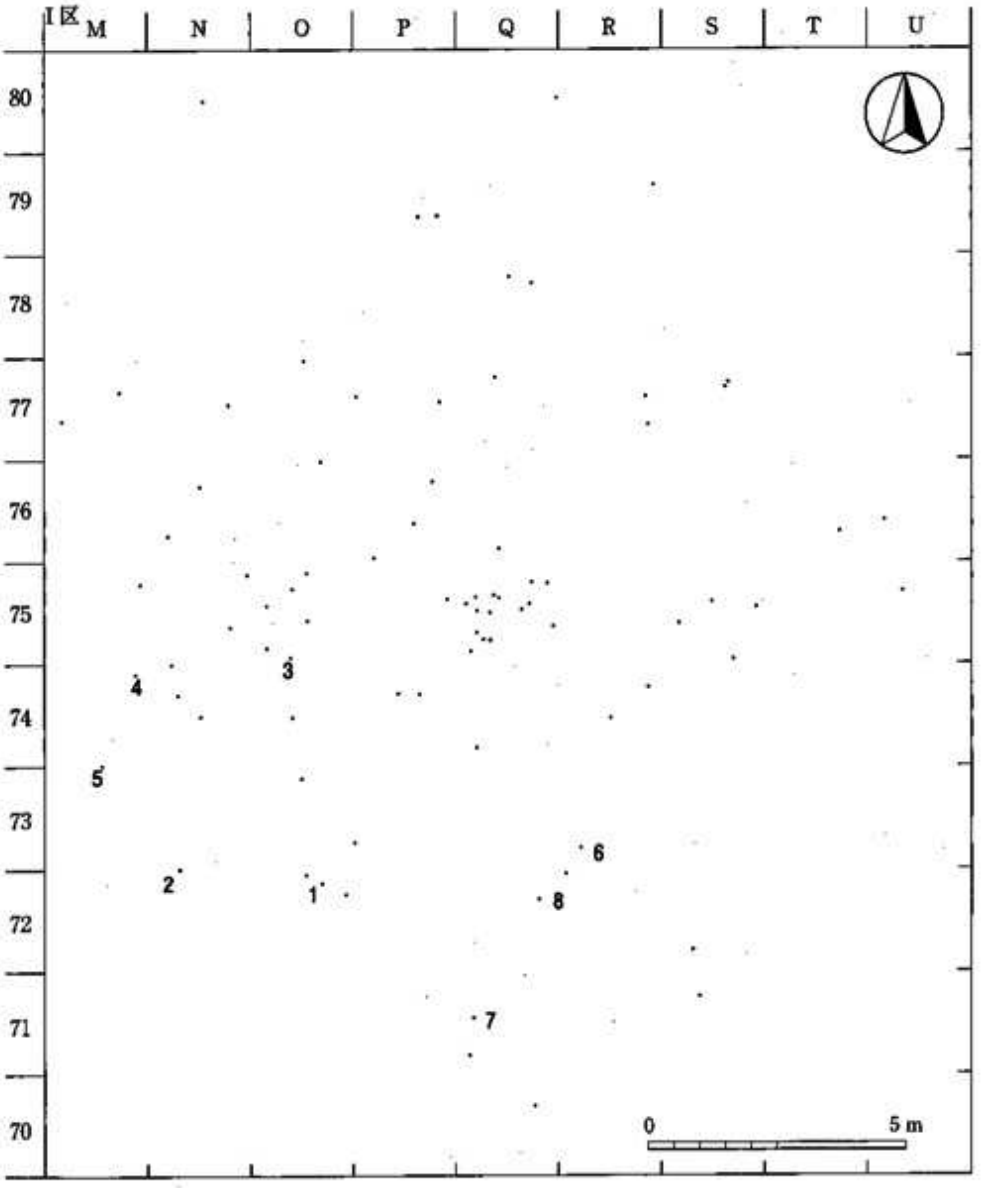
発掘調査の結果、旧石器時代・縄文時代・平安時代が複合する遺跡であることが判明した。

旧石器時代は、遺物の集中する個所を調査したが、石器の数は少ない。

縄文時代は、早期・前期・中期・後期の土器破片が僅かに出土し、南斜面で前期中葉の竪穴住居址１軒を検出した。尾根上には小竪穴が点在していたが遺物を伴出したものは少

なく帰属時期が不明なものばかりである。形態からみて陥し穴と思われるものもある。

平安時代は、竪穴住居址９軒と墓壙１基を検出したが住居間は離れている。程久保遺跡同様に鍛冶址関連資料は注目すべきものがある。



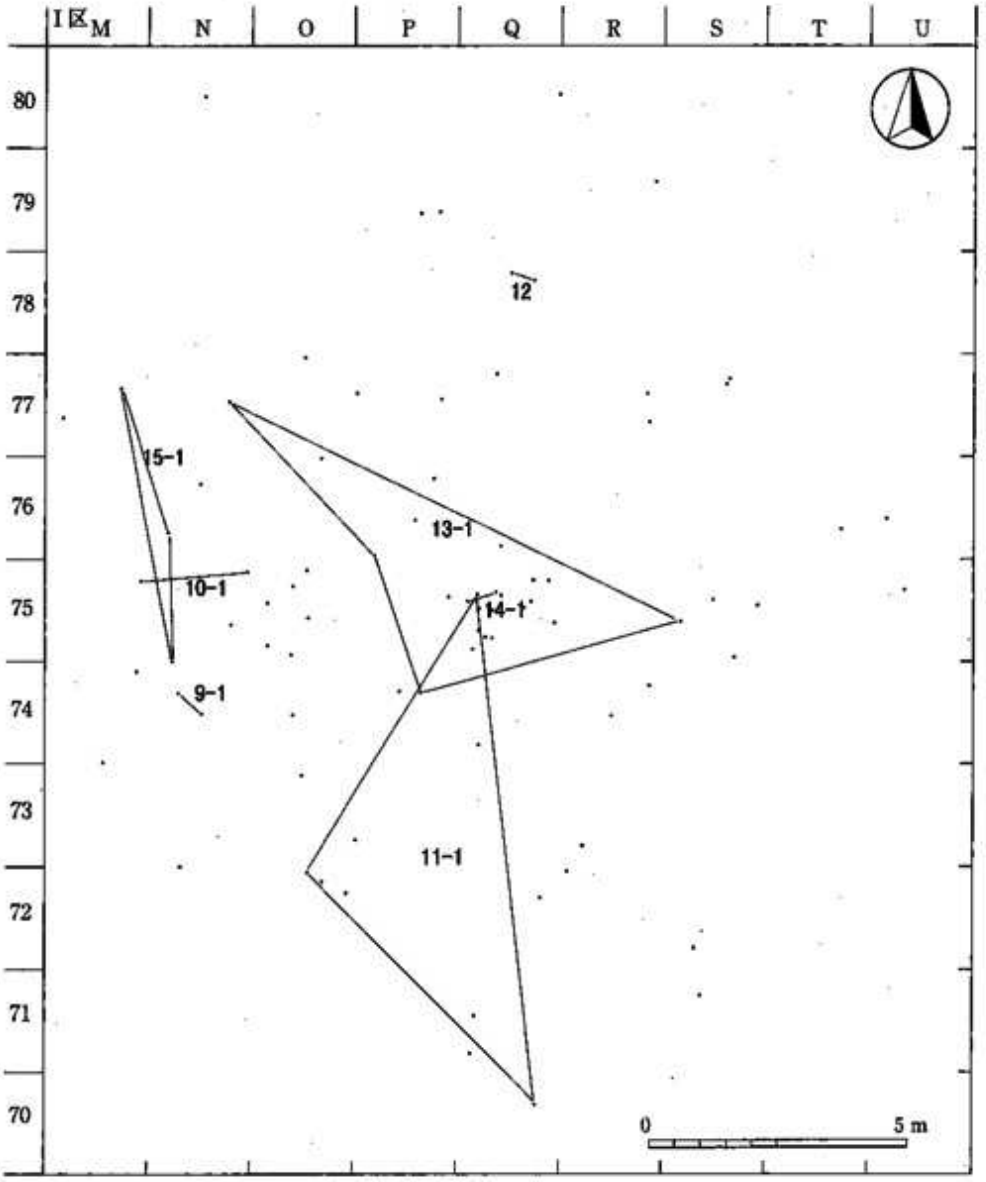
第58図　恩賜西遺跡石器分布図

（1） 旧石器の遺物

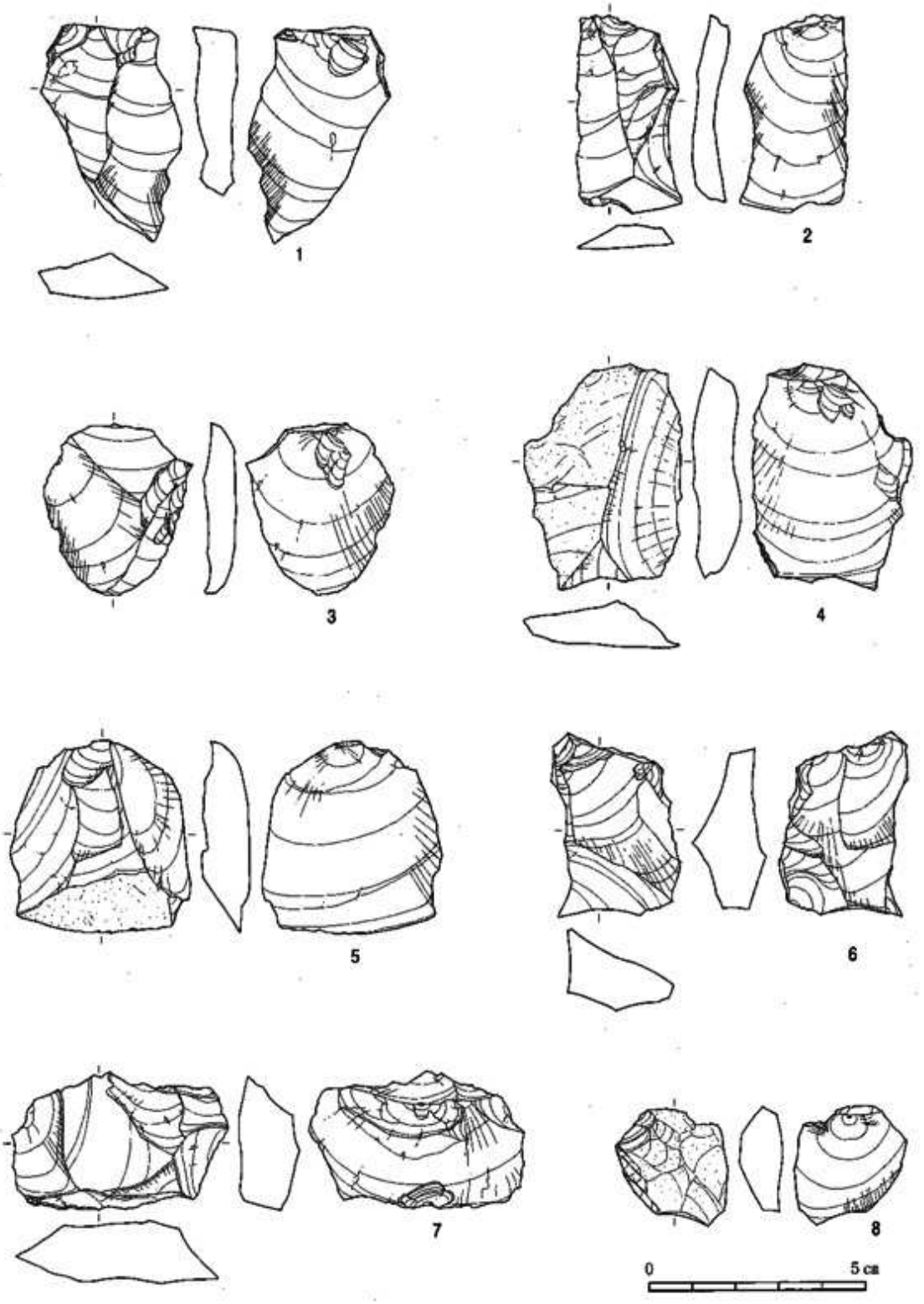
石器の出土状態（第58図、写真60）

縄文・平安時代の遺構検出作業中にソフトローム中から黒曜石製の剥片が出土した。その出土地点を中心に確認調査を行いソフトローム層中から剥片と砕片の出土を確認した。

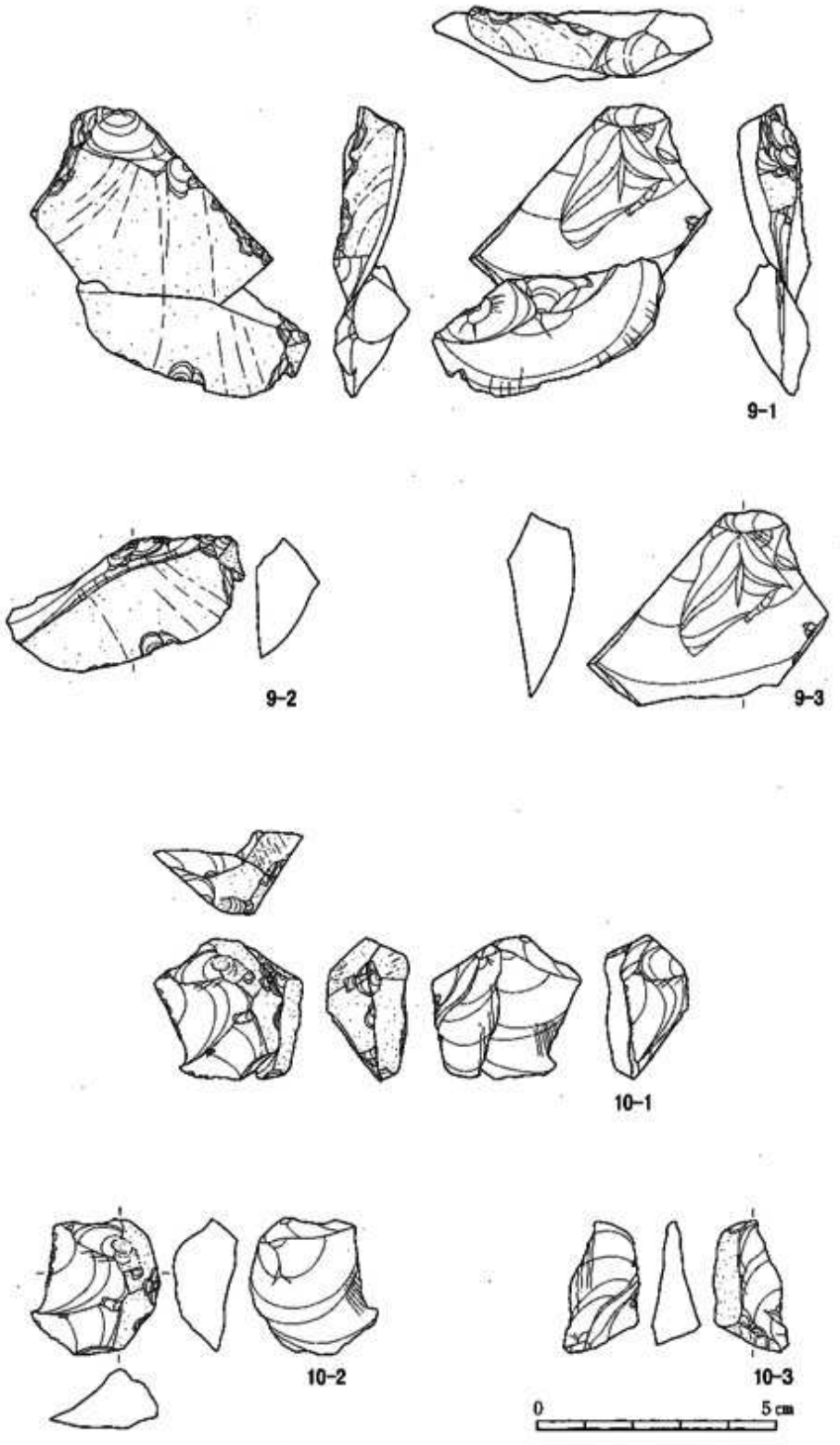
調査の対象は18×22mの範囲で、石器の分布状態は第58図に示したとおりである。



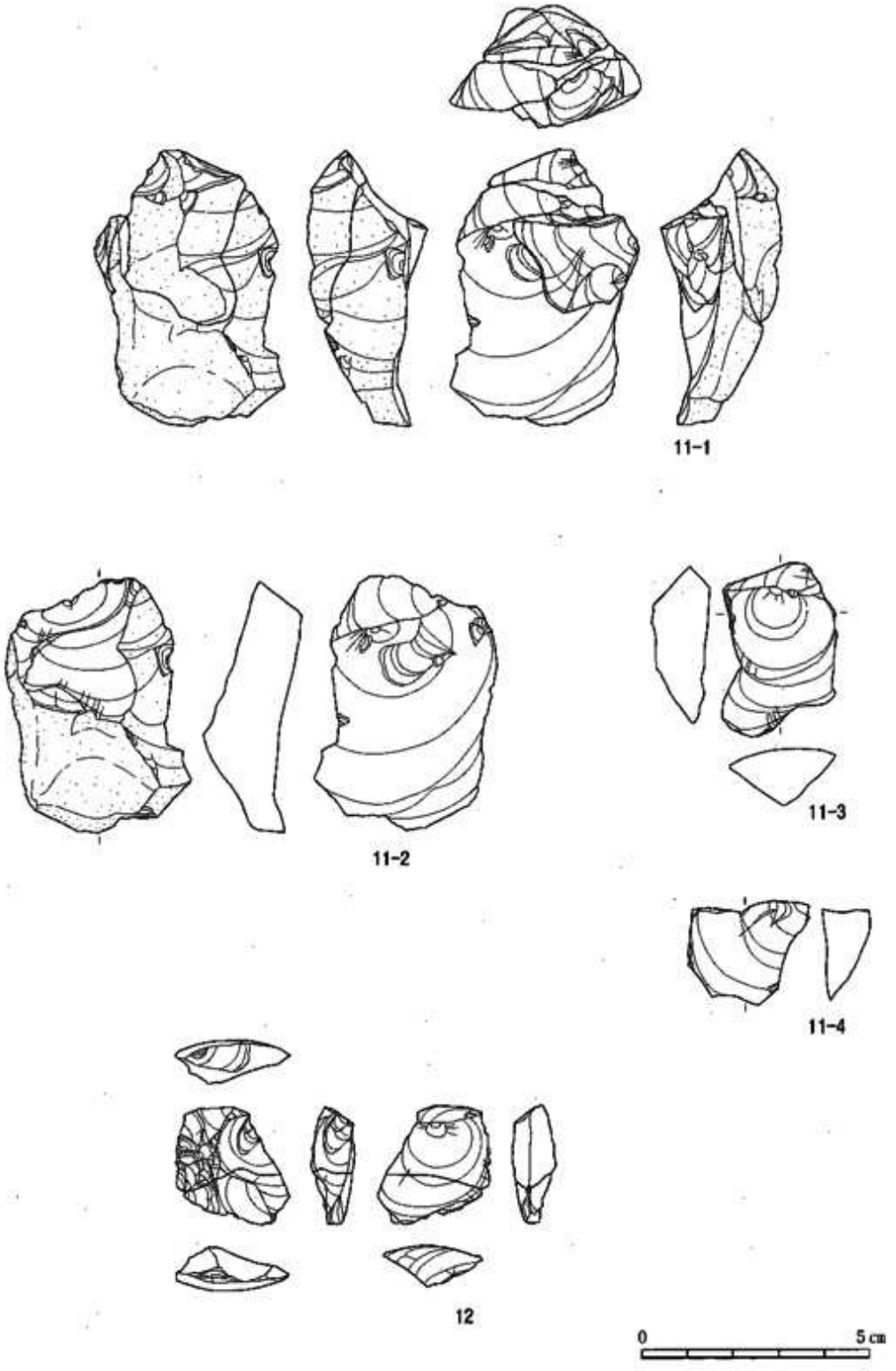
第59図　恩勝西遺跡石器接合関係図



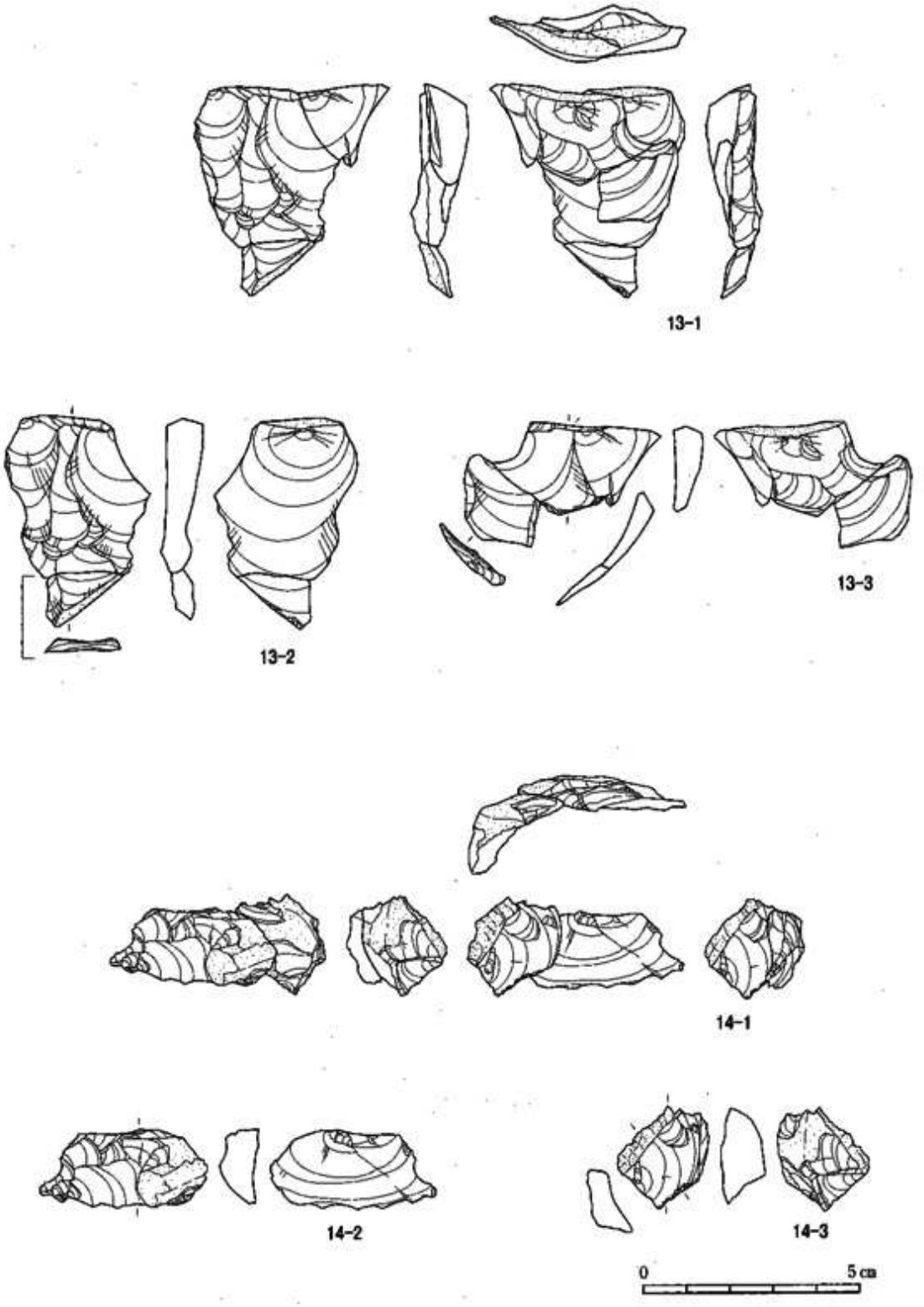
第60図　恩勝西遺跡石器実測図その1（2：3）



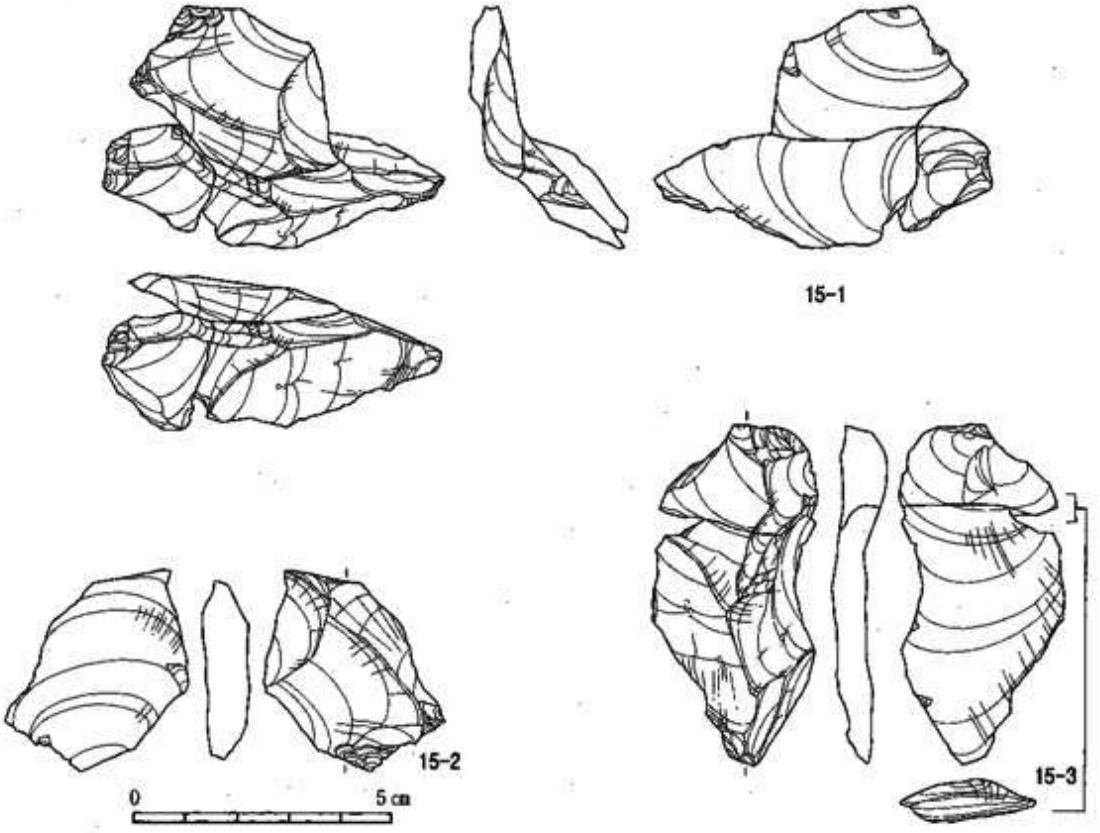
第61図　恩賜西遺跡石器実測図その２（２：３）



第62図　恩勝西遺跡石器実測図その３（２：３）



第63図　恩勝西遺跡石器実測図その4（2：3）



第64図　恩勝西遺跡石器実測図その５（２：３）

石器（第58～64図）

時期確定ができる定形的な石器はないが、剥片24点（第60～64図）、砕片57点が出土した。接合したものは７個体あるが、９・10・12・14は２点、11・15は３点、13は４点が接合したものである。

（２）　縄文時代の遺構と遺物

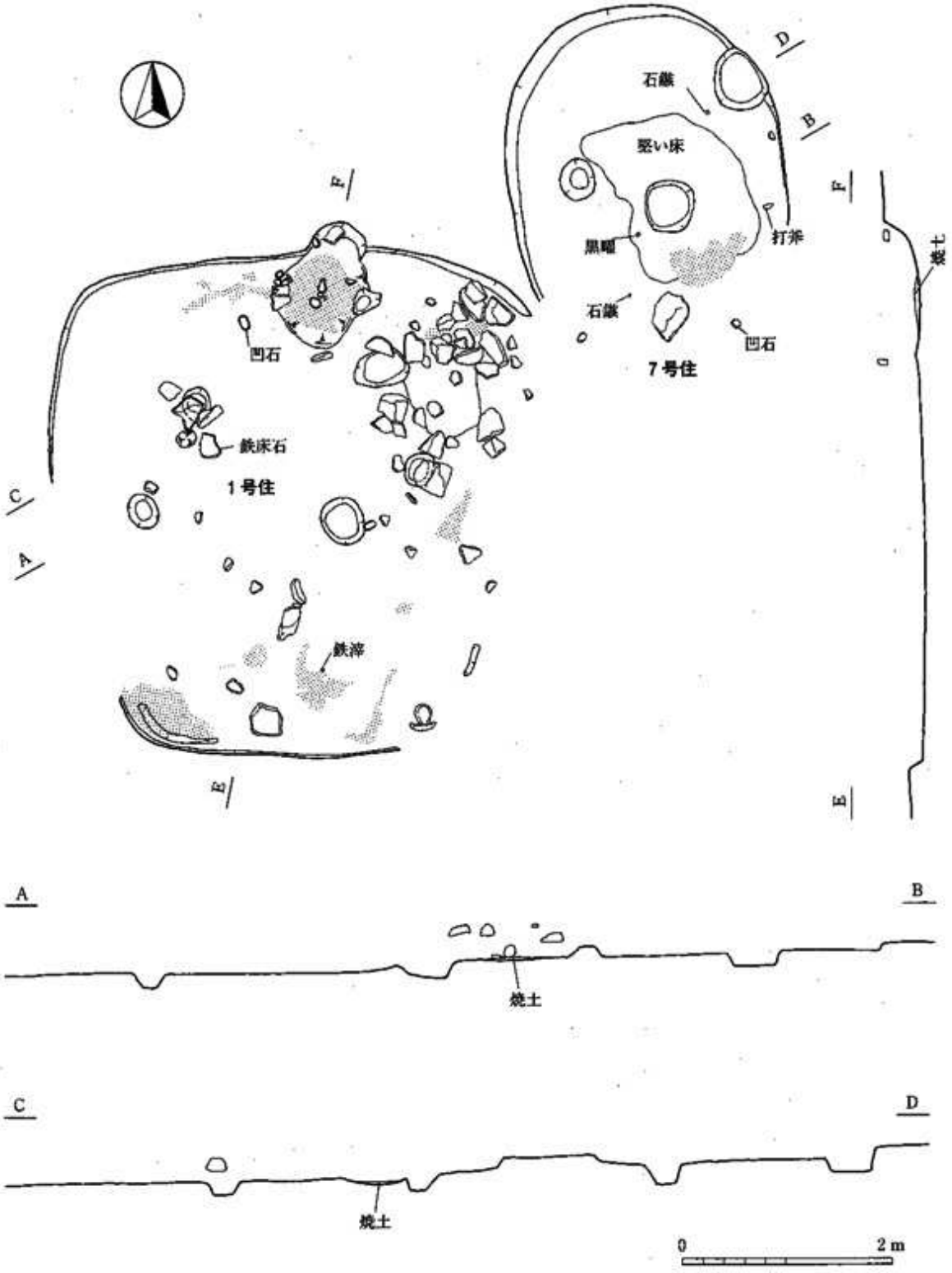
検出した縄文時代の遺構は、竪穴住居址１軒と小竪穴44基である。

小竪穴は、遺物が伴出したことで帰属時期を明らかにできたものは少ないが、未だ分析には手を付けることができないでいるため、便宜的に全ての小竪穴をここで記述しておきたい。

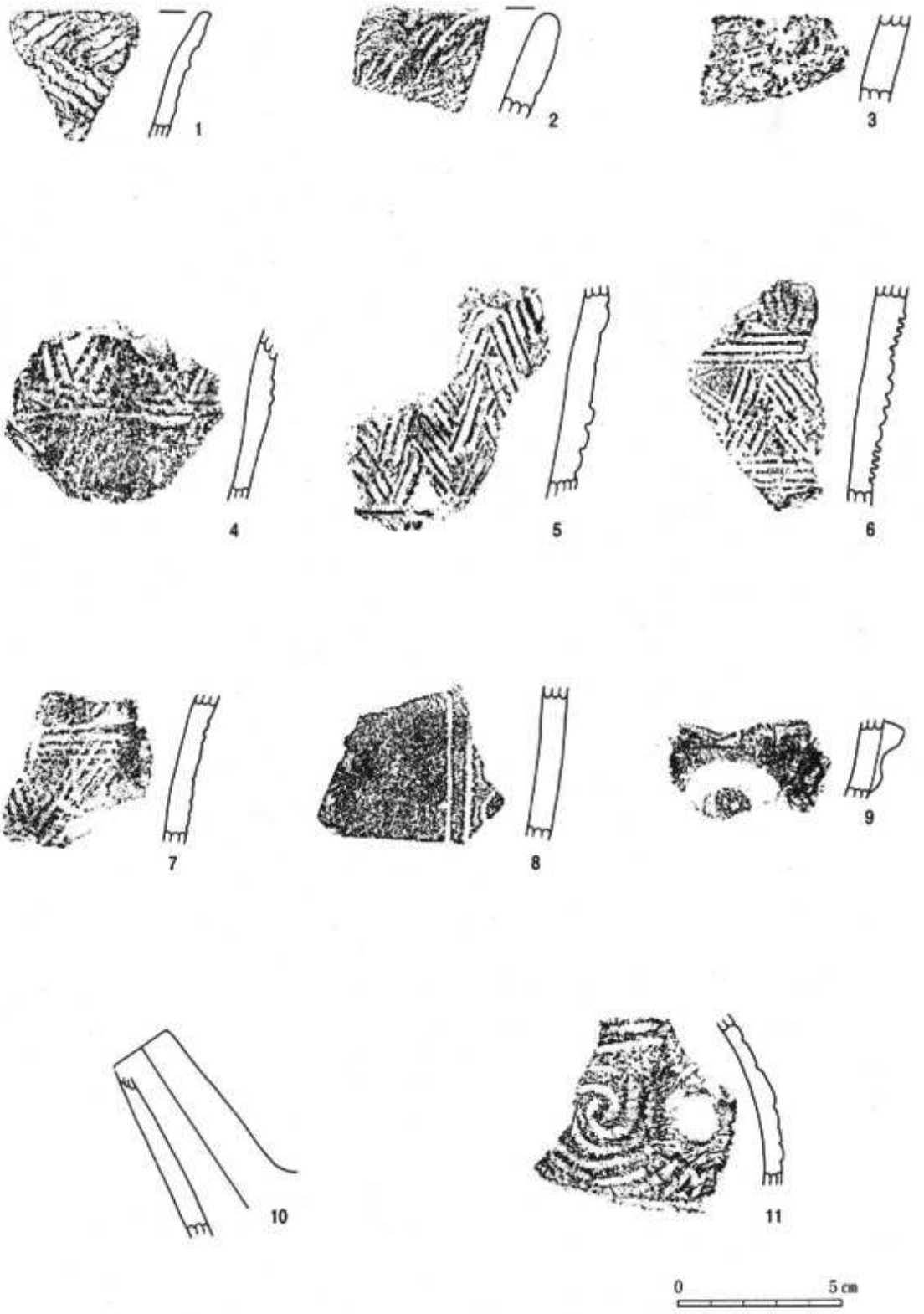
①　住居址

第７号竪穴住居址（第57・65・66図、写真61・62）

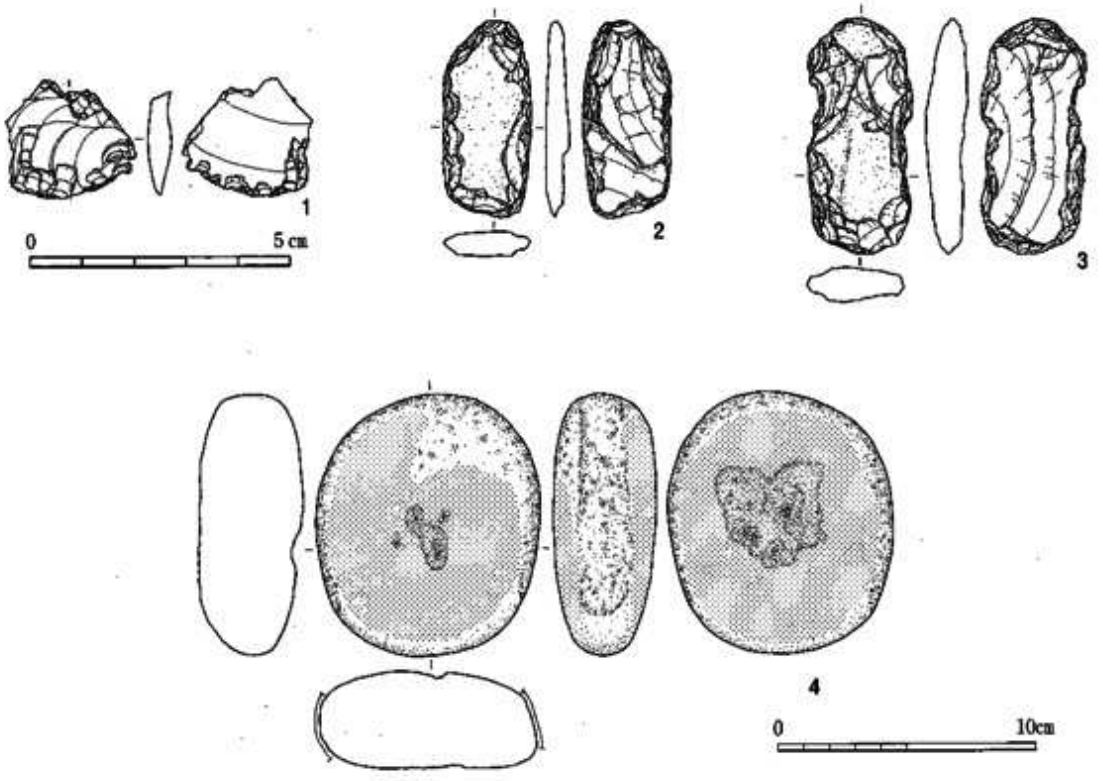
尾根の南斜面で遺跡の西端にあたるHF－40・41、HG－40・41の４グリッドに跨る楕



第65図　恩勝西遺跡第1・7号竪穴住居址実測図（1：60）



第66図　恩勝西遺跡第７号竪穴住居址、遺構外出土土器拓影・実測図（１：２）



第67図　恩膳西遺跡第７号竪穴住居址出土石器実測図（1　2：3、2～4　1：3）

円形を呈する竪穴住居址である。傾斜が強くすでに南側は流失しており明確なことはわからない。

埋土の観察は、東西方向で行い逆三角堆土と三角堆土の発達がみられた自然埋没であるが、北壁方向からの流れ込みが多いようである。

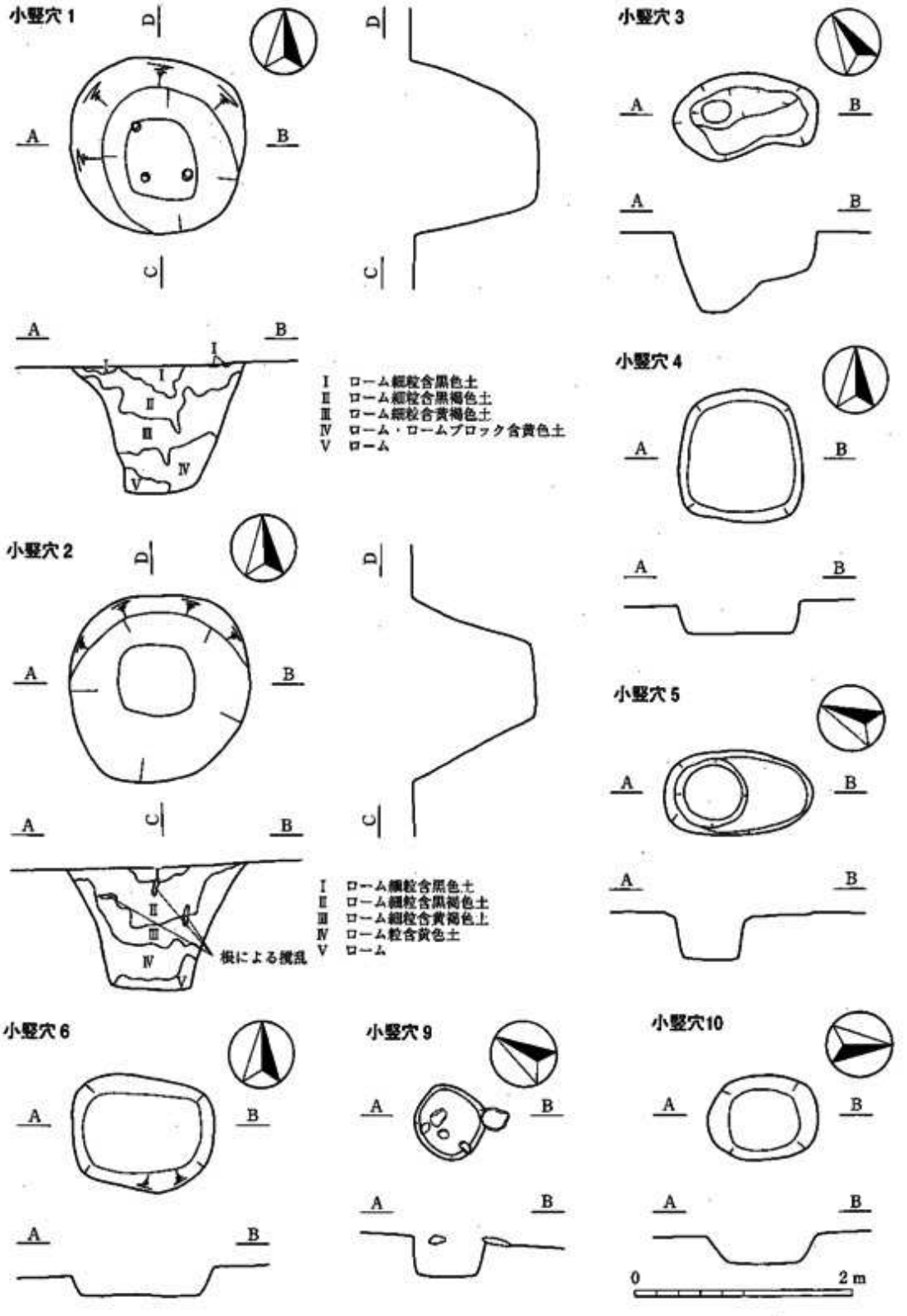
竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、大きさは長径（320）cm、短径263cmくらいである。壁は緩やかに立ち上がりあまり良くない。壁高は東が８cm、西は８cm、北は24cmである。床面はほぼ平で部分的にタタキ床もみられたが総体的には良くない。ピット３基を検出したが柱穴に特定できるものはない。炉南西の床面には作業台と思われる扁平石が据え置かれていた。

炉址は、中央やや南よりに地床炉がある。

出土した遺物は、少ないが土器と石器がある。

土器は、縄文時代前期中葉の小さな破片が６点（第66図１～３）だけである。出土数が少ない上に小破片ばかりで詳しいことはわからないが、床面から出土したことを重視し前期中葉の住居址と考えた。なお、やはり小破片であるが中期初頭の土器破片３点が出土している。

石器は、スクレーパー１点（第67図１）、打製石斧２点（２・３）、凹石・磨石１点（４）、



第68図　恩勝西遺跡小竪穴1～6・9・10実測図（1：60）

前記した台石１点、黒曜石の剥片29点である。

② 小竪穴

小竪穴１（第57・68図）

尾根上の平坦部で平安時代の第５号竪穴住居址の南方に位置するJP－64・65、JQ－64・65グリッドで検出した。平面形は170×162cmの円形で深さは116cmである。埋土はⅠ～Ⅴ層に大別したように自然埋没である。壁はロームで北壁は壁土が崩落しているようであるが、立ち上がり普通で底はほぼ平である。逆茂木を立てた小穴は検出できなかったが陥し穴と考えたいものである。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴２（第57・68図、写真64）

尾根上の平坦部で小竪穴１の北西に隣接するJN－65、JO－65グリッドで検出した。平面形は172×168cmの円形で深さは101cmである。埋土はⅠ～Ⅴ層に大別したように自然埋没である。壁はロームで北壁は壁土が崩落しているようであるが、立ち上がりは普通で底はほぼ平である。小竪穴１に酷似するもので、逆茂木を立てた小穴は検出できなかったが陥し穴と考えたいものである。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴３（第57・68図）

尾根上の平坦部で平安時代の第２号竪穴住居址の北方に位置するHP－62グリッドで検出した。平面形は135×70cmの楕円形で底は２段になるが深さは深いところは73cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかである。

出土した遺物は、縄文時代の石器と平安時代の土師器がある。図示してないが縄文時代は黒曜石製の石鏃１点、平安時代は土師器の坏類破片１点である。

小竪穴４（第57・68図）

尾根上の平坦部で小竪穴３の北西方に位置するHK－67グリッドで検出した。平面形は123×112cmの円形で深さは28cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴５（第57・68図）

尾根上の平坦部で小竪穴４の南西方に位置するGR－56、GS－56グリッドで検出した。

平面形は140×80cmの長楕円形で北側は柱穴状になり深さは42cmである。壁はロームで立ち上がりは良く底は2段になるがいずれも平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴6（第57・68図）

尾根の肩部で小竪穴5の南西方に位置するGM－52・53、GN－52グリッドで検出した。平面形は132×105cmの楕円形で深さは22cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴7・8

小竪穴7（第57・69図）

尾根の肩部で小竪穴5の南方に位置するGT－49・50グリッドで検出した。小竪穴8に隣接する。平面形は162×110cmの楕円形で深さは28cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底はやや丸い船底状である。小竪穴8に酷似している。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴8（第57・69図）

尾根の肩部で小竪穴7の南に位置するGS－49、GT－49グリッドで検出した。小竪穴7と隣接する。平面形は165×91cmの楕円形で深さは24cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底はやや丸い船底状である。小竪穴7に酷似している。

出土した遺物は皆無である。

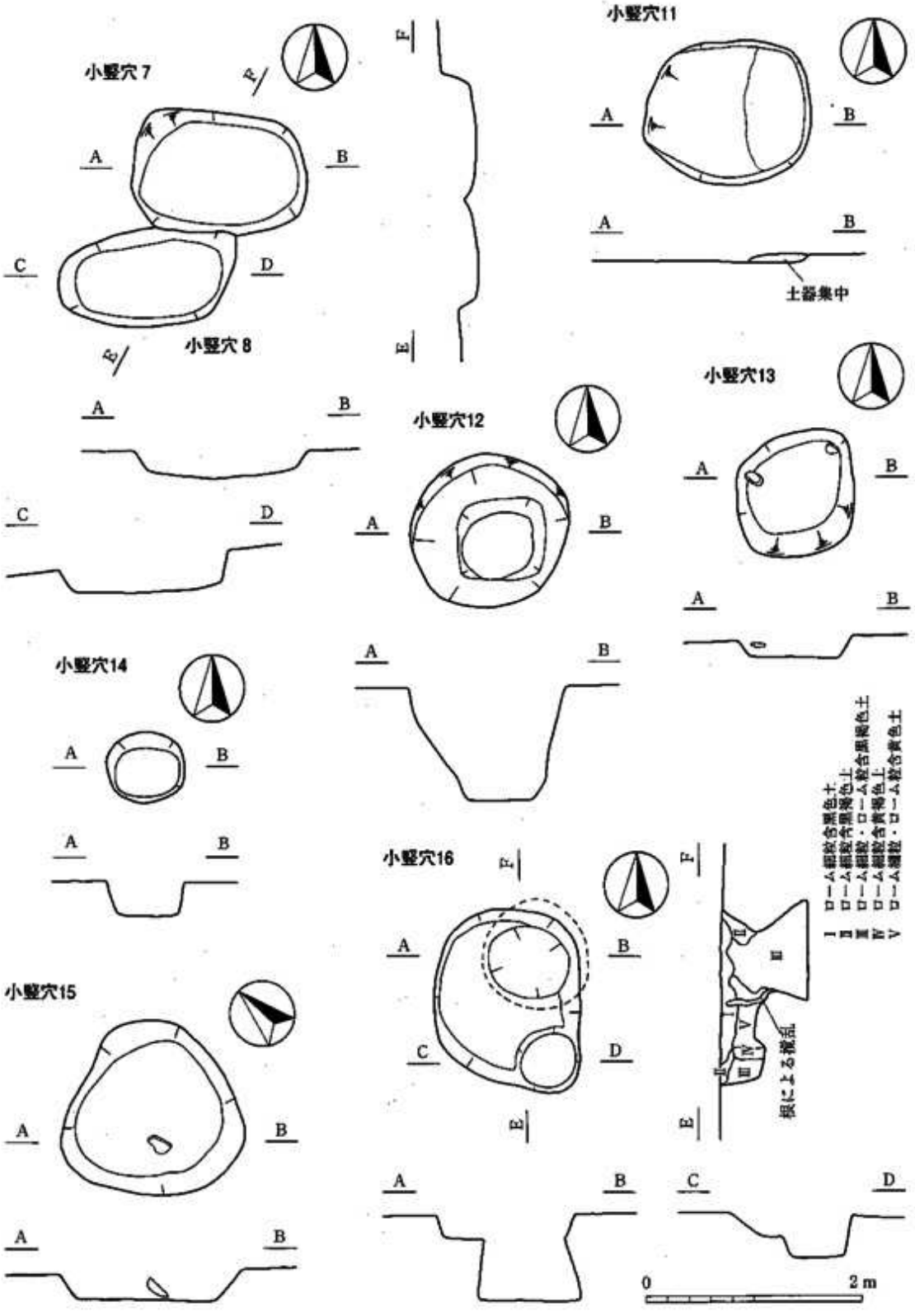
小竪穴9（第57・68・73図）

尾根上の平坦部で平安時代の第8・9号竪穴住居址の西方に位置するIM－55・56、IN－55・56グリッドで検出した。平面形は90×65cmの円形で深さは35cmである。壁はロームで立ち上がり良く底は平である。南壁上には安山岩の平板石が据置かれていた。

出土した遺物は、縄文時代の磨石1点（第73図1）である。

小竪穴10（第57・68図）

尾根上の平坦部で小竪穴9の南方に位置するIL－53、IM－53グリッドで検出した。平面形は101×78cmの楕円形で深さは27cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。



第69図　恩田西遺跡小竪穴7・8・11～16実測図（1：60）

出土した遺物は、縄文時代の石器と平安時代の土師器・灰釉陶器がある。図示してないが縄文時代は黒曜石の剥片１点、平安時代は破片ばかりであるが土師器の坏類が６点と甕類が１点、灰釉陶器が１点である。

小竪穴11（第57・69・86図、写真63・65）

尾根の緩やかな南斜面で平安時代の第10号竪穴住居址の南東方に位置するJK－36・37、JL－36・37グリッドで検出した。すでに東壁は流失していたが、平面形は（150）×135cmの楕円形で深さは４cmと浅い。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。東側の１/３くらいから平安時代の土師器が多量に出土した。打ち砕いた土師器を廃棄したと思われる状態であるが、このような事例は聞いていない。

出土した遺物は平安時代の土師器があり、復原できたものは坏７点（第86図５～11）と碗１点（12）である。図示できなかった破片は1,866点と多いが同個体と思われるものがある。細かく打ち砕かれたもので復原できないでいる。全て供膳形態であり煮沸形態の甕などの破片は１点もない。

小竪穴12（第57・69図、写真63）

尾根の緩やかな南斜面で小竪穴11の北東方に位置するJL－37・38、JM－37・38グリッドで検出した。平面形は150×143cmの円形で深さは97cmである。壁はロームで北壁は壁土が崩落しているようであるが、立ち上がりは普通で底はほぼ平である。小竪穴１・２に酷似するもので、逆茂木を立てた小穴は検出できなかったが陥し穴と考えたいものである。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴13（第57・69図、写真63）

尾根の緩やかな南斜面で小竪穴11の西方に位置するJJ－37グリッドで検出した。平面形は113×110cmの方形で深さは16cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。検出面で安山岩の礫が出土した。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴14（第57・69図）

尾根上の平坦部で平安時代の第８・９号竪穴住居址の東方に位置するIT－55・56グリッドで検出した。平面形は74×65cmの楕円形で深さは28cmである。壁はロームで立ち上がりは良く底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴15（第57・69図）

尾根上の平坦部で平安時代の第５号竪穴住居址の北方に位置するJP－74・75グリッドで検出した。平面形は165×158cmの不整形で深さは33cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。安山岩の礫が出土したが底面からは僅かに浮いている。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴16（第57・69図）

尾根上の平坦部で小竪穴14の北方に位置するIT－71・72グリッドで検出した。検出時点では１基と考えたが、小竪穴３基が重複しているが詳しいことはわからない。埋土はⅠ～Ⅴ層に大別したように自然埋没である。

大きな小竪穴の平面形は164×136cmの楕円形で深さは32cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平でやや西に傾いている。

出土した遺物は皆無である。

袋状の小竪穴の平面形は76×64cmの円形で深さは79cmである。壁はロームで袋状になるが壁土の崩落はみられない。底は平で底面が最大径は100cmである。

出土した遺物は皆無である。

小さな小竪穴の平面形は62×62cmの円形で深さは41cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴17（第57・70図）

尾根上の平坦部で小竪穴16の北東方に位置するIW－74、IX－74グリッドで検出した。平面形は130×105cmの楕円形で深さは27cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

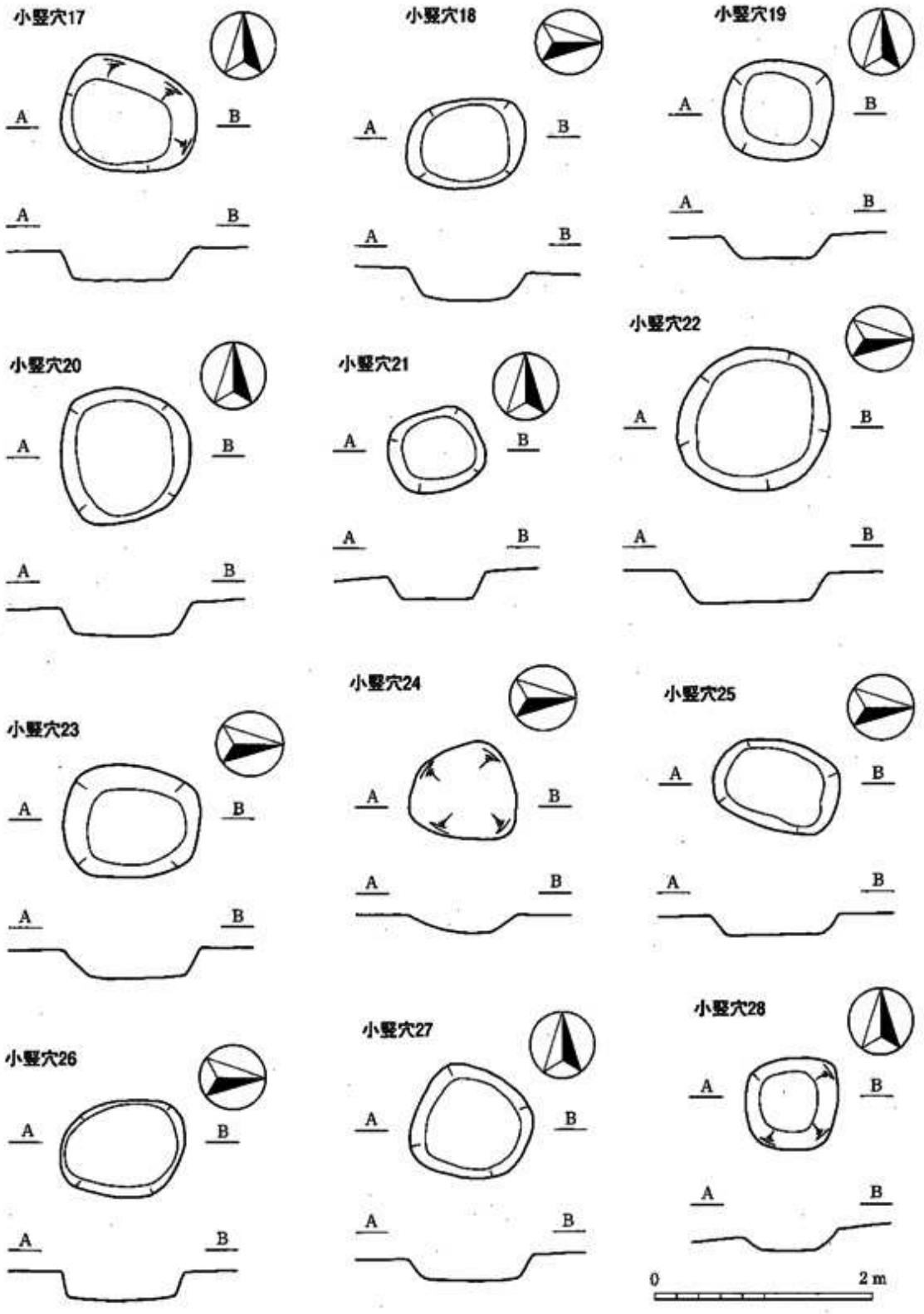
小竪穴18（第57・70図）

尾根上の平坦部で小竪穴17の西方に位置するIS－74グリッドで検出した。平面形は117×82cmの楕円形で深さは17cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴19（第57・70図）

尾根上の平坦部で小竪穴18の北方に位置するIR－75、IS－75・76グリッドで検出した。



第70図　恩勝西遺跡小竪穴17～28実測図（1：60）

平面形は101×93cmの方形で深さは20cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴20（第57・70図）

尾根上の平坦部で小竪穴19の北東方に位置するIT－77グリッドで検出した。平面形は125×120cmの不整円形で深さは23cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴21（第57・70図）

尾根上の平坦部で小竪穴19の北方に位置するIR－82グリッドで検出した。平面形は86×75cmの方形で深さは22cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴22（第57・70図）

尾根上の平坦部で小竪穴21の北東方に隣接するIS－83グリッドで検出した。平面形は142×82cmの楕円形で深さは26cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴23（第57・70図）

尾根上の平坦部で小竪穴16の東方に位置するIY－71・72グリッドで検出した。平面形は125×103cmの楕円形で深さは25cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴24（第57・70図）

尾根上の平坦部で小竪穴23の北方に位置するIY－78・79、JA－78・79グリッドで検出した。平面形は100×91cmの不整形で深さは16cmである。壁はロームで立ち上がりはだらだらとしていてよくない底は丸い船底状である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴25（第57・70図）

尾根上の平坦部で小竪穴24の北東方に位置するJF－80グリッドで検出した。平面形は115×82cmの長方形で深さは19cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴26（第57・70図）

尾根上の平坦部で小竪穴25の東方に位置する。JI－79グリッドで検出した。平面形は120×90cmの楕円形で深さは21cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴27（第57・70図）

尾根上の平坦部で小竪穴26の北東方に位置するJP－83グリッドで検出した。平面形は112×100cmの円形で深さは21cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴28（第57・71図）

尾根上の平坦部で小竪穴26の西方に位置するJC－79グリッドで検出した。平面形は85×85cmの円形で深さは14cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴29（第57・71図）

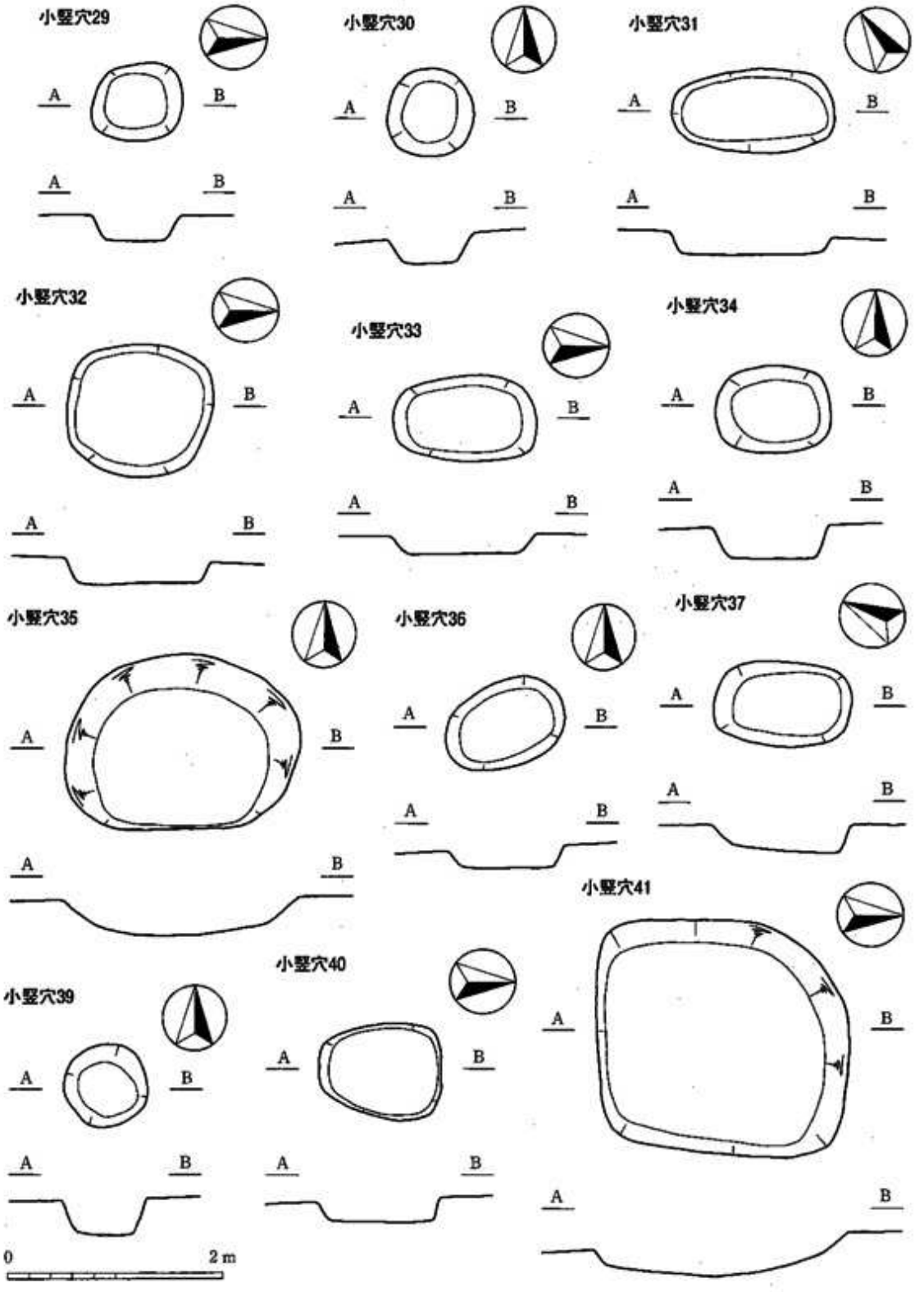
尾根上の平坦部で小竪穴28の北方に位置するJB－82、JC－82グリッドで検出した。平面形は82×72cmの長方形で深さは23cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴30（第57・71図）

尾根上の平坦部で小竪穴29の北西方に位置するJA－86・87グリッドで検出した。平面形は83×80cmの円形で深さは23cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。



第71図　恩膳西遺跡小竪穴29～37・39～41実測図（1：60）

小竪穴31（第57・71図）

尾根上の平坦部で小竪穴29の北方に位置するJC－85グリッドで検出した。平面形は150×78cmの長楕円形で深さは19cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴32（第57・71図）

尾根上の平坦部で小竪穴22の南東方に位置するIT－81・82グリッドで検出した。平面形は134×126cmの方形で深さは18cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴33（第57・71図）

尾根上の平坦部で小竪穴23の南西方に位置するIX－70グリッドで検出した。平面形は135×81cmの長楕円形で深さは16cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴34（第57・71図）

尾根上の平坦部で平安時代の第5号竪穴住居址の東方に位置するJT－68、JU－68グリッドで検出した。平面形は108×82cmの楕円形で深さは30cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

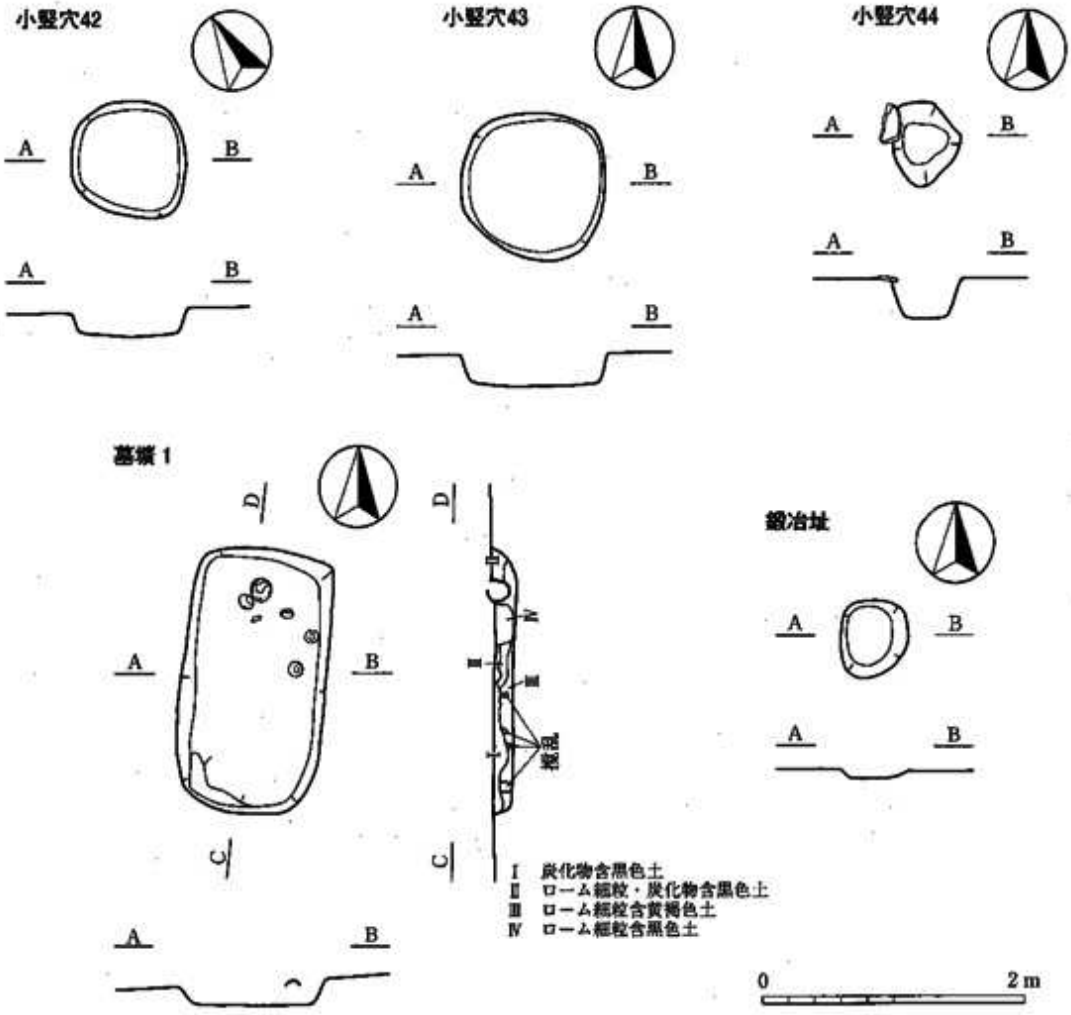
小竪穴35（第57・71図）

尾根上の平坦部で小竪穴34の南東方に位置するKF－64、KG－64グリッドで検出した。平面形は220×165cmの楕円形で深さは46cmである。壁はロームで立ち上がりはだらだらと良くないが、南壁はほぼ垂直に立ち上がり底は平である。

出土した遺物は、図示してないが平安時代の土師器坏類破片9点である。

小竪穴36（第57・71図）

尾根上の平坦部で小竪穴35の北東方に位置するKM－71グリッドで検出した。平面形は115×80cmの楕円形で深さは17cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。



第72図　恩賜西遺跡小竪穴42～44、墓壙1、鍛冶址実測図（1：60）

出土した遺物は皆無である。

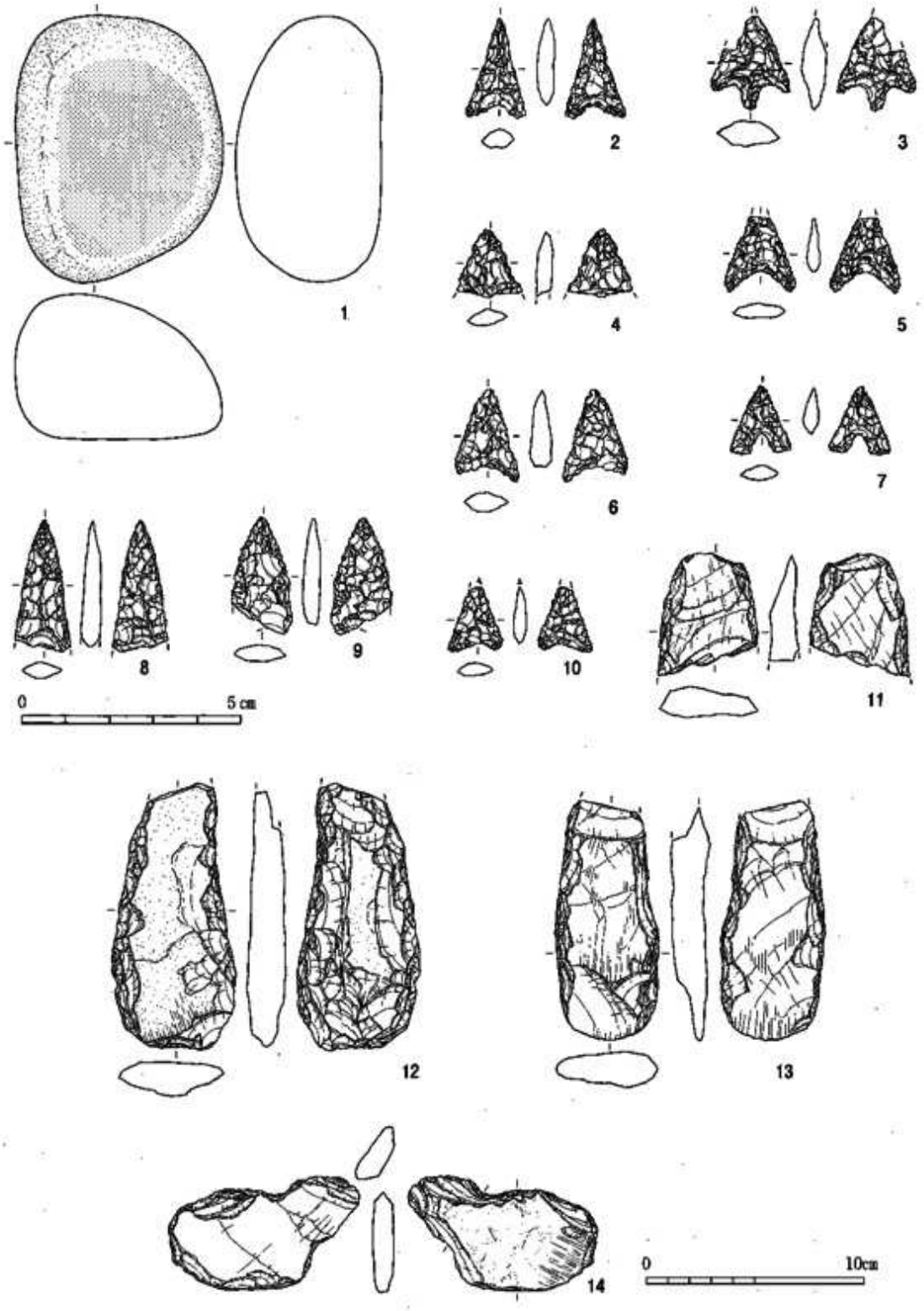
小竪穴37（第57・71図）

尾根上の平坦部で小竪穴36の東方に位置するKO－71・72グリッドで検出した。平面形は128×80cmの長楕円形で深さは18cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。

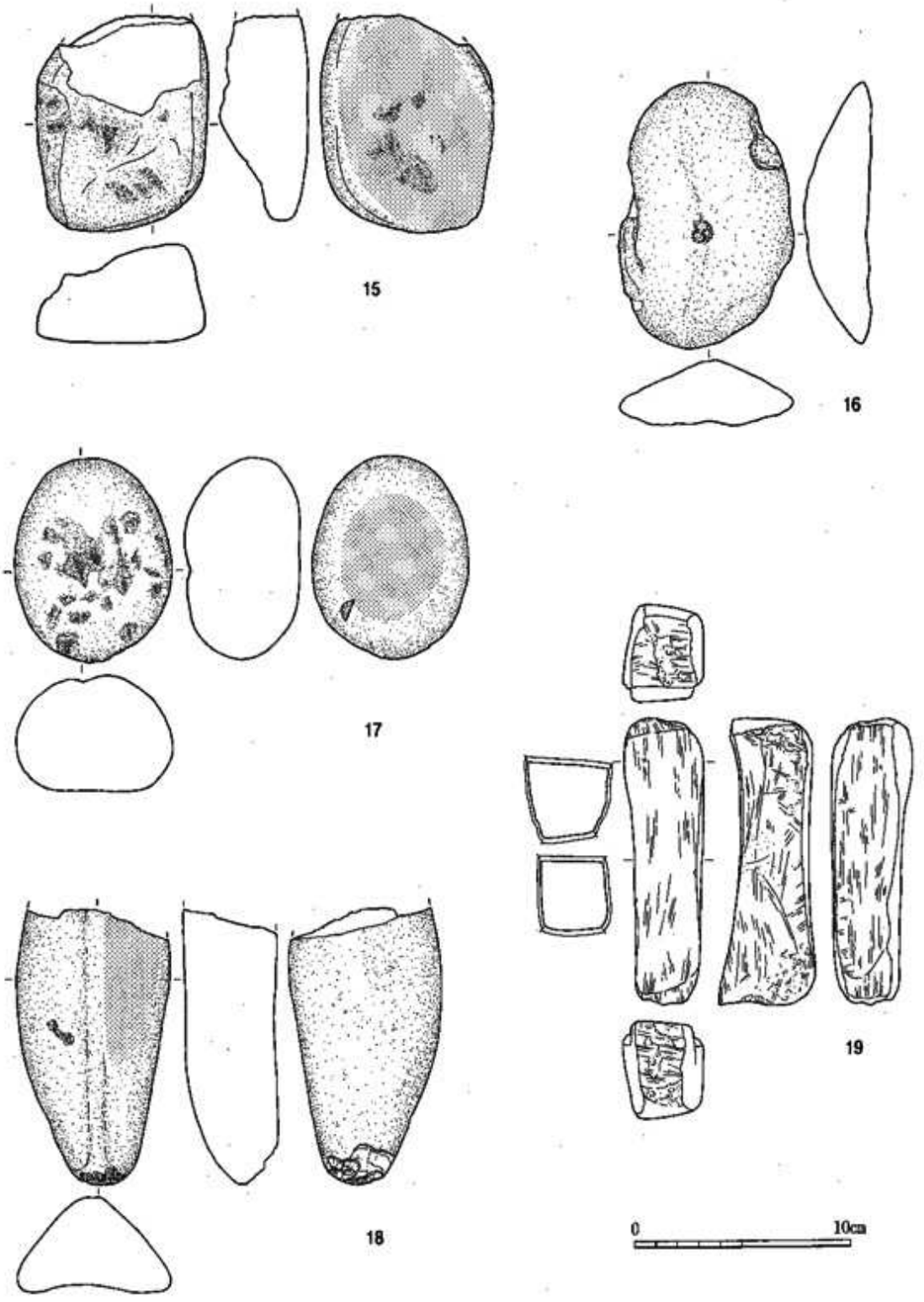
出土した遺物は皆無である。

小竪穴38

近世の墓壙のため欠番とした。



第73図　恩勝西遺跡小竪穴９、遺構外出土石器実測図（１・11～14　１：３、２～10　２：３）



第74図　恩賜西遺跡遺構外、第９号竪穴住居址出土石器・石製品実測図（１：３）

小竪穴39（第57・71図、写真63）

尾根の緩やかな南斜面で小竪穴13の南に隣接するJI－36、JJ－36グリッドで検出した。平面形は77×76cmの円形で深さは33cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴40（第57・71図、写真63）

尾根の緩やかな南斜面で小竪穴39の西南方に位置するJH－35グリッドで検出した。平面形は115×92cmの不整楕円形で深さは23cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴41（第57・71図、写真63）

緩やかな南斜面で小竪穴40の南東に隣接するJH－34・35、JI－34・35グリッドで検出した。平面形は237×218cmの不整方形で深さは43cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は丸い船底状である。

出土した遺物は、縄文時代の石器と平安時代の土師器・灰釉陶器がある。縄文時代は図示してないが黒曜石の剥片１点とチャートの剥片１点、平安時代は破片ばかりで図示できるものはないが土師器は坏類が４点、灰釉陶器が１点である。

小竪穴42（第57・72図、写真63）

尾根の緩やかな南斜面で小竪穴41の南方に位置するJH－32グリッドで検出した。平面形は113×111cmの不整方形で深さは22cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴43（第57・72図）

尾根上の平坦部で小竪穴16の北西方に位置するIR－72・73グリッドで検出した。平面形は111×110cmの円形で深さは25cmである。壁はロームで立ち上がりは普通で底は平である。

出土した遺物は皆無である。

小竪穴44（第57・72図）

尾根南斜面で小竪穴10の南方に位置するIN－48グリッドで検出した。平面形は66×52cmの不整楕円形で深さは28cmである。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。西壁上から安山岩の礫が出土した。整理作業で番号をつけたものである。

出土した遺物は皆無である。

③ 遺構に伴わない遺物

遺構に伴わない資料はそれほど多くないが土器と石器がある。

土器は僅かであるが早期～後期（第66図4～11）がある。

石器は黒曜石製の石鏃6点（第73図3～6・8・10)、チャート製の石鏃3点（2・7・9)、打製石斧4点（11～13)、石匙1点（14)、凹石・磨石4点（第74図15～18)、原石2点、黒曜石の剥片18点、チャートの剥片2点、水晶の剥片1点、他の剥片1点、おはじき状の石1点である。

（3） 平安時代の遺構と遺物

検出調査した平安時代の遺構は住居址9軒、鍛冶跡1、墓壙1基、小竪穴である。第3号と第4号竪穴住居址、第8号と第9号竪穴住居址の重複がみられ、少なくとも2時期にわたる集落址が考えられる。

① 竪穴住居址

第1号竪穴住居址（第57・65・75図、表4・8、写真・62・66～68)

尾根の南斜面で遺跡の西端に位置するHD－38～40、HE－38～40、HF－38～40の9グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。遺跡の西端と記載したが「Ⅲ　程久保遺跡」を同一遺跡と考えるのが妥当であるため西端ではなくなる。

埋土の観察は、東西方向で行ったが堆積が薄く明確なことはわからなかったが、北壁上方向からの流れ込みがみられた自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、大きさは東西（435)cm、南北473cmくらいである。壁はほぼ垂直に立ち上がり普通であるが、東壁と西壁の一部は不明瞭となり検出できなかった。壁高は西が5cm、南は8cm、北は17cmである。床面はやや南に傾くがほぼ平で部分的にタタキ床も認められるが総体的には軟弱であまり良くない。周溝は南西隅で僅かにみられた。ピットは規格性に乏しく柱穴に特定できるものはない。竈2の南西130cmくらいに鉄床石が据付けられていた。その北に小ピットと礫3点がみられ鉄床石との係りが考えられる。なお、鉄床石には溶けた鉄が付着している。

竈は２ケ所で検出したが、便宜的に竈１と竈２に呼び分けた。竈１は東北隅に構築された石組粘土竈で、わずかな石と粘土が遺存していただけであり保存状態は良くない。周辺に竈石と思われる石の散乱がある。竈２は北壁ほぼ中央の壁際で焼土化した火床を検出しただけである。

鉄が付着した鉄床石が据付けられており、残片と言うべき状態であったがふいごの羽口が出土した。鉄滓は24点と多く、竈１から９点、竈２の西隣からは７点がまとまって出土した。鉄床石の周辺からは土の水洗いで鉄滓の小片と鍛造剥片である金肌が採集しており、鍛鉄が行われた鍛冶址である。竈２は鉄床石との位置関係から鍛冶炉の可能性が高いものである。また、南壁際の広範囲では焼土がみられたが鍛冶に係るものかもしれない。

出土した遺物は、土師器・灰釉陶器・土製品・鉄滓がある。

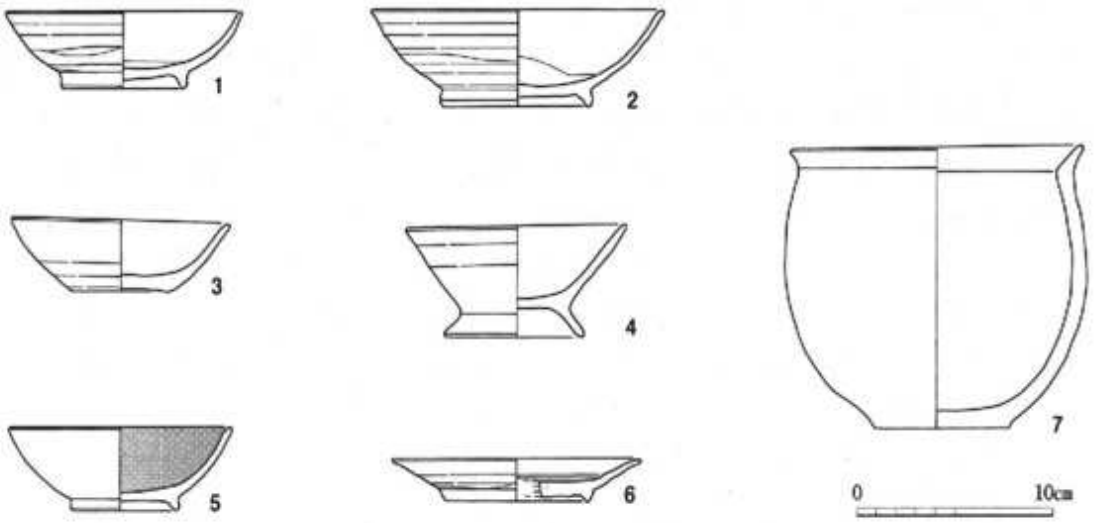
供膳形態は灰釉陶器の碗（第75図１・２）である。図示できなかった破片は土師器の坏類が571点と甕類が92点、須恵器が４点、灰釉陶器が20点である。

土製品は焼成された粘土でふいごの羽口と思われるが、小さく18点に破損したもので復原できない。

鉄滓は25点と小片で1,026.4ｇ、水洗いで鍛造剥片である金肌を採集したが、鉄滓の小片と金肌の選別が未だできないものが144.9ｇ（表４・８）あるが、磁石を使ったことで砂鉄が混じっている。

第２号竪穴住居址（第57・75・76図、表４・８、写真69～72）

尾根の南斜面で第１号竪穴住居址の北東に位置するHP－48～51、HQ－48～51、HR－



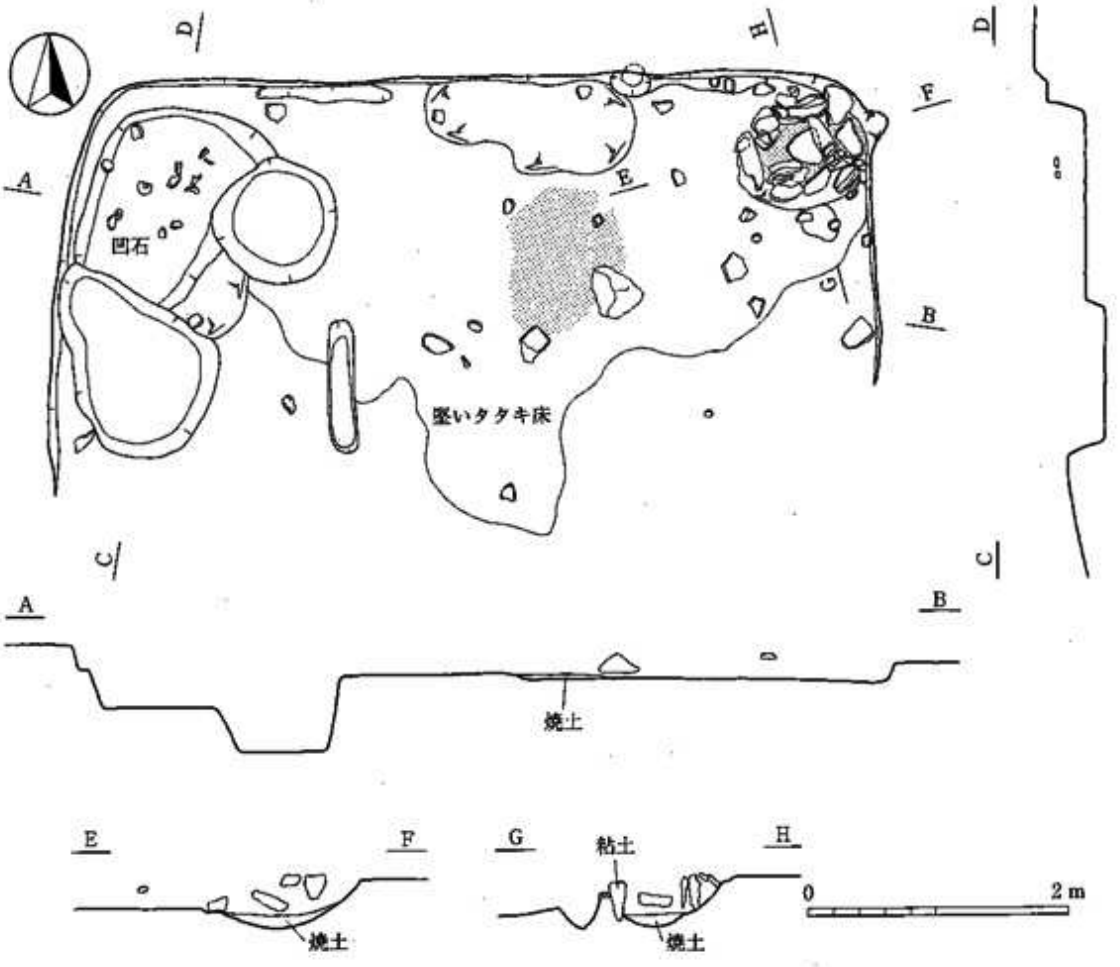
第75図　恩賜西遺跡第１・２号竪穴住居址出土土器実測図（１：４）

48～51、HS－48～51の16グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。南側の半分くらいが流失していたうえに、水田造成による攪乱は著しく明確なことはわからない。

埋土の観察は、自然傾斜の南北方向で行ったが堆積は薄く明確なことはわからなかったが、北西壁上方向からの流れ込みがみられた自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、黒色土中の南側は壁と床は流失している。大きさを推測すると東西618cm、南北（600）cmくらいであろう。壁はほぼ垂直に立ち上がり普通である。壁高は東が14cm、西は17cm、北は13cmである。床面はほぼ平のタタキ床で良い。周溝は北壁直下の僅かな範囲でみられた。ピットは４基検出したが大きいうえに規格性に乏しく柱穴に特定できるものはない。重複する西壁際のピットは新旧関係が不明であるが貯蔵穴の可能性が高いものばかりである。なお、土師器と灰釉陶器が出土した。

竈は、北東隅に石組粘土竈が構築されていた。天井石と袖石とも遺存しており保存状態



第76図　恩勝西遺跡第２号竪穴住居址実測図（１：60）

は極めて良い。天井石は２点で、１点は原位置に、１点は竈の手前に落下していたが容易に復原できる状態であった。粘土の残りも良く竈研究上の好資料である。竈内の焼土化は著しい。

出土した遺物は、土師器・灰釉陶器・鉄滓がある。

供膳形態は土師器の坏１点（第75図３）、碗２点（４・５）、灰釉陶器の段皿１点（６）で、煮沸形態は土師器の小形甕１点（７）である。３・６・７はピット、４・５は竈の右袖からの出土である。図示できなかった破片は土師器の坏類が102点と甕類が14点、灰釉陶器が13点である。

鉄滓は１点で96.9ｇ（表４・８）である。

第３・４号竪穴住居址

第３号竪穴住居址（第57・77・78図、表４・８、写真73・74）

尾根の南斜面で第２号竪穴住居址の東に位置するHU－49～51、HV－49～52、HW－49～52、HX－49～51の14グリッドに跨る竪穴住居址である。検出した時点で住居址の重複を確認したが傾斜が強くすでに南側は流失しており、新旧関係を明確に把握できないままの精査であった。また、精査終了まじかに３ケ所目の竈の火床を確認したことで、より複雑で不明瞭になり詳しいことは一切わからないままである。

埋土の観察は、東西方向で行いⅠ～Ⅶに大別したが色調の変化は乏しいが、基本的には逆三角堆土と三角堆土の発達が認められる自然埋没であるが、北東壁上方向からの流れ込みが多いようである。Ⅲには数多い小さな礫が包含されていたが埋没途上の凹地に廃棄されたもののようである。

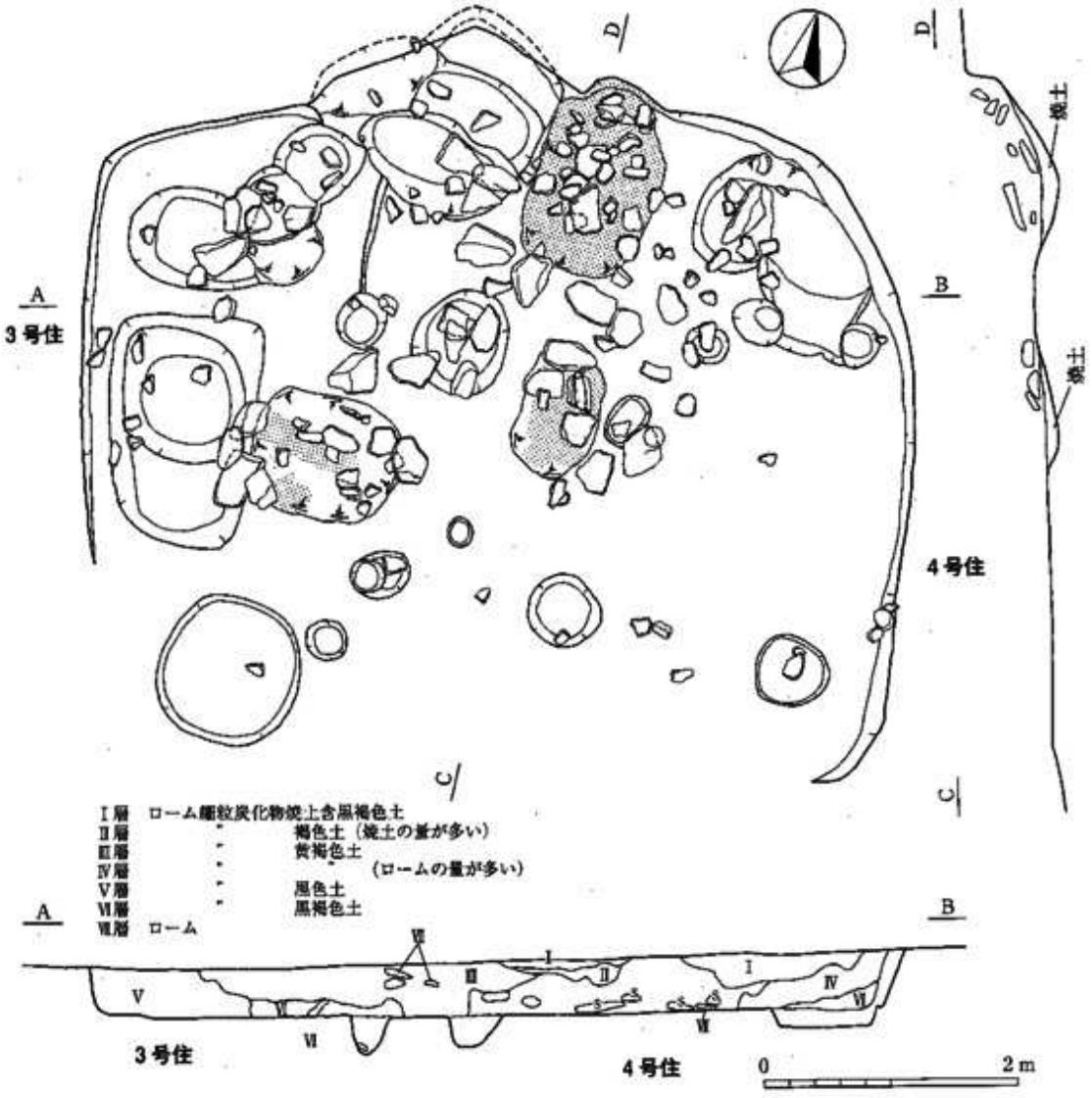
竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、黒色土中の南側は壁と床が流失している。大きさを推測すると東西650cm、南北（500）cmくらいである。壁はほぼ垂直に立ち上がり普通である。壁高は東が42cm、西は29cm、北は32cmである。床面はほぼ平のタタキ床で良好である。ピットは数多く検出したが、重複するが貼床のみられるものは１基もなく、帰属住居址を明らかにすることはできない。

竈１は、北壁の真中やや西寄りに石組粘土竈が構築されていたが、袖石は抜き取られ僅かな粘土が遺存しただけで破損は著しい。付近に散乱する石が竈石と思われる。なお、本址の竈を竈１、第４号竪穴住居址の竈を竈２、竈３と呼び記載したが、竈の新旧関係は不明である。

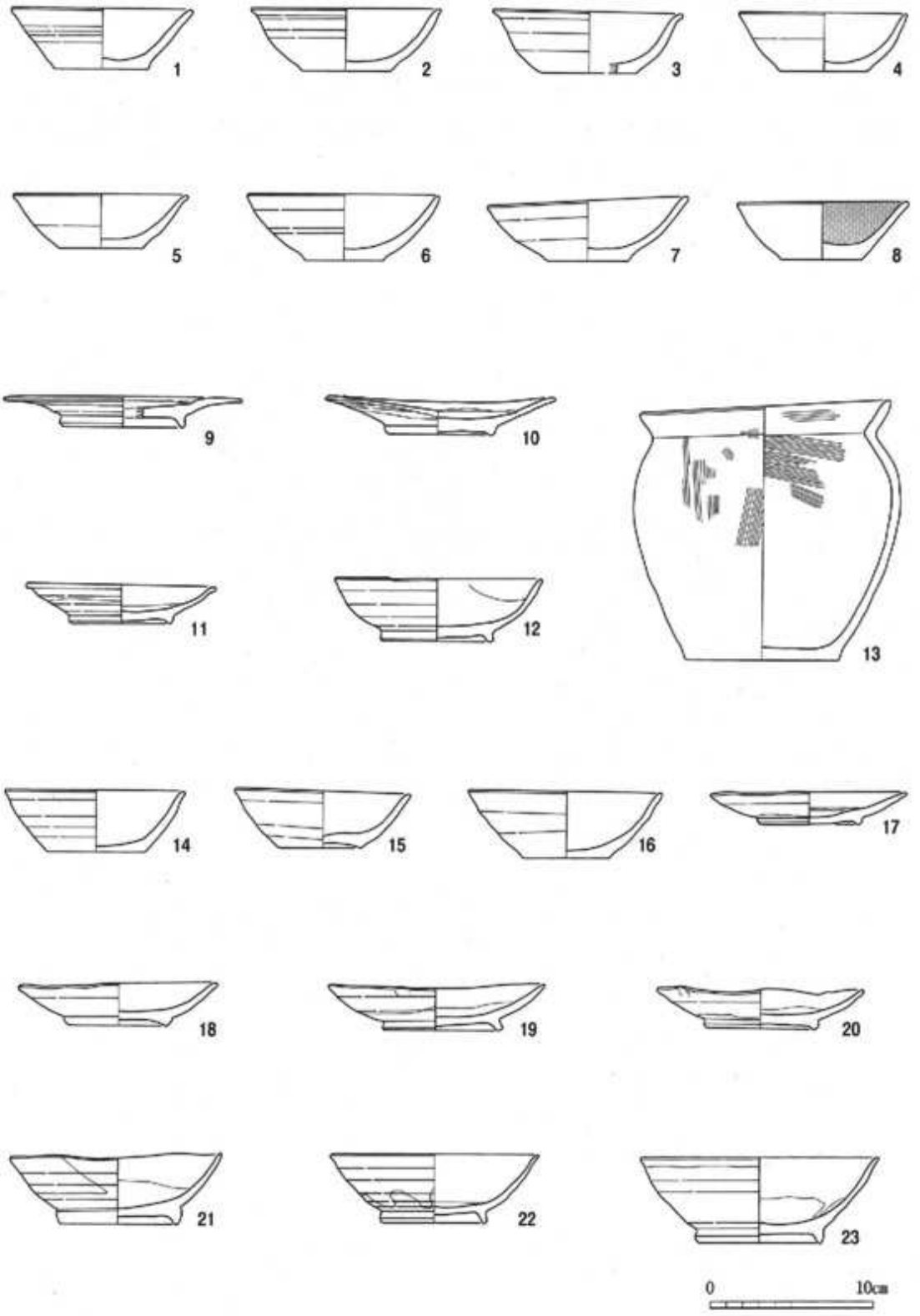
遺物の取り上げは不明瞭な事が多く第４号竪穴住居址との混入が生じてしまったが、ここでは現場での所見のまま報告しておきたい。出土した遺物は、土師器・灰釉陶器・鉄滓がある。

供膳形態は土師器の坏８点（第78図１～８）、灰釉陶器の段皿２点（９・10）、皿１点(11)、碗１点（12）、煮沸形態は土師器の小形甕１点（13）である。２・９・11・12はピット出土、７・８・10・12・13に第４号竪穴住居址出土破片が接合したが、前記したように遺物の取り上げの不備によるものと考えられる。図示できなかった破片は土師器の坏類が789点と甕類が84点、灰釉陶器が133点である。

鉄滓は５点で155.7ｇ（表４・８）である。



第77図　恩勝西遺跡第３・４号竪穴住居址実測図（１：60）



第78図　恩勝西遺跡第３・４号竪穴住居址出土土器実測図（１：４）

第４号竪穴住居址（第57・77・78図、表４・７・８、写真73・74）

尾根の南斜面で第３号竪穴住居址と重複している。検出した時点で重複は確認できたが第３号竪穴住居址で記載したように詳しいことは一切不明である。

竪穴住居址は、黒色土からローム層中に構築されていたもので、プランは不明であるが第３号竪穴住居址よりは小さいようである。

竈は、火床である焼土を２ヶ所で検出したが、竈２、竈３と呼び記載した。

竈２が本址の火床であり、西壁に構築されていたものと思われるが焼土の検出だけで詳しいことは一切不明である。

竈３は精査終了間じかに検出した火床であり、その位置関係から第３号・４号竪穴住居址の竈とは考えられないものである。両住居址から鉄滓の出土があり鍛冶炉の可能性も考えられるが、ここでは両住居址よりも旧い住居址の竈址と考えておきたい。

出土した遺物は、土師器・灰釉陶器・鉄滓がある。

供膳形態は土師器の坏３点（第78図14～16）、灰釉陶器の段皿１点（17）、皿２点（18・19）、輪花皿１点（20）、碗３点（21～23）である。14・16・17・19・21・22・23はピット、18・20は竈の右袖からの出土である。図示できなかった破片は土師器の坏類が597点と甕類が58点、須恵器が１点、灰釉陶器が70点である。

鉄製品は破損が著しく図示できなかったが機種不明なもの４点（表７）であるが、２点は断面が円形の棒状のもので紡錘車の軸のように思われる。表中では第３・４号竪穴住居址としたように帰属住居址がわからないものが３点ある。

鉄滓は８点で382.5ｇ（表４・８）である。

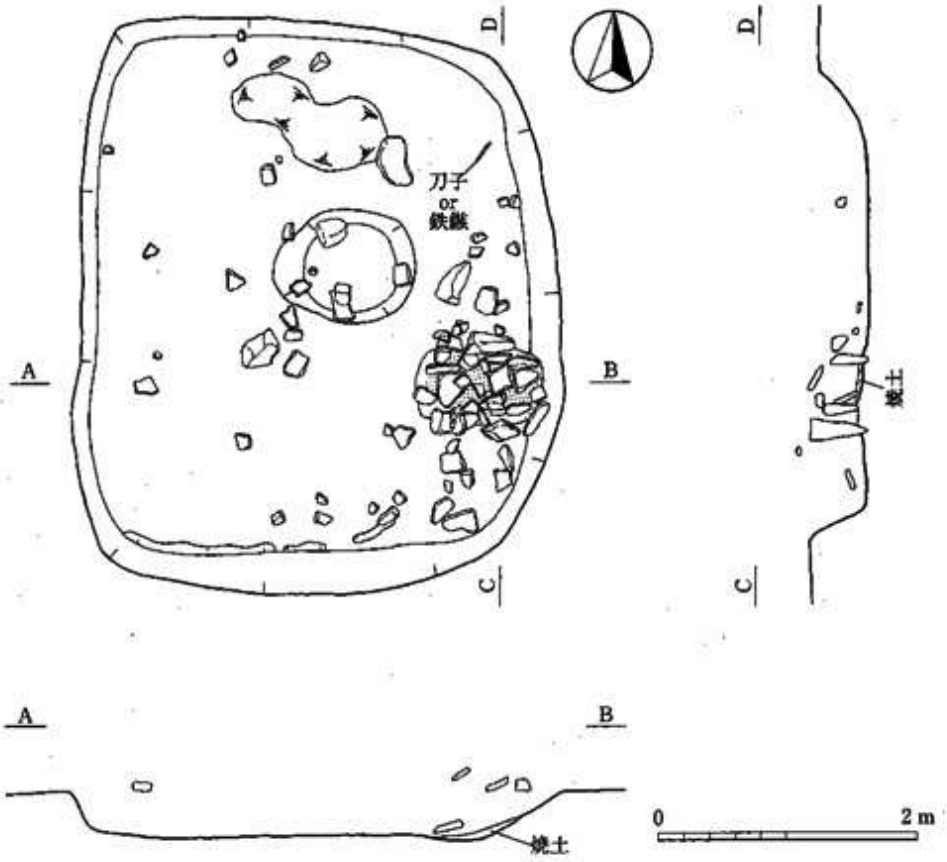
第５号竪穴住居址（第57・79・80図、表４・７・８、写真75～79）

尾根上の平坦部に位置するJO－67～69、JP－67～69の６グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。

埋土の観察は、東西方向で行い色調の変化に乏しかったが、基本的には逆三角堆土と三角堆土の発達が認められる自然埋没である。

竪穴住居址は、ソフトロームからローム層中に構築されていたもので、大きさは東西355cm、南北436cmである。壁は緩やかに立ち上がり良くない。壁高は東が38cm、西は32cm、南は46cm、北は24cmである。床面はほぼ平で部分的にタタキ床も認められたが普通である。周溝は南壁の直下にみられたが壁の立ち上がりの悪いところである。ピットは住居ほぼ中央に深さ45cmの大きなものがあるが性格は不明である。柱穴は検出できなかった。

竈は、東壁に石組粘土竈が構築されていたが、袖石はほぼ遺存し天井石はないが状態は良い。竈周辺に礫が散乱していたが天井石と思われるものはなく持ち去られているようで



第79図　恩勝西遺跡第５号竪穴住居址実測図（１：60）

ある。竈内の焼土化は著しい。

出土した遺物は、土師器・灰釉陶器・土製品・鉄製品・鉄滓がある。土師器は竈の前から南壁際で数多く出土した。

供膳形態は土師器の坏８点（第80図１～８）、碗３点（９～11）、灰釉陶器の碗１点（12）、煮沸形態は土師器の小形甕（13）である。１はピットと竈右袖から出土破片が接合した。２・９・11は竈内、３は竈左袖、４は竈右袖からの出土、13は木葉底である。図示できなかった破片は土師器の坏類が297点と甕類が51点、灰釉陶器が５点である。

土製品は内面黒色土器を円形に加工し真中に小孔を穿ったもので、紡錘車の可能性が高いものである（14）。重さは16.9ｇである。

鉄製品は破損が著しく図示できなかった刀子１点（表７）である。

鉄滓は６点で311.4ｇ（表４・８）である。

第６号竪穴住居址（第57・80・81図、写真80）

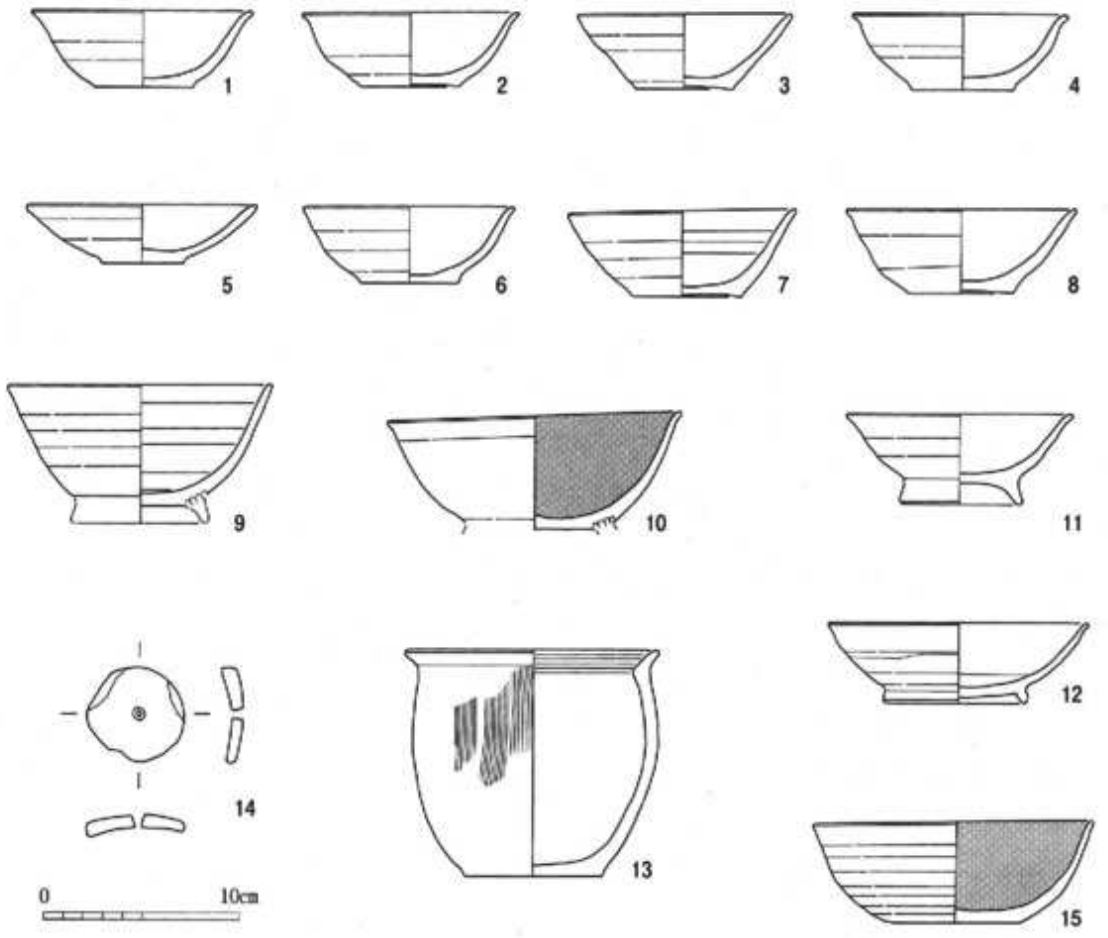
尾根上の平坦部で第５号竪穴住居址の北東に位置するKS－73・74、KT－73～75、KU

－73～75の８グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。

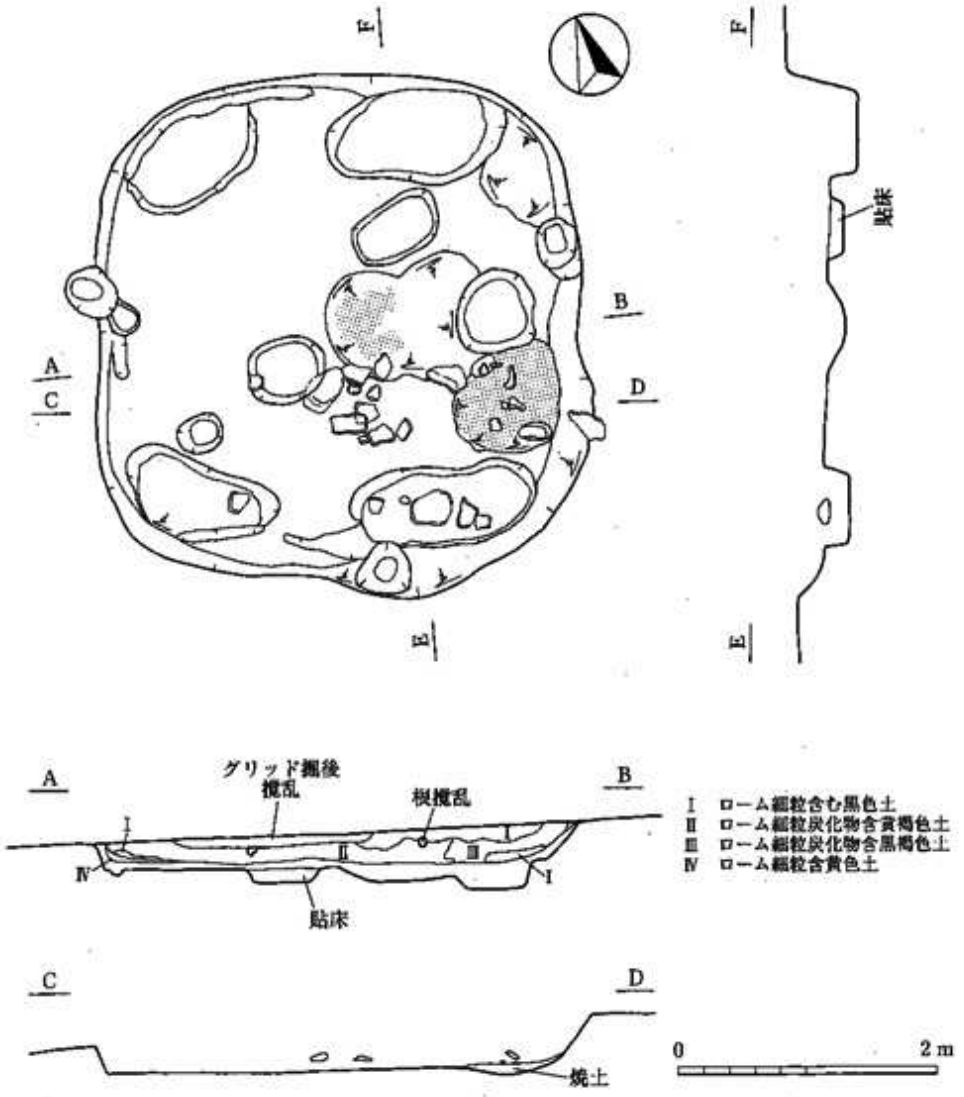
埋土の観察は、東西方向で行い色調の変化に乏しかったが、基本的には逆三角堆土と三角堆土の発達が認められる自然埋没である。

竪穴住居址は、ソフトロームからローム層中に構築されていたもので、大きさは東西362cm、南北390cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり普通であるが、竈が構築された東壁は緩やかに立ち上がる。壁高は東が40cm、西は21cm、南は15cm、北は32cmである。周溝は北壁の直下から北西隅にみられた。床面はほぼ平らで部分的にタタキ床も認められたが普通である。ピットは浅いものが多く柱穴に特定できるものはない。４隅で検出したピットは大きさなど共通する点は多いが性格は不明である。

竈は、火床である焼土の検出位置から東壁の真中やや南寄りに構築されていたものと思われるが、袖石は抜きとられており掘り方を検出しただけである。火床の焼土化は著しい。



第80図　恩膳西遺跡第５・６号竪穴住居址出土土器実測図（１：４）



第81図　恩膳西遺跡第６号竪穴住居址実測図（１：60）

前面に竈石と思われる石が散乱していたが、その数は少なく持ち去られたものがあるようである。

出土した遺物は、少ないが土師器と須恵器がある。

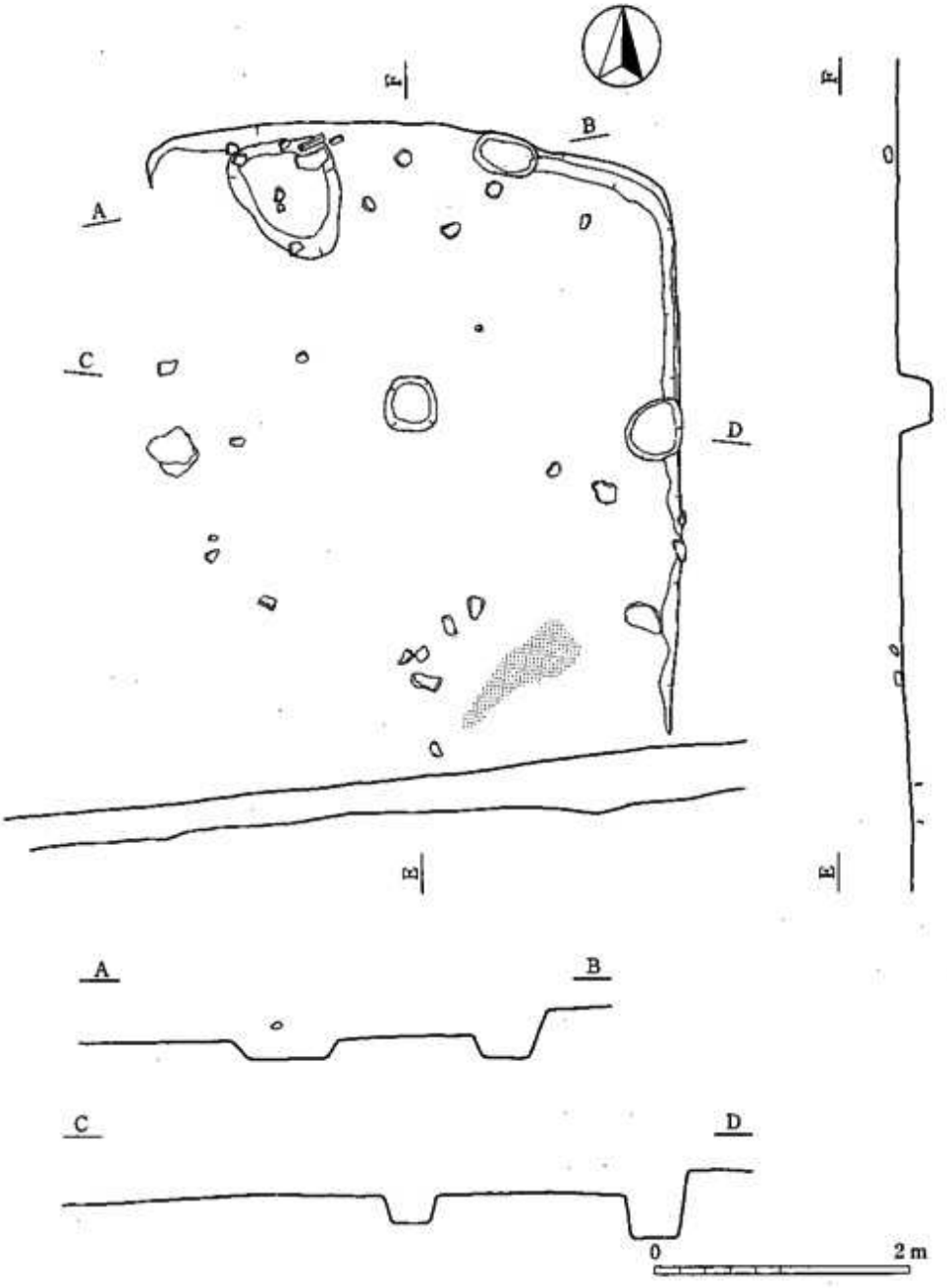
供膳形態は土師器の坏１点（第80図15）で西壁際からの出土である。図示できなかった破片は土師器の坏類が６点と甕類が42点、須恵器が４点である。

第８・９号竪穴住居址

第８号竪穴住居址（第57・82・83図、表４・８、写真81）

尾根の南斜面で重複する第３・４号竪穴住居址と第５号竪穴住居址のほぼ中間に位置するIP－55～57、IQ－55～57、IR－55～57の９グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居

址と考えているが、竈は検出できなかった。検出した時点で北壁にくい違いがみられたことで住居址の重複を考えたが、すでに南側は流失していたうえに耕作の畝による撹乱で不明瞭な点が多く、大きな間違いをしているかもしれないが、現場での所見を大事に記載しておきたい。第９号竪穴住居址と重複しているが本址が上層にあることから新しく第９号竪穴住居址は下層で旧いことになる。



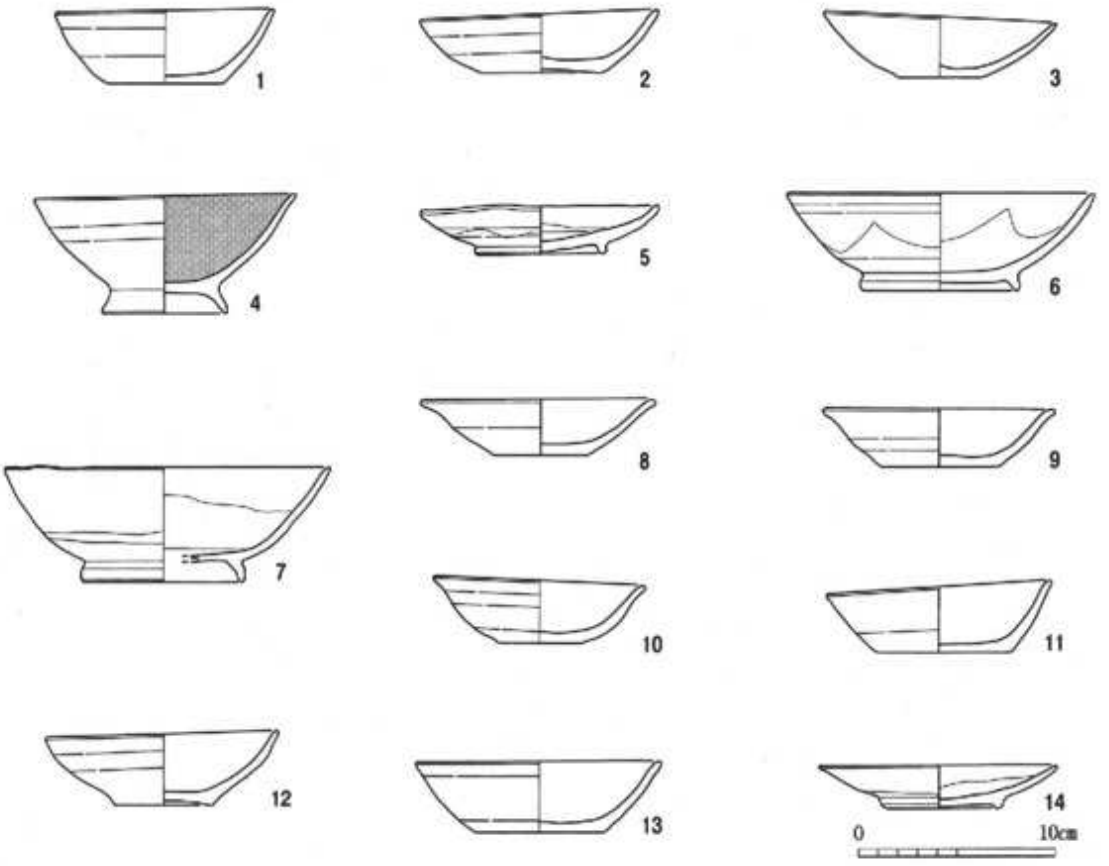
第82図　恩籠西遺跡第８号竪穴住居址実測図（１：60）

埋土の観察は、東西方向で行ったが色調の変化に乏しく、埋土から重複関係を明らかにすることはできないが、北壁上方向からの流れこみの多い自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土層中に構築されていたもので、大きさを推測すると東西（415）cm、南北550cmくらいである。壁は不明瞭で緩やかに立ち上がる。壁高は東が21cm、北が20cmである。床面は極めて不明瞭であり手探りで検出したものである。周溝は東壁の直下にみられ、ピットは3基検出したが不明瞭なものばかりで性格は不明である。

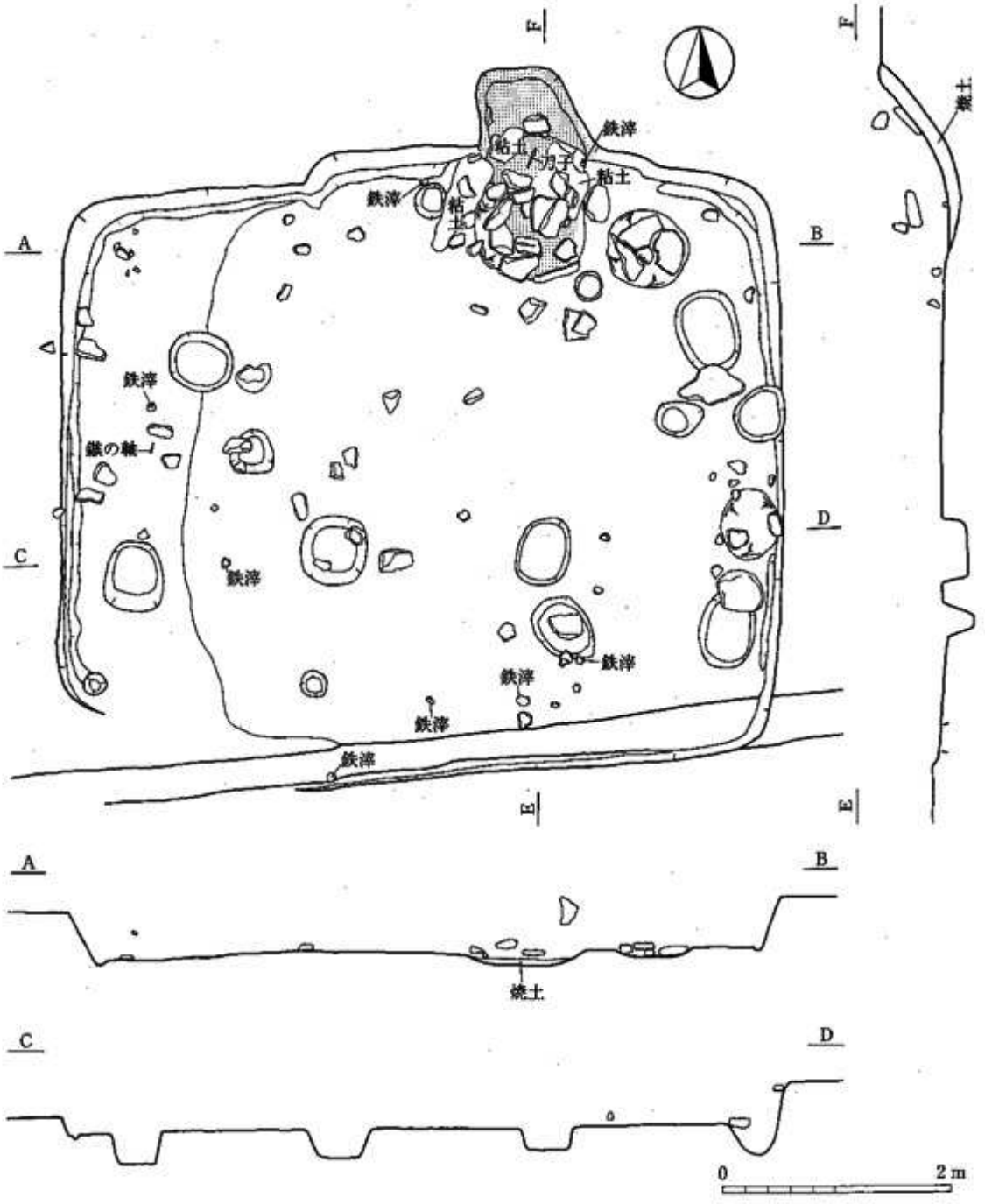
竈は、下層で重複する第9号竪穴住居址の竈煙道部分が北壁を抉り焼土化していたことで、この焼土を本址の竈址と思い込んでしまったが、本址の床面からは焼土化した火床を検出することはできなかった。したがって竈が無い竪穴であり住居址とは異なった施設の可能性が高いことになる。

遺物の取り上げは不明瞭な事が多く第9号竪穴住居址からの混入が生じている。ここでは現場の所見のまま報告しておくが、第8・9号竪穴住居址を切り離して考えることはできない。出土した遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・土製品・鉄滓がある。



第83図　恩勝西遺跡第8・9号竪穴住居址出土土器実測図（1：4）

供膳形態は土師器の坏３点（第83図１～３）、碗１点（４）、灰釉陶器の皿１点（５）、碗２点（６・７）である。１はピット出土破片が接合し、３～７には第９号竪穴住居址出土破片が接合したが取り上げ時の不手際によるものと思われる。６・７はピット、２は東壁際からの出土である。図示できなかった破片は土師器の坏類が204点と甕類が４点、須



第84図　恩勝西遺跡第９号竪穴住居址実測図（１：60）

恵器が12点、灰釉陶器が50点である。

土製品は焼成された粘土塊でふいごの羽口と思われるが、小さく３点に破損しており復原できない。

鉄滓は19点で1,929.2ｇ（表４・８）である。

第９号竪穴住居址（第57・74・83・84図、表７、写真81）

尾根の南斜面で第８号竪穴住居址と重複している。IO－55～57、IP－55～57、IQ－55～57の９グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。検出した時点で北壁にくい違いがみられたことから住居址の重複を考えたが不明瞭な点が多い。重複による新旧関係は、本址の上層に第８号竪穴住居址があることから本址が旧く第８号竪穴住居址が新しい。

埋土の観察は、東西方向で行ったが色調の変化に乏しく、埋土から重複関係を明らかにすることはできないが、北壁上方向からの流れこみの多い自然埋没である。

竪穴住居址は、黒色土層中に構築されていたもので、大きさは東西630cm、南北450cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり普通であるが、南壁は耕作の畝により欠損している。壁高は東が43cm、西は25cm、北は50cmと高い。床面はほぼ平のタタキ床で良好である。周溝は東壁・西壁・北壁の直下にめぐっている。ピットは浅いものばかりで柱穴に特定できるものはない。竈右の浅いピットには、石組状に平板石が据え置かれていたが上面は床とほぼ同レベルである。性格は一切不明である。

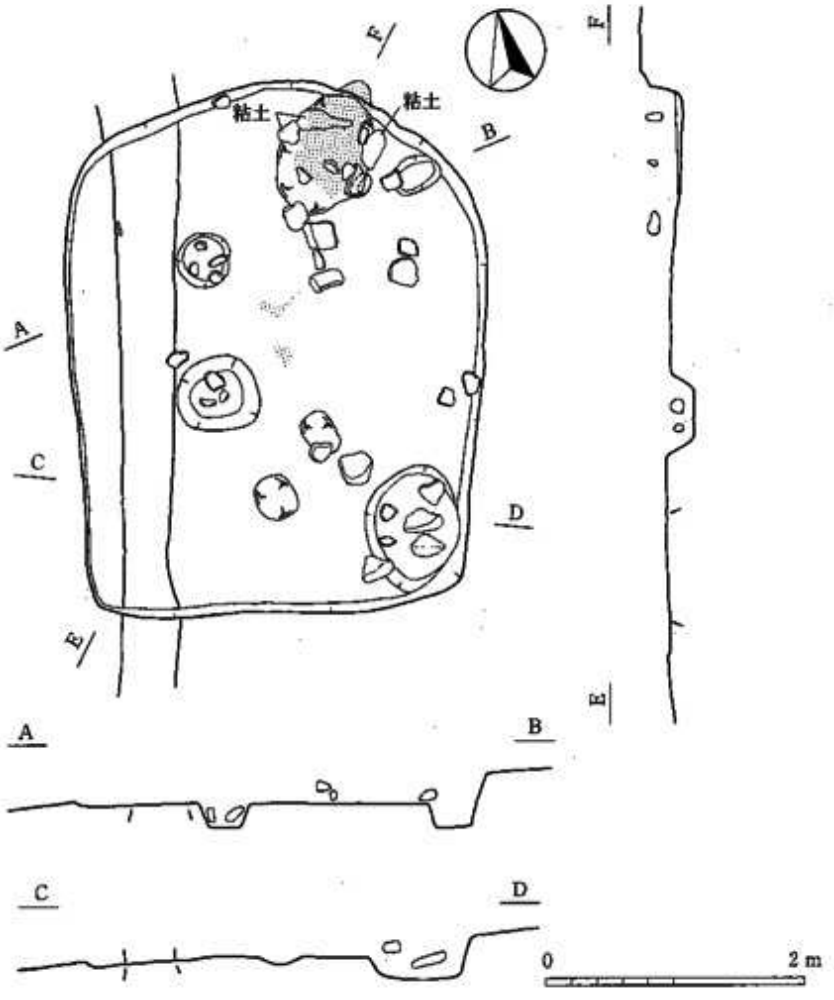
竈は、北壁の中央やや東寄りに石組粘土竈が構築されていたものと思われるが、その破損は著しく僅かに粘土が遺存していただけである。竈石と思われる石は付近に散乱していたが、その数は少なく持ち去られたものがあるようである。竈内の焼土化は著しく煙道（壁面）部も著しく焼土化している。竈の焼土内から刀子が出土した。

出土した遺物は、土師器・灰釉陶器・石製品・鉄製品がある。

供膳形態は土師器の坏６点（第83図８～13）、灰釉陶器の皿１点（14）である。９はピット出土、12にはピット出土破片が接合し、13には竈内出土破片が接合した。図示できなかった破片は土師器の坏類が1,007点と甕類が69点、須恵器が２点、灰釉陶器が110点である。

石製品は砥石１点（第74図19）である。

鉄製品は図示できなかった刀子１点、破損が著しく機種不明なもの１点（表７）で、刀子は竈内出土である。機種不明なものは断面が方形の棒状のもので鉄鏃の中子のようである。



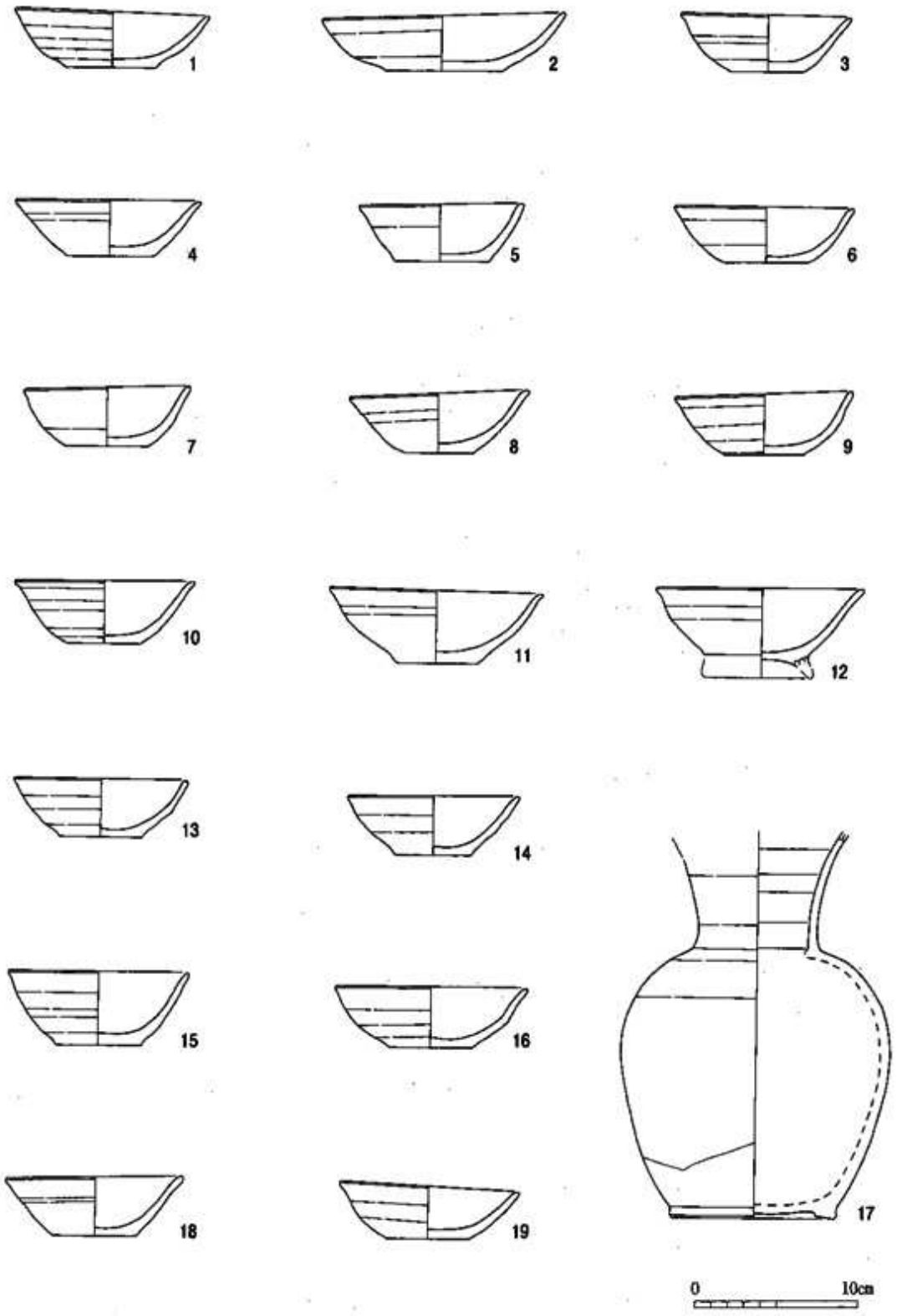
第85図　恩勝西遺跡第10号竪穴住居址実測図（1：60）

第10号竪穴住居址（第57・85・86図、表7、写真82）

緩やかな南斜面で第8・9号竪穴住居址の南東に位置するJG－38～40、JH－38～40、JI－39・48の8グリッドに跨る隅丸方形を呈する竪穴住居址である。西壁際は壁に沿って耕作の畝で撹乱されている。

埋土の観察は、自然傾斜の東西方向で行い色調の変化に乏しかったが、逆三角堆土と三角堆土の発達が認められる自然埋没である。

竪穴住居址は、礫を包含する黒色土層中に構築されていたもので、大きさは東西313cm、南北405cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり普通である。壁高は東が19cm、西は2cm、南は11cm、北は15cmである。床面はほぼ平のタタキ床で普通である。ピットは4基検出したが浅いうえに規格性に乏しく柱穴に特定できるものはない。南東隅のピットには礫が落ち込んでいた。



第86図　恩勝西遺跡第10号竪穴住居址、小竪穴11、墓壙1、遺構外出土土器実測図（1：4）

竈は、北東隅に石組粘土竈が構築されていたが、その破損は著しく右袖石１点と粘土が遺存していただけである。竈周辺に小さな石は散乱していたが竈石の多くは持ち去られている。竈内焼土化は弱い。

出土した遺物は、土師器・灰釉陶器・鉄製品がある。

供膳形態は土師器の坏４点（第86図１～４）である。１は竈内、３はピット出土である。４には竈内出土破片が接合した。図示できなかった破片は土師器の坏類が141点と甕類が80点、灰釉陶器が７点である。

鉄製品は破損が著しく図示できなかった機種不明なもの１点（表７）である。

② 墓壙

墓壙１（第57・72・86図、写真84～86）

尾根上の平坦部で小竪穴５の西に隣接する。GQ－55・56、GR－55・56グリッドで検出した。大きさは長軸205cm、短軸111cmの隅丸長方形で深さ18cmと浅い。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。遺物は北側で出土したが底面から８～15cm浮いていた。

出土した遺物は、土師器と灰釉陶器がある。

土師器は坏４点（第86図13～16）、灰釉陶器は壺１点（17）である。15の口唇部に肉眼観察では黒漆と思われる付着物がみられる。図示できなかった破片は土師器の坏類が16点である。

③ 鍛冶址

鍛冶址（第57・72図、表４・８、写真83）

尾根の南斜面で第８・９号竪穴住居址の西に位置する。IF－53グリッドで検出したが、平面形は59×52cmの不整楕円形で深さは７cmほどと浅い。壁はロームで立ち上がりは緩やかで底は平である。鉄滓が出土したことで鍛冶址とした。

帰属時期を決める土器の出土はなかったが、程久保遺跡の鍛冶址に類似する点が多いことから平安時代と考えている。

出土した遺物は鉄滓と金肌がある。

鉄滓は小片が127.2ｇ、水洗いで鍛造剥片である金肌を採集したが、鉄滓の小片と金肌の選別が未だできないものが219.0ｇ（表４・８）である。

④ 遺構に伴わない遺物

遺構に伴わない遺物は、土師器・須恵器・灰釉陶器・土製品・鉄滓がある。

出土した土器類はそれほど多くないが、図示できたものは土師器の坏２点（第86図18・

19）である。図示できなかった破片は土師器の坏類が531点と甕類が46点、須恵器が３点、灰釉陶器が226点ある。

土製品は焼成された粘土でふいごの羽口と思われる。３点あるが小さく破損したものばかりである。

遺構に伴わない鉄製品は、破損が著しく図示できなかった機種不明なもの４点（表７）であるが、単独出土で帰属時期を示すことはできない。

鉄滓は220点と小片で1,815.6ｇ（表４・８）である。

遺構に伴わない鉄滓の多いことに驚かされるが、程久保遺跡で鍛冶遺構の調査に携わったことで鉄滓の出土には敏感になっていたことは確かであるが、その出土量は逸脱しており、鍛冶遺構を認定できないまま調査を終了したことへの心配も僅かに残るが、不用となった鉄滓を広範囲に廃棄した結果ととらえておきたい。

（４） 近・現代の遺構と遺物

検出時点では性格が不明なため調査した近・現代の遺構がある。程久保遺跡に近世の墓壙１基、現代のタメ址と暗渠排水があり、程久保・恩膳西両遺跡から陶器と磁器の破片が僅かに出土したが対象時期外である。

4　まとめ

旧石器時代、縄文時代、平安時代の複合遺跡であることが明らかになったが、旧石器時代の石器はそれほど多くない。縄文時代は前期中葉期の竪穴住居址１軒だけである。平安時代は竪穴住居址８軒、鍛冶址１、墓壙１基である。住居址は黒色土～ローム層中に構築されていたうえに重複するものがあり、また、傾斜が強いことから南側は流失しており不明瞭な点は多いが、程久保遺跡同様に鍛冶址に関連する資料の出土には目を引くものがある。鍛冶遺構については次章の結語でふれてみたいと思う。

縄文時代前期中葉の住居址は１軒だけであるが、南斜面における遺構は全て露呈できたと思っている。村内には縄文時代前期の集落址は国史跡の阿久遺跡と大石遺跡が知られているだけである。阿久遺跡の周りには数多い前期集落址があるように思われがちであるが、本遺跡は３遺跡目であり前期研究をはじめ阿久遺跡の研究上において貴重な資料になるものと思われる。

平安時代は再三述べてきたように程久保遺跡と恩膳西遺跡は同一遺跡であるため、竪穴住居址は32軒を数えるが、重複するものがあり数時期におよぶ集落址であるが、当地方においては大集落址であることは確かなようである。

V　結語

程久保遺跡と恩膳西遺跡は調査の結果同一遺跡と考えることが妥当であり、旧石器時代、縄文時代、平安時代が複合する遺跡であることがあきらかになった。平安時代の竪穴住居址が最も多く、八ケ岳山麓における縄文時代中期というイメージとは違うものであった。

平安時代の人たちが当地方に進出し開拓を進めたが、鉄製農具の使用が大きな原動力になっていたように思われる。しかし、鉄製農具の出土例は阿久遺跡第１号竪穴住居址の鎌、居沢尾根遺跡の小竪穴171と遺構外の鎌、裏長峰遺跡第２号竪穴住居址の鍬先くらいでそれほど多くない。これは集落を遺棄するにあたり、貴重品であった鉄製農具は持ち去ったためと考えられるが、鉄滓をはじめとする鍛冶址に関連する資料は金芳遺跡第１号竪穴住居址のふいごの羽口と鉄滓、裏長峰遺跡第11号竪穴住居址のふいごの羽口、第12号竪穴住居址の鉄滓、土井平遺跡第１号竪穴住居址の鉄滓などが出土し、鍛冶を伴う集落であったことは容易に考えられるが、資料が少ないうえに断片的なものばかりである。

程久保・恩膳西の両遺跡から出土した鍛冶址関連資料を表４と表８にまとめたが、研究を進めるうえでの好資料を得ることができたと思っている。整理期間の関係で分析には未だ手を付けることができないでいるが、現段階でわかっていることを述べ結語としたい。

鍛冶址に関連する資料の出土が極めて多かったが、このような調査ははじめてのことであり、現場では不手際が多かったうえに観察不足で鍛冶炉を竈址に認定したものや性格不明の焼土址としたものがあるように思う。再検討が必要であるが整理期間の関係で現場における記録をもとに遺構の説明をしてきた。整理段階で鍛冶炉と考えられたものについては可能性の高いことを記載したが、詳しいことはわからないままである。

鍛冶には鍛冶炉や鉄床石などの施設が必要であるが、前記したように観察不足のため現場で認定できた鍛冶炉はないが、鍛冶炉の可能性が高い火床は程久保遺跡第４・17号竪穴住居址と恩膳西遺跡第１号竪穴住居址に、鉄床石は程久保建物址１と第16号竪穴住居址、恩膳西第１号竪穴住居址にある。

鉄滓は両遺跡合わせると638点で、重さは21,256.8ｇが出土し極めて膨大なものである。ふいごの羽口は残片というべき小片ばかりであったが、程久保鍛冶址ピット２、恩膳西第１・８号竪穴住居址、遺構外にある。それらが出土した全ての遺構を鍛冶址に結び付けることはできないが、注目できるものは金肌の出土である。金肌は鍛鉄を行った際に飛び散った鱗のように薄い鉄片であるため、金肌は端的に鍛鉄を結び付けることができる資料であり重要な検出であるといえよう。それは程久保遺跡の建物址１に4,267.2ｇ、鍛冶址に110.5ｇ、鍛冶址ピット１に1,245.0ｇ、鍛冶址ピット２に152.2ｇ、鍛冶址ピット４に137.0

表4　程久保・恩勝西遺跡鍛冶址関連資料一覧表

	鍛冶炉	鉄床石	鉄　滓		鉄滓金肌重さ	金　肌重　さ	ふいごの羽口	鉄製品
			点数	重　さ				
程久保遺跡								
3号住居址			1	7.0				
4号住居址	2？		2	343.7				
5号住居址							破損	
6号住居址			3	146.1				
8号住居址			2	53.8				不明1
13号住居址			14	1,038.1				不明1
15・26号住居址 建物址1		1？	83	4,716.6	1,481.5	4,267.2		不明4
16号住居址		1	7	191.8				刀子1 不明4
17号住居址	1？	1？	1	8.2				不明1
20号住居址			1	40.4				鉄鏃2 不明2
28号住居址								鎌1
小竪穴43			1	40.8				
小竪穴45			1	27.3				
鍛冶址			93	2,125.7	55.2	110.5	破損	
鍛冶址ピット1			87	3,565.0	1,525.0	1,245.0		
鍛冶址ピット2			40	2,517.6	312.8	152.2	残片	
鍛冶址ピット3			3	48.4				
鍛冶址ピット4				7.8		137.0		
遺構外			10	317.8				鉄鏃1 鎌1 刀子2 不明4
恩勝西遺跡								
1号住居址	1？	1	25	1,026.4	144.9		残片	
2号住居址			1	96.9				
3号住居址			5	155.7				不明4
4号住居址			8	382.5				
5号住居址			6	311.4				刀子1
8号住居址			5	215.8			残片	
9号住居址			19	1,929.2				刀子1 不明1 砥石1
10号住居址								不明1
鍛冶址No.1				127.2	219.0			
遺構外			220	1,815.6			残片	不明1
計			638	21,256.8	3,738.4	5,911.9		

gあり膨大な量である。水洗いはしたが未だ鉄滓の小片と金肌を選別できないでいるものが程久保遺跡の建物址1に1,481.5g、鍛冶址に55.2g、鍛冶址ピット1に1,525.0g、鍛冶址ピット2に312.8g、恩膳西遺跡第1号竪穴住居址に144.9g、鍛冶址№1に219.0gにあり、程久保遺跡の建物址1、鍛冶址ピット1・2・4、恩膳西遺跡第1号竪穴住居址、鍛冶址№1は鍛鉄を行った鍛冶址である。なお、くどくなるが鍛鉄の行われた程久保遺跡建物址1と恩膳西遺跡第1号竪穴住居址には鉄床石があり、程久保遺跡第5号竪穴住居址・鍛冶址、恩膳西遺跡第1・8号竪穴住居址・遺構外からふいごの羽口の残片が出土している。

恩膳西遺跡の第1号竪穴住居址には鍛冶炉、鉄床石、ふいごの羽口、程久保遺跡の第17号竪穴住居址には鍛冶炉、鉄床石、第4号竪穴住居址には鍛冶炉、第16号竪穴住居址には鉄床石があり、鍛冶を伴う住居址のようであるが、竈内が異常に焼土化した住居址もみられ、竈を鍛冶炉として使用した住居址もあるように思われる。

以上のことから金肌の有無により2つに大別できそうである。金肌が出土した鍛冶址は専用施設が設けられた大掛りなもので、膨大な金肌の出土は明らかに鍛鉄が行われた鍛冶址であり、農具の作製などが行われていたことが考えられるものである。住居址に伴う鍛冶炉では金肌を検出できなかったことから農工具の修理、修繕など簡単な鍛冶が行われていたように思われる。

最後に、関係者各位ならびに調査にたずさわった方々に厚く御礼申し上げる次第である。

参考引用文献

192412　信濃教育会諏訪部会『諏訪史　第一巻』

198507　原村『原村誌　上巻』

198003　長野県教育委員会『昭和54年度　八ケ岳西南麓遺跡群分布調査報告書』

198203　長野県教育委員会『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書　原村その4　昭和51・52年度』

198203　長野県教育委員会『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書　原村その5　昭和51・52・53年度』

198903　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財13　恩膳西遺跡（第1次・第2次）　遺跡確認とライスセンター建設に伴う緊急発掘調査報告書』

198903　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財14　金芳遺跡　昭和63年度県営ほ場整備事業弓振地区に伴う緊急発掘調査報告書』

199111　原村教育委員会『平成4年度県営ほ場整備事業恩前地区内の踏査報告書　裏長峰・程久保・恩膳南・恩膳西遺跡』

199202　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財20　長峰遺跡　平成３年度県営ほ場整備事業丸山地区に伴う緊急発掘調査報告書』

199501　原村教育委員会『恩膳西遺跡（第４次発掘調査）　堆肥センター建設に先立つ緊急発掘調査報告書』

199503　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財31　土井平遺跡　平成４年度県営圃場整備事業恩前地区に先立つ緊急発掘調査報告書』

199503　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財33　居沢尾根遺跡（第５次発掘調査）　平成６年度県営ほ場整備事業原村西部地区に伴う緊急発掘調査報告書』

表5　程久保・恩賜西遺跡遺構一覧表

程久保遺跡

竪穴住居址

縄文時代

表中のカッコ付けの数値は推定を示す

住居番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
7	第5図	CP－46ほか	円形	340	340	39	埋甕炉、土器、石器
14	第8図	EC－39ほか	楕円形	367	314	63	埋甕炉、土器、石器
21	第11図	DK－34ほか	楕円形	(600)	(430)	24	同心円上立て直し、新炉は石囲炉、旧炉は埋甕炉、土器、石器
23	第13図	BU－48ほか	楕円形	(390)	(390)	68	埋甕炉、小ピットに黒曜石デポ、土器、石器、黒曜石の原石

平安時代

表中のカッコ付けの数値は推定を示す

住居番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
1	第28図	BA－47ほか	隅丸方形	(380)	(380)	11	竈は北壁遺存状態は良い、土師器、灰釉陶器
2	第30図	BJ－51ほか	隅丸方形	380	(370)	71	北壁で小竪穴36と重複、本址が新しく、小竪穴36が旧い。竈は東壁遺存状態は良い、土師器、灰釉陶器
3	第31図	BQ－49ほか	隅丸方形	390	(390)	61	4号住居址と重複、本址が新しく4号住居址が旧い、竈は北壁遺存状態は良い、土師器、灰釉陶器、鉄滓
4	第31図	BQ－49ほか	隅丸方形	(570)	(570)	36	3号住居址と重複、本址が旧く3号住居址が新しい、竈は北壁遺存状態は良い、土師器、灰釉陶器、鉄滓
5	第34図	BW－50ほか	隅丸方形	311	300	30	周溝、竈は北壁遺存状態は良くない、土師器、灰釉陶器、ふいごの羽口
6	第13図	BU－16ほか	隅丸方形	(480)	(480)	16	竈は北壁破損著しい、土師器、灰釉陶器、鉄滓
8	第36図	CJ－50ほか	隅丸方形	(460)	(408)	29	小竪穴22と重複、竈は東壁遺存状態は良くない、土師器、灰釉陶器、ふいごの羽口、鉄製品、鉄滓
9	第37図	CM－49ほか	隅丸方形	400	(350)	48	竈は東壁遺存状態は良い、土師器、灰釉陶器
10	第39図	CN－46ほか	隅丸方形	460	(460)	16	22号・24号住居址と重複、周溝、竈は西壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器
11	第41図	CW－35ほか	隅丸方形	(480)	(450)	16	隅丸方形、新旧2時期、新竈は北東隅、旧竈は北壁際に火床、土師器、灰釉陶器
12	第42図	EA－51ほか	隅丸方形	373	330	23	竈は東壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器

住居番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
13	第43図	EQ－37ほか	隅丸方形	500	(500)	59	小竪穴44と重複、周溝、竈は東壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器、鉄製品、鉄滓
15	第45図	EI－35ほか	隅丸方形	415	(400)	20	26号住居址と重複、竈は未確認、土師器、灰釉陶器、鉄製品、鉄滓
16	第47図	EE－34ほか	隅丸方形	(400)	(360)	52	17号住居址と重複、竈は北壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器、鉄製品、鉄滓
17	第47図	EF－33ほか	隅丸方形	402	370	51	16号住居址と重複、周溝、竈は西壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器、鉄製品、鉄滓
18	第50図	DU－33ほか	隅丸方形	560	470	60	28号住居址と重複、周溝、竈は北壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器
19	第52図	DQ－41ほか	隅丸方形			12	規模は推測できない、周溝、竈は北壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器
20	第53図	DM－38ほか	楕円形	590	460	41	新旧2時期、27号住居址と重複、竈1は北壁破損が著しい、竈2は東壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器、鉄製品、鉄滓
22	第39図	CM－45ほか	隅丸方形			20	10号・24号住居址と重複、規模不明、竈は未確認、土師器、灰釉陶器
24	第39図	CN－45ほか	隅丸方形			18	10号・22号住居址と重複、竈は未確認、土師器、灰釉陶器
25	第55図	DM－27ほか	隅丸方形	440	(440)	29	竈は北壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器
26	第45図	EJ－35ほか	隅丸方形	430	393	26	15号住居址と重複、竈は北壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器、鉄滓
27	第53図	DL－38ほか	隅丸方形	(340)	(300)	4	20号住居址と重複、竈は北壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器
28	第50図	DV－33ほか	隅丸方形	(360)	(350)	60	18号住居址と重複、周溝、竈は北壁原形を留め良好、土師器、灰釉陶器、炭化材

建物址

建物番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
1	第45図	EJ－34ほか	方形	420	380		鍛冶遺構　鉄滓4,716.6g、鉄滓と金肌肌未選別1,481.5g、金肌4,267.2g

小竪穴

表中のカッコ付けの数値は推定を示す

小竪穴番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
1	第16図	BA－52ほか	長方形	182	121	21	

小竪穴番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
2	第16図	BC－51 BD－51	長方形	155	108	10	
3	第16図	BR－52 BR－53	円形	130	124	31	
4	第16図	BS－52 BT－52	楕円形	135	97	57	陥し穴　土師器
5	第16図	BA－51	楕円形	110	70	13	
6	第16図	DH－64 ほか	円形	198	172	47	陥し穴　埋土はV層
7	第16図	DO－66 DO－67	円形	180	166	128	陥し穴、埋土はⅢ層
8	第17図	DT－64 ほか	楕円形	178	157	92	陥し穴
9	第16図	BW－53 BX－53	隅丸長方形	163	108	39	
10	第17図	DM－59 DN－59	楕円形	133	110	31	陥し穴
11	第17図	DI－43	円形	113	110	32	
12	第17図	DH－43 ほか	円形	123	123	23	
13	第17図	DJ－44 DK－44	円形	117	112	43	
14	第17図	DN－55 DO－55	不整長方形	167	125	20	
15	第17図	BM－53	不整円形	130	125		
16	第17図	CC－52	円形	83	80	57	小竪穴25と重複、新旧関係は不明
17	第18図	BX－52 BY－52	不整六角形	210	(190)	32	縄文時代中期土器、平安時代土師器、灰釉陶器
18	第18図	BY－52 CA－52	楕円形	223	130	59	
19	第18図	DN－50	円形	130	122	24	
20	第18図	CT－75	円形	113	113	29	
21	第18図	CM－52	不整円形	92	92	36	
22	第36図	CJ－52 ほか	長楕円形	360	(95)	180	8号住居址と重複、本址が旧い
23	第18図	CA－50 ほか	長楕円形	230	145	55	検出面で礫、縄文時代中期中葉土器、黒曜石剥片、平安時代土師器、時代不詳陶器
24	第18図	BY－53	楕円形	95	90	10	
25	第17図	CC－52	楕円形 楕円形	(82) (75)	80 (68)	36 18	底面で礫、小竪穴16と重複、新旧関係は不明。2基の小竪穴の重複、
26	第18図	BY－49 BY－50	円形	75	(60)	25	傾斜が強く南側は流失、検出面で礫
27	第18図	CB－49 CC－49	円形	73	(47)	22	傾斜が強く南側は流失

小竪穴番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
28	第19図	CD－51 CD－52	不整楕 円形	100	72	23	
29	第19図	CE－51 CF－51	円形	83	81	32	西壁際に炭化物
30	第19図	CF－50	不整楕 円形	90	58	33	
31	第19図	CG－50	楕円形	85	61	49	平安時代土師器、灰釉陶器
32	第19図	CI－50 CJ－50	楕円形	83	70	26	
33	第19図	CG－50	円形	73	70	31	平安時代土師器
34	第19図	CA－49 CB－49	不整楕 円形	115	100	49	縄文時代中期中葉土器、黒曜石剥片
35	第34図	BX－50 BX－51	楕円形	(90)	87	25	西側で5号住居址と重複、新旧関係は不明。
36	第30図	BK－53	円形	148	(71)	29	南側で2号住居址と重複、本址が旧く、2号住居址が新しい。
37	第19図	BU－50	不整楕 円形	88	75	35	縄文時代打製石斧、黒曜石剥片
38	第19図	DO－29 ほか	円形	99	95	34	
39	第19図	DN－29 DN－30	楕円形	82	72	35	縄文時代中期中葉土器、乳棒状石斧、平安時代灰釉陶器
40	第19図	DP－29	不整円形	70	64	13	
41	第20図	DP－29 ほか	不整円形 楕円形	283 82	(168) (43)	98 47	袋状ピット、南側1/3位は開田で破壊、2基の小竪穴が重複、礫、縄文時代黒曜石剥片、平安時代土師器、時代不詳陶器、
42	第19図	DR－34 ほか	不整楕 円形	113	75	14	縄文時代中期中葉土器、平安時代土師器
43	第21図	DY－32 DY－33	楕円形	(157)	(77)	33	南半分位を欠損、縄文時代中期中葉土器、黒曜石剥片、平安時代土師器、須恵器、鉄滓
44	第43図	ER－38 ER－39	楕円形	124	(106)	37	13号住居址と重複
45	第20図	ES－39 ほか	楕円形	200	(121)	73	袋状ピット、小竪穴46と重複、平安時代鉄滓
46	第20図	ES－40 ほか	楕円形 楕円形	(305) (275)	(207) (182)	104 155	袋状ピット、2基の小竪穴が重複、小竪穴45と重複
47	第21図	DL－39 DL－40	楕円形	87	67	19	縄文時代中期中葉土器
48	第21図	DO－43	不整楕 円形	108	95	14	
49	第21図	DN－31 DO－31	円形	62	61	22	縄文時代中期中葉土器
50	第21図	DL－31 ほか	楕円形	76	66	13	

小竪穴番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
51	第22図	DF－34 DG－34	不整楕円形	92	73	25	
52	第21図	FE－36 ほか	隅丸方形	256	(252)	70	農道で一部欠損
53	第22図	DP－31 DQ－31	不整円形	100	94	8	小竪穴54と重複
54	第22図	DP－32 DQ－32	楕円形	83	72	6	小竪穴53と重複、縄文時代中期中葉土器
55	第21図	DP－32 DQ－32	不整楕円形	91	84	12	礫、縄文時代中期中葉土器
56	第21図	DP－32	不整楕円形	92	72	9	縄文時代中期中葉土器
57	第21図	FT－52 ほか	不整楕円形	203	166	37	陥し穴
58	第22図	DQ－36 DQ－37	楕円形	111	69	31	
59	第22図	DR－39 ほか	円形	98	89	39	
60	第22図	FY－51 FY－52	長楕円形	200	92	23	陥し穴？
61	第22図	DP－37 DP－38	円形	120	115	27	平安時代土師器、灰釉陶器
62	第22図	EC－37 EC－38	長楕円形	115	59	24	
63	第22図	FW－50	長楕円形	160	83	16	縄文時代早期押型文土器
64	第22図	FX－50	楕円形	121	72	10	
65	第22図	FX－51	楕円形	98	82	17	
66	第22図	FY－51 GA－51	長楕円形	178	100	19	
67	第22図	GA－52	長楕円形	145	93	18	

墓壙

表中のカッコ付けの数値は推定を示す

墓壙番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
1	第47図	EE－34 EE－35	隅丸長方形	207	100	(26)	16号住居址と重複　礫　平安時代土師器

鍛冶址

表中のカッコ付けの数値は推定を示す

鍛冶址番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
P1	第56図	ER－41 ER－42	不整円形	72	69	22	平安時代土師器、鉄滓3,565.0g、鉄滓と金肌肌未選別1,525.0g、金肌1,245.0g

鍛冶址番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
P2	第56図	ER－42 ES－42	円形	65	56	10	焼土、ふいごの羽口、鉄滓2,517.6g、鉄滓と金肌未選別312.8g、金肌152.2g
P3	第56図	ER－42	楕円形 楕円形	70 (50)	(53) 45	40 14	平安時代土師器、重複、焼土、鉄滓48.4g
P4	第56図	ER－41 ER－42	不整楕 円形	101	75	62	平安時代土師器、鉄滓7.8g、金肌137.0g

恩勝西遺跡

竪穴住居址

縄文時代

表中のカッコ付けの数値は推定を示す

住居番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
7	第65図	HF－40 ほか	楕円形	(320)	263	24	地床炉、土器、石器

平安時代

表中のカッコ付けの数値は推定を示す

番号	図版	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
1	第65図	HD－38 ほか	隅丸方形	473	(435)	17	部分的に周溝、竈は東北隅破損が著しい、北壁際火床は鍛冶炉、鉄床石、土師器、灰釉陶器、ふいごの羽口、鉄滓、金肌
2	第76図	HP－48 ほか	隅丸方形	618	(600)	17	北壁直下に周溝、竈は北壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器、鉄滓
3	第77図	HU－50 ほか	隅丸方形	650	(500)	42	4号住居址と重複、竈は北壁が破損著しい、土師器、灰釉陶器、鉄製品、鉄滓
4	第77図	HU－49 ほか	隅丸方形				3号住居址と重複、詳細は不明、竈は西壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器、鉄製品、鉄滓
5	第79図	JO－67 ほか	隅丸方形	436	355	46	南壁直下に周溝、竈は東壁遺存状態は良い、土師器、灰釉陶器、鉄製品、鉄滓
6	第81図	KS－73 ほか	隅丸方形	390	362	40	竈は東壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器
8	第82図	IP－55 ほか	隅丸方形	550	415	21	9号住居址と重複、東壁直下に周溝、土師器、灰釉陶器、ふいごの羽口、鉄滓
9	第84図	IO－55 ほか	隅丸方形	630	(450)	50	8号住居址と重複、竈は北壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器、砥石、鉄製品
10	第85図	JG－38 ほか	隅丸方形	405	313	19	竈は東壁破損が著しい、土師器、灰釉陶器、鉄製品

小竪穴

表中のカッコ付けの数値は推定を示す

小竪穴番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
1	第68図	JP－64 ほか	円　形	170	162	116	陥し穴
2	第68図	JN－65 JO－65	円　形	172	168	101	陥し穴
3	第68図	HP－62	楕円形	135	70	73	縄文時代石鏃、平安時代土師器
4	第68図	HK－67	円　形	123	112	28	
5	第68図	GR－56 GS－56	長楕円形	140	80	42	
6	第68図	GM－52 ほか	楕円形	132	105	22	
7	第69図	GT－49 GT－50	楕円形	162	110	28	
8	第69図	GS－49 GT－49	楕円形	165	91	24	
9	第68図	IM－55	円　形	90	65	35	縄文時代磨石
10	第68図	IL－53 IM－53	楕円形	101	78	27	縄文時代黒曜石剥片、平安時代土師器、灰釉陶器
11	第69図	JK－36 ほか	楕円形	(150)	135	4	平安時代土師器
12	第69図	JL－37 ほか	円　形	150	143	97	陥し穴
13	第69図	JJ－37	方　形	113	110	16	
14	第69図	IT－55 IT－56	楕円形	74	65	28	
15	第69図	JP－74 JP－75	不整形	165	158	33	
16	第69図	IT－71 IT－72	楕円形 円　形 円　形	164 76 62	136 64 62	32 79 41	底径100cmの袋状　貯蔵穴
17	第70図	IW－74 IX－74	楕円形	130	105	27	
18	第70図	IS－74	楕円形	117	82	17	
19	第70図	IR－75 ほか	方　形	101	93	20	
20	第70図	IT－77	不整円形	125	120	23	
21	第70図	IR－82	方　形	86	75	22	
22	第70図	IS－83	楕円形	142	82	26	
23	第70図	IY－71 IY－72	楕円形	125	103	25	
24	第70図	IY－78 ほか	不整形	100	91	16	
25	第70図	JF－80	長方形	115	82	19	
26	第70図	JI－79	楕円形	120	90	21	

小竪穴番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
27	第70図	JP－83	円形	112	100	21	
28	第70図	JC－79	円形	85	85	14	
29	第71図	JB－82 JC－82	長方形	88	72	23	
30	第71図	JA－86 JA－87	円形	83	80	23	
31	第71図	JC－85	長楕円形	150	78	19	
32	第71図	IT－81 IT－82	方形	134	126	18	
33	第71図	IX－70	長楕円形	135	81	16	
34	第71図	JT－68 JU－68	楕円形	108	82	30	
35	第71図	KF－64 KG－64	楕円形	220	165	46	
36	第71図	KM－71	楕円形	115	80	17	
37	第71図	KO－71 KO－72	長楕円形	128	80	18	
38							欠番
39	第71図	JI－36 JJ－36	円形	77	76	33	
40	第71図	JH－35	不整楕円形	115	92	23	
41	第71図	JH－34 ほか	不整方形	237	218	43	縄文時代黒曜石剥片、チャート剥片、平安時代土師器、灰釉陶器
42	第72図	JH－32	不整方形	113	111	22	
43	第72図	IR－72 IR－73	円形	111	110	25	
44	第72図	IN－48	不整楕円形	66	52	28	整理作業で番号を付す　検出面で礫

墓壙

墓壙番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
1	第72図	GQ－55 GR－55 ほか	隅丸方形	205	111	18	平安時代土師器、灰釉陶器

鍛冶址

鍛冶址番号	図版番号	検出位置	平面形	規模			遺構の特徴・出土遺物等
				長軸	短軸	深さ	
No.1	第72図	IF－53	不整楕円形	59	52	7	鉄滓127.2g、鉄滓と金肌未選別219.0g

表6　程久保遺跡第23号竪穴住居址出土黒曜石一覧表

番号	地点番号	名称	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm	備　　考
1	デポ1	原石	40.7	5.2	4.4	2.1	
2	デポ1	原石	34.5	5.3	3.4	2.3	
3	デポ1	原石	24.4	4.8	3	2	
4	デポ1	原石	24	4.4	3.6	1.3	
5	デポ1	原石	23.9	5.8	2.5	1.7	
6	デポ1	原石	22.1	6.3	3.1	2.1	
7	デポ1	原石	21.2	4.2	2.8	1.5	
8	デポ1	原石	19.8	4.5	2.6	2	
9	デポ1	原石	18.8	5.1	2.4	1.4	
10	デポ1	原石	18.5	4.4	3.3	1.7	
11	デポ1	原石	18.3	4.8	2.4	2	
12	デポ1	原石	13.3	4.6	2.7	1.4	
13	デポ1	原石	10.1	4	4	0.9	
14	デポ1	原石	7.4	4.1	2.4	1.1	
15	デポ1	原石	5.8	3.9	1.7	0.8	
16	デポ1	原石	4.1	3.7	1.2	0.9	
17	デポ1	砕片	2.1	2.4	1.7	0.5	
18	デポ1	砕片	2.1	2	1.8	0.9	
19	デポ1	砕片	1.7	2.1	1.7	0.7	
20	デポ1	砕片	1.2	1.4	1.1	0.7	
21	デポ1	砕片	0.9	1.5	1.2	0.7	
22	デポ1	砕片	0.7	2	1	0.4	
23	デポ1	砕片	0.5	1.2	0.9	0.5	
24	デポ1	砕片	0.4	1.2	0.9	0.3	
25	デポ2	原石	36.2	5.2	3.4	2.1	
26	デポ2	原石	28.9	4.3	3.2	2.1	
27	デポ2	原石	26.2	4.6	2.5	1.9	
28	デポ2	原石	23.3	4.7	2.8	2.2	
29	デポ2	原石	22.7	4.4	3.6	1.9	
30	デポ2	原石	22.7	4.3	3.7	1.2	
31	デポ2	原石	21.8	4.3	3.6	1.5	
32	デポ2	原石	16.4	3.9	2.2	1.2	
33	デポ2	原石	16.1	4.6	2.8	1.3	
34	デポ2	原石	15.9	4	3.2	1.3	
35	デポ2	原石	15.1	6	3.2	0.9	
36	デポ2	原石	4.2	3.7	1.4	1.1	
37	デポ2	砕片	2.3	2.6	1.5	0.7	
38	埋土	原石	32.7	4.5	3	2.3	

番号	地点番号	名称	重さ g	長さcm	幅 cm	厚さcm	備　　考
39	埋土	原石	31.5	5.9	2.4	1.9	
40	埋土	原石	31.4	4.9	3.3	2.3	
41	埋土	原石	29.6	5.3	3.2	2	
42	埋土	原石	27.6	5	3.1	2	
43	埋土	原石	27	3.8	3.1	2.5	
44	埋土	原石	25.6	4.5	3.5	2.1	
45	埋土	原石	24.9	5.5	3.6	1.3	
46	埋土	原石	24.7	4.8	3.3	1.4	
47	埋土	原石	24.7	4.7	3.1	2	
48	埋土	原石	23.6	4.5	3	1.2	
49	埋土	原石	21.6	5.5	2.8	1.7	
50	埋土	原石	21.6	4	3.8	1.3	
51	埋土	原石	21.4	3.6	2.5	2.1	
52	埋土	原石	21.1	4.5	3.3	2.3	
53	埋土	原石	20.8	3.9	3.4	1.8	
54	埋土	原石	20.8	4.1	3	1.9	
55	埋土	原石	20.4	4.1	2.7	2.1	
56	埋土	原石	19.2	4.2	3.6	1.8	
57	埋土	原石	18.6	3.6	2.7	1.1	
58	埋土	原石	16.7	4.2	3.5	1.2	
59	埋土	原石	16.5	4.2	2.7	2	
60	埋土	原石	16.4	4	3.1	1.2	
61	埋土	原石	15.7	4.3	3.1	1.3	
62	埋土	原石	15.6	4	2.5	2.3	
63	埋土	原石	11.7	5.3	2.4	1.2	
64	埋土	砕片	5.5	3.2	2.1	1.3	
65	埋土	砕片	5.2	3	2.1	0.9	
66	埋土	砕片	4.8	3.4	2	0.8	
67	埋土	砕片	3.4	2.2	2	1.2	
68	埋土	原石	3	2.7	1.8	0.6	
69	埋土	砕片	2.5	2.3	1.6	0.9	
70	埋土	砕片	2.1	2.4	1.7	1	
71	埋土	砕片	2	2	1.3	0.7	
72	埋土	砕片	0.9	2.2	0.9	0.6	
73	埋土	砕片	0.6	2	0.8	0.5	
74	床面	剥片	1.9	2.1	1.3	0.6	
75	P 1	剥片	2.4	2.1	2.2	0.7	
76	P 1	剥片	1.3	1.9	1.5	0.5	
77	P 1	剥片	0.9	2.6	0.8	0.4	

表7　程久保・恩勝西遺跡出土土製品・石製品・鉄製品一覧表

程久保・土製品

図版番号	遺構名・地点	名称・状態	長さcm	幅　cm	厚さcm	重さg	備　　考
第44図10	5号住居址	ふいご羽口・破損				50.5	
	8号住居址	ふいご羽口・残片					ピット出土
第44図11	鍛冶址	ふいご羽口・破損				91.6	
	鍛冶址No.2	ふいご羽口・残片					

恩勝西・土製品

図版番号	遺構名・地点	名称・状態	長さcm	幅　cm	厚さcm	重さg	備　　考
	1号住居址	ふいご羽口・残片					
	8号住居址	ふいご羽口・残片					
	遺構外	ふいご羽口・残片					

程久保・石製品

図版番号	遺構名・地点	名称	長さcm	幅　cm	厚さcm	重さg	備　　考
第44図1	4号住居址	砥石	8.2	3.7	2.9	164.4	
第44図2	13号住居址	砥石	8.3	6.0	5.5	289.4	
第44図3	15号住居址	砥石	3.6	2.2	1.9	19.3	
第44図4	27号住居址	砥石	17.0	6.7	5.2	955.0	

恩勝西・石製品

図版番号	遺構名・地点	名称	長さcm	幅　cm	厚さcm	重さg	備　　考
第74図19	9号住居址	砥石	13.2	3.2	3.2	287.0	

程久保・鉄製品

図版番号	遺構名・地点	名称	長さcm	幅　cm	厚さcm	重さg	備　　考
	8号住居址	不明				0.1	
	13号住居址	不明	2.8	1.9	1.1	3.3	P2出土
	15号住居址	不明	2.9	2.2	0.5	7.2	同製品？
	15号住居址	不明	2.4	2.4	0.5	5.5	
	15号住居址	不明	2.3	1.6	0.7	2.4	
	16号住居址	刀子	5.3	1.2	0.6	6.6	
	16号住居址	不明	5.0	0.6	0.3	3.0	刀子・鉄鏃の中子？
	16号住居址	不明	5.9	0.7	0.3	3.1	刀子・鉄鏃の中子？
	16号住居址	不明	3.6	1.1	0.8	2.2	鉄鏃の中子？
	16号住居址	不明				20.0	
	17号住居址	不明				2.3	
第44図7	20号住居址	鉄鏃	14.5	3.2	0.8	22.2	
第44図8	20号住居址	鉄鏃	8.8	3.2	1.0	14.9	
	20号住居址	不明	3.1	0.7	0.4	1.1	刀子・鉄鏃の中子？
	20号住居址	不明				1.9	
	26号住居址	不明				13.7	

図版番号	遺構名・地点	名称	長さcm	幅 cm	厚さcm	重さg	備考
第44図5	28号住居址	鎌	11.5	2.9	0.5	22.9	
第44図9	?号住居址	鉄鏃	2.3	3.1	0.3	4.3	
第44図6	?号住居址	鎌?	9.5	3.0	0.7	36.3	
	?号住居址	刀子?	7.0	0.8	0.3	3.5	
	?号住居址	刀子?	6.3	1.2	0.4	7.9	
	遺構外	不明				23.9	
	遺構外	不明				9.8	
	遺構外	不明				2.1	
	遺構外	不明				3.7	

恩賜西・鉄製品

図版番号	遺構名・地点	名称	長さcm	幅 cm	厚さcm	重さg	備考
	3・4号住居址	不明	8.1	1.0	0.9	4.3	紡錘車軸?
	3・4号住居址	不明	4.0	0.7	0.6	2.3	同製品?
	3・4号住居址	不明	2.0	1.0	1.0	1.6	
	4号住居址	不明	3.3	3.3	0.9	17.7	板状
	5号住居址	刀子・破損	16.7	1.7	1.0	18.5	
	9号住居址	刀子・破損	7.3	0.8	0.7	5.0	
	9号住居址	刀子・破損	15.7	1.8	1.3	25.5	竈内出土
	10号住居址	不明	3.0	1.0	0.5	2.1	
	遺構外	不明	4.3	2.2	0.3	2.7	

表8　程久保・恩籐西遺跡出土鉄滓・金肌一覧表

程久保・第3号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm
1	7.0	3.6	1.6	1.2					

程久保・第4号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm
1	181.2	7.6	5.0	3.7	小片	17.0			
2	145.5	6.8	5.8	2.3					

程久保・第6号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm
1	88.9	5.7	4.7	2.8	3	36.8	4.4	2.8	2.4
2	20.4	2.7	2.6	1.8					

程久保・第8号竪穴住居址P2

番号	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm
1	51.3	5.0	3.2	2.8	2	2.5	2.3	1.4	1.4

程久保・第13号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm
1	293.8	8.5	6.8	3.5	9	20.9	3.0	2.0	1.7
2	211.0	8.3	5.9	3.7	10	10.1	3.0	2.5	1.1
3	174.1	7.9	6.7	3.4	11	9.7	3.4	2.8	0.9
4	70.7	6.4	3.5	2.8	12	8.5	2.8	1.5	1.0
5	66.8	6.1	5.6	1.9	13	5.0	2.5	1.1	1.1
6	57.2	3.8	3.4	2.9	14	3.8	2.6	1.6	0.6
7	42.4	5.7	5.2	1.7	小片	23.8			
8	40.3	5.2	3.2	1.7					

程久保・第15・26号竪穴住居址、建物址1

番号	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅　cm	厚さcm
1	435.0	8.7	8.0	5.0	44	7.2	2.1	1.6	1.1
2	137.9	8.7	7.2	3.3	45	6.9	2.3	2.0	1.5
3	123.5	6.9	5.0	2.4	46	6.8	2.3	1.8	1.4
4	116.8	7.0	5.7	3.2	47	6.5	3.0	2.9	1.1
5	98.2	5.4	4.9	4.9	48	6.5	3.9	1.8	0.8
6	54.8	5.2	3.8	3.1	49	6.4	3.1	1.9	1.5
7	45.9	5.7	4.0	2.1	50	6.2	2.1	1.9	1.1
8	44.6	4.4	3.4	3.4	51	6.2	2.5	1.7	1.6
9	37.2	4.6	4.4	1.6	52	5.9	2.5	1.8	1.0
10	34.4	5.0	3.9	2.3	53	5.8	2.9	2.3	1.2
11	36.3	4.4	3.1	2.1	54	5.8	2.3	2.2	1.3

番号	重さ g	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さ g	長さcm	幅 cm	厚さcm
12	26.7	3.8	3.7	2.7	55	5.7	1.9	1.5	1.3
13	26.4	5.1	4.3	1.6	56	5.7	2.6	1.5	0.9
14	25.1	3.2	2.8	1.9	57	5.7	2.5	1.4	1.4
15	23.1	3.8	2.7	2.3	58	5.5	2.5	1.2	1.2
16	19.3	2.7	2.6	2.0	59	5.3	2.2	1.2	1.2
17	18.8	3.8	2.6	2.2	60	5.1	2.6	1.8	1.6
18	18.5	4.3	2.3	2.2	61	5.0	2.3	2.0	1.6
19	18.3	4.3	3.5	1.4	62	5.0	1.9	1.8	1.0
20	17.4	4.2	2.7	1.7	63	4.7	2.2	2.0	1.6
21	17.3	3.2	2.4	1.9	64	4.5	2.8	2.0	1.1
22	17.1	3.5	2.9	2.1	65	4.4	2.6	1.7	0.9
23	16.2	3.3	2.8	2.6	66	4.3	1.9	1.9	1.3
24	15.9	3.7	3.0	2.0	67	4.3	2.0	1.5	1.3
25	15.4	3.8	2.8	2.0	68	4.2	2.0	1.8	0.9
26	14.9	4.0	2.9	1.6	69	4.1	2.3	1.7	1.0
27	14.0	3.6	1.9	1.3	70	4.1	1.7	1.7	1.3
28	12.4	3.6	2.6	1.5	71	3.9	2.8	1.6	0.9
29	11.7	3.1	2.8	2.5	72	3.8	1.9	1.6	1.2
30	11.2	3.2	2.8	1.9	73	3.8	2.1	1.7	0.9
31	10.6	4.3	1.8	1.7	74	3.7	2.2	1.8	1.1
32	10.5	2.9	2.8	1.4	75	3.7	2.4	1.3	1.3
33	10.5	2.9	2.2	1.9	76	3.7	2.6	1.5	1.5
34	10.3	3.0	1.5	1.3	77	3.3	2.4	1.5	0.9
35	9.2	3.3	2.8	1.2	78	3.2	2.0	1.7	1.9
36	8.9	3.2	2.0	1.5	79	3.1	2.3	1.9	1.1
37	8.9	2.6	2.0	1.2	80	3.0	2.2	1.5	0.9
38	8.8	2.5	2.4	1.6	81	2.9	2.2	1.8	1.0
39	8.7	3.2	2.8	0.8	82	2.1	2.6	1.9	0.7
40	8.6	2.9	1.9	1.8	83	1.3	2.5	1.5	1.0
41	8.3	3.2	2.4	1.2	小片	3,304.9			
42	7.5	2.2	1.7	1.3	鉄滓金肌	1,481.5			
43	7.3	2.5	1.9	1.8	金肌	4,267.2			

程久保・第16号竪穴住居址

番号	重さ g	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さ g	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	80.9	8.0	4.3	2.0	5	4.9	2.2	1.9	1.6
2	15.2	2.9	1.9	1.5	6	4.8	2.4	2.4	1.4
3	11.8	3.1	1.6	1.4	7	3.1	3.1	2.5	0.8
4	10.6	2.8	1.8	1.4	小片	60.5			

程久保・第17号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	7.4	2.4	1.5	1.2	小片	0.8			

程久保・第20号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	40.4	6.7	4.1	2.0					

程久保・小竪穴43

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	40.8	4.2	3.3	2.8					

程久保・小竪穴45

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	27.3	3.7	3.4	1.9					

程久保・鍛冶址

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	235.7	8.6	7.1	4.7	49	6.6	2.6	2.0	1.3
2	130.1	7.6	5.1	3.7	50	6.5	3.5	2.4	1.0
3	114.3	9.6	4.6	3.7	51	6.3	2.4	2.1	1.3
4	107.3	6.4	4.8	3.8	52	5.9	2.5	1.5	1.4
5	83.2	6.0	4.8	2.4	53	5.8	1.8	1.6	1.6
6	82.5	7.1	5.6	2.9	54	5.8	3.5	2.3	1.2
7	77.0	5.6	5.1	2.3	55	5.6	3.1	1.8	1.0
8	76.6	5.6	3.2	3.2	56	5.5	1.8	1.6	1.0
9	63.7	4.3	3.7	3.2	57	5.5	3.0	1.9	0.8
10	63.5	4.6	4.1	3.2	58	5.0	2.6	2.3	0.9
11	61.4	6.2	4.6	4.0	59	5.0	2.3	1.0	1.0
12	59.7	4.2	3.8	2.6	60	4.8	3.3	2.5	0.9
13	57.5	5.7	3.2	2.9	61	4.5	3.3	2.1	1.1
14	53.8	5.4	4.5	2.0	62	4.3	2.4	1.9	1.4
15	53.5	5.7	4.8	2.4	63	4.0	2.7	2.0	1.4
16	51.9	5.4	2.9	2.7	64	4.0	2.1	1.6	1.2
17	48.0	6.0	3.0	2.0	65	3.8	3.2	1.9	1.3
18	44.7	4.9	3.3	3.0	66	3.8	2.2	1.9	1.3
19	41.9	6.0	4.1	2.3	67	3.7	1.9	1.8	1.3
20	39.8	4.8	4.3	2.2	68	3.7	2.1	1.4	1.1
21	29.7	5.1	3.7	1.5	69	3.1	1.9	1.5	1.2
22	25.6	3.1	2.3	2.3	70	2.5	1.7	1.2	1.2
23	25.0	3.6	3.5	1.6	71	2.5	1.7	1.3	1.2
24	23.2	3.5	2.5	2.0	72	2.5	1.3	1.2	0.8
25	20.5	3.7	3.3	1.2	73	2.4	3.0	1.4	0.9

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
26	20.1	3.8	2.3	1.7	74	2.3	2.0	1.5	1.2
27	19.8	3.4	2.1	1.8	75	2.1	2.0	1.6	1.5
28	19.6	4.3	2.5	1.6	76	2.1	1.5	1.5	1.0
29	19.3	4.6	3.3	2.0	77	2.1	1.6	1.5	1.3
30	19.1	3.0	2.0	2.0	78	2.0	1.6	1.1	1.0
31	15.5	2.7	2.4	2.4	79	1.8	2.1	1.6	0.8
32	15.3	2.8	2.3	1.8	80	1.8	1.9	1.3	1.1
33	15.3	3.6	2.1	1.7	81	1.7	2.0	1.3	1.3
34	14.0	3.9	2.7	2.5	82	1.7	1.6	1.3	1.2
35	12.1	3.7	3.6	0.9	83	1.6	1.5	1.2	0.8
36	10.5	3.3	2.7	0.7	84	1.5	1.5	1.3	0.9
37	10.4	3.2	2.2	1.3	85	1.4	1.8	1.9	1.5
38	9.9	3.1	2.0	1.3	86	1.3	1.5	1.1	0.7
39	9.8	3.1	2.8	1.2	87	1.1	1.7	1.1	0.8
40	9.6	2.6	2.2	1.6	88	1.0	1.4	1.1	0.4
41	9.6	3.5	3.1	2.1	89	1.0	1.2	1.0	0.5
42	9.1	1.7	1.6	1.5	90	0.9	1.4	1.2	1.2
43	8.5	2.6	2.0	1.2	91	0.6	1.1	0.9	0.8
44	8.3	3.7	2.7	1.2	92	0.3	1.0	0.8	0.8
45	7.9	2.6	2.4	1.5	93	0.3	0.9	0.6	0.3
46	7.0	2.1	2.0	1.5	小片	29.5			
47	7.0	2.0	1.5	1.4	鉄滓金肌	55.2			
48	6.7	2.8	1.5	1.5	金肌	110.5			

程久保・鍛冶址ピット1

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	525.0	13.5	10.3	3.9	46	7.9	2.7	2.0	1.2
2	156.7	7.4	7.0	3.5	47	7.7	2.8	1.3	1.3
3	92.7	9.0	4.7	2.2	48	7.7	3.0	2.1	1.0
4	91.2	5.3	5.2	3.8	49	7.4	2.5	1.9	1.2
5	51.3	4.2	3.0	2.8	50	7.3	2.7	2.2	1.3
6	45.4	4.4	4.2	1.7	51	7.3	2.0	2.0	1.4
7	42.5	4.6	3.5	2.2	52	7.2	2.6	1.7	1.6
8	41.4	4.2	3.6	1.8	53	7.1	3.3	1.8	1.2
9	40.3	4.8	4.3	2.5	54	7.0	4.0	1.7	0.7
10	29.5	4.4	3.4	2.5	55	7.0	2.8	2.3	1.9
11	23.8	3.7	2.5	1.7	56	6.8	1.9	1.6	1.6
12	23.8	2.9	2.9	1.9	57	6.7	2.5	1.8	1.1
13	23.4	3.1	3.1	1.4	58	6.7	2.5	1.9	1.6
14	21.9	3.5	2.3	1.4	59	6.7	3.1	2.1	1.2
15	21.9	5.0	2.8	1.8	60	6.6	2.5	1.7	1.1

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
16	20.5	3.0	2.9	1.7	61	6.6	2.6	2.2	1.2
17	19.5	3.8	3.5	1.2	62	6.6	2.7	1.9	1.9
18	18.6	2.9	2.4	1.6	63	6.5	2.9	1.9	0.6
19	17.6	3.6	1.8	1.8	64	6.5	2.4	2.2	1.2
20	17.4	3.9	2.5	1.7	65	6.3	2.8	2.1	1.1
21	16.7	4.1	2.7	1.7	66	6.2	2.7	1.8	1.3
22	16.3	2.9	1.8	1.7	67	6.1	2.7	1.7	1.1
23	16.3	3.5	2.6	1.6	68	5.9	2.2	2.1	1.9
24	13.8	3.7	2.5	1.9	69	5.8	2.5	1.6	1.4
25	13.1	4.5	2.5	0.9	70	5.6	2.4	2.0	1.2
26	13.0	3.2	2.2	2.0	71	5.5	2.5	1.5	1.5
27	11.9	3.1	2.0	2.0	72	5.4	2.3	1.7	1.7
28	11.1	2.9	2.4	1.3	73	5.0	3.4	2.5	1.2
29	11.0	3.8	2.7	1.7	74	4.8	2.8	2.0	1.0
30	10.4	2.8	2.2	1.7	75	4.8	2.2	1.7	1.1
31	10.0	3.1	1.9	1.6	76	4.6	2.8	1.5	1.0
32	9.9	2.8	2.1	1.6	77	4.6	3.0	1.6	0.9
33	9.9	2.4	2.0	1.5	78	4.5	1.8	1.7	1.5
34	9.7	2.8	2.5	1.3	79	4.5	2.2	1.8	1.4
35	9.6	3.3	2.2	1.5	80	4.1	2.5	1.6	1.0
36	9.4	3.6	2.5	0.8	81	3.9	2.2	2.1	1.0
37	9.4	2.6	1.9	1.9	82	3.6	2.6	1.9	1.0
38	9.3	2.6	2.2	1.9	83	3.5	2.7	1.8	1.0
39	9.2	3.0	2.5	0.8	84	3.4	2.7	1.5	1.3
40	9.1	2.8	2.7	1.9	85	3.2	2.0	1.8	1.4
41	9.1	2.9	2.0	1.7	86	2.7	2.0	1.8	0.8
42	8.3	2.1	2.0	1.2	87	2.5	2.4	1.8	1.2
43	8.3	3.5	2.0	1.9	小片	1730.0			
44	8.1	2.4	1.6	1.6	鉄滓金肌	1,525.0			
45	7.9	4.1	2.6	1.0	金肌	1,245.0			

程久保・鍛冶址ピット2

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	795.0	15.3	10.1	5.2	23	8.9	2.5	2.3	1.6
2	57.6	4.9	2.9	2.8	24	8.8	2.8	2.0	1.5
3	45.8	6.9	4.1	3.8	25	8.0	2.5	2.1	0.9
4	35.2	3.9	3.2	1.8	26	7.7	2.6	2.1	1.5
5	29.8	5.5	2.5	2.3	27	7.6	3.1	2.2	1.2
6	26.8	3.6	3.3	3.0	28	7.5	2.8	2.3	2.0
7	26.6	5.6	3.8	1.8	29	6.8	3.0	2.4	1.4
8	25.6	3.6	3.0	2.3	30	6.7	2.2	1.9	1.9

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
9	23.9	4.2	2.8	2.2	31	6.3	2.4	2.3	1.7
10	23.4	4.7	2.3	2.1	32	6.2	3.0	1.6	1.3
11	23.3	3.1	2.5	2.0	33	6.2	2.6	1.6	1.6
12	22.1	4.2	2.3	2.0	34	6.2	2.5	2.1	0.7
13	19.0	4.6	2.8	1.9	35	5.7	2.4	1.9	1.5
14	16.0	2.8	2.6	2.0	36	5.4	1.9	1.8	1.4
15	14.4	3.6	2.6	2.5	37	5.3	2.2	1.6	1.2
16	14.3	2.9	2.1	1.8	38	4.7	2.4	1.7	1.1
17	14.2	2.6	2.4	2.2	39	4.6	2.3	1.9	1.1
18	12.9	2.8	2.1	1.8	40	3.0	2.1	1.6	1.4
19	11.5	2.9	2.8	1.7	小片	1,086.3			
20	11.1	3.0	1.9	1.6	鉄滓金肌	312.8			
21	10.0	2.4	2.0	1.7	金肌	152.2			
22	9.5	3.3	1.8	1.3					

程久保・鍛冶址ピット3

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	24.9	4.6	3.1	2.2	3	5.5	1.9	1.8	1.3
2	18.0	2.9	2.0	1.8					

程久保・鍛冶址ピット4

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
小片	7.8				金肌	137.0			

程久保・遺構外

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	133.8	5.4	4.7	4.5	7	6.8	3.0	2.1	1.7
2	25.8	3.2	3.0	2.6	8	4.2	3.0	2.0	0.9
3	22.8	3.3	2.6	2.0	9	3.5	2.2	2.1	1.2
4	15.8	2.6	2.4	1.5	10	0.3	1.6	0.4	0.4
5	13.5	3.0	2.5	1.4	小片	80.4			
6	10.9	2.8	2.4	1.2					

恩膳西・第1号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	167.0	8.2	6.2	2.8	15	3.7	1.8	1.5	1.0
2	157.4	8.5	5.5	2.5	16	3.2	3.0	1.3	0.7
3	133.7	7.0	6.2	2.0	17	3.2	2.2	1.5	1.0
4	74.8	9.0	5.5	2.2	18	2.8	2.0	1.5	1.1
5	44.2	5.0	5.0	1.9	19	2.6	2.5	1.3	1.0
6	23.1	3.7	3.3	1.5	20	2.5	1.6	1.4	0.8
7	22.9	3.7	3.0	1.6	21	1.9	2.0	1.9	0.7

8	18.7	3.8	2.5	1.7	22	1.9	1.6	1.2	0.7
9	16.8	3.8	2.7	1.2	23	1.4	1.8	1.6	0.5
10	11.8	2.5	2.0	1.7	24	0.6	1.4	1.0	0.3
11	6.0	1.9	1.7	1.3	25	0.6	1.2	1.1	0.7
12	5.2	2.0	1.8	1.3	小片	314.3			
13	4.4	2.5	1.7	1.2	鉄滓金肌	144.9			
14	3.7	3.7	1.7	0.8					

恩勝西・第2号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	96.9	5.7	5.5	2.2					

恩勝西・第3号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	81.9	4.7	3.8	2.5	4	11.0	2.9	2.0	1.5
2	33.4	4.7	3.0	2.3	5	6.0	1.7	1.5	1.5
3	23.4	4.1	3.2	1.6					

恩勝西・第4号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	225.2	8.6	7.0	4.1	5	12.9	2.7	2.5	1.8
2	69.3	5.8	5.3	2.2	6	11.5	3.6	2.8	1.3
3	35.2	5.3	3.3	1.7	7	6.5	2.2	2.0	2.0
4	21.0	4.0	3.8	1.5	8	0.9	1.6	1.6	0.5

恩勝西・第5号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	123.4	6.5	5.5	2.2	4	16.4	2.8	2.2	1.7
2	99.3	7.0	6.0	2.7	5	16.1	3.4	2.3	1.4
3	51.6	6.6	4.2	2.4	6	4.6	2.3	1.3	0.9

恩勝西・第8号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	112.9	5.3	4.8	3.2	4	17.7	3.3	2.5	1.5
2	59.1	5.7	5.3	2.0	5	4.8	2.0	1.7	1.3
3	21.3	3.3	2.6	1.5					

恩勝西・第9号竪穴住居址

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	357.1	9.5	8.5	4.1	11	60.8	5.7	5.0	1.5
2	356.8	7.7	7.2	6.2	12	49.7	3.5	3.3	2.5
3	214.3	6.8	6.0	4.0	13	49.0	5.5	4.0	2.2
4	165.3	8.0	7.3	2.3	14	30.6	5.5	3.8	2.2
5	140.5	6.0	4.8	3.3	15	26.7	4.7	3.6	1.5

6	110.7	6.4	5.8	1.6	16	17.1	3.7	3.0	1.8
7	100.6	6.0	4.7	3.5	17	6.8	2.6	2.0	1.9
8	96.7	5.5	4.0	3.5	18	4.1	1.8	1.4	0.9
9	74.9	5.7	4.5	3.5	19	1.6	2.2	1.3	1.0
10	65.9	6.0	5.0	2.7					

恩勝西・鍛冶址No 1

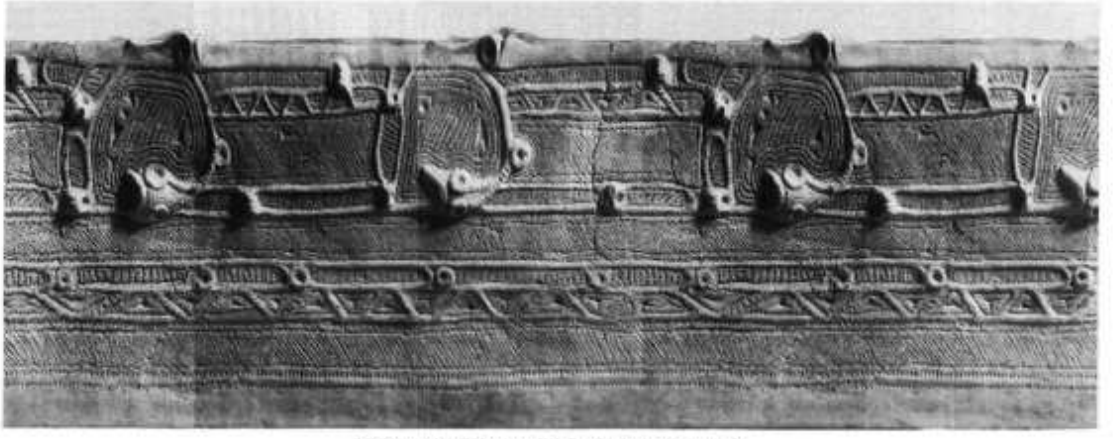
番号	重さ g	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さ g	長さcm	幅 cm	厚さcm
小片	127.2				鉄滓金肌	219.0			

恩勝西・遺構外

番号	重さ g	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さ g	長さcm	幅 cm	厚さcm
1	490.0	13.5	9.8	4.4	112	2.5	2.0	1.9	1.2
2	94.9	7.7	5.0	3.3	113	2.5	2.2	1.8	1.0
3	46.3	8.4	5.3	3.0	114	2.5	1.7	1.2	1.0
4	37.7	5.1	4.5	2.4	115	2.5	1.8	1.3	1.0
5	34.2	4.7	3.0	2.3	116	2.5	1.3	1.2	0.8
6	31.2	6.7	4.2	1.7	117	2.5	1.9	1.4	0.8
7	29.1	4.8	3.3	2.0	118	2.4	2.2	0.8	0.6
8	28.4	4.3	2.8	2.0	119	2.4	2.3	1.8	0.3
9	26.1	3.5	2.6	2.3	120	2.3	2.5	1.5	1.3
10	26.0	3.6	3.2	1.6	121	2.3	1.6	1.3	0.9
11	24.5	4.3	2.7	2.0	122	2.3	1.9	1.4	0.9
12	23.9	3.2	3.0	1.8	123	2.3	1.5	1.2	0.8
13	23.7	6.6	3.4	1.6	124	2.3	1.5	1.3	1.0
14	21.8	3.9	3.4	2.0	125	2.3	1.8	1.8	1.3
15	20.5	3.5	3.0	1.5	126	2.2	1.8	1.5	1.1
16	20.4	3.0	3.0	1.8	127	2.2	1.5	1.4	0.9
17	17.6	3.4	2.8	1.9	128	2.2	1.5	1.2	1.0
18	16.9	3.1	2.1	1.6	129	2.2	1.5	1.0	0.7
19	16.5	3.0	2.5	1.8	130	2.2	1.5	1.0	0.5
20	14.6	3.8	2.6	1.4	131	2.2	1.7	1.2	0.9
21	13.1	4.0	2.4	1.8	132	2.1	1.8	1.4	0.7
22	13.0	3.9	2.0	1.7	133	2.1	2.9	1.6	0.8
23	12.8	3.0	2.5	1.0	134	2.1	2.0	1.5	0.8
24	10.7	2.5	2.0	1.9	135	2.1	2.0	1.4	0.7
25	10.3	3.7	2.2	1.8	136	2.1	1.5	1.3	1.0
26	10.3	2.0	1.8	1.7	137	2.1	1.5	1.3	0.9
27	10.1	3.7	2.5	1.7	138	2.1	1.5	1.4	0.5
28	10.0	3.3	1.9	1.5	139	2.0	2.3	1.2	0.8
29	9.6	2.5	1.6	1.2	140	2.0	1.6	1.1	1.1
30	9.2	2.5	1.7	1.1	141	2.0	1.5	1.4	1.0

番号	重さ g	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さ g	長さcm	幅 cm	厚さcm
31	9.0	2.4	1.9	1.4	142	2.0	1.7	1.4	1.1
32	8.9	3.3	2.2	1.4	143	2.0	1.6	1.4	0.9
33	8.9	3.0	2.0	1.6	144	2.0	1.6	1.2	1.1
34	8.8	2.4	2.2	1.3	145	2.0	1.4	1.0	1.0
35	8.8	3.0	2.5	1.8	146	1.9	1.6	1.9	1.2
36	8.7	2.7	2.3	1.7	147	1.9	1.6	1.2	1.0
37	8.3	3.0	2.2	1.3	148	1.9	2.0	1.3	0.8
38	8.1	3.5	2.6	1.6	149	1.9	1.4	1.2	0.8
39	8.1	3.3	2.6	0.6	150	1.9	1.8	1.3	0.6
40	8.0	2.8	2.2	1.5	151	1.9	1.7	1.6	1.1
41	7.9	3.9	1.6	1.5	152	1.8	1.5	1.3	1.0
42	7.5	3.0	2.5	1.3	153	1.8	1.6	1.1	1.0
43	7.0	2.5	1.8	1.4	154	1.8	1.5	1.2	1.0
44	6.9	2.2	2.1	1.8	155	1.8	1.1	1.1	1.0
45	6.6	2.5	1.8	1.8	156	1.8	1.7	1.4	0.8
46	6.5	2.1	1.9	1.4	157	1.8	1.6	1.5	0.8
47	6.3	3.0	2.2	1.8	158	1.8	1.8	1.3	0.8
48	6.3	2.1	1.4	1.3	159	1.8	1.5	1.0	0.8
49	6.2	3.3	2.3	1.0	160	1.8	1.7	0.9	0.9
50	6.1	3.5	2.0	1.2	161	1.7	1.5	1.3	0.8
51	6.0	2.3	1.7	1.3	162	1.7	2.2	1.2	1.1
52	5.9	1.5	1.2	1.1	163	1.7	1.4	1.4	0.9
53	5.6	2.0	2.0	1.6	164	1.7	1.5	1.3	1.3
54	5.5	2.2	1.2	1.2	165	1.7	1.6	1.3	0.8
55	5.4	2.0	1.6	1.3	166	1.6	2.0	1.4	0.8
56	5.4	2.8	1.6	1.5	167	1.6	1.5	1.1	0.8
57	5.3	1.7	1.7	1.4	168	1.6	1.4	1.2	0.9
58	5.3	2.0	1.6	1.3	169	1.6	1.5	1.3	1.0
59	5.3	2.0	1.6	1.0	170	1.6	1.3	1.2	1.1
60	5.0	2.2	1.5	1.1	171	1.5	1.7	1.2	0.6
61	4.9	2.4	2.2	1.0	172	1.5	1.7	1.6	1.0
62	4.9	2.6	1.7	1.6	173	1.5	1.8	1.5	0.4
63	4.8	2.4	1.6	1.0	174	1.5	1.4	1.3	0.8
64	4.8	2.2	1.5	1.2	175	1.5	1.3	1.2	1.0
65	4.8	2.7	1.5	1.3	176	1.5	1.8	1.0	0.8
66	4.7	2.0	1.9	1.2	177	1.5	1.4	1.4	0.5
67	4.5	1.5	1.5	1.1	178	1.4	2.0	1.0	0.8
68	4.4	2.5	1.5	1.5	179	1.4	2.3	1.7	0.7
69	4.3	2.0	1.8	1.2	180	1.4	2.0	1.0	0.5
70	4.2	3.0	2.0	1.0	181	1.4	1.8	1.0	1.0
71	4.2	2.0	1.7	0.9	182	1.4	1.2	1.2	0.8

番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm	番号	重さg	長さcm	幅 cm	厚さcm
72	4.2	2.5	1.5	1.3	183	1.4	2.0	1.0	0.6
73	4.2	2.3	1.3	1.0	184	1.4	1.5	1.3	0.5
74	4.0	2.3	1.5	1.4	185	1.3	1.6	1.4	0.9
75	4.0	3.1	1.7	0.8	186	1.3	1.2	1.2	0.6
76	4.0	1.6	1.5	1.0	187	1.3	1.5	1.3	0.8
77	3.8	1.9	1.5	1.1	188	1.3	1.3	1.2	0.8
78	3.7	2.0	2.0	1.2	189	1.2	1.5	1.4	1.0
79	3.7	1.9	1.5	1.0	190	1.2	1.4	1.1	0.9
80	3.6	2.0	2.0	0.8	191	1.2	1.4	1.1	1.0
81	3.5	2.3	1.4	1.3	192	1.2	2.3	1.2	1.2
82	3.5	2.0	1.8	1.0	193	1.2	2.4	1.7	0.2
83	3.4	2.1	1.4	1.0	194	1.2	1.5	1.1	0.7
84	3.4	1.9	1.2	1.2	195	1.2	1.7	1.0	0.8
85	3.4	1.5	1.3	1.2	196	1.2	1.5	1.0	0.5
86	3.3	1.9	1.5	1.3	197	1.2	1.2	1.1	0.9
87	3.3	1.8	1.3	1.1	198	1.1	1.6	1.0	0.9
88	3.3	2.0	1.4	1.0	199	1.1	1.5	1.3	1.2
89	3.2	2.3	2.2	0.8	200	1.1	1.4	1.4	0.6
90	3.2	1.6	1.3	0.8	201	1.1	1.2	1.0	0.5
91	3.1	2.5	1.4	1.0	201	1.1	1.5	1.0	0.6
92	3.1	1.6	1.5	1.2	203	1.1	1.9	1.0	0.6
93	3.1	1.2	1.2	1.0	204	1.1	1.5	1.3	0.8
94	3.0	2.1	1.5	1.0	205	1.1	1.2	1.1	0.6
95	3.0	1.8	1.2	1.0	206	1.1	1.6	0.8	0.5
96	3.0	2.6	1.7	1.0	207	1.0	1.4	1.0	0.8
97	2.9	1.7	1.2	1.0	208	1.0	1.4	1.1	0.8
98	2.9	1.8	1.2	0.8	209	1.0	1.7	0.9	0.5
99	2.9	1.9	1.4	1.0	210	1.0	1.2	1.0	0.8
100	2.9	2.2	1.4	0.8	211	0.9	1.3	0.8	0.6
101	2.8	2.0	1.2	1.0	212	0.9	1.0	1.0	0.8
102	2.8	1.8	1.6	0.8	213	0.8	1.4	1.0	0.8
103	2.7	2.0	1.6	1.0	214	0.8	1.5	1.0	0.5
104	2.7	2.6	2.3	0.7	215	0.7	1.2	1.0	0.3
105	2.7	1.6	1.2	1.0	216	0.7	1.2	0.8	0.6
106	2.7	1.5	1.2	1.0	217	0.6	1.2	1.0	0.7
107	2.7	1.5	1.3	1.0	218	0.6	1.2	0.8	0.6
108	2.6	2.5	1.5	0.6	219	0.6	1.0	1.0	0.9
109	2.6	2.0	1.2	0.6	220	0.6	1.3	1.2	0.8
110	2.6	1.4	1.4	1.1	小片	99.0			
111	2.6	1.3	1.2	1.0					



程久保遺跡第14号竪穴住居址出土土器

写真図版 2

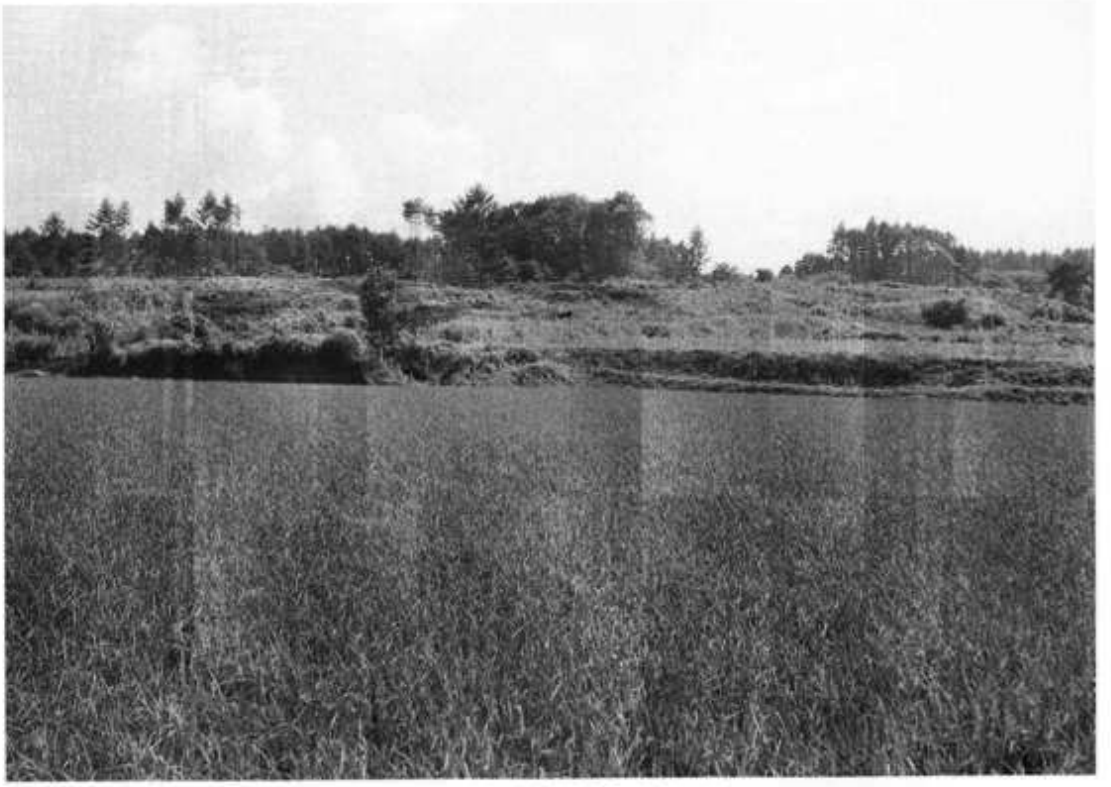


写真１　程久保遺跡遠景（南西から）

写真２　程久保遺跡平成５年度調査区（東から）

写真 3　程久保遺跡平成 5 年度調査区（西から）

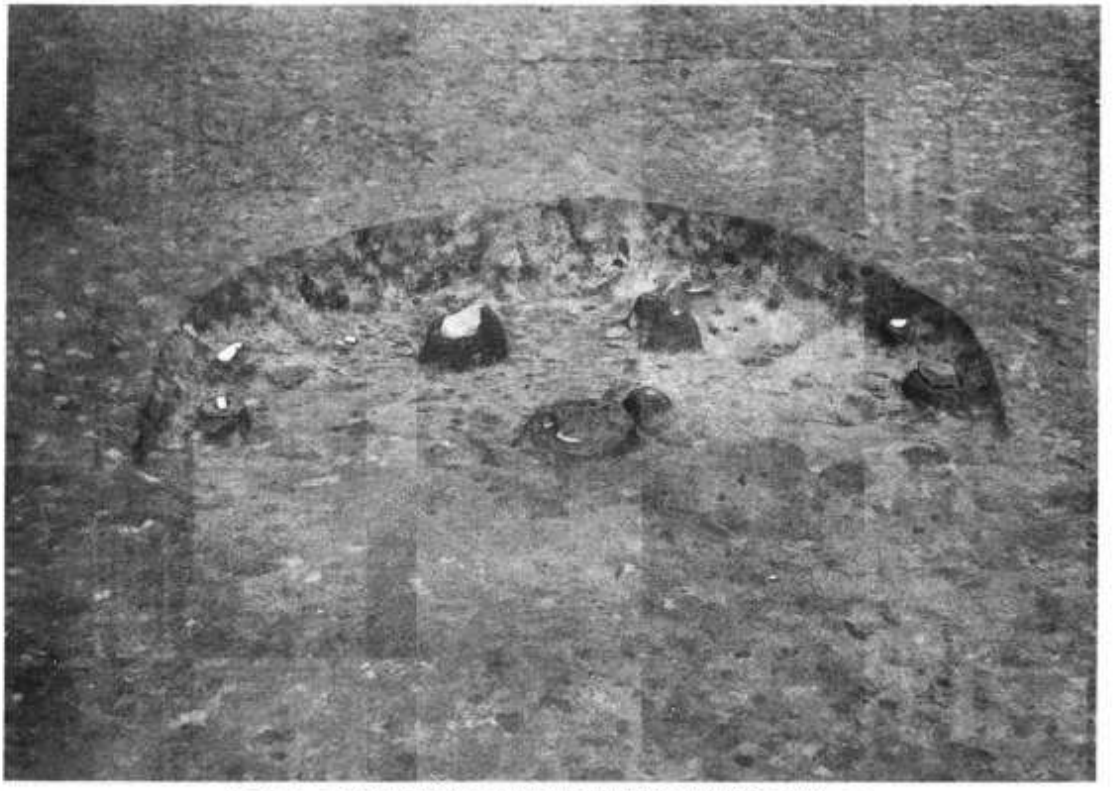


写真 4　程久保遺跡第 7 号竪穴住居址遺物出土状態（南から）

写真図版 4

写真５　程久保遺跡
第７号竪穴住居址埋甕炉
その１（西から）

写真６　程久保遺跡
第７号竪穴住居址埋甕炉
その２（西から）

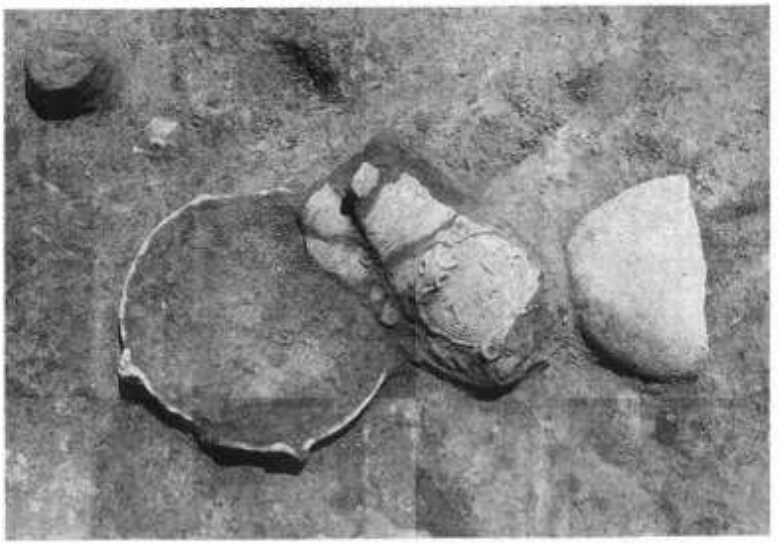


写真７　程久保遺跡
第14号竪穴住居址埋甕炉・
遺物出土状態（南から）